

**2010年度
授業要覧
講義内容**

**教育人間科学部
履修ガイド**



青山学院大学

教育方針・理念

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

青山学院大学の理念

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、
神と人にとり仕え社会に貢献する
「地の塩、世の光」としての教育研究共同体である。
本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって
自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する。
それは、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。
本学のすべての教員、職員、学生は、
相互の人格を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつ、
おのおのの立場において、時代の要請に応えうる大学の創出に努める。

総目次

I. 学事暦等	2
(2010年度年間スケジュール／キリスト教学事暦／教会暦・行事／キリスト教活動プログラム／個人情報の取扱いについて)	
II. 大学での学習活動について	7
1 大学での学習とは (カリキュラム／履修)	
2 単位 (単位制／単位とは／単位数／既修得単位の認定／協定校・認定校留学による単位認定)	
3 授業科目の種類と配置 (授業科目の種類／履修年次／履修順序)	
III. 履修について	10
1 履修計画 (履修計画の立案／履修計画上の注意)	
2 履修登録 (履修登録の方法／履修登録の確認と修正／2010年度履修登録について／履修取消制度について／履修取消申請方法)	
IV. 学部履修要項	15
V. 授業について	58
1 授業 (授業時間／授業教室／休講／補講／授業の欠席について)	
2 大学からの伝達	
3 緊急時の「授業の取り扱い」および「伝達手段」について	
VI. 試験・レポートについて	61
1 試験の種類 (定期試験／平常試験／レポート／追試験)	
2 定期試験の受験 (定期試験時間／受験上の注意／不正行為)	
3 追試験 (申請資格／申請方法／追試験時間・採点)	
VII. 成績評価について (成績評価／G.P.A.／成績通知／成績調査)	65
VIII. 進級および卒業について (進級／卒業／9月卒業／卒業延期制度)	67
IX. 学籍について	68
(修業年限／在学年限／休学／復学／退学／再入学／二重学籍／除籍／転部・転学部・転学科)	
X. 教職課程 (教員免許状・各種資格) について	70
XI. 大学院について	87
XII. 大学組織概要	98
1 大学役職員	
2 教育・研究組織	
3 教員組織	
学科科目担当者一覧および講義内容目次	1

講義内容

学務担当窓口について

I. 学事暦等

2010年度 年間スケジュール

		前 期																												
月	日	日	月	火	水	木	金	土																						
		4	4	5	6	7	8	9		10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
4月						1	2	3	4月1日(木)～8日(木)オリエンテーション&履修ガイダンス・健康診断																					
									4月3日(土)入学式(学部・大学院)																					
									4月9日(金)前期授業開始																					
									4月19日(月)青山キャンパス第一部所属学生履修登録最終日																					
									4月20日(火)相模原キャンパス、青山キャンパス第二部所属学生履修登録最終日																					
5月									4月29日(木)昭和の日は授業実施日																					
6月																														
7月																														
8月																														
9月																														

★印は、授業時間変更をとまなう宗教行事です。全宗教行事については別途掲載のものを参照してください。

○囲み表示日は休日授業実施日
□囲み表示日は学事上の休講日
ゴシック表示日は休・祝日
補講日（通常授業は休講）◇第一部・第二部とも
△第二部のみ

		後 期						
		日	月	火	水	木	金	土
10 月							1	2
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	⑪	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
		10月9日(土)～10日(日)相模原祭期間 (9日(土)は相模原キャンパスのみ休講) 10月11日(月)体育の日は授業実施日 10月18日(月)～23日(土) ★チャペルウィーク後期…………… 10月29日(金)～31日(日)青山祭期間……両キャンパス休講						
11 月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	⑬	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					
		11月16日(火)創立記念日は授業実施日 11月26日(金)★クリスマス・ツリー点火祭 ……						
12 月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
		12月14日(火)★クリスマス礼拝(青山) …… (第一部、第二部合同) 12月16日(木)★クリスマス礼拝(相模原) …… 12月24日(金)～1月5日(水)冬期休業期間						
1 月							1	
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	◇18	◇19	◇20	◇21	◇22	
	23	△24	25	26	27	28	29	
	30	31						
		1月6日(木)後期授業再開 1月14日(金)センター試験準備日(青山キャンパスのみ休講) 1月15日(土)・16日(日)センター試験(15日(土)は青山キャンパスのみ休講) 1月18日(火)・19日(水)補講日(第一、二部とも) 1月20日(木)～24日(月)補講日(第二部のみ) 1月20日(木)～2月2日(水)後期定期試験期間						
2 月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28						
3 月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
		3月26日(土)学部・大学院学位授与式						

キリスト教学事暦

新入生歓迎礼拝（相模原）	4月9日（金）～15日（木）
新入生歓迎礼拝（第二部）	4月13日（火）
ジョン・ウェスレー回心記念日礼拝（相模原・青山）	5月24日（月）
チャペル・ウィーク（前期）	5月24日（月）～5月29日（土）
ペンテコステ礼拝（相模原・青山）	5月24日（月）
ペンテコステ礼拝（第二部）	5月25日（火）
清里サマー・カレッジ	8月5日（木）～7日（土）
チャペル・ウィーク（後期）	10月18日（月）～10月23日（土）
創立記念礼拝（相模原・青山）	11月16日（火）
創立記念礼拝（第二部）	11月16日（火）
クリスマス・ツリー点火祭	11月26日（金）
クリスマス礼拝（青山・第二部）	12月14日（火）
クリスマス礼拝（相模原）	12月16日（木）
卒業礼拝	3月26日（土）

教会暦・行事

聖（洗足）木曜日（Maundy Thursday）	4月1日（木）
受難日（Good Friday）	4月2日（金）
復活日（Easter）	4月4日（日）
母の日	5月9日（日）
聖霊降臨日（Pentecost）	5月23日（日）
ジョン・ウェスレー回心記念日	5月24日（月）
子どもの日（花の日）	6月13日（日）
平和聖日	8月1日（日）
世界聖餐日、世界宣教の日	10月3日（日）
伝道献身者奨励日	10月10日（日）
宗教改革記念日	10月31日（日）
収穫感謝日、謝恩日	11月21日（日）
待降節（Advent）	11月28日（日）～12月24日（金）
降誕日（Christmas）	12月25日（土）
降誕節	12月25日（土）～2011年1月5日（水）
主顕現節（Epiphany）	1月6日（木）～3月8日（火）
信教の自由を守る日	2月11日（金）
灰の水曜日（Ash Wednesday）	3月9日（水）
四旬節（Lent）	3月9日（水）～4月23日（土）

キリスト教活動プログラム

キリスト教の精神のもとに建てられている青山学院大学は、その「教育方針」にも明記されているように「キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、神の前に真実に生き 真理を謙虚に追求し 愛と奉仕の精神をもって すべての人と社会とに対する責任を 進んで果たす人間の形成を目的とする」特別な大学です。したがって、本学では、キリスト教活動プログラムを非常に重視しています。

本学における教育の特徴が他の国公立や私立の大学と異なる最もユニークな点は、このキリスト教による教育方針にあるといえます。

この教育目的を達成するために、本学には次の3つの基本的プログラムがあります。

- (1) 大学礼拝 (2) キリスト教概論 (3) 宗教センター活動

(1) 大学礼拝

大学では、キリスト教活動の中心に礼拝を位置づけており、時間を定めて礼拝を行っています（礼拝時間：青山・月～金 10時30分～11時 および 火 19時30分～20時、相模原・月～土 10時30分～11時）。大学礼拝は、キリスト教の信仰を土台とする学院の精神を最も具体的に示す場であるとともに、みなさんにキリスト教による人格教育を行う教育の場でもあります。また大学礼拝は教会における礼拝とは異なり、キリスト教信者だけの礼拝ではありません。礼拝出席は自由ですが、青山学院大学の独特な“スピリット”は礼拝においてよく表わされているので、礼拝を体験することなしに本学の教育を受けたとは言えないのです。

(2) キリスト教概論

大学の必修科目の一つとして、「キリスト教概論」があります。この講義は、本学建学の精神であるキリスト教の信仰の内容を学問的に研究し、聖書を通してキリスト教の教義、歴史、神学、実践などの問題を理解するとともに、キリスト教の意義を学ぶことを目的としています。大学礼拝とキリスト教概論とは密接な関係があり、そのため礼拝レポートがキリスト教概論の中に取り入れられています。

(3) 宗教センター活動

青山学院は、プロテスタント・キリスト教信仰の上に創立された学園であり、宗教センターは、特に、メソジスト教会の創始者、ジョンおよびチャールズ・ウェスレー兄弟の信仰的伝統を重んじ、キリスト教活動を行っています。青山キャンパスはウェスレー・ホール1階に、相模原キャンパスはC棟（チャペル）1階にそれぞれ宗教センターがあり、学生キリスト教活動の中心になっています。

各宗教センターでは、みなさんのために聖書研究会、フォーカス・グループ、青山キリスト教学生会（A.C.F.）、聖歌隊、ハンドベル・クワイア、キリスト教図書の間読などの活動が行われており、学生生活に色彩とバランスをあたえるために重要な役割を果たしています。さらに、各宗教センターには専任の宗教主任がおり、事務職員と協力して毎日みなさんのために宗教上の指導、アドバイス、教会紹介、カウンセリングなどの責任を負っています。この宗教センター活動は他大学とは異なる本学独特のシステムであり、みなさんの利用を待っています。

学校法人青山学院の園児・児童・生徒・学生、保護者・保証人の方々にかかわる個人情報の取扱い

1. 学校法人青山学院（以下「本法人」といいます。）の園児・児童・生徒・学生等（以下「生徒等」といいます。）の主な個人情報は、次のとおりです。

- ① 生徒等本人の氏名・住所・電話番号・生年月日・出身校等
- ② 保護者または保証人（以下「保護者等」といいます。）の氏名・住所・電話番号（自宅および緊急連絡先）・職業・本人との続柄・学費振替口座等
- ③ 生徒等の学籍・成績・健康診断・在学中の活動履歴情報等

2. 上記1. の情報は、「学校法人青山学院個人情報保護に関する規則」に基づき、本法人が設置する学校（以下「設置学校」といいます。）及び設置学校の部局等において、生徒等の在籍管理、教育、生徒指導・支援等の業務ならびに当該業務に付随する生徒等・保護者等への連絡・通知など、教育に必要な範囲でのみ利用いたします。なお、利用する具体的な業務は次のとおりです。

- ① 入学時の学籍作成
- ② 学籍および教務管理
- ③ 課外活動、福利厚生、経済援助等、学生生活全般の支援
- ④ 進路・就職活動の支援
- ⑤ 学費の収納管理
- ⑥ 学内施設設備利用管理
- ⑦ 寄付金等の募集案内
- ⑧ 生徒等および保護者等への事務連絡通知
- ⑨ その他各設置学校独自の利用目的

なお、本法人が入手した個人情報の一部は、各設置学校の後援会と共同で利用いたします。詳細については、別途お知らせいたします。

3. 上記2. の業務を行う際には、本法人が入手した個人情報の漏洩、流出、不正使用等が生じないように必要な措置を講じます。また、個人情報を取り扱う業務を学外に委託するときは、委託先業者との間で契約を交わし、委託先に必要かつ適切な管理を義務付けます。

4. 各設置学校卒業者の個人情報は、青山学院校友会に対し、当該組織の活動に必要な範囲で提供します。また、青山学院が100%出資しております株式会社アイビー・シー・エス（株式会社青学サービスより名称変更）に、各種ご案内発送等のため必要な情報を提供することがあります。

5. 本法人は、上記2～4のほかには、特にご承諾いただいた場合を除いて個人情報を利用または第三者に提供しません。ただし、「個人情報の保護に関する法律」により第三者提供が認められている場合は、この限りではありません。

6. 青山学院大学および青山学院女子短期大学は学生への教育・指導をより適切に行うために、保証人の皆様にご理解とご協力をお願いしております。したがって、教育的配慮の必要性から保証人に対して学業成績等の開示や修業、履修状況等について相談を行っています。特別な事情により保証人に学業成績等の開示等を行うことに不都合がある場合は、大学青山キャンパス学務部教務課または相模原キャンパス学務グループ、女子短期大学事務部教務課にご連絡ください。

※青山学院における個人情報保護への取り組みについては青山学院ホームページ

http://www.aoyamagakuin.jp/info_protection/index.html を参照ください。

Ⅱ．大学での学習活動について

1．大学での学習とは

カリキュラム

大学の授業科目、単位数、履修年次（どの学年で履修するか）を体系的に編成したものを「カリキュラム（教育課程）」といいます。所属する学部・学科のカリキュラムにそって学習を進め、最終的に、定められたカリキュラムの授業内容を修得することが、大学での学習の目的です。

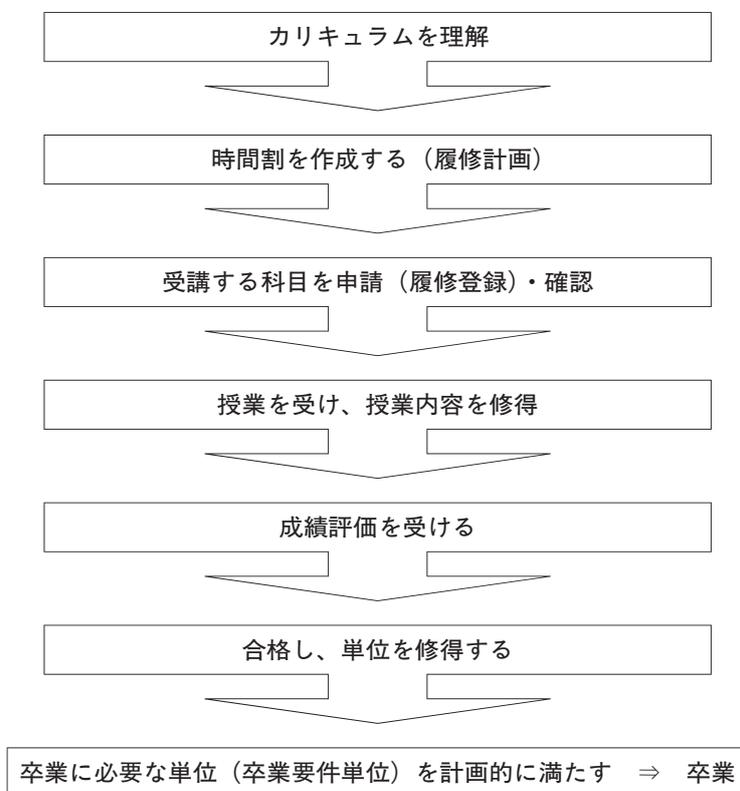
カリキュラムは入学年度別に定められており、卒業まで変更はありません。

各学部・学科のカリキュラムについては、「Ⅳ．学部履修要項」を参照してください。

履 修

各学部・学科のカリキュラムにそって配置された授業科目の受講を大学に申請することを「履修登録」、授業を受け、試験に合格して単位を得ることを「単位を修得する」といいます。この「履修登録」から「単位修得」までの一連の流れを「履修」といいます。

図式化すると以下のようになります。



大学では、カリキュラムで定められた範囲で履修する科目を選択することができますが、卒業に至るまでの過程は自己責任であるということを常に念頭に置いてください。

2. 単 位

単位制

単位制とは、卒業するために、在学年限内に所定の単位を修得しなければならない制度です。これは極めて厳格なもので、たとえ1単位であっても不足すると卒業できません。卒業に必要な単位数は、学部・学科ごとに定められています。詳しくは、「IV. 学部履修要項」の「卒業要件」を参照してください。

単位とは

単位とは、学習の成果を量的に表したものです。授業科目を履修し、出席回数、平常試験・定期試験またはレポート、その他担当教員が必要と認める学習作業の結果などによって、その授業科目に合格したと担当教員が判断したとき、所定の単位が与えられます。

単位数

単位数は、それぞれの授業科目ごとに定められており、授業形態によって算定方法が異なります。

大学設置基準による規定	1単位の標準＝“45時間の学修が必要な内容”
-------------	------------------------

本学での単位算定方法

講義・演習の科目では…	1単位＝授業15～30時間分
実験・実習・実技（スポーツなど）の科目・集中科目では…	1単位＝授業30～45時間分

15時間の講義科目（1単位）を例にとると、“45時間の学修を必要とする内容”で1単位、と規定されており、授業時間外に30時間の自習が前提となっています。

なお、ここでいう“1時間”とは、授業時間45分を表します。本学での1時限の授業は90分で行われているので、単位計算上は、1時限＝“2時間分の授業”となります。

半期の講義科目では、

15週×2時間＝30時間分＝2単位

となります。

実際の単位数

半期科目 (前期のみ、または後期のみの科目)	15週で完結 ・講義科目なら2単位 ・演習科目なら2単位または1単位 ・実験・実習・実技科目なら1単位
通年科目 (一年を通して行われる科目)	30週で完結 ・講義科目なら4単位 ・演習科目なら4単位または2単位 ・実験・実習・実技科目なら2単位

既修得単位の認定

新たに入学した1年生で、本学入学以前に他大学・短期大学ですでに修得した単位があり、修得済み単位として認定を受けたい学生は、指定された期間(入学式翌日～前期授業開始日)に書類を相模原キャンパス学務グループに提出し申請してください。30単位を超えない範囲で各学部・学科の基準に従って単位が認定されます(大学学則第42条参照)。この申請は、入学した年度に限って可能であり、次年度以降に申請することはできません。

編入・転部または転学部・転学科した学生の場合は、それまで修得した単位のうち、各学部・学科が適当と認める科目の単位が認定されますので、指定された期間(入学手続時配付書類に記載)に書類を青山キャンパス学務部教務課に提出し申請してください。

協定校・認定校留学による 単位認定

協定校留学・認定校留学の制度によって留学した場合は、帰国後所定の手続きをふむことにより、留学先で修得した単位が30単位を超えない範囲で各学部・学科の基準に従って認定されます。

3. 授業科目の種類と配置

授業科目の種類

各授業科目は、卒業要件として必ず履修・修得しなければならないか否かによって、以下の3つに区分されます。

授業科目の種類

必修科目	必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	指定されたいくつかの科目の中から選択履修し、各学部・学科所定の単位数を必ず修得しなければならない科目
選択科目	自由に選択履修し、必要単位数を修得する科目

上記の内容でわかるとおり、履修の際には、「必修科目」を優先して卒業要件単位を満たしてゆく必要があります。

また、授業の開講期間によって、1年を通じて実施する「通年科目」、前期あるいは後期で完結する「半期科目」、夏期・冬期休業期間などを利用して実施する「集中講義科目」に分かれます。

履修年次

「履修年次」とは、それぞれの授業科目を履修するのが望ましい学年のことです。履修年次は、4年間の学習を系統的に行えるよう、カリキュラムに基づいて定められています。

履修年次は「IV. 学部履修要項」部分の科目配置表に記載されていますので、それに従って科目を履修してください。

原則として、現在の学年より上級の年次に配置されている授業科目を履修することはできませんが、現在の学年より下級の年次に配置されている授業科目であれば履修することができます。ただし、例外もありますので、「IV. 学部履修要項」で確認してください。

履修順序

各学部・学科には、段階的に学習を進めるために「履修順序」が設けられた授業科目があります。これは、ある授業科目の単位を修得しなければ、その上級科目として設けられている授業科目を履修することができない、というものです。

上級に設けられた授業科目は、初級の授業科目の内容をすでに修得していることを前提とし、その次の段階から授業を始めます。したがって、初級の授業科目と上級の授業科目を同時に履修することはできません。ただし、4年次留年生は、学部・学科によっては履修順序に関係なく履修できる場合もあります。

各学部・学科の履修順序については、「IV. 学部履修要項」に記載されています。ただし『講義内容』に記載されている場合もありますので注意してください。

Ⅲ. 履修について

1. 履修計画

履修計画の立案

大学においては、各学生がカリキュラムにそって履修計画を立て、受講したい科目を選択します。

授業科目には、あらかじめ登録されている「事前登録科目」（必修科目等）があり、学生はそれ以外の時限について履修計画を立てることになります。

履修計画を立てるに当たっては、カリキュラムについてよく理解し、所属学部・学科で定められた必修科目の修得と、進級や卒業に必要な履修規定上の必要条件（進級条件・卒業要件）を満たすことを優先させます。

第一部では、1年間で履修申請できる単位数が決められています。下記の(1)～(4)にそって、履修計画を立ててください。

- (1) 年度初めのオリエンテーション期間中に行われる所属学部・学科のガイダンスに出席する。

ガイダンスでは、履修上の注意や授業科目の説明が行われますので、必ず出席して最新の情報を得てください。

- (2) カリキュラムの内容、特徴、意義について知る。

「IV. 学部履修要項」の卒業要件単位表・科目配置表で、各授業科目がどのような分野に属しているかを確認してください。履修順序についても、ここで確認してください。

- (3) 各授業科目の講義内容を知る。

冊子『講義内容』（学部によっては授業要覧巻末の「講義内容」）および Web 版『講義内容』（「学生ポータル」の「講義内容検索」よりアクセス可能）には、各授業の詳しい授業計画などが記載されています。履修しようと思う科目の内容をよく確認してください。具体的な授業内容を知りたい場合は、履修登録期間中に受講してみる、受講時に担当者に確認するなどの方法でも講義内容を確認できます。（履修登録期間終了後は、履修登録をしていない科目を受講することはできません。）

「IV. 学部履修要項」の「履修年次」は履修が望ましい年次を表しています。また、『講義内容』の「履修年次」は履修可能な年次を表示しています。履修順序などで履修が制限されることがありますので、「IV. 学部履修要項」で必ず確認し、なるべく望ましい年次での履修を心がけてください。

- (4) 卒業に必要な科目と単位数、資格に必要な科目と単位数を知る。

卒業要件単位とは、卒業に必要な最低限の単位です。教員免許状および各種資格を取得するためには、これに加えてそれぞれに必要な所定の単位を修得しなければなりません。「IV. 学部履修要項」、「X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について」および冊子『教職課程履修の手引』を参照し、各自の目標に合った計画を立ててください。

履修計画上の注意

履修計画に際しては、以下のことに注意してください。

- (1) 同一時限に、2科目以上の授業科目を重複して履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）

- (2) 第一部では各学部・学科で1年間の履修登録単位数の限度（最高履修制限単位）が定められており、その単位数を超えて履修することはできません。

教職課程関連科目および教職課程科目については「IV. 学部履修要項」および冊子『教職課程履修の手引』を参照してください。

- (3) 既に単位を修得した科目を、再度履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）

- (4) 他キャンパスの授業科目を履修する場合、90分間の移動時間が必要です。この移動時

間の実施されている授業科目の履修はできません。

- (5) 他学部科目の履修を希望する場合、「IV. 学部履修要項」の「他学部科目一覧表」を参照してください。(理工学部を除きます。)
- (6) 理工学部の学生が、他学部科目の履修を希望する場合、履修したい科目を開講している学部・学科が許可する範囲でのみ履修することができます。(相模原事務局学務グループ理工学部担当に相談のうえ、指示を受けてください。)
- (7) 第一部の学生が第二部開講科目を履修することはできません。また、第二部の学生が第一部開講科目を履修することはできません。
- (8) 履修登録締め切り後、登録に不備や間違いがあったときは、当該科目の登録が無効となります。
- (9) 受講者数が著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果などを考慮して、クラスの分割・抽選などの措置を取ることがあります。

2. 履修登録

履修登録の方法

「履修登録」は、年度初頭に、その年度に履修を希望する授業科目を大学に登録する、大変重要な手続きです。(集中講義科目、後期に開講される科目も年度初頭に履修登録を行います。)

本学の履修登録は、基本的には Web 上のシステム「Web 履修登録システム」(パソコンまたは学内情報端末を使用)で行います。詳細については、冊子『履修登録システム利用案内』を参照してください。

履修登録方法は次のとおりです。それぞれについてよく読み、理解しておいてください。

【登録番号と履修登録方法】

『授業時間割表』の登録番号表示	履修登録方法
数字 5 桁で表示されている	Web 履修登録システムを利用して、自分で登録できます。履修登録期間内であれば、自分で削除することもできます。
+++++	Web で抽選または選考を行う科目です。Web 履修登録システムの「制限科目申請」から応募してください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。曜日時限等に間違いのないよう、注意して応募してください。また、受付期間が科目によって異なりますので、注意してください。 注) 青山スタンダード教養コア科目(人間理解関連科目、社会理解関連科目、自然理解関連科目、歴史理解関連科目)は、学生ポータルに登録・申請メニューにある「青山スタンダード教養コア科目応募登録」から応募してください。
*****	Web 以外で抽選または選考を行う科目です。所定の日時・場所(オリエンテーション期間中や初回授業等)で申請してください。申請方法については、『学年初頭行事』や『講義内容』、学部・学科等の指示に従ってください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。
#####	事前に登録済または履修登録期間中に大学側で登録を行う科目です。自分で履修登録する必要はありません。
-----	受講が許可された学生のみ登録できます。学部学科等の指示に従ってください。

履修登録の確認と修正

【ペア科目】

ペア科目とは、同一授業科目で、週2回以上授業を行う科目です。『授業時間割表』には「ペア」と記載されています。『授業時間割表』に記載されている登録番号で登録してください。対応するほかの曜日・時限も自動的に登録されます。

【「健康・スポーツ演習」・「スポーツ運動実習」】

『学年初頭行事』を参照のうえ、これらの科目に関するガイダンスに出席してください。

履修登録の手続きは重要なものであり、一科目でも登録もれや登録間違いがあってはなりません。『履修登録システム利用案内』をよく読み、各自の責任において、履修登録期間内に履修登録を完了してください。

履修が確定したら、各自履修登録リストを印刷し、誤りがないか必ず確認してください。
印刷した履修登録リストは、年度末まで保管してください。確認を怠ったために生じた問題について、大学側は一切責任を負いません。

履修登録を行ったつもりで登録されていなかった科目や、誤って登録してしまった科目については、間違えたまま授業に出席し試験を受けても単位を修得することができないばかりでなく、登録していない科目の試験を受けることは不正行為とみなされ、処分の対象となります（『試験における不正行為者処分規則施行細則』第2条参照）ので注意してください。

期日までに履修登録をしない場合は、修学の意志がないものとして、大学学則第34条に基づき除籍処分となります。

なお、履修登録の期間は年度初頭のみに限られていますが、後期に履修変更期間を設けています。前期科目の成績を確認したうえで再度履修を見直し、必要がある場合は Web 履修登録システムを使用して、各自で履修の変更を行ってください。

履修登録、後期履修変更に関する詳細は、次項「2010年度履修登録について」を参照してください。

2010年度
履修登録について

1. 履修登録

履修登録期間

所 属	受 付 期 間
青山キャンパス：第一部	4月2日(金)9:30～4月19日(月)16:00
相模原キャンパス：第一部	4月2日(金)9:30～4月20日(火)16:00

制限科目の応募締切日時は、個々の科目により異なりますので、注意してください。

後期開講の制限科目も年度初頭に応募・登録を行います。登録した履修内容は必ず「学生ポータル」で確認してください。

履修登録・修正時の注意点（後期履修変更時と同様）

履修登録最終日は、アクセスが多く、登録に時間がかかります。「混みあってアクセスできなかった」という理由は認められませんので、余裕をもって履修登録が完了するようにしてください。

エラーが表示されたら、適切な対処をおこなってください。自分で解決できない場合は、各キャンパス窓口で相談してください。

登録や修正をおこなった後は、必ず「履修登録画面」で履修登録リストを印刷して確認してください。

2. 後期履修変更

後期に下記のとおり履修変更期間を設けます。前期科目の成績を確認した上で再度履修を見直し、必要がある場合は Web 履修登録システムを使用して各自で履修の変更を行ってください。履修変更期間以降の修正は、一切認めません。

後期履修変更期間 9月29日(水)9:30～10月1日(金)16:00
--

後期の履修変更の際には、次の5点に注意してください。

- (1) 履修制限単位内で、後期科目のみの修正を行うことができます。
- (2) 受講者を制限する科目（抽選・制限カード・受講許可等）に関わる変更はできません。
- (3) 通年科目を削除しなければならない変更はできません。
- (4) 前期に修得できなかった科目と同一名称科目の再履修はできません。
- (5) (2)～(4)の制限にかかわらず、学部学科等から特に指定があった場合は、それに従ってください。

後期履修変更を行った学生は、前期の履修登録と同様、変更の操作を行ったあと、履修変更期間内に履修登録リストを印刷し、修正に誤りがないか各自で確認してください。確認を怠ったために生じた問題について、大学側は一切責任を負いません。

後期履修変更期間中に追加できる単位数は次のとおりです。（第一部学生のみ）

$$\text{後期履修変更期間に追加できる単位数} = \text{当該年度の最高履修制限単位} - \left[\begin{array}{l} \text{前期修得単位数} \\ + \\ \text{前期に修得できなかった単位数} \\ + \\ \text{履修取消科目の単位数} \\ + \\ \text{通年科目の単位数} \end{array} \right]$$

（後期科目のみ）

履修取消制度について

授業の内容が勉強したいものと異なっていた場合、履修登録（または後期履修変更）期間終了後の一定期間内であれば履修を取りやめることができます。

詳細は以下のとおりです。

- 1) 対象者：経済学部生を除く全学部生
 - 2) 対象科目：下記①、②を除く全科目
 - ① 事前登録科目（履修登録期間中に大学側が登録する科目を含む）
 - ② 制限科目
- ※ この他に学部・学科で対象外としている科目がある場合は「IV. 学部履修要項」に記載されていますので、参照してください。
- 3) 履修取消科目の扱い：本制度を利用して取り消した前期科目と同一名称の科目を後期に履修することはできません。
 - 4) 履修取消科目の単位の扱い：本制度を利用して取り消した科目の単位数は、当該年度の申請単位数に含まれます。
 - 5) 履修取消科目の成績評価の表示：
 - ① 成績通知書：「W」
 - ② 成績証明書：記載しない。

履修取消申請方法

履修取消の申請は、以下の期間内に所属キャンパスの学務窓口でのみ受け付けます。申請の取り下げは一切認められません。

	履修取消申請受付期間
前期科目および通年科目	5月11日(火)～17日(月)
後期科目	10月22日(金)～28日(木)

A. 教育人間科学部履修要項 (2009年度以降入学者)

教育学科

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表	17
【2】 教育学科履修について	27
【3】 外国語科目履修方法および配置表	30
【4】 教育学科学科科目履修方法および配置表	31
【5】 自由選択科目履修方法	40

心理学科

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表	17
【2】 心理学科履修について	41
【3】 外国語科目履修方法および配置表	42
【4】 心理学科学科科目履修方法および配置表	43
【5】 自由選択科目履修方法	48

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表

1. 全学部に通ずる教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に通ずる教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養を備えているという社会的評価を受けることを到達の目標とする」として、青山スタンダード科目を開講しています。

2. 履修方法

科目の種類			必修の別	必要単位
青山スタンダード科目	1) 教養コア	キリスト教理解関連科目	必修	2
	2) 技能コア	言葉の技能	英語	※1
			第二外国語 ※2 ※3	必修
		身体の技能	必修※4	2
		情報の技能	必修	2
	3) テーマ別	キリスト教理解関連科目	必修	2
	4) 教養コア	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記4領域のうち2領域から「教養コア科目」を選択	選択必修
5) 領域指定	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記領域より4)で選択しなかった2領域から各1科目(2単位)ずつ選択。(「教養コア科目」あるいは「テーマ別科目」いずれも可)	選択必修	4
	フレッシュャーズ・セミナー、ウェルカム・レクチャー、教養コア科目、技能コア科目、テーマ別科目から選択。 (1)～5)で修得した科目は除く]		選択	6

※1 言葉の技能・英語は、所属する学部(学科)が開講する科目を履修します。詳しくは、所属する学部(学科)の外国語科目履修方法および配置表に関するページを参照してください。(英語スキルI-1、I-2を除く)

※2 第二外国語科目の中から1外国語を選択します(入学手続き時に申請されています)。

※3 第二外国語科目には、履修順序があります。

- ・「(第二外国語)I(A)」「(第二外国語)I(B)」について、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます(日本語は除く)。

- ・「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語)II」あるいは「(第二外国語)会話(I)」は、「(第二外国語)I」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。

- ・「(第二外国語)III」は、「インテンシブ・(第二外国語)」あるいは「(第二外国語)II」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

- ・「(第二外国語)会話(II)」は、「(第二外国語)II」あるいは「(第二外国語)会話(I)」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

※4 教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修です。

- 必要単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。
- 総合文化政策学部生は、履修年次が3年次以上の青山キャンパス開講科目を2年次に履修できる場合があります。詳細は時間割表等で確認してください。

3. 授業科目配置表

(太字は必修科目)

		授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	開 講 キャンパス	備 考	
		フレッシュヤーズ・セミナー	2	1	相	1年生のみ	
		ウェルカム・レクチャー	2	1	相	2009年度以降入学者1年生のみ	
教 養 コア 科 目		(キリスト教理解関連科目) キ リ ス ト 教 概 論 I	2	1	相		
		(人間理解関連科目) 自己理解 (総合科目)	2	1	相	(総合科目):複数の教員による担当	
		自己理解 (個別科目)	2	1	相	(個別科目):一人の教員による担当	
		(社会理解関連科目) 現代社会の諸問題 (総合科目)	2	1	相	(総合科目):複数の教員による担当	
		現代社会の諸問題 (個別科目)	2	1	相	(個別科目):一人の教員による担当	
		(自然理解関連科目) 科学・技術の視点 (総合科目)	2	1	相	(総合科目):複数の教員による担当	
		科学・技術の視点 (個別科目)	2	1	相	(個別科目):一人の教員による担当	
		(歴史理解関連科目) 歴史と人間 (総合科目)	2	1	相	(総合科目):複数の教員による担当	
		歴史と人間 (個別科目)	2	1	相	(個別科目):一人の教員による担当	
	技 能 コア 科 目	英 語 ・ 日 本 語	Essential English	2	1	相	2006年度入学者法学部・理工学部のみ
英 語 ス キ ル I - 1			1	1	相	2007年度以降入学者1年生のみ	
英 語 ス キ ル I - 2			1	1	相	2007年度以降入学者1年生のみ	
日 本 語 初 級 A			2	1	相	2006年度入学者法学部・理工学部の外国人留学生該当者のみ	
言 葉 の 技 能		第 二 外 国 語	(第二外国語) I (A)-1	1	1	相	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
			(第二外国語) I (A)-2	1	1	相	
			(第二外国語) I (B)-1	1	1	相	
			(第二外国語) I (B)-2	1	1	相	
			英 語 I - 1	1	1	相	フランス文学科のみ選択可。それぞれ週2回履修し、計4単位修得してください。
			英 語 I - 2	1	1	相	
			英 語 (I A) - 1	1	1	相	外国人留学生のみ
			英 語 (I A) - 2	1	1	相	外国人留学生のみ
			英 語 (I B) - 1	1	1	相	外国人留学生のみ
			英 語 (I B) - 2	1	1	相	外国人留学生のみ
			日 本 語 I (A)	2	1	相	外国人留学生のみ
			日 本 語 I (B)	2	1	相	外国人留学生のみ
身 体 の 技 能		健 康 ・ ス ポ ー ツ 演 習	2	1	相	教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修	
情 報 の 技 能		情 報 ス キ ル I	2	1	相		
テ ー マ 別 科 目	関 連 科 目 (領 域 A) キ リ ス ト 教 理 解	キ リ ス ト 教 概 論 II	2	2・3	相・青	理工学部・社会情報学部は2年次 他は3年次配置	
		旧 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4	相		
		新 約 聖 書 と 人 間	2	3・4	青		

キリスト教 解関連科目 (領域A)	キリスト教生命倫理	2	3・4	青		
	キリスト教政治倫理	2	3・4	青		
	キリスト教と自然科学	2	2・3・4	相		
	キリスト教環境倫理	2	2・3・4	相		
	キリスト教音楽	2	3・4	青		
	キリスト教美術	2	3・4	青		
	メソジスト教会史	2	3・4	青		
	キリスト教教育	2	3・4		閉講	
	世界の諸宗教	2	2・3・4	相		
	現代神学	2	3・4	青		
	キリスト教と社会福祉	2	3・4		閉講	
	聖書の中の女性たち(旧約)	2	3・4	青		
	聖書の中の女性たち(新約)	2	2・3・4	相		
	サービス・ラーニングⅠ	2	2・3・4	相		
	サービス・ラーニングⅡ	2	2・3・4	相		
	テ ィ マ 別 科 目 人 間 理 解 関 連 科 目 (領域B)	哲学 A	2	2・3・4	相	
		哲学 B	2	2・3・4	相	
		哲学の諸問題 A	2	3・4	青	
		哲学の諸問題 B	2	3・4	青	
		哲学の諸問題 C	2	3・4	青	
		哲学の諸問題 D	2	3・4	青	
		論理学 A	2	2・3・4	相	
		論理学 B	2	2・3・4	相	
		論理学の諸問題 A	2	3・4	青	
		論理学の諸問題 B	2	3・4	青	
		倫理学 A	2	2・3・4	相	
		倫理学 B	2	2・3・4	相	
倫理学の諸問題 A		2	3・4	青		
倫理学の諸問題 B		2	3・4	青		
西洋倫理思想史 A		2	3・4	青		
西洋倫理思想史 B		2	3・4	青		
言語学 A		2	2・3・4	相		
言語学 B		2	2・3・4	相		
日本語学 A		2	2・3・4	相		
日本語学 B		2	2・3・4	相		
文学 A		2	2・3・4	相		
文学 B		2	2・3・4	相		
文学史 A		2	3・4	青		
文学史 B		2	3・4	青		
美術 A		2	2・3・4	相		
美術 B		2	2・3・4	相		
美術史 A		2	3・4	青		

テ ー マ 別 科 目	人間理解関連科目 (領域B)	美術史 B	2	3・4	青	
		音楽 A	2	2・3・4	相	
		音楽 B	2	2・3・4	相	
		音楽史 A	2	3・4	青	
		音楽史 B	2	3・4	青	
		文化人類学 A	2	2・3・4	相・青	
		文化人類学 B	2	2・3・4	相・青	
		比較文化 A	2	2・3・4	相	
		比較文化 B	2	2・3・4	相	
		比較文化の諸問題 A	2	3・4	青	
		比較文化の諸問題 B	2	3・4	青	
		心理学 A	2	2・3・4	相	心理学科除く
		心理学 B	2	2・3・4	相	心理学科除く
		教育学 A	2	2・3・4	相	
		教育学 B	2	2・3・4	相	
		平和を考える A	2	3・4	青	
		平和を考える B	2	3・4	青	
		人間関係とコミュニケーションA	2	2・3・4	相	
	人間関係とコミュニケーションB	2	2・3・4	相		
	文化とコミュニケーションA	2	2・3・4	相	国際政治経済学部除く	
	文化とコミュニケーションB	2	2・3・4	相	国際政治経済学部除く	
	社会理解関連科目 (領域C)	法学（日本国憲法を含む）	4	2・3・4	相・青	法学部除く。教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。
		日本の法と社会 A	2	3・4	青	
		日本の法と社会 B	2	3・4	青	
		国際政治経済学 A	2	2・3・4	相	
		国際政治経済学 B	2	2・3・4	相	
		国際関係概論 A	2	2・3・4	相	
		国際関係概論 B	2	2・3・4	相	
社会学 A		2	2・3・4	相・青		
社会学 B		2	2・3・4	相・青		
現代社会と教育人間学 A		2	2・3・4	相		
現代社会と教育人間学 B		2	2・3・4	相		
経済学 A		2	2・3・4	相	経済学部除く	
経済学 B		2	2・3・4	相	経済学部除く	
情報社会科学 A		2	2・3・4	相・青		
情報社会科学 B	2	2・3・4	相・青			
情報社会論	2	3・4	青			
社会情報論	2	3・4	青			
人口問題 A	2	2・3・4	相			
人口問題 B	2	2・3・4	相			
フェミニズム A	2	3・4	青			

テ マ 別 科 目	社会理解関連科目 (領域C)	フェミニズム B	2	3・4	青	
		民族問題 A	2	3・4	青	
		民族問題 B	2	3・4	青	
		マスメディアと社会	2	2・3・4	相	
		データサイエンス	2	2・3・4	相	
		福祉と人間 A	2	3・4	青	
		福祉と人間 B	2	3・4	青	
		国際ビジネス入門 A	2	2・3・4	相	
		国際ビジネス入門 B	2	2・3・4	相	
		感性ビジネス A -ファッション産業のフロンティア-	2	2・3・4	相・青	
		感性ビジネス B -ファッション産業のフロンティア-	2	2・3・4	相・青	
		感性ビジネス C -ファッション・ビジネス戦略論-	2	3・4	青	財団法人ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		感性ビジネス D -ファッション・ビジネス戦略論-	2	3・4	青	財団法人ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		パーソナル・マナー・マネジメント入門	2	3・4	青	三井生命寄附講座
		企業のモノづくりと 人づくりのリテラシー	2	2・3・4	相	
		国際ビジネスと海外事情 A	2	3・4	青	
		国際ビジネスと海外事情 B	2	3・4	青	
		グローバリゼーションとWTO	2	3・4	青	
	日本農業とWTO	2	3・4	青		
	環境問題と社会	2	3・4	青	NPO 環境平和持続の会寄附講座	
	現代金融の諸問題	2	3・4	青	金融青山会寄附講座	
	経済・金融とファイナンス	2	3・4	青	三菱UFJ信託銀行(株)寄附講座	
	自然理解関連科目 (領域D)	技術史 A	2	2・3・4	相	
		技術史 B	2	2・3・4	相	
		日常生活の数理	2	2・3・4	相	
		数理科学入門 I	2	2・3・4	相	理工学部・社会情報学部を除く 本年度休講
		数理科学入門 II	2	2・3・4	相	理工学部・社会情報学部を除く 本年度休講
		数理科学の視点	2	2・3・4	相	
数理モデル		2	2・3・4	相	本年度休講	
自然科学概論 A		2	2・3・4	相	本年度休講	
自然科学概論 B		2	2・3・4	相	本年度休講	
文化としての科学・技術 A		2	3・4	相・青		
文化としての科学・技術 B		2	3・4	相・青		
現代物理		2	2・3・4	相		
ライフサイエンス	2	2・3・4	相			
ゲノム	2	2・3・4	相			
生物と地球環境	2	3・4	青			

テ ー マ 別 科 目	自然理解関連科目 (領域D)	地球環境保全	2	3・4	青	
		バイオテクノロジーと生命倫理	2	3・4	青	
		地球観(自然と人の倫理)	2	2・3・4	相	本年度休講
		生命と地球の歴史	2	2・3・4	相	本年度休講
		宇宙科学	2	2・3・4	相	
		野鳥の生態	2	2・3・4	相	
		鳥類と生物多様性	2	2・3・4	相	
		植物生態学	2	2・3・4	相	
		メカワールド	2	2・3・4	相	理工学部除く
		経営管理の技術	2	2・3・4	相	理工学部除く
		先端エレクトロニクス	2	2・3・4	相	
		環境科学 A	2	2・3・4	相	
		環境科学 B	2	2・3・4	相	
		自然地理学 A	2	2・3・4	相	本年度休講
		自然地理学 B	2	2・3・4	相	本年度休講
		科学史	2	2・3・4	相	
		生命と生態系(環境と生物)	2	2・3・4	相	
		生命の連続(遺伝)	2	2・3・4	相	
		かたちの科学	2	2・3・4	相	
		自然史	2	2・3・4	相	
	自然観の変遷	2	2・3・4	相		
	歴史理解関連科目 (領域E)	青山学院大学の歴史	2	2・3・4	相・青	
		日本社会史 A	2	2・3・4	相	
		日本社会史 B	2	2・3・4	相	
		日本社会史 C	2	3・4	青	
		中国史 A	2	2・3・4	相	
		中国史 B	2	2・3・4	相	
		中国史 C	2	3・4	青	
		ヨーロッパ史 A	2	2・3・4	相	
		ヨーロッパ史 B	2	2・3・4	相	
		ヨーロッパ史 C	2	3・4	青	
		現代史 A	2	2・3・4	相	
		現代史 B	2	2・3・4	相	
現代史 C		2	2・3・4	相		
現代史 D	2	2・3・4	相			
考古学 A	2	2・3・4	相			
考古学 B	2	2・3・4	相			
科学思想史 A	2	2・3・4	相			
科学思想史 B	2	2・3・4	相			
言葉の技能 (領域F)	インテンシブ・(第二外国語)(A)	2	2・3・4	相	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。	
	インテンシブ・(第二外国語)(B)	2	2・3・4	相		
	インテンシブ・(第二外国語)(C)	2	2・3・4	相		

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	インテンシブ・(第二外国語)(D)	2	2・3・4	相	
		(第二外国語)Ⅱ(A)	2	2・3・4	相	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
		(第二外国語)Ⅱ(B)	2	2・3・4	相	
		(第二外国語)Ⅱ(C)	2	2・3・4	相	
		(第二外国語)Ⅱ(D)	2	2・3・4	相	
		(第二外国語)Ⅱ(E)	2	2・3・4	相	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、中国語を指します。
		中国語Ⅱ(F)	2	2・3・4	相	
		(第二外国語)Ⅱ	2	2・3・4	相・青	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		英語Ⅱ	2	2・3・4	相	フランス文学科のみ
		英語(ⅡA)	2	2・3・4	相	外国人留学生のみ
		英語(ⅡB)	2	2・3・4	相	外国人留学生のみ、旧称「英語Ⅱ」
		日本語Ⅱ	2	2・3・4	相	外国人留学生のみ
		(第二外国語)Ⅲ	2	3・4	青	(第二外国語)はドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		フランス語Ⅲ(A)	2	3・4	青	フランス文学科除く
		フランス語Ⅲ(B)	2	3・4	青	フランス文学科除く
		英語Ⅲ	2	3・4	青	フランス文学科のみ
		英語(Ⅲ)	2	3・4	青	外国人留学生のみ
		日本語Ⅲ	2	3・4	青	外国人留学生のみ
		(第二外国語)会話(Ⅰ)	2	2・3・4	相・青	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語(フランス文学科のみ)を指します。
		(第二外国語)会話(Ⅱ)	2	3・4	青	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語を指します。
		日本語(Ⅰ)A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅰ)B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅰ)C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅰ)D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅱ)A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅱ)B	1	3	青	交換留学生のみ
日本語(Ⅱ)C	1	3	青	交換留学生のみ		
日本語(Ⅱ)D	1	3	青	交換留学生のみ		
日本語(Ⅲ)A	1	3	青	交換留学生のみ		
日本語(Ⅲ)B	1	3	青	交換留学生のみ		
日本語(Ⅲ)C	1	3	青	交換留学生のみ		

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能(領域F)	日 本 語 (Ⅲ) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日 本 語 (Ⅳ) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日 本 語 (Ⅳ) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日 本 語 (Ⅳ) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日 本 語 (Ⅳ) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日 本 語 (Ⅴ) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日 本 語 (Ⅴ) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日 本 語 (Ⅴ) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日 本 語 (Ⅴ) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (Ⅰ)	2	3	青	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (Ⅱ)	2	3	青	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (Ⅲ)	2	3	青	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (Ⅳ)	2	3	青	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (Ⅴ)	2	3	青	交換留学生のみ
		アメリカ合衆国の社会と文化A	2	2・3・4	相	
		アメリカ合衆国の社会と文化B	2	2・3・4	相	
		英語圏の社会と文化A	2	2・3・4	相	国際政治経済学部除く
		英語圏の社会と文化B	2	2・3・4	相	
		フランス語圏の社会と文化A	2	2・3・4	相	
		フランス語圏の社会と文化B	2	2・3・4	相	
		フランス語圏の社会と文化C	2	3・4	青	
		ドイツ語圏の社会と文化A	2	2・3・4	相	
		ドイツ語圏の社会と文化B	2	2・3・4	相	
		ドイツ語圏の社会と文化C	2	3・4	青	
		スペイン語圏の社会と文化A	2	2・3・4	相	
		スペイン語圏の社会と文化B	2	2・3・4	相	
		スペイン語圏の社会と文化C	2	3・4	青	
		中国語圏の社会と文化A	2	2・3・4	相	
		中国語圏の社会と文化B	2	2・3・4	相	
		中国語圏の社会と文化C	2	3・4	青	
		ロシア語圏の社会と文化A	2	2・3・4	相	
		ロシア語圏の社会と文化B	2	3・4	青	
		韓国・朝鮮の社会と文化A	2	2・3・4	相	
		韓国・朝鮮の社会と文化B	2	3・4	青	
イスラム圏の社会と文化A	2	3・4	青			
イスラム圏の社会と文化B	2	3・4	青			
日 本 学 A	2	3・4	青	交換留学生・外国人留学生のみ		
日 本 学 B	2	3・4	青	交換留学生・外国人留学生のみ		
English Studies A	2	2・3・4	相			
English Studies B	2	2・3・4	相			
English Studies C	2	3・4	青			
English Studies D	2	3・4	青	本年度休講		

言葉の技能 (領域F)	English Studies E	2	3・4	青	本年度休講
	ことばの研究 A	2	2・3・4	相	
	ことばの研究 B	2	3・4	青	
	少数民族の社会と文化 A	2	3・4	青	本年度休講
	少数民族の社会と文化 B	2	3・4	青	
	民族文化論 A	2	2・3・4	相	
	民族文化論 B	2	2・3・4	相	本年度休講
身体の技能 (領域G)	健康医学	2	2・3・4	相・青	
	身体の仕組みと病気 A	2	2・3・4	相	
	身体の仕組みと病気 B	2	2・3・4	相	
	スポーツ生理学	2	2・3・4	相	
	スポーツバイオメカニクス	2	2・3・4	相	
	スポーツ心理学	2	2・3・4	相	
	動きの人間学	2	2・3・4	相	
	医療社会学	2	2・3・4	相	
	スポーツ運動実習	1	2・3・4	相・青	4回まで重複履修を認めます。教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。
	アドバンストスポーツ実習	2	2・3・4	相	
情報の技能 (領域H)	プログラミング基礎 I	2	2・3・4	相・青	
	プログラミング基礎 II	2	2・3・4	相・青	
	情報スキル II	2	2・3・4	相	本年度休講
	eラーニング入門	2	2・3・4	相	
	インストラクショナルデザイン入門	2	2・3・4	相	
	教育システムのためのIT入門	2	2・3・4	相	
	eラーニングの法的課題入門	2	2・3・4	相	

【2】 教育学科履修について（2009年度以降入学者）

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は種別ごとの最低の単位数であり、これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

卒業に必要な最低単位数

	青山 スタンダード 科目	外国語 科目	学 科 科 目			自由 選択 科目	卒業要件 単位数
		外国語 I	共通 必修	共通 選択必修	選択 必修		
人間形成探究コース	26	10	30	12	16	34	128
臨床教育・ 生涯発達コース	26	10	30	12	16	34	128
教育情報・ メディアコース	26	10	30	12	16	34	128
幼児教育学コース	26	10	30	12	38	12	128
児童教育学コース	26	10	30	12	46	4	128

青山スタンダード科目の履修については【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表（P.17）を参照してください。

(2) 学位について

教育人間科学部教育学科に4年以上（ただし、8年を限度とします）在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記を与え、学士（教育学）の学位を授与します。

(3) コース決定について

教育学科は上記表に記載のとおり、5つのコースに分かれています。
コースの概要は以下のとおりです。

1 人間形成探究コース

人間形成というテーマを、歴史学、哲学、宗教学、倫理学、文化人類学、言語学などの観点から幅広く探究します。人間観、教育観の歴史的な変遷、家庭、文化、社会と人間の関わり方の考察を通して、現代の人間と教育を根本から捉え直します。

2 臨床教育・生涯発達コース

人間の乳幼児期から老年期に至るライフサイクルの中で、発達、学習、教育がどのように実現されているかについて、その理論および実際を学びます。カリキュラムでは、人の生涯における発達現象とそれにとまなう臨床的問題、学校外教育、地域社会と学校教育の連携などが中心的なテーマとなります。

3 教育情報・メディアコース

情報環境の中で生活し、そこで学び、発達する人間を多様な観点から捉えます。情報の伝達的な側面を情報社会学、図書館情報学の観点から、情報の受容・理解・創造の側面を認知科学、発達、学習科学から研究します。また、よりよい学習環境の開発のため、教育メディア開発の研究も行います。

4 幼児教育学コース

将来、幼児教育に携わることをめざす学生のために、幼児の発達・教育の理論と実践的知識を学習する科目を多数用意しています。幼児教育原理、保育内容総論などの科目をとおして理論的知識を、保育内容教育法、幼児教育実習などの科目を通して実践的知識を身につけます。

5 児童教育学コース

将来、児童教育に携わることを目指す学生のために、児童、生徒の発達、学習、教育に関わる科目が体系的に用意されています。学校教育学総論、教育方法、教職論などの科目を通して基礎的な知識を学習し、各教科教育法などを通して、教育者としての実践的知識を獲得します。

◎コースの決定

コース決定については、2年次10月ごろまでにコース説明会を行いますので、必ず出席し、所定の「コース決定届」の用紙を学務グループ窓口に提出してください。

ただし、1年次から、コース選択のことを考えて、科目を履修することが望まれます。3年次からは、決定したコースごとに必要な科目を履修し、卒業要件単位を満たすことで、卒業することができます。

いったん決定したコースは変更することができませんので、十分検討のうえ、決定してください。

なお、教育職員免許状・各種資格の取得に関しては、科目の履修順序が定められていますので、3年次から取得を始めることができない場合があります。十分留意してください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。

なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなくてはなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
44	48	48	48	188

◎教育職員免許状の取得を希望する場合、下記の教職課程科目を、上記制限単位外で履修することができます。

- ・幼稚園 幼児教育実習Ⅰ、幼児教育実習Ⅱ
- ・小学校 初等教育実習Ⅰ、初等教育実習Ⅱ
- ・中学校（国語、社会、英語）および高等学校（国語、地理歴史、公民、英語）
中等教育実習Ⅰ、中等教育実習ⅡA、ⅡB
各教科教育法、各教科教材論（英語は教育法特論）

さらに2010年度以降入学者は「教職実践演習」も含みます。

3. 進級条件

- (1) 1年次終了時に8単位以上修得しなければ2年次に進級できません。
- (2) 2年次終了時に50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間（休学期間を除きます）で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5. 授業科目履修にあたっての注意

相模原キャンパスにおいて開講されている1・2年次履修科目については、履修計画をたて、相模原キャンパスにて確実に修得してください。

6. 編入学者、転学部・転学科者について

編入学者、転学部・転学科者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。

- (例) 2010年度2年次編入学者、転学部・転学科者の場合
＝2009年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。
2011年度3年次編入学者、転学部・転学科者の場合
＝2009年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

注) 編入学者、転学部・転学科者は編入学、転学部・転学科した年度から2年間に限り最高履修制限単位を超えて、さらに8単位履修することができます。

7. 外国人留学生の外国語科目の履修について

外国語科目（外国語Ⅰ、外国語Ⅱ）は、入学手続き時に申請した科目を必ず履修してください。なお、履修方法は次のとおりです。

(1) 外国語Ⅰの必要単位（10単位）

（太字は必修科目）

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 語 初 級 A	2	1	
日 本 語 初 級 B	2	1	
日 本 語 初 級 C	2	1	
日 本 語 中 級 A	2	2	どちらか1科目を選択必修
日 本 語 中 級 B	2	2	
日 本 語 上 級	2	3	

注1) 必修10単位を超えて修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 原則として外国語Ⅰは日本語ですが、特に英語を外国語Ⅰとして履修するように指定を受けた場合は一般学生と同じ科目を10単位修得してください。

(2) 言葉の技能（外国語Ⅱ）の必要単位（4単位）

母国語以外の下記科目中より初級4単位を修得してください。（配置表はP19・23参照）

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語

注1) 入学手続き時に申請した科目のⅡ、Ⅲおよび会話の単位を修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、1年次配置前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が修得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 英語を外国語Ⅰとして履修するように指定を受けた者は、日本語を外国語Ⅱとすることができます。この場合、英語は外国語Ⅱとはなりません。

注4) 入学手続き時に申請した科目以外のⅠ、Ⅱ、Ⅲおよび会話の単位を修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。この場合、各授業科目間の履修順序はつけません。ただし各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注5) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外等で既に既に学習したことのある者が、その学力をⅠ修了者に準ずると認定された場合、Ⅱの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【3】 外国語科目履修方法および配置表

1. 外国語 I の履修方法

(1) 外国語 I の必要単位 (10単位)

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	英 語 講 読 I	2	1	
	英 語 講 読 II	2	2	
	オーラル・イングリッシュ I	2	1	
	オーラル・イングリッシュ II	2	2	
	英 作 文 I	2	2	

注) 他学科の外国語 I は原則として履修できません (指定されたクラスで受講してください)。

(2) 履修順序

1	2
	I が合格した場合のみ履修できます
オーラル・イングリッシュ I	オーラル・イングリッシュ II

【4】 教育学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目履修方法

(1) 学科科目の必要単位

【各コース共通】 必修 および 選択必修

必修〔30単位〕

教育学概説〔2〕 教育心理学概説〔2〕 教育制度概説〔2〕 教育思想概説〔2〕
 教育学研究法〔2〕 基礎演習〔2〕 教職総合演習〔2〕 応用演習Ⅰ〔2〕
 応用演習Ⅱ〔2〕 専門演習〔4〕 卒業研究〔8〕

選択必修〔12単位〕

選択必修科目 A (学科科目配置表で種別欄に A を付した授業科目、以下「共通科目 A」という。)の中から 6 単位と、選択必修科目 B(学科科目配置表で種別欄に B を付した授業科目、以下「共通科目 B」という。)の中から 6 単位。合計12単位選択必修。

ただし、A、B 各 6 単位ずつ、合計12単位を超えて修得した場合は、その科目が属する群の修得単位とします。

共通科目 A

人間形成学総論〔2〕 教育社会学総論〔2〕 臨床教育学総論〔2〕
 教育情報学総論〔2〕 メディア・コミュニケーション総論〔2〕
 幼児教育原理 A〔2〕 学校教育学総論〔2〕 初等教育原理 A〔2〕

共通科目 B

宗教教育学〔2〕 キャリア教育 A〔2〕 社会福祉概論〔2〕
 生涯学習概論Ⅰ〔2〕 高等教育論 A〔2〕 認知科学概論〔2〕
 図書館情報学概論〔2〕 臨床保育学 A〔2〕
 教職論〔2〕 教育方法論〔2〕 教育課程論〔2〕

【コース別】 選択必修 および 自由選択

人間形成探究コース〔選択必修16単位、自由選択34単位〕

- ・科目配置表第Ⅰ群の科目の中から選択必修16単位
- ・自由選択34単位

臨床教育・生涯発達コース〔選択必修16単位、自由選択34単位〕

- ・科目配置表第Ⅰ群の①の科目、第Ⅱ群の科目、第Ⅳ群の④の科目の中から選択必修16単位
- ・自由選択34単位

教育情報・メディアコース〔選択必修16単位、自由選択34単位〕

- ・科目配置表第Ⅲ群の科目の中から選択必修16単位
- ・自由選択34単位

幼児教育学コース〔選択必修38単位、自由選択12単位〕

- ・科目配置表第Ⅳ群の科目、第Ⅴ群の⑤の科目の中から選択必修38単位
- ・自由選択12単位

児童教育学コース〔選択必修46単位、自由選択 4 単位〕

- ・科目配置表第Ⅴ群の科目の中から選択必修46単位
- ・自由選択 4 単位

(2) 「専門演習」について

2011年度に専門演習を履修する学生を対象として、2010年11月～12月に「演習予備登録」を行う予定です。詳細については、学生ポータルや掲示等で知らせますので注意してください。

(3) 「卒業研究」について

- (イ) 「卒業研究」は、年度初頭における履修登録の結果、その年度に卒業見込みとなる者でなければ履修できません。また、指導教員は教育学科教員です。
- (ロ) 4年次において、「卒業研究」を履修し単位を修得するものとします。
- (ハ) 「卒業研究」を履修するにあたっては、2年次あるいは3年次において、当該教員の講義または演習を履修していることが望ましい。
- (ニ) 「卒業研究」の履修について、担当教員によっては、人数制限をすることがあります。

(4) 同一科目の履修について

既に合格した科目を再度履修することはできません。

ただし、教育学科学科科目の「専門演習」に限り、同一科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は、履修することができます。

(5) 履修順序について

1		2	3	
教育学科学科科目		1が合格した場合のみ履修できます	「**実習Ⅰ」が合格した場合のみ同じ種類の実習Ⅱおよび「教職実践演習」を履修できます。 ※2010年度以降入学者のみ適用	
			教職課程科目	
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)	(4年次配置科目)	
教育制度概説	教職論	幼児教育実習Ⅰ	幼児教育実習Ⅱ	※教職実践演習(幼)
教育思想概説		初等教育実習Ⅰ	初等教育実習Ⅱ	※教職実践演習(小)
教育心理学概説		中等教育実習Ⅰ	中等教育実習Ⅱ	※教職実践演習(中・高)

3を履修するためには、2で指定された科目以外にも取得しておくべき科目がありますので、教員免許状取得に必要な科目の履修順序(P.74)を参照してください。

(6) 他学部、他学科の学生の本学科学科科目の履修について

教育学科学科科目のうち、下記授業科目は他学部、他学科の学生の履修を認めません。

履修不可科目

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
教育学概説	2	教育心理学概説	2
教育制度概説	2	教育思想概説	2
教育学研究法	2	基礎演習	2
教職総合演習	2	応用演習Ⅰ	2
応用演習Ⅱ	2	専門演習	4
卒業研究	8	臨床教育学総論※1	2
障害児・者の施設実習	2	臨床保育学A	2
臨床保育学B	2	保育方法研究A	2
保育方法研究B	2	保育内容総論A	2
保育内容総論B	2	保育内容教育法(健康)	2
保育内容教育法(人間関係)	2	保育内容教育法(環境)	2
保育内容教育法(ことば)	2	保育内容教育法(表現A)	2
保育内容教育法(表現B)	2	教職論	2
教育方法論	2	教育課程論	2
初等教科教育法(国語科)	2	初等教科教育法(算数科)	2

初等教科教育法（理科）	2	初等教科教育法（社会科）	2
初等教科教育法（生活科）	2	初等教科教育法（音楽科）	2
初等教科教育法（図画工作科）	2	初等教科教育法（体育科）	2
初等教科教育法（家庭科）	2	生徒・進路指導論	2
教育相談	2	特別活動論	2
道徳教育指導法	2	算数概説 A	2
算数概説 B	2	理科概説 A	2
理科概説 B	2	体育概説（理論）	2
体育概説（運動）	2	音楽概説（理論）	2
音楽概説（器楽 A）	2	音楽概説（器楽 B）	2
音楽概説（声楽）	2	初等国語概説	2
社会科概説	2	生活科概説	2
図画工作概説（美術）	2	図画工作概説（造形）	2
図画工作概説（理論）	2	家庭科概説（被服）	2
家庭科概説（食物）	2	英語音声学（演習）	2
書道	4		

※ 1 は心理学科の学生は履修することができます。

(7) 異キャンパス開講科目履修について（2011年度より実施）

- (イ) 青山キャンパス開講の学科科目のうち、履修年次が「(2)・3・4」となっているものについては、2年生も履修することができます。
- (ロ) 2年生が青山キャンパス開講の学科科目を履修する場合の注意
- 1) 履修登録できるのは8単位以内とします。
 - 2) 青山キャンパス開講科目を履修する場合、その科目は年間履修制限単位数に含むものとします。
 - 3) 相模原～青山キャンパス間の移動時間（90分）を十分考慮の上、定期試験等に支障のないよう履修計画を立ててください。
- (ハ) 他学部および他学科の学生は対象としません。

(8) 履修取消制度について

履修登録した科目を取り消すことができる制度です。

詳細については、Ⅲ．履修についてを参照してください。

なお、教育学科では、下記の科目については取り消すことができません。

- ・学科専門必修科目
- ・履修制限科目
- ・事前登録科目

2. 教育学科
学科科目配置表

太字は必修科目

種別 A } 全コース A から 6 単位、B から 6 単位 計12単位選択必修

種別 B } 12単位を超えて修得した科目はその群の単位となります。

人間形成探究コース 第 I 群の中から16単位選択必修

臨床教育・生涯発達コース 第 II 群および①④の中から16単位選択必修

教育情報・メディアコース 第 III 群の中から16単位選択必修

幼児教育学コース 第 IV 群および⑤の中から38単位選択必修

児童教育学コース 第 V 群の中から46単位選択必修

上記の選択必修科目として修得した A、B の科目は、これらの単位に含めることはできません

科目群	種別	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	学 期	備 考
第 0 群		教育学概説	2	1	前期	
		教育心理学概説	2	1	後期	
		教育制度概説	2	1	後期	
		教育思想概説	2	1	前期	
		教育学研究法	2	2	前期	
		基礎演習	2	1	前期	
		教職総合演習	2	1	後期	
		応用演習 I	2	2	前期	
		応用演習 II	2	2	後期	
		専門演習	4	3		2011年度開講
		卒業研究	8	4		2012年度開講
第 I 群	A	人間形成学総論	2	1・2	後期	
	1	日本教育史 I	2	1・2	前期	
	1	日本教育史 II	2	1・2	後期	
	1	西洋教育史 I	2	3・4	半期	2011年度開講
	1	西洋教育史 II	2	3・4	半期	2011年度開講
	1	教育史特殊講義	2	3・4	半期	2011年度開講
	B	宗教教育学	2	2	後期	
	1	発達と文化 A	2	3・4	半期	2011年度開講
	1	発達と文化 B	2	3・4	半期	2011年度開講
	1	教育哲学 A	2	3・4	半期	2011年度開講
	1	教育哲学 B	2	3・4	半期	2011年度開講
	1	教育学特論 A	2	3・4	半期	2011年度開講
	1	教育学特論 B	2	3・4	半期	2011年度開講
	A	教育社会学総論	2	1・2	前期	
	1	比較発達社会学	2	1・2	前期	
	1	生涯発達心理学 I	2	1・2	前期	
	1	生涯発達心理学 II	2	1・2	後期	
	B	キャリア教育 A	2	2	後期	
	①	キャリア教育 B	2	3・4	半期	2011年度開講
	1	家庭教育 A	2	2	前期	
	1	家庭教育 B	2	2	後期	
	1	比較教育学	2	3・4	半期	2011年度開講

第 I 群	1	異文化理解教育	2	3・4	半期	2011年度開講
	1	老年学	2	3・4	半期	2011年度開講
	1	教育学特論 C	2	3・4	半期	2011年度開講
	1	教育学特論 D	2	3・4	半期	2011年度開講
第 II 群	A	臨床教育学総論	2	1・2	前期	
	B	社会福祉概論	2	2	後期	
	2	臨床心理学概論 I	2	2	前期	
	2	臨床心理学概論 II	2	2	後期	
	2	小児精神神経学	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	相談心理学 I	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	相談心理学 II	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	特別支援教育	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	障害児・者の心理 I	2	2	前期	
	2	障害児・者の心理 II	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	障害児・者の施設実習	2	2	不定	
	2	障害児・者の教育	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	障害児・者の福祉	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	障害児・者の医学	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	教育学特論 E	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	教育学特論 F	2	3・4	半期	2011年度開講
	B	生涯学習概論 I	2	2	前期	
	2	生涯学習概論 II	2	2	後期	
	B	高等教育論 A	2	2	前期	
	2	高等教育論 B	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	社会教育計画 I	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	社会教育計画 II	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	社会教育課題研究	4	3・4		2011年度開講
	2	高齢化社会と教育	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	青年期と教育	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	ジェンダーと教育	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	青年文化論	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	ボランティア教育論	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	地域ネットワーク論	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	スポーツ・レクリエーション論	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	教育学特論 G	2	3・4	半期	2011年度開講
	2	教育学特論 H	2	3・4	半期	2011年度開講
第 III 群	A	教育情報学総論	2	1・2	後期	
	A	メディア・コミュニケーション総論	2	1・2	前期	
	B	認知科学概論	2	2	前期	
	3	学校経営と学校図書館	2	2	前期	
	3	視聴覚教育メディア論	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	インターフェース論	2	3・4	半期	2011年度開講

第 III 群	3	知的表現論	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	教材開発論	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	学習指導と学校図書館	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	学校図書館メディア	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	情報メディア利用論	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	読書教育論	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	学習心理学 I	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	学習心理学 II	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	社会心理学 I	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	社会心理学 II	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	教育学特論 I	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	教育学特論 J	2	3・4	半期	2011年度開講
	B	図書館情報学概論	2	2	前期	
	3	図書館システムサービス論	2	2	後期	
	3	図書館情報文化論	2	2	前期	
	3	図書館システム経営論	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	情報メディア論 A	2	2	前期	
	3	情報メディア論 B	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	情報メディア論 C	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	児童サービス論	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	メディア組織法 I	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	メディア組織法 II	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	メディア組織法 III	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	情報サービス論 I	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	情報サービス論 II	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	情報検索法 I	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	情報検索法 II	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	図書館情報学実習	2	4	半期	2012年度開講
	3	教育学特論 K	2	3・4	半期	2011年度開講
	3	教育学特論 L	2	3・4	半期	2011年度開講
第 IV 群	A	幼児教育原理 A	2	1・2	前期	
	4	幼児教育原理 B	2	1・2	後期	
	④	児童福祉論	2	1・2	後期	
	B	臨床保育学 A	2	2	前期	
	4	臨床保育学 B	2	2	後期	
	④	小児保健論	2	3・4	半期	2011年度開講
	4	教育学特論 M	2	3・4	半期	2011年度開講
	4	教育学特論 N	2	3・4	半期	2011年度開講
	4	保育方法研究 A	2	2	前期	
	4	保育方法研究 B	2	2	後期	
	4	保育内容総論 A	2	3・4	半期	2011年度開講
	4	保育内容総論 B	2	3・4	半期	2011年度開講

第IV群	4	保育内容教育法（健康）	2	3・4	半期	2011年度開講
	4	保育内容教育法（人間関係）	2	3・4	半期	2011年度開講
	4	保育内容教育法（環境）	2	3・4	半期	2011年度開講
	4	保育内容教育法（ことば）	2	3・4	半期	2011年度開講
	4	保育内容教育法（表現A）	2	3・4	半期	2011年度開講
	4	保育内容教育法（表現B）	2	3・4	半期	2011年度開講
	④	小児栄養学	2	3・4	半期	2011年度開講
	4	教育学特論O	2	3・4	半期	2011年度開講
	4	教育学特論P	2	3・4	半期	2011年度開講
第V群	A	学校教育学総論	2	1・2	前期	
	A	初等教育原理A	2	1・2	前期	
	5	初等教育原理B	2	1・2	後期	
	B	教職論	2	2	前期	
	B	教育方法論	2	2	後期	
	B	教育課程論	2	2	後期	
	5	初等教科教育法（国語科）	2	3・4	半期	2011年度開講
	5	初等教科教育法（算数科）	2	3・4	半期	2011年度開講
	5	初等教科教育法（理科）	2	3・4	半期	2011年度開講
	5	初等教科教育法（社会科）	2	3・4	半期	2011年度開講
	5	初等教科教育法（生活科）	2	3・4	半期	2011年度開講
	5	初等教科教育法（音楽科）	2	3・4	半期	2011年度開講
	5	初等教科教育法（図画工作科）	2	3・4	半期	2011年度開講
	5	初等教科教育法（体育科）	2	3・4	半期	2011年度開講
	5	初等教科教育法（家庭科）	2	3・4	半期	2011年度開講
	5	生徒・進路指導論	2	3・4	半期	2011年度開講
	5	教育相談	2	3・4	半期	2011年度開講
	5	特別活動論	2	3・4	半期	2011年度開講
	5	道德教育指導法	2	3・4	半期	2011年度開講
	5	学校心理学	2	(2)・3・4	半期	2011年度開講
	5	教育学特論Q	2	3・4	半期	2011年度開講
	5	教育学特論R	2	3・4	半期	2011年度開講
	⑤	算数概説A	2	1・2	前期	
	⑤	算数概説B	2	1・2	後期	
	⑤	理科概説A	2	1・2	前期	
	⑤	理科概説B	2	1・2	後期	
	⑤	体育概説（理論）	2	1・2	前期	
	⑤	体育概説（運動）	2	3・4	半期	2011年度開講
	⑤	音楽概説（理論）	2	1・2	前期	
	⑤	音楽概説（器楽A）	2	2	前期 後期	
	⑤	音楽概説（器楽B）	2	3・4	半期	2011年度開講
	⑤	音楽概説（声楽）	2	3・4	半期	2011年度開講
	⑤	初等国語概説	2	2	前期	

第V群	5	社会科概説	2	3・4	半期	2011年度開講	
	⑤	生活科概説	2	3・4	半期	2011年度開講	
	⑤	図画工作概説（美術）	2	2	前期		
	⑤	図画工作概説（造形）	2	2	後期		
	⑤	図画工作概説（理論）	2	3・4	半期	2011年度開講	
	5	家庭科概説（被服）	2	3・4	半期	2011年度開講	
	5	家庭科概説（食物）	2	3・4	半期	2011年度開講	
	5	初等英語概説A	2	3・4	半期	2011年度開講	
	5	初等英語概説B	2	3・4	半期	2011年度開講	
	5	教育学特論S	2	3・4	半期	2011年度開講	
5	教育学特論T	2	3・4	半期	2011年度開講		
第VI群		英語概説	4	3・4		2011年度開講	教員VI群の科目は、教育人間科学部他希望者に限り、および他学部等に必要の場合のみ履修できる。
		英作文II	2	3・4		2011年度開講	
		英文学	4	3・4		2011年度開講	
		英国文学史	4	3・4		2011年度開講	
		英語音声学（講義）	2	3・4	半期	2011年度開講	
		英語音声学（演習）	2	3・4	半期	2011年度開講	
		初等英語特論	4	3・4		2011年度開講	
		中等国語概説	2	2・3・4	前期		
		国文学	4	1・2			
		国文学史	4	3・4		2011年度開講	
		漢文学	4	3・4		2011年度開講	
		書道	4	3・4		2011年度開講	
		書理論	4	3・4		2011年度開講	
		日本史	4	3・4		2011年度開講	
		外国史（東洋史及び西洋史）	4	3・4		2011年度開講	
		人文地理学	4	3・4		2011年度開講	
		自然地理学	4	3・4		2011年度開講	
		地理情報分析法	4	3・4		2011年度開講	
		気象学	4	3・4		2011年度開講	
		地誌学概論	4	3・4		2011年度開講	
		法律学概説	4	3・4		2011年度開講	
		政治学概説	4	3・4		2011年度開講	
		社会学概説	2	3・4	半期	2011年度開講	
		経済学総論	4	3・4		2011年度開講	
		哲学史	4	3・4		2011年度開講	
		倫理学概説	4	3・4		2011年度開講	
		宗教学	4	3・4		2011年度開講	
		心理学概説	4	3・4		2011年度開講	
	職業指導	4	3・4		2011年度開講		
	教育学概説II	2	3・4	半期	2011年度開講		
	生涯学習概論III	2	3・4	半期	2011年度開講		

第 VII 群	インストラクショナルデザイン総論	2	(2)・3・4	半期	2011年度開講
	教育システムのためのITファンダメンタル	2	(2)・3・4	半期	2011年度開講
	コンピュータ利用教育と学習理論	2	3・4	半期	2011年度開講
	コンテンツ開発演習	2	(2)・3・4	半期	2011年度開講
	eラーニングシステムマネジメント演習	2	(2)・3・4	半期	2011年度開講
	コース実施と学習支援演習	2	(2)・3・4	半期	2011年度開講
	オンライン調査解析演習	2	(2)・3・4	半期	2011年度開講
	協調学習デザイン演習	2	(2)・3・4	半期	2011年度開講
第 VIII 群	キリスト教学校論	2	3・4	半期	2011年度開講
	聖書の世界(旧約)	2	3・4	半期	2011年度開講
	聖書の世界(新約)	2	3・4	半期	2011年度開講
	キリスト教の教理	2	3・4	半期	2011年度開講
	キリスト教と法思想	2	3・4	半期	2011年度開講
	宗教と社会	2	3・4	半期	2011年度開講
	礼拝学	2	3・4	半期	2011年度開講
	キリスト教と精神医学	2	3・4	半期	2011年度開講

履修年次について

- *履修年次に上級年次が記載されている科目は、下級年次で履修することはできません。
- *履修年次欄に記載されている数字は、その学年に履修することが望ましいということを表しています。

しかし、万一単位が修得できなかった場合や、履修できなかった場合は、上級年次でも履修することができます。

ただし、免許取得のために履修順序が指定されている科目については、免許取得を希望する場合には、必ずその学年で履修してください。

- * (2)・3・4と記載されているものは、青山キャンパスで開講される科目ですが、異キャンパス履修ができる科目で、2年次から履修することができます。

【5】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要単位

- (イ) 教育学科学科科目（必修および選択必修として修得した単位は除きます）
 - (ロ) 青山スタンダード科目（必修、選択必修および選択として修得した単位は除きます）
 - (ハ) 心理学科および他学部開講の科目（注）
- （注） 各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されるのは16単位までです。
- ただし、幼児教育学コースは12単位、児童教育学コースは4単位までとなります。履修する場合には、心理学科または他学部の履修制限に従ってください。
- また、本学科に同一名称科目、同一内容科目が開講されている場合は、本学科開講科目を履修しなければなりません。本学科学科科目と心理学科学科科目との同一名称科目、同一内容科目の対応は次のとおりです。
- なお、「臨床心理学概論Ⅱ」、「相談心理学Ⅱ」、「学習心理学Ⅱ」、「社会心理学Ⅱ」の授業内容や試験の出題は、「Ⅰ」の授業内容を理解していることを前提としていますので、「Ⅱ」を履修するためには、それぞれの科目に対応する「臨床心理学概論Ⅰ」、「相談心理学Ⅰ」、「学習心理学Ⅰ」、「社会心理学Ⅰ」を履修することが望ましい。

本学科学科科目	心理学科学科科目
生涯発達心理学Ⅰ	生涯発達心理学Ⅰ
生涯発達心理学Ⅱ	生涯発達心理学Ⅱ
臨床心理学概論Ⅰ	臨床心理学
臨床心理学概論Ⅱ	
相談心理学Ⅰ	相談心理学
相談心理学Ⅱ	
障害児・者の心理Ⅰ	障害児・者の心理Ⅰ
障害児・者の心理Ⅱ	障害児・者の心理Ⅱ
障害児・者の施設実習	障害児・者の施設実習
障害児・者の教育	障害児・者の教育
障害児・者の福祉	障害児・者の福祉
障害児・者の医学	障害児・者の医学
認知科学概論	認知科学概論
学習心理学Ⅰ	学習心理学
学習心理学Ⅱ	
社会心理学Ⅰ	社会心理学
社会心理学Ⅱ	
社会心理学Ⅰ	社会心理学Ⅰ
社会心理学Ⅱ	社会心理学Ⅱ
臨床保育学 A	臨床保育学
臨床保育学 B	
学校心理学	学校心理学

【2】 心理学科履修について（2009年度以降入学者）

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は種別ごとの最低の単位数であり、これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

卒業に必要な最低単位数

科目の種類		必選の別	必要単位
青山スタンダード科目			24
外国語科目	外国語 I	必修	10
学 科 科 目		必修	24
		選択必修	34
自由選択科目		選択	36
総 計			128

青山スタンダード科目の履修については【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表 (P.17) を参照してください。

(2) 学位について

教育人間科学部心理学科に4年以上（ただし、8年を限度とします）在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位を与え、学士（心理学）の学位を授与します。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。

なお、各年次においては、1科目以上の履修をこなすはなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合 計
44	48	48	44	184

注) 2010年度より、社会教育主事の資格を取得希望する学生は教育原理 A、教育原理 B を上記制限単位外で履修できます。

3. 所属キャンパス

1・2年次は相模原キャンパス、3・4年次は青山キャンパスが所属キャンパスとなります。

4. 進級条件

- (1) 1年次終了時に8単位以上修得していなければ2年次に進級できません。
- (2) 2年次終了時に50単位以上修得していなければ3年次に進級できません。

5. 修得単位僅少者について

入学後の2年間（休学期間を除きます）で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう、とくに注意してください。

6. 授業科目履修にあたっての注意

相模原キャンパスにおいて開講されている1・2年次配置科目については、履修計画をたて、相模原キャンパスにて確実に修得してください。

7. 編入学者、転学部・転学科者について

編入学者、転学部・転学科者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。

(例) 2010年度2年次編入学者、転学部・転学科者の場合——2009年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

(注) 編入学者、転学部・転学科者は編入学、転学部・転学科した年度に限り最高履修制限単位を4単位越えて履修することができます。

【3】 外国語科目履修方法および配置表

1. 外国語 I の履修方法

(1) 外国語 I の必要単位 (10単位)

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	英 語 講 読 I	2	1	
	英 語 講 読 II	2	2	
	オーラル・イングリッシュ I	2	1	
	オーラル・イングリッシュ II	2	2	
	英 作 文	2	2	

注) 他学科の外国語 I は原則として履修できません。指定されたクラスで受講してください。

(2) 履修順序

1	2
	I が合格した場合のみ履修できます
オーラル・イングリッシュ I	オーラル・イングリッシュ II

【4】 心理学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目履修方法

(1) 学科科目の必要単位

必修〔24単位〕

心理学基礎演習Ⅰ〔2〕 心理学基礎演習Ⅱ〔2〕 心理学概論〔4〕 基礎心理学〔2〕
 心理統計学基礎〔4〕 心理学実験〔4〕 心理学研究法〔2〕 卒業研究Ⅰ〔4〕

選択必修〔34単位〕

下記(イ)(ロ)をあわせて34単位を選択必修とします。

- (イ) 1～4年次の間に、区分Ⅰ～Ⅵの科目のうち、必修科目を除いた科目から26単位を選択必修とします。
- (ロ) 4年次において、以下のいずれかの要領で8単位を選択必修とします。
- ・卒業研究Ⅱ（6単位）を履修し単位を修得した場合は、区分Ⅰ～Ⅵの科目のうち、必修科目を除いた科目から2単位を選択必修とします。
 - ・卒業研究Ⅱを修得しない場合は、区分Ⅰ～Ⅵの科目のうち、必修科目を除いた科目から8単位を選択必修とします。
- (注) 選択必修の必要単位を超えて修得した学科科目の単位は、自由選択科目の単位に算入されます。

(2) 卒業研究について

- (イ) 卒業研究Ⅰおよび卒業研究Ⅱの履修登録にあたっては、年度初頭に行われるオリエンテーションに出席し、予備登録を行う必要があります。予備登録に関し学科内で検討を行った後、各学生の指導教授を発表しますので、それをもって履修登録を行うものとします。（学生本人が履修登録を行ってください。）
- (ロ) 卒業研究Ⅱは、前年度までに卒業研究Ⅰの単位を修得し、かつ年度初頭において履修登録科目を含めて、その年度に卒業の見込みのたつ場合でなければ履修できません。また卒業研究Ⅰ・Ⅱについては心理学科以外の教員を指導教員とすることはできません。
- (ハ) 卒業研究Ⅱの単位は、①卒業論文を提出し、②卒業論文発表における発表と質疑応答を行い、③主査・副査による審査に合格した場合に対して授与されます。
 締切に遅れたものについてはいかなる理由があっても一切受け付けません。
- (ニ) 卒業論文は、ワードプロセッサを用いて所定の書式で作成し、提出時には、印刷された論文本体と、論文ファイルおよびデータファイルを納めたフロッピーディスク、CD-R等の記憶媒体を提出しなければなりません。その際、レポート用の表紙をつけてください。
- (ホ) 提出後の論文の訂正はできません。

(3) 同一名称科目の履修について

既に合格した科目を再度履修すること、および、同一年度に同一名称科目を履修することはできません。ただし、心理学科学科科目のうち、下記科目に限り、同一名称科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は、何回でも履修することができます。

心理学特講 A	心理学特講 B	心理学演習Ⅰ A	心理学演習Ⅰ B
心理学演習Ⅱ A	心理学演習Ⅱ B	心理学演習Ⅲ A	心理学演習Ⅲ B
心理学演習Ⅳ A	心理学演習Ⅳ B		

(4) 履修順序について

- (イ) 「卒業研究II」は「卒業研究I」を合格した場合のみ履修できます。
- (ロ) 「医療心理実地演習」は「臨床心理実務倫理論」と「医療心理実地演習事前指導」とを合格した場合のみ履修できます。

履修順序

	3年次	4年次
(イ)	卒業研究 I	卒業研究 II
(ロ)	臨床心理実務倫理論 医療心理実地演習事前指導	医療心理実地演習

- (イ) 以下の必修科目は、表のとおり履修することが望ましい。

1年次	2年次	3年次
心理学概論	心理統計学基礎 心理学実験	卒業研究 I

(5) 異キャンパス開講科目履修について (2011年度より実施)

- (イ) 青山キャンパスで開講している学科科目のうち、履修年次が(2)・3・4となっている科目は2年生も履修することができ、履修年次が(1・2)・3・4となっている科目は1・2年生も履修することができます。ただし、相模原～青山キャンパス間の移動(90分間必要)が可能であることが条件となります。
- (ロ) 異キャンパス開講科目を履修する場合、その科目の単位は各年次の年間履修制限単位数に含まれます。
- (ハ) 他学部及び他学科の学生は対象としません。

(6) 他学部及び他学科学生の心理学科学科科目の履修について

心理学科学科科目のうち、下記授業科目は他学部、他学科の学生の履修を認めません。

学 科 科 目	単 位	学 科 科 目	単 位
心理学基礎演習 I	2	心理検査演習 C	2
心理学基礎演習 II	2	心理検査演習 D	2
心理学概論	4	医療心理実地演習事前指導	1
基礎心理学※	2	医療心理実地演習	4
心理統計学基礎※	4	心理療法実習	2
心理学実験	4	音楽療法演習	2
心理学実験プログラミング	2	心理学演習 I A	2
心理学研究法※	2	心理学演習 I B	2
教育心理学	4	心理学演習 II A	2
認知科学概論	2	心理学演習 II B	2
心理学特講 B	2	心理学演習 III A	2
臨床保育学	4	心理学演習 III B	2
心理療法 I	2	心理学演習 IV A	2
心理療法 II	2	心理学演習 IV B	2
臨床心理実務倫理論	2	哲学文献講読演習	4
障害児・者の施設実習	2	卒業研究 I	4
心理検査演習 A	2	卒業研究 II	6
心理検査演習 B	2		

※ 教育人間科学部教育学科の学生のみ履修を認めます。

(7) 履修取消制度対象外の科目について

心理学科必修科目は、履修取消制度の対象外とします。

2. 学科科目配置表

履修年次の見方

- 1 : 1年次に履修することが望ましいもの (1~4年次まで履修可)
- 2 : 2年次に履修することが望ましいもの (2~4年次まで履修可)
- 1・2 : 1・2年次に履修することが望ましいもの (1~4年次まで履修可)
- (1・2)・3・4 : 1年次から履修できる3・4年次配置科目 (青山キャンパス開講)
- (2)・3・4 : 2年次から履修できる3・4年次配置科目 (青山キャンパス開講)
- 3 : 3年次に履修することが望ましいもの (3~4年次まで履修可)
- 3・4 : 3・4年次に履修することが望ましいもの (3~4年次まで履修可)
- 4 : 4年次のみ履修できるもの

(太字は必修科目)

区分	授 業 科 目	単位	履修年次	備 考	
I 群	心 理 学 基 礎 演 習 I	2	1	前期	
	心 理 学 基 礎 演 習 II	2	1	後期	
	心 理 学 概 論	4	1		
	基 礎 心 理 学	2	2	後期	
	心 理 統 計 学 基 礎	4	2		
	心 理 学 実 験	4	2		
	心理学実験プログラミング	2	2	前期	
	心 理 統 計 実 習	2	3・4	半期	2011年度開講
	哲 学 的 認 識 論	4	3・4		2011年度開講
	心 の 哲 学	4	3・4		2011年度開講
	心 理 学 史	2	3・4	半期	2011年度開講
心 理 学 研 究 法	2	3	半期	2011年度開講	
II 群	学 習 心 理 学	4	(1・2)・3・4		2011年度開講
	教 育 心 理 学	4	1・2		
	発 達 心 理 学	4	1・2		
	生 涯 発 達 心 理 学 I	2	2	前期	
	生 涯 発 達 心 理 学 II	2	2	後期	
	生 涯 発 達 論	2	3・4	半期	2011年度開講
	知 覚 心 理 学	2	2	前期	
	認 知 科 学 概 論	2	2	前期	
	認 知 心 理 学	4	3・4		2011年度開講
	音 楽 心 理 学	2	3・4	半期	2011年度開講
	感 情 心 理 学	2	3・4	半期	2011年度開講
	神 経 心 理 学	2	3・4	半期	2011年度開講
	人 格 心 理 学	4	3・4		2011年度開講
	犯 罪 心 理 学	4	3・4		2011年度開講
	社 会 心 理 学	4	3・4		2011年度開講
	社 会 心 理 学 I	2	3・4	半期	2011年度開講
	社 会 心 理 学 II	2	3・4	半期	2011年度開講
	産 業 心 理 学	2	3・4	半期	2011年度開講
広 告 心 理 学	2	3・4	半期	2011年度開講	
ノンバーバル・コミュニケーション I	2	3・4	半期	2011年度開講	

II 群	ノンバーバル・コミュニケーションII	2	3・4	半期	2011年度開講
	応用社会心理学特講I	2	3・4	半期	2011年度開講
	応用社会心理学特講II	2	3・4	半期	2011年度開講
	応用社会心理学特講III	2	3・4	半期	2011年度開講
	応用社会心理学特講IV	2	3・4	半期	2011年度開講
	応用社会心理学特講V	2	3・4	半期	2011年度開講
	応用社会心理学特講VI	2	3・4	半期	2011年度開講
	心理学特講A	2	3・4	半期	2011年度開講
	心理学特講B	2	3・4	半期	2011年度開講
III 群	学校心理学	2	(1・2)・3・4	半期	2011年度開講
	臨床心理学	4	2		
	臨床心理学I	2	(2)・3・4	半期	2011年度開講
	臨床心理学II	2	(2)・3・4	半期	2011年度開講
	臨床保育学	4	2		
	障害児・者の心理I	2	2	前期	
	心理療法I	2	2	半期	2010年度休講
	臨床心理学特講	4	3・4		2011年度開講
	精神分析学	2	3・4	半期	2011年度開講
	精神医学	4	3・4		2011年度開講
	心理療法II	2	3・4	半期	2011年度開講
	音楽療法	2	3・4	半期	2011年度開講
	相談心理学	4	3・4		2011年度開講
	家族心理学	2	3・4	半期	2011年度開講
	健康心理学	2	3・4	半期	2011年度開講
	コミュニティ心理学	2	3・4	半期	2011年度開講
	障害児・者の心理II	2	3・4	半期	2011年度開講
	障害児・者の教育	2	3・4	半期	2011年度開講
	障害児・者の福祉	2	3・4	半期	2011年度開講
	障害児・者の医学	2	3・4	半期	2011年度開講
臨床心理実務倫理論	2	3・4	半期	2011年度開講	
IV 群	障害児・者の施設実習	2	2	不定	
	心理面接法	4	3・4		2011年度開講
	医療心理実地演習事前指導	1	3	半期	2011年度開講
	心理検査演習A	2	3・4	半期	2011年度開講
	心理検査演習B	2	3・4	半期	2011年度開講
	心理検査演習C	2	3・4	半期	2011年度開講
	心理検査演習D	2	3・4	半期	2011年度開講
	心理療法実習	2	3・4		2011年度開講
	応用行動分析	2	3・4	半期	2011年度開講
	音楽療法演習	2	3・4	半期	2011年度開講
	医療心理実地演習	4	4		2012年度開講

V 群	身 体 医 学	2	3・4	半期	隔年開講 2011年度休講
	心 身 医 学	2	3・4	半期	隔年開講 2011年度開講
	薬 理 学	2	3・4	半期	2011年度開講
	脳 生 理 学	2	3・4	半期	2011年度開講
	精 神 衛 生	2	3・4	半期	2011年度開講
	母 子 保 健	2	3・4	半期	2011年度開講
	成 人 ・ 高 齡 者 保 健	2	3・4	半期	2011年度開講
	精 神 保 健 福 祉	2	3・4	半期	2011年度開講
	保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 ・ 制 度 論	2	3・4	半期	2011年度開講
	社 会 保 障 制 度 と 関 連 法 規	2	3・4	半期	2011年度開講
VI 群	心 理 学 演 習 I A	2	3・4	半期	2011年度開講
	心 理 学 演 習 I B	2	3・4	半期	2011年度開講
	心 理 学 演 習 II A	2	3・4	半期	2011年度開講
	心 理 学 演 習 II B	2	3・4	半期	2011年度開講
	心 理 学 演 習 III A	2	3・4	半期	2011年度開講
	心 理 学 演 習 III B	2	3・4	半期	2011年度開講
	心 理 学 演 習 IV A	2	3・4	半期	2011年度開講
	心 理 学 演 習 IV B	2	3・4	半期	2011年度開講
	哲 学 文 献 講 読 演 習	4	3・4		2011年度開講
	心 理 学 原 書 講 読 A	2	3・4	半期	2011年度開講
	心 理 学 原 書 講 読 B	2	3・4	半期	2011年度開講
	VII 群	卒 業 研 究 I	4	3	
卒 業 研 究 II		6	4		2012年度開講

【5】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要単位〔36単位〕

- (イ) 心理学科学科科目（必修および選択必修として修得した必要単位は除きます。）
- (ロ) 青山スタンダード科目（必修、選択必修および選択として修得した必要単位は除きます。）
- (ハ) 教育学科ならびに他学部開講の科目（注）

（注）（イ）（ロ）同様、各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、履修する場合には教育学科または他学部の履修制限に従ってください。

ただし、本学科に同一名称科目、同一内容科目が開講されている場合は、本学科開講科目を履修しなければなりません。本学科学科科目と教育学科学科科目との同一名称科目、同一内容科目の対応は次のとおりです。

本学科学科科目	教育学科学科科目
学習心理学	学習心理学 I
	学習心理学 II
生涯発達心理学 I	生涯発達心理学 I
生涯発達心理学 II	生涯発達心理学 II
認知科学概論	認知科学概論
社会心理学	社会心理学 I
	社会心理学 II
社会心理学 I	社会心理学 I
社会心理学 II	社会心理学 II
学校心理学	学校心理学
臨床心理学	臨床心理学概論 I
	臨床心理学概論 II
臨床保育学	臨床保育学 A
	臨床保育学 B
障害児・者の心理 I	障害児・者の心理 I
相談心理学	相談心理学 I
	相談心理学 II
障害児・者の心理 II	障害児・者の心理 II
障害児・者の教育	障害児・者の教育
障害児・者の福祉	障害児・者の福祉
障害児・者の医学	障害児・者の医学
障害児・者の施設実習	障害児・者の施設実習

B. 他学部科目一覧表

他学部科目の履修について

他学部科目のうち本学部学生が履修可能な科目の一覧表を以下に掲載します。
履修については下記の点に注意してください。

1. 一覧表は他学部が本学部に対して履修可能としている科目を掲載しています。なお、「担当者氏名」および「本年度休講」の掲載はしていませんので、講義内容および授業時間割表にて確認してください。履修希望科目が講義内容および授業時間割表に掲載されていない場合は本年度休講となっています。
また、年度により一覧表の科目のうち履修を認めないなどの措置をとることがあります。
2. 修得した単位は、自由選択科目に算入されます。
3. 一覧表に掲載されている科目のうち、履修に制限がある場合は、開講学部の履修制限にしたがって履修してください。

文学部共通科目

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
芸 術 文 化 論	4	3・4	文 化 財 科 学	4	3・4	日 本 の 思 想	4	2・3・4
東 洋 の 思 想	4	2・3・4	現 代 思 想	4	3・4	日 本 美 術 史	4	3・4
東 洋 美 術 史	4	3・4	西 洋 美 術 史	4	3・4	日 本 文 化 史	4	3・4
東 洋 文 化 史	4	3・4	西 洋 文 化 史	4	3・4	映 像 文 化 論 A	2	3・4
映 像 文 化 論 B	2	3・4	東 洋 音 楽 史	4	3・4	西 洋 音 楽 史	4	3・4
生 命 倫 理 学	4	3・4	詩 論	4	3・4	ギリシャ・ローマ文学	4	3・4
テ ク ス ト 論	4	3・4	物 語 文 学	4	3・4	キ リ ス ト 教 文 学	4	3・4
世 界 各 地 域 の 文 学 A	4	3・4	世 界 各 地 域 の 文 学 B	4	3・4	世 界 各 地 域 の 文 学 C	4	3・4
児 童 文 学	4	3・4	比 較 文 学	4	3・4	言 語 学 概 論	4	3・4
比 較 言 語 学	4	3・4	記 号 論	4	3・4	古 典 ギ リ シ ャ 語 I	4	3・4
古 典 ギ リ シ ャ 語 II	4	3・4	ラ テ ン 語 入 門	4	2・3・4	ラ テ ン 語 I	4	3・4
ラ テ ン 語 II	4	3・4	出 版 ジャ ー ナ リ ズ ム	4	3・4	放 送 ジャ ー ナ リ ズ ム	4	3・4
認 知 言 語 学	4	3・4	精 神 分 析 学 入 門	4	3・4	心 理 言 語 学	4	3・4
イ タ リ ア の 言 語 と 文 化	4	2・3・4	通 訳 ワ ー ク シ ョ ッ プ (1)	2	3・4	通 訳 ワ ー ク シ ョ ッ プ (2)	2	3・4
現 代 社 会 と 文 学 部	2	3・4						

他学部科目一覧表

文学部英米文学科（2010年度入学者）

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
イギリス文学史	4	1・2	イギリス文学概論	4	1・2	イギリス文化概論	4	1・2
アメリカ文学史	4	1・2	アメリカ文学概論	4	1・2	アメリカ文化概論	4	1・2
グローバル文学・文化概論	4	1・2	グローバル文学理論	4	1・2	英語学概論	4	1・2
英 語 史	4	1・2	英 文 法	4	1・2	コミュニケーション概論	4	1・2
異文化間コミュニケーション概論	4	1・2	英語教育学概論	4	1・2	イギリス文学特講	4	3・4
イギリス文化特講	4	3・4	アメリカ文学特講	4	3・4	アメリカ文化特講	4	3・4
グローバル文学特講	4	3・4	グローバル文化特講	4	3・4	英語学特講	4	3・4
言語学特講	4	3・4	コミュニケーション特講	4	3・4	英語教育学特講	4	3・4
英 詩 概 論	4	3・4	イギリス事情	4	3・4	アメリカ事情	4	3・4
英語聖書	4	3・4	ビジネスイングリッシュ I	2	3・4	メディアイングリッシュ I	2	3・4
メディアイングリッシュ II	2	3・4						

文学部英米文学科（2009年度以前入学者）

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
英国文学史 I	4	1	英国文学史 II	4	1	英語学概論	4	1
米 国 文 学 史	4	1	英 語 史	4	1	英 文 学 概 論	4	1
米 文 学 概 論	4	1	コミュニケーション概論	4	1	異文化間コミュニケーション概論	4	1
英 文 学 特 講	4	3・4	米 文 学 特 講	4	3・4	英語学特講	4	3・4
言語学特講	4	3・4	コミュニケーション特講	4	3・4	英 詩 概 論	4	3・4
英語教授法	4	3・4	イギリス事情	4	3・4	アメリカ事情	4	3・4
英語聖書	4	3・4	ビジネスイングリッシュ I	2	3・4	メディアイングリッシュ I	2	3・4
メディアイングリッシュ II	2	3・4						

文学部フランス文学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
講 読 演 習	4	3・4	フランス文学史概説 II	4	3・4	フランス語学概論	4	3・4
フ ラ ン ス 語 史	4	3・4	エクспリカシオン	4	3・4	コミュニケーション I・II	8	3・4
コミュニケーション III	4	3・4	フランス語作文 II	4	3・4	フランス語作文 III	4	4
時事フランス語	4	3・4	実務フランス語	4	3・4	フランス文学特講	4	3・4
フランス語学特講	4	3・4	フランス文化特講	4	3・4	フランス文学演習	4	3・4
フランス語学演習	4	3・4	フランス文化演習	4	3・4	※1基礎演習 A	4	1
※2フランス語会話 III	4	3・4	※3フランス語教授法	4	3・4	※4フランス語教授法 I	4	3・4
※4フランス語教授法 II	4	3・4						

※1：「基礎演習 A (1)」は履修可

※2：「フランス語会話 II」修得者は履修不可

※3：2008年度以前入学者

※4：2009年度以降入学者

文学部日本文学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
日 本 文 学 史 I	2	1	日 本 文 学 史 II	2	1	日 本 文 学 史 III	2	2
日 本 文 学 史 IV	2	2	古 典 文 学 概 論	4	1・2	近 代 文 学 概 論	4	1・2
漢 文 学 概 論	4	1・2	日 本 語 学 概 論	4	1・2	日 本 語 史	4	1・2
日本文学講読 [1]~[4]	4	1・2	漢 文 学 講 読	4	1・2	日 本 語 学 講 読	4	1・2
表象文化論 [1]~[3]	4	3・4	日本文学特講 [1]~[12]	4	3・4	日本文学特講 A・B	2	3・4
漢文学特講 [1]・[2]	4	3・4	日本語学特講 [1]~[3]	4	3・4	書 理 論	4	3・4

文学部史学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
※考古学概説	2	1	史 学 概 論	2	1	人 文 地 理 学 概 論	4	3
古 文 書 学	4	2・3・4	日 本 史 特 講	4	2・3・4	東 洋 史 特 講	4	2・3・4
西 洋 史 特 講	4	2・3・4	考 古 学 特 講	4	2・3・4	芸 術 史 特 講	4	2・3・4
史 学 特 講 A	4	1・2・3・4	史 学 特 講 B	4	1・2・3・4	※博 物 館 概 論	2	3のみ
※博 物 館 学 各 論	4	3・4	※博 物 館 実 習 I	2	3のみ	※博 物 館 実 習 II	2	4

※学芸員希望者のみ

他学部科目一覧表

経済学部

経済学部の科目を履修する場合、開講学科の登録番号を履修してください。

経済学部経済学科

授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次
統 計 学 概 論	4	1・2	経 済 数 学 入 門	4	1・2	金 融 論	4	2
経 済 史 概 論	4	1・2	国 際 経 済 学	4	2	経 済 地 理 学	4	2
経 済 学 史	4	2	応 用 ミ ク ロ 経 済 学	4	3・4	応 用 マ ク ロ 経 済 学	4	3・4
経 済 動 学	4	3・4	オ ー プ ン マ ク ロ 経 済 学	4	3・4	計 量 経 済 学	4	3・4
経 済 統 計	4	3・4	数 理 統 計	4	3・4	経 済 数 学 I	2	3・4
経 済 数 学 II	2	3・4	社 会 政 策 論	4	3・4	地 方 財 政 論	4	3・4
租 税 論	4	3・4	公 共 経 済 学	4	3・4	社 会 保 障 論	4	3・4
産 業 論 (航 空 事 業 I)	2	3・4	産 業 論 (航 空 事 業 II)	2	3・4	産 業 論 (損 害 保 険 業)	2	3・4
労 働 経 済 論	4	3・4	産 業 組 織 論	4	3・4	フ ァ イ ナ ン ス 論	4	3・4
国 際 金 融 論	4	3・4	日 本 経 済 史	4	3・4	欧 米 経 済 史	4	3・4
東 洋 経 済 史	4	3・4	経 済 思 想 史	4	3・4	キ リ ス ト 教 社 会 思 想 史	4	3・4
日 本 経 済 論	4	3・4	世 界 経 済 論	4	3・4	経 済 開 発 論	4	3・4
各 国 経 済 論 A	4	3・4	各 国 経 済 論 B	4	3・4	地 域 経 済 学	4	3・4
交 通 経 済 学	4	3・4	農 業 経 済 論	4	3・4	環 境 経 済 学	4	3・4
憲 法	4	2	民 法 I	4	3・4	民 法 II	4	3・4
商 法 I	4	3・4	商 法 II	4	3・4	経 済 法	4	3・4
労 働 法	4	3・4	簿 記 論	4	1・2	マ ー ケ テ ィ ン グ 論	4	2
経 営 学 総 論 (2009年 度 以 前 入 学 者)	4	2	財 務 会 計 論	4	2	金 融 市 場 論	4	3・4
経 営 史	4	3・4						

経済学部現代経済デザイン学科

授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次
公 的 規 制 の 経 済 学	2	3・4	N P O 論 A	2	3・4	契 約 の 経 済 学	2	3・4
公 共 政 策 の 経 済 学	2	3・4	公 共 選 択 論	2	3・4	N P O 論 B	2	3・4
政 策 と 評 価 A	2	3・4	法 と 経 済 学	2	3・4	都 市 再 生 論	2	3・4
ま ち づ く り と 都 市 計 画	2	3・4	住 宅 と 不 動 産 の 経 済 学	2	3・4	郊 外 地 域 論	2	3・4
地 域 人 口 論	2	3・4						

法学部

授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次
裁 判 と 法	2	1・2	行 政 と 法	2	1・2	現 代 弁 護 士 論	2	1・2
企 業 と 法	2	1・2	ア メ リ カ の 社 会 と 法	2	1・2	中 国 の 社 会 と 法	2	1・2
労 働 と 法	2	1・2	市 民 生 活 と 税 法	2	1・2	イ ン タ ー ネ ッ ト と 法	2	1・2
憲 法 I	4	1	憲 法 II	4	2	比 較 憲 法	4	3・4
立 法 学 入 門	2	3・4	憲 法 特 殊 講 義	2	1・2	言 論 法	4	3・4
行 政 法 I	4	3・4	行 政 法 II	4	3・4	行 政 法 III	2	3・4
地 方 自 治 法	4	3・4	教 育 法	4	3・4	税 法	4	3・4
経 済 法	4	3・4	民 法 I	4	1	民 法 II	4	2
民 法 III	4	2	民 法 IV	4	3・4	民 法 V	4	3・4
借 地 借 家 法	2	3・4	※3知 的 財 産 法 I	2	3・4	※3知 的 財 産 法 II	2	3・4
※4知 的 財 産 法 III	2	3・4	※4知 的 財 産 法 IV	2	3・4	※1登 記 法	2	3・4
※1不 動 産 法	2	3・4	民 事 訴 訟 法 I	4	3・4	民 事 訴 訟 法 II	4	3・4
破 産 法	4	3・4	刑 法 I	4	2	刑 法 II	4	3・4
刑 事 訴 訟 法	4	3・4	刑 事 政 策	4	3・4	商 法 (手 形 法・小 切 手 法)	4	3・4
商 法 (保 険 法)	4	3・4	商 法 (海 商 法・航 空 法)	4	3・4	※2企 業 法 務	2	3・4
※5金 融 商 品 取 引 法	2	3・4	西 洋 法 史 学	4	3・4	国 際 社 会 と 法	2	1・2
法 思 想 史	4	1・2	法 哲 学	4	3・4	法 社 会 学	4	3・4
ロ ー マ 法	4	3・4	日 本 法 史 学	4	3・4	外 国 法 入 門	4	1・2
イ ギ リ ス 法	4	3・4	ア メ リ カ 法 (刑 法・刑 事 訴 訟 法)	2	3・4	ド イ ツ 法	4	3・4
フ ラ ン ス 法	4	3・4	※6ア メ リ カ 法 (憲 法・司 法 制 度 論 I)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (憲 法・司 法 制 度 論 II)	2	3・4
ア メ リ カ 法 (契 約 法 法)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (財 産 法・担 保 付 取 引 論)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (知 的 財 産 法 論)	2	3・4
ア メ リ カ 法 (不 法 行 為 法・PL法)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (家 族 法)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (会 社 法・商 法)	2	3・4
現 代 法 特 講	2	3・4	E U 法	4	3・4	ラ テ ン ア メ リ カ の 法	2	3・4
※7中 国 法 I	2	3・4	※7中 国 法 II	2	3・4	中 国 法 III	2	3・4
中 国 法 IV	2	3・4	※8国 際 私 法 I	2	3・4	※8国 際 私 法 II	2	3・4
国 際 取 引 法 I	2	3・4	国 際 取 引 法 II	2	3・4	国 際 取 引 法 III	2	3・4
国 際 法 I	4	3・4	国 際 法 II	4	3・4	雇 用 関 係 法	4	3・4
労 使 関 係 法	2	3・4	社 会 保 障 法	4	3・4	雇 用 政 策 法	2	3・4
国 際 労 働 法	2	3・4	公 務 員 労 働 法	2	3・4	金 融・商 品 先 物 取 引 法	4	3・4
銀 行 取 引 法	2	3・4	※9消 費 者 法	2	3・4	環 境 法	4	3・4
政 治 学 原 論	4	1・2	日 本 政 治 史	4	1・2	政 治 過 程 論	4	3・4
比 較 政 治 学	4	3・4	政 治 思 想 史	4	3・4	西 洋 政 治 史	4	3・4
外 交 史	4	3・4	国 際 関 係 論	4	3・4	行 政 学	4	3・4
※10NPOと国際公共政策	2	3・4	英 語 文 献 講 読	4	3・4	ド イ ツ 語 文 献 講 読	4	3・4
フ ラ ン ス 語 文 献 講 読	4	3・4	中 国 法 文 献 講 読	4	3・4	経 済 と 法	2	3・4
国 際 金 融 法	2	3・4						

※1：2002年度以前入学者履修不可

※2：2002年度以前入学者・「企業法務（経営学部科目・4単位）」を修得済の者は履修不可

※3：「知的所有権法Ⅰ」・「知的財産法Ⅰ（4単位）」を修得済の者は履修不可

※4：「知的所有権法Ⅱ」・「知的財産法Ⅱ（4単位）」を修得済の者は履修不可

※5：「証券取引法」を修得済の者は履修不可

※6：「アメリカ法（憲法・司法制度論）」を修得済の者は履修不可

※7：「アジア法」を修得済の者は履修不可

※8：「国際私法」を修得済の者は履修不可

※9：「消費者保護法」を修得済の者は履修不可

※10：「NPOと公共政策」を修得済の者は履修不可

上記科目は、法学部成績評価基準（法学部要覧又は法学部HP参照）にのっとり成績評価をいたします。

他学部科目一覧表

経営学部（2009年度以降入学者）

授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次
事 業 戦 略 論 I	2	2	事 業 戦 略 論 II	2	2	マ ー ケ テ ィ ン グ 論	4	2
財 務 会 計 論	4	2	経営データ分析のための基礎解析入門I	2	1・2	経営データ分析のための基礎解析入門II	2	1・2
経営データ分析のための線形代数入門I	2	1・2	経営データ分析のための線形代数入門II	2	1・2	フ ァ イ ナ ン ス I	2	2
フ ァ イ ナ ン ス II	2	2	経 営 史 I	2	3・4	経 営 史 II	2	3・4
企 業 法 務 I	2	3・4	企 業 法 務 II	2	3・4	経 営 戦 略 論 I	2	3・4
経 営 戦 略 論 II	2	3・4	経 営 組 織 論 I	2	3・4	経 営 組 織 論 II	2	3・4
組 織 心 理 学 I	2	3・4	組 織 心 理 学 II	2	3・4	人 材 育 成 論 I	2	3・4
人 材 育 成 論 II	2	3・4	人 的 資 源 管 理 論 I	2	3・4	人 的 資 源 管 理 論 II	2	3・4
サプライチェーン・マネジメントI	2	3・4	サプライチェーン・マネジメントII	2	3・4	事 業 創 造 戦 略 I	2	3・4
事 業 創 造 戦 略 II	2	3・4	経営データ分析基礎I	2	1・2	経営データ分析基礎II	2	1・2
経営データ分析応用I	2	3・4	経営データ分析応用II	2	3・4	経 営 情 報 シ ス テ ム 論 I	2	3・4
経 営 情 報 シ ス テ ム 論 II	2	3・4	マ ネ ジ メ ン ト サ イ エ ン ス I	2	3・4	マ ネ ジ メ ン ト サ イ エ ン ス II	2	3・4
産 業 労 働 衛 生 論	2	3・4	医 療 経 営 論	2	3・4	戦 略 ・ マ ネ ジ メ ン ト 特 論 I	2	3・4
戦 略 ・ マ ネ ジ メ ン ト 特 論 II	2	3・4	戦 略 ・ マ ネ ジ メ ン ト 特 論 III	2	3・4	戦 略 ・ マ ネ ジ メ ン ト 特 論 IV	2	3・4
簿 記 論 II	4	3・4	企 業 評 価 論 I	2	3・4	企 業 評 価 論 II	2	3・4
実 証 会 計 論 I	2	3・4	実 証 会 計 論 II	2	3・4	会 計 情 報 論 I	2	3・4
会 計 情 報 論 II	2	3・4	財 務 分 析 論 I	2	3・4	財 務 分 析 論 II	2	3・4
制 度 会 計 論 I	2	3・4	制 度 会 計 論 II	2	3・4	国 際 会 計 論 I	2	3・4
国 際 会 計 論 II	2	3・4	税 務 会 計 論 I	2	3・4	税 務 会 計 論 II	2	3・4
監 査 論 I	2	3・4	監 査 論 II	2	3・4	原 価 計 算 論	2	3・4
コ ス ト マ ネ ジ メ ン ト	2	3・4	意 思 決 定 会 計 論	2	3・4	予 算 管 理 論	2	3・4
戦 略 管 理 会 計 I	2	3・4	戦 略 管 理 会 計 II	2	3・4	財 務 管 理 論 I	2	3・4
財 務 管 理 論 II	2	3・4	証 券 投 資 論 I	2	3・4	証 券 投 資 論 II	2	3・4
会 計 ・ フ ァ イ ナ ン ス 特 論 I	2	3・4	会 計 ・ フ ァ イ ナ ン ス 特 論 II	2	3・4	会 計 ・ フ ァ イ ナ ン ス 特 論 III	2	3・4
会 計 ・ フ ァ イ ナ ン ス 特 論 IV	2	3・4	統 合 マ ー ケ テ ィ ン グ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	2	3・4	広 告 論	4	3・4
文 化 創 造 マ ー ケ テ ィ ン グ I	2	3・4	文 化 創 造 マ ー ケ テ ィ ン グ II	2	3・4	消 費 者 行 動 論	2	3・4
ブ ラ ン ド 戦 略 論	2	3・4	マ ー ケ テ ィ ン グ チ ャ ン ネ ル	2	3・4	サ ー ビ ス マ ー ケ テ ィ ン グ	2	3・4
国 際 マ ー ケ テ ィ ン グ	2	3・4	商 業 英 語	4	3・4	商 業 英 語 論	4	3・4
貿 易 商 務 論	4	3・4	損 害 保 険 論	4	3・4	国 際 貿 易 論 I	2	3・4
国 際 貿 易 論 II	2	3・4	交 通 論	4	3・4	金 融 市 場 論 I	2	3・4
金 融 市 場 論 II	2	3・4	市 場 シ ス テ ム 論	4	3・4	リ ス ク ・ マ ネ ジ メ ン ト 論 I	2	3・4
リ ス ク ・ マ ネ ジ メ ン ト 論 II	2	3・4	現 代 日 本 産 業 史	4	3・4	社 会 情 報 ネットワーク論I	2	3・4
社 会 情 報 ネットワーク論II	2	3・4	流 通 情 報 シ ス テ ム 論	2	3・4	流 通 政 策 I	2	3・4
流 通 政 策 II	2	3・4	市 場 シ ス テ ム 特 論 I	2	3・4	市 場 シ ス テ ム 特 論 II	2	3・4
市 場 シ ス テ ム 特 論 III	2	3・4	市 場 シ ス テ ム 特 論 IV	2	3・4	イ ギ リ ス 文 化 論 I	2	3・4
イ ギ リ ス 文 化 論 II	2	3・4	英 語 圏 社 会 ・ 文 化 研 究 I	2	3・4	英 語 圏 社 会 ・ 文 化 研 究 II	2	3・4
ユ グ ヤ 文 化 と ビ ジ ネ ス I	2	3・4	ユ グ ヤ 文 化 と ビ ジ ネ ス II	2	3・4	韓 国 の 経 営 文 化 I	2	3・4
韓 国 の 経 営 文 化 II	2	3・4	ア メ リ カ 文 化 論 I	2	3・4	ア メ リ カ 文 化 論 II	2	3・4
世 界 の 言 語 文 化 I	2	3・4	世 界 の 言 語 文 化 II	2	3・4	経 済 原 論	4	2
経 済 政 策 論	4	3・4	財 政 学	4	3・4	経 済 史 概 論	4	2
日 本 経 済 論	4	3・4	国 際 経 済 学	4	2	地 域 経 済 学	4	3・4
産 業 組 織 論	4	3・4	金 融 論	4	2	金 融 組 織 論	4	3・4
民 法 I	4	3・4	民 法 II	4	3・4	商 法 I	4	3・4
商 法 II	4	3・4	経 済 法	4	3・4	労 働 法	4	3・4
国 際 法	4	3・4						

国際政治経済学部

国際政治経済学部は、学科科目 B 群科目の履修を他学部の学生に認めています。ただし、以下の一覧に掲載する科目については、履修を認めていません。

【国際政治経済学部生以外の学部生に履修を許可しない科目の一覧】

授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目
国際政治学特殊講義Ⅲ	国際経済学特殊講義Ⅲ	外国書（フランス語）講読Ⅰ・Ⅱ
外国書（ドイツ語）講読Ⅰ・Ⅱ	外国書（スペイン語）講読Ⅰ・Ⅱ	外国書（中国語）講読Ⅰ・Ⅱ
外国書（ロシア語）講読Ⅰ・Ⅱ	インターンシップ	演習ⅠA・ⅠB
演習Ⅰ・Ⅱ	通訳の理論と実践Ⅰ・Ⅱ	翻訳の理論と実践Ⅰ・Ⅱ
国際ビジネス・コミュニケーション(Ⅰ)・(Ⅱ)	アンケート・社会調査の方法	言語の普遍性
情報と組織の経済学Ⅰ	日本経済と証券ビジネス	民法概論Ⅰ・Ⅱ
国際私法Ⅰ・Ⅱ	財政学	簿記論Ⅰ・Ⅱ
広告コミュニケーション論	国際取引法	インターネットと法*
紛争解決と法	インターカルチュラル・コミュニケーション	国際コミュニケーション特殊講義(海外研修)
国連研究Ⅱ	コミュニケーション研究法の全体像	イギリス文化論
文化とコミュニケーションⅠ・Ⅱ	総合講義（アジア大学連携プログラム）	
その他、所属学部・学科に同一名称・異名称同一科目がある国際政治経済学部の科目		

他学部科目一覧表

総合文化政策学部（2008年度以降入学者）

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次
経済分析(1 ミクロ)	2	3・4	経済分析(2 マクロ)	2	3・4	社会調査法 I	2	3・4
公共社会論	2	3・4	金融概論	2	3・4	行政学概論	2	3・4
国際関係	2	3・4	公共政策論	2	3・4	憲法概論	2	3・4
民法概論	2	3・4	行政法概論	2	3・4	著作権法	2	3・4
国際政治学概論	2	3・4	経済発展論	2	3・4	国際平和論	2	3・4
経済政策概論	2	3・4	公共経済学概論	2	3・4	文化経済学	2	3・4
文化行政法	2	3・4	文化産業概論	2	3・4	観光産業論	2	3・4
消費経済論	2	3・4	日本経済概論	2	3・4	社会福祉論	2	3・4
キリスト教福祉論	2	3・4	マーケティング概論	2	3・4	会計学	2	3・4
サービスマーケティング概論	2	3・4	地域のマーケティング	2	3・4	消費文化論	2	3・4
経営戦略概論	2	3・4	組織論入門	2	3・4	人的資源管理概論	2	3・4
経営情報論	2	3・4	管理会計概論	2	3・4	経営分析論	2	3・4
非営利会計論	2	3・4	プロジェクトマネジメント論	2	3・4	ビジネスプロセスマネジメント論	2	3・4
プロジェクトファイナンス	2	3・4	マーケティング戦略論	2	3・4	ブランド戦略論	2	3・4
公共経営論	2	3・4	文化財保護法	2	3・4	プロジェクトプロデュース論	2	3・4
世界経済概論	2	3・4	社会調査論 I	2	3・4	社会調査論 II	2	3・4
統計学	2	3・4	文化人類学概論	2	3・4	日本文化の歴史	2	3・4
異文化間コミュニケーション論	2	3・4	表象文化概論	2	3・4	社会分析学	2	3・4
宗教史	2	3・4	経済史(1)	2	3・4	経済史(2)	2	3・4
社会思想史	2	3・4	経済と文明	2	3・4	比較文明論	2	3・4
地域文化論(1)	2	3・4	地域文化論(2)	2	3・4	地域文化論(3)	2	3・4
地域文化論(4)	2	3・4	宗教文化概論	2	3・4	宗教社会学	2	3・4
比較宗教論	2	3・4	ネットワーク社会と文化	2	3・4	文化遺産論	2	3・4
都市文化論	2	3・4	経営文化論	2	3・4	文化と精神分析	2	3・4
現代経済史	2	3・4	現代日本文化論	2	3・4	近代哲学史	2	3・4
論理学	2	3・4	公共哲学概論	2	3・4	認識論	2	3・4
存在論	2	3・4	倫理学入門	2	3・4	象徴記号論	2	3・4
情報環境論(1)	2	3・4	情報環境論(2)	2	3・4	メディアリテラシー	2	3・4
宗教哲学	2	3・4	社会倫理	2	3・4	日本思想史概論	2	3・4
現代哲学	2	3・4	現代思潮	2	3・4	現代の神学	2	3・4
認知哲学	2	3・4	環境美学	2	3・4	芸術哲学	2	3・4
情報工学	2	3・4	社会調査法 II	2	3・4	社会統計学	2	3・4
社会調査実習	4	3・4	ダイレクトマーケティング論	2	3・4	ベンチャービジネス起業論	2	3・4

理工学部

授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次
現 代 物 理 学 概 論	2	2・3・4	現 代 化 学 概 論	2	2・3・4	一 般 電 気 工 学	2	2・3・4
社会と経営システム工学	2	2・3・4	計 算 機 概 論	2	2・3・4			

社会情報学部

授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次
知 的 財 産 法	2	3・4	経 済 政 策 II	2	3・4	社 会 調 査 II	2	3・4
証 券 市 場 II	2	3・4	デ リ バ テ ィ ブ ズ	2	3・4	経 済 解 析 I	2	3・4
経 済 解 析 II	2	3・4	現 代 の 経 済	2	3・4	グ ロー バ ル ビ ジ ネ ス	2	3・4
社会情報特別講義 C	2	3・4	社会情報特別講義 D	2	3・4	組 織 論	2	3・4
情 報 倫 理	2	3・4	文 化 心 理 学	2	3・4	組 織 意 思 決 定 論	2	3・4
プロジェクトマネジメント	2	3・4	広 報 論	2	3・4	情 報 化 社 会 と 文 化	2	3・4
情報アクセス法	2	3・4	コンピュータグラフィックス	2	3・4	情報システム開発	2	3・4
ソフトウェア開発・保守	2	3・4	社会情報特別講義 E	2	3・4	社会情報特別講義 F	2	3・4
情報科学応用 III	2	3・4						

V. 授業について

1. 授業

授業時間

各キャンパスの授業時間は、次のとおりです。

	青山キャンパス (文学部心理学科夜間主コース・第二部を含む)	相模原キャンパス
第1時限	9:00~10:30	9:00~10:30
礼 拝	10:30~11:00	10:30~11:00
第2時限	11:00~12:30	11:00~12:30
昼休み	12:30~13:10	12:30~13:10
第3時限	13:10~14:40	13:10~14:40
第4時限	14:45~16:15	14:55~16:25
第5時限	16:20~17:50	16:40~18:10
第6時限	(月・水・木・土) 18:00~19:30 (火・金) 18:00~19:25	/
礼拝・課外活動	(火) 礼拝 (金) 課外活動 19:30~20:00	
第7時限	(月・水・木・土) 19:40~21:10 (火・金) 20:05~21:30	

相模原キャンパス

2010年度相模原キャンパス授業時間割は原則5時限で実施予定です。しかし、学科目配置上5時限で実施できないことが起きた場合のみ6時限目に配置いたします。

なお、6時限目は現在の5時限終了後15分休憩後より開始いたします。

青山キャンパス

青山キャンパス第一部の授業時間割は原則1~5時限で配置しておりますが、学科目配置の都合により6時限にも配置することがあります。なお、6時限は第二部の授業時間と同様に18:00より開始いたします。

また、特別な行事のときに授業時間が変更となることがあります。日程については「I. 学事暦等」を参照してください。

授業教室

授業教室については、別冊子『授業時間割表』に掲載されています。授業教室が変更になる場合は、随時「学生ポータル」で伝達しますので、毎日必ず確認してください。建物の配置については『授業時間割表』巻末に掲載されている「大学建物配置図」を参照してください。

休 講

授業が休講になる場合は、主に「学生ポータル」で伝達します。

休講情報がなく、授業開始から30分以上経過しても担当教員が来ず、連絡もない場合は、学務担当窓口(巻末参照)に問い合わせ、指示を受けてください(学生共通細則第7条参照)。

補 講

休講となった授業に対し、補講を行う場合があります。補講日は、前期・後期とも、定期試験開始前にそれぞれ数日間設けられています。日程については、「I. 学事暦等」を参照してください。詳細は「学生ポータル」などで伝達しますので、必ず確認してください。また、補講期間以外にも補講を行う場合もあります。担当者が直接教室で発表するか、または「学生ポータル」などで発表しますので、随時確認してください。

授業の欠席について

本学では、特定の理由による欠席を認める「公欠制度」は設けておりません。ケガ・病気・忌引きなどで授業を欠席した場合は、次回の授業時に直接担当教員に申し出て、指示を受けてください。なお、長期にわたる欠席の場合は、学務担当窓口（巻末参照）に相談してください。

2. 大学からの伝達

本学では、大学から学生のみなさんへの通知や連絡は、主に「学生ポータル」と「掲示」によって行います。

「学生ポータル」を学内で利用する場合は学生証が必要ですので、必ず携帯してください。また、利用方法については、冊子『学生ポータル利用案内』を参照してください。

「掲示板」の設置場所については次のとおりです。

青山キャンパス	8号館と9号館の間（1階）
相模原キャンパス	E棟とF棟の間（外階段下通路内）

「学生ポータル」「掲示板」では、授業・試験など学生生活に直接関係のある事項が随時伝達されています。情報を確認しなかったことにより、後になって不利益を被ることのないよう、十分注意してください。また、電話による問い合わせには一切応じられませんので、質問などがある場合は直接窓口に来室してください。

3. 緊急時の「授業の取り扱い」および「伝達手段」について

事故、災害などにより通常利用している交通機関の運行が停止した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

下記いずれの場合も大学からの情報伝達手段で確認してください。

1. 通常利用している交通機関運休時における対応

- (1) 代替交通機関を利用して登校が可能と判断できた場合には、危険な状況でない限り、極力、登校するよう努めてください。
- (2) 代替交通機関の利用ができず登校できなかった場合には、学務担当窓口（巻末参照）に用意されている「交通機関不通による授業欠席届」に、交通機関などが発行した遅延証明書、事故証明書などを添えて授業担当者に提出して欠席分の学習補填の指示を受けてください。

上記1.で休講などの情報

携帯電話 <http://mobile.jm.aoyama.ac.jp>

2. 台風の接近時などの対応

台風の接近などによる被害が予想される場合には、休講などの特別措置がとられることがあります。

3. 大規模地震の発生が予想されるときへの対応

- (1) 大規模地震対策特別措置法による「地震防災対策強化地域判定会」の招集が報道された時点で休校措置がとられます。
- (2) 警戒宣言が解除され、または「判定会」が解散されたときは、休校を解き、平常授業に戻ります。

上記 2.3.

テレドーム 0180-993171 (青山学院大学用番号)

Web <http://www.aoyama.ac.jp>

(緊急の情報がない場合、テレドームは呼び出し音のみになります)

ただしこのサービスについては、利用可能な電話と、利用できない電話があります。

利用可能な電話

- ① 一般電話
- ② 携帯電話…NTT docomo、au、SoftBank

利用できない電話

携帯電話…NTT docomo を除くプリペイド式携帯、PHS、
列車公衆電話、「050」から始まる IP 電話、NTT の「ひかり電話」、一部
のケーブルテレビ電話、海外からの国際電話

緊急時には、原則として「学生ポータル」では情報提供されません。

4. 新型インフルエンザに対する本学の対応について

2009年より全国的に新型インフルエンザ「インフルエンザ A 型 (H1N1)」が流行し、本学院においても、感染した学生、生徒等が多数確認されています。

現段階では、教育研究活動および課外活動を平常どおり行う予定でありますが、今後、青山学院の園児・児童・生徒・学生および教職員における新型インフルエンザの感染状況により、各学校において状況等を判断し、学校ごとに休校等の措置を講じる場合がありますので、青山学院公式ウェブサイトの最新情報にご注意ください。

なお、「新型インフルエンザ (H5N1)」に対する本学の対応については引き続き以下の通りとなります。

新聞等の発表では、各都道府県内で1人でも新型インフルエンザ感染患者が発生した場合はその都道府県内の幼稚園から大学までの全ての教育施設が一斉休校となっていますが、青山学院としては、**国内で1人でも発生が認められた場合は幼稚園から大学までを完全休校**とします(休校の期間は1ヵ月以上の長期にわたる可能性があります)。休校の開始と解除に関しましては、学生・生徒・保護者等に青山学院ホームページや学内一斉配信メール(学生ポータル等)、緊急連絡網、文書等でお知らせいたしますが、厚生労働大臣によるフェーズ4B(ヒト-ヒト感染発生)の宣言が行われた時点で登校を控えてください。

新型インフルエンザの休校情報は発生次第、テレドームで確認できます。

◇テレドーム 0180-993171

Ⅵ. 試験・レポートについて

授業科目の履修状況を評価し単位を認定するため、試験が行われます。試験は、筆記のほかに、科目によっては、論文、レポート、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法で行われることもあります。

試験は、受験資格のある学生のみ受験できます。

受験資格は、以下のとおりです。

- ① 受験する授業科目を履修登録していること
- ② 学費を納入済みであること

なお、学期を通じ欠席の多い学生は、その科目の受験資格を失うことがあります（学生共通細則第7条参照）。

1. 試験の種別

定期試験

前期末、後期末に期間を定めて実施する試験を定期試験といいます。

試験時間割は、試験開始日の約2週間前に「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。試験実施教室や時間割は通常授業時と異なります。

また、不測の事態によって試験が延期される場合もあるので、試験の有無にかかわらず、定期試験期間最終日まで予定（旅行など）を入れないでください。

平常試験

定期試験期間以外の、平常の授業時間に行う試験を平常試験といいます。この場合、担当者によって実施日その他の詳細が決定され、担当者が直接教室で発表するか、または「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。

レポート

レポートは、提出先によって2種類あります。

【学務担当窓口提出レポート】

おおむね定期試験の前後に受付が行われます。詳細は「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。

テーマ、枚数、提出期限などを確認し、必ず指定された期間（時間）内に提出してください。指定された期間内であれば、当該授業科目開講キャンパスに限らず、どちらのキャンパスでも受け付けますが、締切時間はキャンパスで異なりますのでよく確認してください。

提出後の内容変更および指定された期間以外の提出は認めません。

このレポートを提出するときは、以下の点に注意してください。

- ① 用紙は指定されたものを使用してください。
- ② 必ず学部所定の表紙（学部によって色が異なり、購買会・ショップで販売しています）をつけて綴じてください。綴じ方は表紙裏に記載されています。
- ③ 表紙には、整理番号その他、記入事項のすべてを「学生ポータル」で確認の上、ボールペンまたはペンで記入してください。鉛筆書きは受け付けません。
- ④ 窓口を持参する際は、表紙記入・ホチキス留めなどをすべて完了し、作成が完了した状態にしておいてください。窓口での表紙記入・ホチキス留めはできません。
- ⑤ 提出した際に受領印の押印された「レポート受領証（学生保存）」を受け取り、成績が発表されるまで各自保管しておいてください。後日、提示を求められる場合があります。

【担当者提出レポート】

情報は担当者が直接教室で発表するか、または「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。テーマ、用紙、枚数、提出期限、提出方

法など、すべて担当者の指示に従ってください。

提出先として学務グループ設置あるいは学務部教務課の提出ボックスを指定される場合がありますが、このレポートは担当者提出レポートとして扱います。

追試験

定期試験を、病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかった学生に対して行われる試験を追試験といいます。受験資格は厳密に定められており、自己の不注意によって受験できなかった場合、および、公的な証明書のない場合は、追試験を受けることはできません。

資格および申請方法などについては後述の「**3. 追試験**」を参照してください。なお、出席日数不足など、担当者の判断によって追試験の受験が認められない場合があります。

2. 定期試験の受験 定期試験時間

定期試験時間帯は以下のとおりです。授業時間帯とは異なるので注意してください。

相模原キャンパスでは定期試験科目配置上、5時限で実施できないことが起きた場合のみ6時限目に配置します。なお、6時限目は18時10分より開始します。

試験時間は原則として60分です（理工学部・社会情報学部専門科目のみ最長85分の場合があります）。

	青山キャンパス (文学部心理学科夜間主コース・第二部を含む)	相模原キャンパス
第1時限	9:40 ~ 10:40	9:30 ~ 10:30
第2時限	11:00 ~ 12:00	11:10 ~ 12:10
第3時限	13:00 ~ 14:00	13:10 ~ 14:10
第4時限	14:30 ~ 15:30	14:50 ~ 15:50
第5時限	16:00 ~ 17:00	16:30 ~ 17:30
第6時限	18:20 ~ 19:20	
第7時限	19:40 ~ 20:40	

受験上の注意

受験上の注意は以下の通りです。あらかじめよく読んでおいてください。

試験教室で配布される受験票は、試験を受けた証拠になりますので学年・クラス番号等、正確に記入してください。答案用紙の学年・クラス番号を正しく記入しない場合、担当教員の成績報告に支障をきたすことがあります。また指定されたクラス・試験教室で必ず受験してください。

受験上の注意

1. 監督者の指示に従うこと。
2. 机の空いている限り、一机一名で着席すること。
3. 机上等に書き込みがある場合は、開始前に申し出ること。
4. 学生証はケースから出し、通路側の机の上に置くこと。※注
5. 以下の行為は、不正行為に該当するので充分留意すること。
 - ① 受験資格のない者の受験（代人も含む）。
 - ② 答案の交換及び他人の答案を盗み見ること。
 - ③ カンニングペーパー（縮小コピー）等の準備および使用。
 - ④ 答案用紙を提出せずに試験場から退室すること。
 - ⑤ 机の中にノート、コピー、文献等を開いたまま置くこと。
 - ⑥ 所持品やかばん、透明ファイルケース等の中身が見える形のまま、身の回りに置くこと。

6. 机には、許可された文献類および筆記用具以外は置かないこと。
なお、筆箱・ペンケース等も置いてはならない。
7. 携帯電話等の電子機器類の電源を切り、かばん等に入れておくこと。
(携帯電話は時計として使用できない)
8. 試験終了前に退室する場合は、他の受験者の妨げにならないよう留意すること。
9. 不正行為は恥ずべき行為であり大学として厳重に対処する。

※注 学生証を提示しない学生は受験できません。

- ・試験開始後20分以上の遅刻者は受験できません。また試験開始後30分を経過するまで退室できません。
- ・試験当日学生証を忘れた場合、相模原キャンパスでは学務グループ、青山キャンパスでは学務部教務課で学生カードを受け取り受験してください。学生カードの使用については以下の点に注意してください。
 - a. 学生カードは、試験受験以外には一切利用できません。
 - b. 学生カードは発行日に限り記載者本人のみ有効です。使用後は自己の責任において適切に処分してください。

不正行為

不正行為を行った学生は、以下に示す『試験における不正行為者処分規則』が適用され、単位を修得することができません。科目によっては4年間で卒業することが不可能になります。

青山学院規則集『試験における不正行為者処分規則』より抜粋

第3条 不正行為者の処分内容は、学則に基づく懲戒処分（訓告、停学、退学）とするほか不正行為を行った授業科目、当該授業科目を含む数科目または全授業科目の履修届を無効とする。

第4条 不正行為者の氏名および処分は学内に掲示し、本人および保証人へ通知する。

不正行為とは、『試験における不正行為者処分規則施行細則』第2条に定められた、以下の行為をいいます。

- ① 代人として受験することまたは代人に受験させること。
- ② 答案を交換すること。
- ③ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）の用意またはそれらを使用すること。
- ④ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）を廻し見すること。
- ⑤ 使用が許可されていない文献等を使用すること。
- ⑥ 使用が許可されている文献等を貸借すること。
- ⑦ 所持品、身体、机、壁等に解答およびそれに類するものを書き込むこと。
- ⑧ 答案を写させること、または写しとること。
- ⑨ 他人の答案を盗み見ること。
- ⑩ 声、動作等で解答を伝達すること、または伝達を受けること。
- ⑪ 受験資格のない者が受験すること。
- ⑫ 他人の学生証を使用して受験すること。
- ⑬ 偽名または故意により無記名答案を提出すること。
- ⑭ 答案を提出しないこと。
- ⑮ 監督者の指示や注意に従わないこと。
- ⑯ その他上記各号に類すると認められる行為。

3. 追試験

申請資格

定期試験を病氣、その他やむを得ない理由によって受験できなかった学生のみ申請することができます。

以下の場合には追試験の対象とはなりません。

- ① 自己の不注意（時間割の見間違い・変更情報の見落としなど）によって受験できなかった場合
- ② 公共交通機関以外を利用した場合、天候や交通事故などによる道路の渋滞、車両の故障を理由とする遅刻・欠席の場合
- ③ 平常試験（定期試験以外の試験を指す）の場合
- ④ 定期試験を受験した場合

申請方法

申請の日程、追試験日程については、定期試験前に「学生ポータル」で発表します。

追試験の受験を希望する学生は、**直接、授業科目の開講キャンパスの学務担当窓口**（巻末参照）で、**定められた期間に申請してください**。当該授業科目開講キャンパス以外の学務担当窓口では申請できません。

申請時には、当該試験の受験が不可能であったことを証明する公的な書類を持参してください。公的な書類は、**学生氏名、定期試験を受験できなかった日時、理由、証明者名の記載および証明者印のあるもの**に限ります。**コピーは不可です**。申請後「追試験願」用紙を交付しますので、その場で記入し、持参した書類とともに提出してください。なお、受験料は無料です。

欠席理由と、それを示す証明書は次のとおりです。

理 由	証 明 書
病気	医師の診断書（通院・入院・安静期間などの記載のあるもの）
忌引（両親、兄弟姉妹、祖父母、配偶者、子供）	死亡に関する公的証明書（法事は忌引に含めない）、または、葬儀に参列したことを示す会葬礼状（日付が明記されているもの）および保証人などによる参列の証明（要押印）
就職試験	就職試験の受験を証明するもの（受験票では不可）
災害（台風、地震、水害、火災など）	官公庁による被災証明書
交通関係（遅延）	交通機関などの証明書（通学路線に限る。遅延当日必ず学務担当窓口で指示を受けること）
教育実習	教育実習参加証明書（教職課程課・学務グループにて発行）
科目の時限重複	定期試験実施前に学務担当窓口で指示を受けること

上記以外の理由または、公的な証明書が無い場合については、事前に「**追試験受験資格審査**」を受けてください。審査で認められた場合のみ申請することができます。

追試験時間・採点

原則として60分で実施し、答案は100点満点で採点されます。

Ⅶ. 成績評価について

成績評価

学業成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、レポート、論文、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法）によって評価されます。

本学の成績は100点法によって評価されます。60点以上が合格とされ、所定の単位が与えられます。

成績証明書および成績通知書にはAA、A、B、Cの表記が用いられます。ただし、「情報スキルⅠ」については、所定の単位が与えられた場合、成績証明書には「RR」、成績通知書には「合格」と表示されます。

実点数範囲	学生への成績通知	成績証明書の記載
100～90	AA	AA
89～80	A	A
79～70	B	B
69～60	C	C
59以下または不合格	XX	表示せず
欠席	X	表示せず
「情報スキルⅠ」、海外研修等による単位修得	合格	RR

G.P.A.

2009年度以降のカリキュラム適用学生については、成績通知書に「G.P.A.」の数値を表示しています。G.P.A. (Grade Point Average) とは、学生の履修登録科目の1単位あたりの評点平均値を指します。これは、欧米で広く用いられている世界標準的な成績評価方法で、本学では給付奨学金や学業奨励賞の候補者選出、学位授与式の総代選出、本学大学院進学などの際に活用されています。

履修した科目には、A、B、C、XXなどの成績が与えられます。これらの評価を数値化して1単位ごとの平均を算出したものがG.P.A.です。

本学では、各評価に与えられる評点は次のとおりです。

本学評価	評点
AA	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
XX(不合格)	0.0
X(欠席)	0.0

上記の評点を次の計算式に当てはめてG.P.A.を算出します。

$$G.P.A. = \frac{(AA \text{ の単位数} \times 4 + A \text{ の単位数} \times 3 + B \text{ の単位数} \times 2 + C \text{ の単位数} \times 1)}{(AA \text{ の単位数} + A \text{ の単位数} + B \text{ の単位数} + C \text{ の単位数} + XX \text{ の単位数} + X \text{ の単位数})}$$

※「認定」・「合格」・「W」(履修取消)の科目は、G.P.A.算出の対象外です。

※理工・社会情報学部は、教職課程課目をG.P.A.算出の対象外とします。

成績通知

学生の成績評価は、3月上旬および9月中旬に学生ポータルメニュー「成績通知書」にてお知らせします。学外PCから閲覧する場合は、あらかじめ学内でSecure Matrixパスワードの登録を済ませておく必要があります。(詳細は、学生ポータルメニュー「学外から成績通知書を閲覧する手順」を参照してください。)成績通知書は各自で印刷し、修得した科目とその評価を確認してください。

成績調査

成績評価に疑問がある場合は、「成績調査」を申請することができます。これは、科目担当者に対して、安易に再考・変更を求めるものではありません。成績に疑問を持つ**明確な根拠がある場合にのみ**申請してください。

大学が指定する調査期間中に、成績通知書持参のうえ学務担当窓口（巻末参照）へ申し出てください。調査期間は、「学生ポータル」でお知らせします。

電話での問い合わせ、期間外の申し出には一切応じません。

Ⅳ. 進級および卒業について

進 級 進級については、所属する学部で条件が異なるので、「Ⅳ. 学部履修要項」の各学部、学科の**進級条件**の項を参照してください。進級するには、1年間をとおして在学することが必要です。

休学をして復学した場合は、休学前と同一学年になります。

卒 業 (1) 本学に4年以上在学し(休学期間を除く)、各学部で定められた、卒業に必要な単位を修得した者は、卒業が認められ学士の学位が授与されます。
(2) 卒業発表は3月上旬に行います。卒業の可否は必ず本人が確認してください。電話による問い合わせには一切応じておりません。

9 月卒業 4年生で留年した場合、不足する科目や単位数により、次年度の前期で単位を修得し、卒業要件単位を満たすことができれば、願い出によって9月に卒業できる制度があります。

- (1) 希望者は、学務担当窓口(巻末参照)で相談し、「**9 月卒業希望届**」を定められた期間に提出してください。
- (2) 期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。
- (3) 学費については、本学の財務部資金グループにお問い合わせください。

卒業延期制度 4年次に在学する学生が卒業要件を満たし、具体的な勉学継続計画、国家試験受験等明確な理由、目的を有した上で、在学期間を延長して学修継続を希望する場合、卒業の延期を認めて学修継続の機会を与える制度です。

- (1) 希望者は、学務担当窓口(巻末参照)で相談し、「**卒業延期許可願**」、「**学修計画書**」、「**誓約書・保証書**」を定められた期間に提出してください。
- (2) 期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。
- (3) 学費については、本学の財務部資金グループにお問い合わせください。

Ⅸ. 学籍について

		内 容	取扱・問い合わせ窓口												
修業年限		本学の教育課程を修了するために必要な最低修業年限は、4年です。	学則第35条参照												
在学年限		① 本学に在学できる期間は、休学期間を除き8年です。 ② 2年次編入学生、2年次転部または転学部・転学科生の在学年限は6年です。 ③ 3年次編入学生、3年次転部または転学部・転学科生の在学年限は4年です。 ④ 再入学者の在学年限は、退学以前を加えて8年です。 ⑤ 編入学、転部または転学部・転学科をした再入学者の在学年限は、退学以前を加え、編入学、転部または転学部・転学科生の在学年限を越えることはできません。	学則第36条参照												
休 学	休学期間	① 休学期間は、通年(1年間)、前期、後期の3種類があり、1年または1学期ごとに更新しなければなりません。 ② 休学期間は連続2年までとしますが、特にやむを得ない場合は、審議をしたうえで、連続して3年まで認めることがあります。 ③ 休学期間は通算して3年を超えることはできません。 ④ 休学期間は在学期間に算入しません。	学則第29・36条参照												
	休学するには	病気その他やむを得ない理由で休学しようとする学生は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ① 「休学願」(大学所定用紙)(保証人連署)の提出 ② 学生証の提示 ③ 休学費の納入 ④ 「理由書(書式は任意)」休学期間が通算であっても連続であっても、2年を超えてさらに休学を願出する場合のみ提出 ※休学は原級(元の学年)にとどめるので、通年または半期休学をした場合、進級することができません。進級するには、4月から翌年3月まで1年間とおして在学することが必要です。	⇒学務担当窓口 (巻末参照) 学則第28条参照												
	休学願の提出期限	「休学願」の提出期限は次のとおりです。 <table border="1" data-bbox="231 1243 853 1444"> <thead> <tr> <th></th> <th>休学期間</th> <th>提出期限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通年休学</td> <td>4月1日～翌年3月31日</td> <td>6月末日</td> </tr> <tr> <td>前期休学</td> <td>4月1日～9月30日</td> <td>6月末日</td> </tr> <tr> <td>後期休学</td> <td>10月1日～翌年3月31日</td> <td>12月末日</td> </tr> </tbody> </table>		休学期間	提出期限	通年休学	4月1日～翌年3月31日	6月末日	前期休学	4月1日～9月30日	6月末日	後期休学	10月1日～翌年3月31日	12月末日	⇒学務担当窓口 (巻末参照)
		休学期間	提出期限												
通年休学	4月1日～翌年3月31日	6月末日													
前期休学	4月1日～9月30日	6月末日													
後期休学	10月1日～翌年3月31日	12月末日													
休学費の納入	休学の願出の手続きと同時に、下記のとおり、休学期間終了までの学費を完納しなくてはなりません。 ① 通年休学の場合……授業料年額の1/2相当額 ② 1学期間休学の場合…授業料年額の3/4相当額および諸費	⇒財務部資金グループ (青山キャンパス) 学則 別記学費納付に関する取扱い7参照													
復 学	復学するには	休学者が復学を希望する場合、大学所定の「復学願」を提出し、教授会の承認を経て復学することができます。休学期間満了の約2ヶ月前に、学務部教務課(相模原キャンパスは学務グループ)から次期の復学・休学の継続などについての問い合わせをします。なお、復学が承認された場合の年次は、休学の種類にかかわらず、休学前と同一年次となります。	⇒学務担当窓口 (巻末参照) 学則第30条参照												

		内 容	取扱・問い合わせ窓口
退 学	退学の期日	退学の期日は、学費の納付期間によって異なります。前期分まで納付している場合は9月30日付、後期分まで納付している場合は3月31日付となります。	学則 別記学費納付に関する 取扱い9参照
	退学をするには	病気その他やむを得ない事情で退学を希望する場合は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ① 「退学願」(大学所定用紙)(保証人連署)の提出 ② 学生証の提出 ③ 退学期日を含む学期までの学費の納入	⇒学務担当窓口 (巻末参照) 学則第32条参照
再 入 学		退学した後に再入学を願い出た場合、事情を審査のうえ相当年次に再入学を許可することがあります。願い出をするためには以下のような条件があります。 ① 再入学の願い出ができる期間は、原則として退学した日から2年以内とし、「再入学願」は1月中旬～1月末日(要問い合わせ)の間に学務担当窓口に出してください。 ② 再入学できる時期は、学年の初めとします。	⇒学務担当窓口 (巻末参照) 学則第27条参照
二重学籍	二の重禁学止籍	本学学生は、他大学および本学他学部または他学科と併せて在学することはできません。	学則第27条の2参照
除 籍	籍	学費を期限内に納入しない、履修登録をしない、などの場合は修学の意思がないものとして除籍され、本学学生としての身分を失うこととなります。なお、除籍者に対しては、以後、在学中の修得単位・成績の証明などは一切行ないません。また、再入学の資格も失うこととなります。	学則第34条参照
転部・転学部・転学科	転部とは	同一学部(学科)内で昼間部または第二部に移ることです。転部を願い出た場合には、選考の上、当該学部学科への転部を許可することがあります。許可された場合、転部届の提出が必要となります。	⇒学務担当窓口 (巻末参照)
	転学部とは	文学部、教育人間科学部、文学部第二部、法学部、国際政治経済学部へ学部を移ることです。転学部を願い出た場合には、選考の上、当該学部への転学部を許可することがあります。許可された場合、転学部届の提出が必要となります。	学則第26条参照 (詳細については、広報入試センター(青山キャンパス)から、10月初旬発行予定の「試験要項」を確認してください。)
	転学科とは	同一学部内で学科を移ることです。文学部の学生で転学科を願い出た場合には、選考の上、文学部および文学部第二部の他学科への転学科を許可することがあります。また、教育人間科学部の学生が転学科を願い出た場合には、選考の上、教育人間科学部の他学科への転学科を許可することがあります。許可された場合、転学科届の提出が必要となります。	

X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について

1. 本学で取得できる 教育職員免許状

〔取得できる免許状の種類・
教科（学部・学科別）〕

本学で取得できる学部・学科別の免許状の種類・教科は次のとおりです。

（2009年度以降入学者）

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類
文学部	英米文学科	中 学 校教諭1種免許状（英語） 高等学校教諭1種免許状（英語）
	フランス文学科	中 学 校教諭1種免許状（フランス語） 高等学校教諭1種免許状（フランス語）
	日本文学科	中 学 校教諭1種免許状（国語） 高等学校教諭1種免許状（国語）
	史学科	中 学 校教諭1種免許状（社会） 高等学校教諭1種免許状（地理歴史）
教育人間科学部	教育学科	幼 稚 園教諭1種免許状 小 学 校教諭1種免許状 中 学 校教諭1種免許状（国語・社会・英語） 高等学校教諭1種免許状 （国語・地理歴史・公民・英語）
経済学部	経済学科	中 学 校教諭1種免許状（社会） 高等学校教諭1種免許状（地理歴史・公民）
法学部	法学科	中 学 校教諭1種免許状（社会） 高等学校教諭1種免許状（公民）
経営学部	経営学科	高等学校教諭1種免許状（商業）※
理工学部	物理・数理学科	中 学 校教諭1種免許状（理科・数学） 高等学校教諭1種免許状（理科・数学）
	化学・生命科学科	中 学 校教諭1種免許状（理科） 高等学校教諭1種免許状（理科）
	電気電子工学科	高等学校教諭1種免許状（工業）
	機械創造工学科	高等学校教諭1種免許状（工業）
	経営システム工学科	高等学校教諭1種免許状（情報）
	情報テクノロジー学科	高等学校教諭1種免許状（情報）
社会情報学部	社会情報学科	中 学 校教諭1種免許状（数学） 高等学校教諭1種免許状（数学・情報）
文学部第二部	英米文学科	中 学 校教諭1種免許状（英語） 高等学校教諭1種免許状（英語）

※ 2009年度入学者のみ。

(2005～2008年度入学者)

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類
文学部	教育学科	幼稚園教諭1種免許状 小学校教諭1種免許状 中学校教諭1種免許状 (国語・社会・英語) 高等学校教諭1種免許状 (国語・地理歴史・公民・英語)
	英米文学科	中学校教諭1種免許状 (英語) 高等学校教諭1種免許状 (英語)
	フランス文学科	中学校教諭1種免許状 (フランス語) 高等学校教諭1種免許状 (フランス語)
	日本文学科	中学校教諭1種免許状 (国語) 高等学校教諭1種免許状 (国語)
	史学科	中学校教諭1種免許状 (社会) 高等学校教諭1種免許状 (地理歴史)
経済学部	経済学科	中学校教諭1種免許状 (社会) 高等学校教諭1種免許状 (地理歴史・公民)
法学部	法学科	中学校教諭1種免許状 (社会) 高等学校教諭1種免許状 (公民)
経営学部	経営学科	高等学校教諭1種免許状 (商業)
理工学部	物理・数理学科	中学校教諭1種免許状 (理科・数学) 高等学校教諭1種免許状 (理科・数学)
	化学・生命科学科	中学校教諭1種免許状 (理科) 高等学校教諭1種免許状 (理科)
	電気電子工学科	高等学校教諭1種免許状 (工業)
	機械創造工学科	高等学校教諭1種免許状 (工業)
	経営システム工学科	高等学校教諭1種免許状 (情報)
	情報テクノロジー学科	高等学校教諭1種免許状 (情報)
文学部第二部	教育学科	幼稚園教諭1種免許状 小学校教諭1種免許状 中学校教諭1種免許状 (国語・社会) 高等学校教諭1種免許状 (国語・地理歴史・公民)
	英米文学科	中学校教諭1種免許状 (英語) 高等学校教諭1種免許状 (英語)
経済学部第二部	経済学科	中学校教諭1種免許状 (社会) 高等学校教諭1種免許状 (地理歴史・公民)
経営学部第二部	経営学科	高等学校教諭1種免許状 (商業)

(2004年度以前入学者は、入学年度の「教職課程履修の手引」を参照してください。)

2. 教員免許状の 取得希望申請に ついて

2006年度以降入学者 の申請方法

教員免許状の取得を希望する場合は、入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』を熟読の上、前期履修登録期間に Web の履修登録画面から「**教職・各種資格申請**」の画面を開き、登録を行ってください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に必ず行うものであり、在学中に於ける申請内容の変更・取消、またはその有無にかかわらず、教職履修申請継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。

2005年度以前入学者 の申請方法

教員免許状の取得を希望する場合は、入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』を熟読の上、Web の履修登録画面から「**教職・各種資格申請**」の画面を開き、登録を行ってください。

なお、この申請は、変更・取消がない限り在学期間中に一度行えばよく、毎年再申請する必要はありません。

3. 教職課程料の 納入について

2006年度以降入学者の 教職課程料の納入方法

教員免許状の申請登録 (Web) をすると、申請した年度ごとに後期学費納入時に教職課程料を納入することになります。たとえ教職課程科目の履修登録をしなくても、教員免許状の申請登録によって教職課程料が後期学費に加算されますので、各自の責任において免許教科を確認し、熟考の上申請をしてください。また、申請登録 (Web) の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納入された**教職課程料**は、いかなる理由があっても返還しません。

2002～2005年度入学者の 教職課程料の納入方法

教員免許状の申請登録をすると、後期学費納入時に**教職課程料**を納入することになります。たとえ教職課程科目の履修登録をしなくても、教員免許状の申請登録によって教職課程料が後期学費に加算されますので、各自の責任において免許教科を確認し、熟考の上申請をしてください。また、申請を取り消す場合には、最初に申請を行った年度に限り、前期履修登録期間内に Web で修正 (取消) を行えば、**教職課程料**は徴収されません。**教職課程料**は在学中に一度納入すればよく、毎年徴収されることはありません。また、一旦納入された**教職課程料**は、いかなる理由があっても返還しません。

4. 教職課程履修について

履修上の注意

教職課程の履修は、1年次の年度初頭に開催される**教職課程オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』に従ってください。また、履修方法・科目名称の変更などについては、年度初頭に開催される2年次生対象**教職課程オリエンテーション**と3年次生および4年次生対象**教育実習説明会**で資料を配付しますので、必ず確認してください。

教職課程関係の**オリエンテーション・説明会**および**手続**などで、主なものは「**10. 教育職員免許状・各種資格取得計画予定表**」のとおりです（学年については、基準となる学年を記載しています）。これらの日程の詳細については、『**学年初頭行事**』（学生ポータル、授業要覧等に掲載）、教職課程掲示板で確認してください。

オリエンテーション・説明会に欠席したり、指定期間内に**介護等体験登録・教育実習予備登録・教員免許状大学一括申請**などの手続を行わなかった場合、卒業時までには教員免許状を取得できない事態に陥ることがありますので、遺漏のないよう自己管理してください。

履修順序のある教職課程科目

教員免許状取得のための科目には、次ページ以下のとおり「**履修順序**」が定められたものがあります。詳細については、『**教職課程履修の手引**』の該当する学部・学科別の**免許教科**の項を併せて参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な教員免許状の校種・教科は、「**1. 本学で取得できる教育職員免許状**」の表のとおりです。

〔教員免許状取得に必要な科目の履修順序〕

(2010年度入学者に適用)

幼稚園教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
		第1段階に合格した場合のみ履修できる		第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	保育内容教育法を 3教科以上	幼児教育実習 I	幼児教育実習 II 教職実践演習(幼)

小学校教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
		第1段階に合格した場合のみ履修できる		第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	初等教科教育法を 4教科以上	初等教育実習 I	初等教育実習 II 教育実践演習(小)

中学校・高等学校教諭免許状取得希望者(第一部・第二部)

第1段階		第2段階		第3段階
		第1段階に合格した場合のみ履修できる		第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育原理 A (教育思想概説) 教育心理 (教育心理学概説) 教育原理 B (教育制度概説)	教職論	中等教育実習 I 国語科教育法 又は 国語科教材論 社会科教育法 又は 社会科教材論 地理歴史科教育法 又は 地理歴史科教材論 公民科教育法 又は 公民科教材論 英語科教育法 又は 英語科教育法特論 フランス語科教育法 (フランス語教授法 I) 又は フランス語科教育法特論 理科教育法 I 及び理科教育法 II 又は 理科教材論 数学科教育法 又は 数学科教育法特論 工業科教育法 情報科教育法 又は 情報科教育法特論		中等教育実習 II A 中等教育実習 II B 教職実践演習(中・高)

- ・「教育原理 A」「教育心理」「教育原理 B」は2年次までしか履修できません。
- ・第二部英米文学科生が「中等教育実習 I」、「英語科教育法」および「英語科教育法特論」を履修するには、2年次までに「教職課程 英語能力認定制度」に合格していることを条件としています。

・「教職課程 英語能力認定制度」認定申請の実施日程については、「10. 教育職員免許状・各種資格取得計画予定表」を参照してください。また、詳細については、11月上旬より、教職課程掲示板（9号館1階）で周知します。

（2009年度入学者に適用）

幼稚園教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第1段階に合格した場合のみ履修できる
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	保育内容教育法を 3教科以上	幼児教育実習 I	幼児教育実習 II

小学校教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第1段階に合格した場合のみ履修できる
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	初等教科教育法を 4教科以上	初等教育実習 I	初等教育実習 II

中学校・高等学校教諭免許状取得希望者（第一部・第二部）

第1段階		第2段階		第3段階
				第1段階に合格した場合のみ履修できる
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育原理 A (教育思想概説) 教育心理 (教育心理学概説) 教育原理 B (教育制度概説)	教職論	中等教育実習 I 国語科教育法 又は 国語科教材論 社会科教育法 又は 社会科教材論 地理歴史科教育法 又は 地理歴史科教材論 公民科教育法 又は 公民科教材論 英語科教育法（英語教授法） 又は 英語科教育法特論 フランス語科教育法 (フランス語教授法 I) 又は フランス語科教育法特論 商業科教育法 理科教育法 I 及び理科教育法 II 又は 理科教材論 数学科教育法 又は 数学科教育法特論 工業科教育法 情報科教育法 又は 情報科教育法特論		中等教育実習 II A 中等教育実習 II B

- ・「教育原理 A」「教育心理」「教育原理 B」は 2 年次までしか履修できません。
- ・第二部英米文学科生が「中等教育実習 I」、「英語科教育法」および「英語科教育法特論」を履修するには、2 年次までに「教職課程 英語能力認定制度」に合格していることを条件としています。
- ・「教職課程 英語能力認定制度」認定申請の実施日程については、「10. 教育職員免許状・各種資格取得計画予定表」を参照してください。また、詳細については、11月上旬より、教職課程掲示板（9 号館 1 階）で周知します。

(2005～2008年度入学者に適用)

幼稚園教諭免許状取得希望者（第一部）

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
				第 1 段階に合格した場合のみ履修できる
				第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)		(4 年次配置科目)
教育学概論 教育心理学概論	現代教師論	保育内容研究を 3 教科以上	幼児教育実習 I	幼児教育実習 II

幼稚園教諭免許状取得希望者（第二部）

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
				第 1 段階に合格した場合のみ履修できる
				第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)	(4 年次配置科目)
教育学概論 教育心理学概論	現代教師論	保育内容研究を 3 教科以上	幼児教育実習 I	幼児教育実習 II

小学校教諭免許状取得希望者（第一部）

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
				第 1 段階に合格した場合のみ履修できる
				第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)		(4 年次配置科目)
教育学概論 教育心理学概論	現代教師論	教材研究を 4 教科以上	初等教育実習 I	初等教育実習 II

小学校教諭免許状取得希望者（第二部）

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
				第 1 段階に合格した場合のみ履修できる
				第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)	(4 年次配置科目)
教育学概論 教育心理学概論	現代教師論	教材研究を 4 教科以上	初等教育実習 I	初等教育実習 II

中学校・高等学校教諭免許状取得希望者（第一部・第二部）

第1段階		第2段階	第3段階
		第1段階に合格した場合のみ履修できる	第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)	(4年次配置科目)
教育原理 (教育学概論) 教育心理 (教育心理学概論)	現代教師論	中等教育実習 I 国語科教育法 又は 国語科教材論 社会科教育法 又は 社会科教材論 地理歴史科教育法 又は 地理歴史科教材論 公民科教育法 又は 公民科教材論 英語科教育法 (英語教授法) 又は 英語科教育法特論 フランス語科教育法 (フランス語教授法) 商業科教育法 理科教育法 I 及び理科教育法 II 又は 理科教材論 数学科教育法 又は 数学科教育法特論 工業科教育法 情報科教育法 又は 情報科教育法特論	中等教育実習 II A 中等教育実習 II B

- ・「教育原理」「教育心理」は2年次までしか履修できません。
 - ・2005年度入学者の2年次配置科目「教師論」は名称変更により「現代教師論」になりました。2005年度入学者は「現代教師論」を履修してください。
 - ・第二部英米文学科生が「中等教育実習 I」、「英語科教育法」および「英語科教育法特論」を履修するには、2年次までに「教職課程 英語能力認定制度」(旧称 T.E.T.)に合格していることを条件としています。
 - ・「教職課程 英語能力認定制度」(旧称 T.E.T.)についての詳細は、教職課程掲示板(9号館1階)を参照してください。
 - ・「教職課程 英語能力認定制度」認定申請の実施日程については、「10.教育職員免許状・各種資格取得計画予定表」を参照してください。また、詳細については、11月上旬より、教職課程掲示板(9号館1階)で周知します。
- (2004年度以前入学者は、入学年度の「教育課程履修の手引」を参照してください。)

5. 教職課程科目 配置表

文学部

教育人間科学部

経済学部

法学部

理工学部

社会情報学部

(2010年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育心理	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育原理 B	4	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育課程編成法	2	3・4	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	フランス語科教育法	4	3	
	フランス語科教育法特論	4	3	
	理科教育法 I	2	3	
	理科教育法 II	2	3	
	理科教材論	4	3	
	数学科教育法	4	3	
	数学科教育法特論	4	3	
	工業科教育法	4	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道德教育指導法	2	3・4	
	特別活動論	2	3・4	
	教育方法の研究	2	3・4	
	生徒・進路指導論	2	3・4	
	教育相談	2	3・4	
	幼児教育実習 I	1	3	
	幼児教育実習 II	4	4	
	初等教育実習 I	1	3	
初等教育実習 II	4	4		
中等教育実習 I	1	3		
中等教育実習 IIA	2	4		
中等教育実習 IIB	2	4		
教職実践演習 (幼)	2	4		
教職実践演習 (小)	2	4		
教職実践演習 (中・高)	2	4		

文学部
 教育人間科学部
 経済学部
 法学部
 経営学部
 理工学部
 社会情報学部

(2009年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育心理	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育原理 B	4	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育課程編成法	2	3・4	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	フランス語科教育法	4	3	
	フランス語科教育法特論	4	3	
	商業科教育法	4	3	
	理科教育法 I	2	3	
	理科教育法 II	2	3	
	理科教材論	4	3	
	数学科教育法	4	3	
	数学科教育法特論	4	3	
	工業科教育法	4	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道徳教育指導法	2	3・4	
	特別活動論	2	3・4	
	教育方法の研究	2	3・4	
	生徒・進路指導論	2	3・4	
	教育相談	2	3・4	
	総合演習	2	3・4	
	幼児教育実習 I	1	3	
幼児教育実習 II	4	4		
初等教育実習 I	1	3		
初等教育実習 II	4	4		
中等教育実習 I	1	3		
中等教育実習 II A	2	4		
中等教育実習 II B	2	4		

文学部
経済学部
法学部
経営学部
理工学部

(2005～2008年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。 (2004年度以前入学者は、入学年度の「教職課程履修の手引」を参照してください。)				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	現代教師論	2	2	} 1・2年次のみ履修可
	教育原理	4	1・2	
	教育心理	4	1・2	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	フランス語科教育法	4	3	
	商業科教育法	4	3	
	理科教育法 I	2	3	
	理科教育法 II	2	3	
	理科教材論	4	3	
	数学科教育法	4	3	
	数学科教育法特論	4	3	
	工業科教育法	4	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道德教育の研究	2	3・4	
	特別活動	2	3・4	
	教育方法の研究	2	3・4	
	生徒指導 (進路指導を含む)	2	3・4	
	教育相談	2	3・4	
	総合演習	2	3・4	
	中等教育実習 I	1	3	
中等教育実習 II A	2	4		
中等教育実習 II B	2	4		

文学部第二部 (2010年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育心理	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育原理 B	4	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育課程編成法	2	3・4	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	道德教育指導法	2	3・4	
	特別活動論	2	2・3・4	
	教育方法の研究	2	2・3・4	
	生徒・進路指導論	2	2・3・4	
	教育相談	2	2・3・4	
	中等教育実習 I	1	3	
	中等教育実習 II A	2	4	
	中等教育実習 II B	2	4	
教職実践演習 (中・高)	2	4		

文学部第二部 (2009年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育心理	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育原理 B	4	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育課程編成法	2	3・4	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	道德教育指導法	2	3・4	
	特別活動論	2	2・3・4	
	教育方法の研究	2	2・3・4	
	生徒・進路指導論	2	2・3・4	
	教育相談	2	2・3・4	
	総合演習	2	3・4	
	中等教育実習 I	1	3	
	中等教育実習 II A	2	4	
中等教育実習 II B	2	4		

文学部第二部
 経済学部第二部
 経営学部第二部

(2005～2008年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。 (2004年度以前入学者は、入学年度の「教職課程履修の手引」を参照してください。)				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	現代教師論	2	2	} 1・2年次のみ履修可
	教育原理	4	1・2	
	教育心理	4	1・2	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	商業科教育法	4	3	
	道德教育の研究	2	3・4	
	特別活動	2	2・3・4	
	教育方法の研究	2	2・3・4	
	生徒指導 (進路指導を含む)	2	2・3・4	
	教育相談	2	2・3・4	
	総合演習	2	3・4	
中等教育実習 I	1	3		
中等教育実習 II A	2	4		
中等教育実習 II B	2	4		

6. 本学で取得 できる資格

[取得できる資格の種類
(学部・学科別)]

本学で取得できる学部・学科別の資格の種類は次のとおりです。

(2005年度以降入学者)

学 部	学 科	資 格 の 種 類
文学部	教育学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	英米文学科	
	フランス文学科	
	日本文学科	
	史学科	
	心理学科	司書・社会教育主事・学芸員
教育人間科学部	教育学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	心理学科	司書・社会教育主事・学芸員
経済学部	経済学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	現代経済デザイン学科	司書・社会教育主事・学芸員
法学部	法学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
経営学部	経営学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員 (2010年度経営学科入学生は司書教諭を除く)
	マーケティング学科	司書・社会教育主事・学芸員
国際政治経済学部	国際政治学科	司書・社会教育主事・学芸員
	国際経済学科	
	国際コミュニケーション学科	
総合文化政策学部	総合文化政策学科	司書・社会教育主事・学芸員
理工学部	物理・数理学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	化学・生命科学科	
	電気電子工学科	
	機械創造工学科	
	経営システム工学科	
	情報テクノロジー学科	
社会情報学部	社会情報学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
文学部第二部	教育学科	司書教諭・社会教育主事
	英米文学科	
経済学部第二部	経済学科	
経営学部第二部	経営学科	

7. 各種資格の取得 希望申請について

2006年度以降入学者の 申請方法

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の取得を希望する場合は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、前期履修登録期間に、Webの履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に必ず行うものであり、在学中に於ける申請内容の変更・取消、またはその有無にかかわらず、継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。

2005年度以前入学者の 申請方法

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の取得を希望する場合は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、Webの履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。

なお、この申請は、変更・取消がない限り在学期間中に一度行えばよく、毎年再申請する必要はありません。

8. 資格課程料の 納入方法

2006年度以降入学者の 納入方法

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の申請登録（Web）をすると、それぞれの資格について申請した年度ごとに後期学費納入時に資格課程料を納入することになります。たとえ必要科目の履修登録をしなくても、申請登録によって資格課程料が後期学費に加算されますので、熟考の上申請をしてください。また、申請登録（Web）の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納入された資格課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

2005年度以前入学者の 納入方法

- ① 司書教諭：「教職・各種資格申請」で司書教諭資格の申請登録をし、「学校経営と学校図書館」を履修登録すると、司書教諭の資格課程料が後期学費で徴収されます。
 - ② 司書：「教職・各種資格申請」で司書資格の申請登録をし、「図書館情報学概論」を履修登録すると、司書の資格課程料が後期学費で徴収されます。
 - ③ 社会教育主事：「教職・各種資格申請」で社会教育主事資格の申請登録をし、「生涯学習概論」を履修登録すると、社会教育主事の資格課程料が後期学費で徴収されます。
 - ④ 学芸員：「教職・各種資格申請」で学芸員資格の申請登録をし、「博物館実習Ⅰ」を履修登録すると、学芸員の資格課程料が後期学費で徴収されます。
- ①～④の各種資格課程料は在学中に一度納入すればよく、毎年徴収されることはありません。また、一旦納入された資格課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

9. 各種資格取得に必要な科目の履修について

履修上の注意

各種資格取得に必要な科目の履修は、1年次の年度初頭に開催される**各種資格オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』に従ってください（第二部は、オリエンテーションはありませんので、教職課程課窓口で各種資格申請希望者に『**教職課程履修の手引**』を配付します）。

また、履修方法・科目名称などの変更があった場合には、年度初頭に開催される2年次生対象の**司書・司書教諭・社会教育主事オリエンテーション**、**学芸員オリエンテーション**、2年次生対象「**博物館実習Ⅰ**」**予備登録説明会**（学芸員資格取得希望者対象）などで資料を配付しますので、必ず確認してください。

各種資格関係の**オリエンテーション・説明会**および**手続**等で、主なものは「**10. 教育職員免許状・各種資格取得計画予定表**」のとおりです（学年については、基準となる学年を記載しています）。これらの日程の詳細については、『**学年初頭行事**』（学生ポータル、授業要覧等に掲載）、**教職課程掲示板**で確認してください。

オリエンテーション・説明会に欠席したり、指定期間内に**博物館実習予備登録・各種資格申請**などの手続を行わなかった場合、卒業時まで資格の取得ができない事態に陥ることがありますので、遺漏のないよう自己管理してください（但し、**司書教諭**資格の取得時期については、『**教職課程履修の手引**』を参照してください）。

履修順序のある科目

学芸員資格取得のための科目には、「**履修順序**」が定められたものがあります。詳細については、『**教職課程履修の手引**』の**学芸員**の項を参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な資格の種類は、「**6. 本学で取得できる資格**」の表のとおりです。

〔学芸員資格取得に必要な科目の履修順序〕

①	②
	①を履修し合格した場合のみ履修できる
3年次配置科目	4年次配置科目
博物館実習Ⅰ 博物館概論 博物館学各論	博物館実習Ⅱ

- ・「**博物館実習Ⅰ**」および「**博物館概論**」は、**3年次生**しか履修できません。
- ・「**博物館実習Ⅰ**」は、**実習・設備**等の諸事情により、**受講者は30名**までとします。また、**2年次10月**に**博物館実習予備登録**を受付け、**3年次年度初頭**に**選抜試験**を実施します。
- ・「**博物館実習Ⅰ**」**説明会・予備登録**の日程については、「**10. 教育職員免許状・各種資格取得計画予定表**」を参照してください。

履修順序のある科目の登録方法

① 「**博物館実習Ⅰ**」（3年次配置科目）は、**事前登録科目**です。2年次10月に**博物館実習予備登録**をし、3年次の年度初頭に実施される**選抜試験**に合格することにより**事前登録**されるので、履修登録期間中に個人が登録する必要はありません。履修登録期間中に、Webの履修登録画面で登録内容を確認してください。

② 「**博物館実習Ⅱ**」（4年次配置科目）は、Webの履修登録画面から各自が登録をしてください。履修順序の条件を満たしていない場合は、登録することができません。

10. 教育職員免許状・各種資格取得計画予定表 (学年については、基準となる学年を記載)

	1 年	2 年	3 年	4 年
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程オリエンテーション ・各種資格オリエンテーション (第一部のみ) ・教育職員免許状、各種資格取得希望申請 (Web) (2006年度以降入学者は毎年申請) ・「教職課程履修カルテ」配付 (2010年度以降入学者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程オリエンテーション ・司書、司書教諭、社会教育主事オリエンテーション (第一部のみ) ・学芸員オリエンテーション (第一部のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習説明会 ・実習校との交渉・内諾 ・「幼児教育実習Ⅰ」「初等教育実習Ⅰ」「中等教育実習Ⅰ」履修登録 ・介護等体験オリエンテーション (欠席の場合は体験辞退とみなす) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習説明会 ・「幼児教育実習Ⅱ」「初等教育実習Ⅱ」「中等教育実習ⅡA・ⅡB」履修登録確認 (事前登録) ・教育実習関係書類提出 (個人校実習) ・教育実習オリエンテーション ・実習前指導 (前期実習者)
5 月				<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習 (5月～11月までに行う) ・教員採用試験オリエンテーション (試験対策) 青山キャンパス 5月15日 (土) 相模原キャンパス (中旬)
6 月				<ul style="list-style-type: none"> ・前期教育実習事後指導 ・実習前指導 (後期実習者) (青山キャンパス)
7 月			<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1日体験実習オリエンテーション 7月24日 (土) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験オリエンテーション (二次試験対策) ・公立教員採用試験 (一次)
8 月				<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験オリエンテーション (二次試験対策) ・公立教員採用試験 (二次)
9 月			<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児教育実習Ⅱ」「初等教育実習Ⅱ」「中等教育実習ⅡA・ⅡB」予備登録説明会 9月21日 (火) [相模原キャンパスは 9月25日 (土)] ・予備登録 9月22日 (水)～28日 (火) [相模原キャンパスは 9月27日 (月)～28日 (火)] ・小学校1日体験実習 ・教員採用試験オリエンテーション 青山キャンパス 9月11日 (土) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前指導 (後期実習者) (相模原キャンパス)
10 月		<ul style="list-style-type: none"> ・介護等体験登録 青山キャンパス：10月19日 (火)～22日 (金) 相模原キャンパス：10月20日 (水)～22日 (金) ・「博物館実習Ⅰ」予備登録者対象説明会10月21日 (木) 予備登録10月25日 (月)～27日 (水) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習依頼状等の交付 (個人校実習) 青山キャンパス：10月19日 (火)～22日 (金) 相模原キャンパス：10月13日 (水)～15日 (金) ・実習依頼状等を実習校へ持参 (個人校実習) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許状、司書教諭申請手続 10月5日 (火)～10月8日 (金) [相模原キャンパスは10月7日 (木)～8日 (金)]
11 月				<ul style="list-style-type: none"> ・後期教育実習事後指導
12 月			<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験オリエンテーション 青山キャンパス 12月4日 (土) ・実習校決定第一次発表 (指定校実習) ・教育実習関係書類提出 (指定校実習) 	
1 月			<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験オリエンテーション 相模原キャンパス 1月8日 (土) 	
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程 英語能力認定制度 申請手続【第二部英米文学科で、認定資格該当者のみ】 (上旬) 		<ul style="list-style-type: none"> ・実習校決定第二次発表 (指定校実習) ・教育実習関係書類提出 (指定校実習) 	
3 月				<ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許状、各種資格取得判定発表 ・教育職員免許状交付 3月26日 (土) 学位授与式

・年度初頭の各説明会およびオリエンテーションの日程については『学年初頭行事』(学生ポータル、授業要覧等に掲載)、教職課程掲示板で確認してください。

・説明会、手続等の詳細に関する連絡は、教職課程掲示板または学生ポータルで行うので、各自が責任を持って確認してください。

・上記予定表の開催については、所属キャンパスのみの対応となります。(教員採用試験オリエンテーションは除く)

XI . 大学院について

本学には、より高度な専門知識と技術によって確かな実績と高い評価をうける「大学院」各研究科・専攻に加え、時代と社会の要請に応える高度専門職業人養成の「専門職大学院」があります。

学部から本学「大学院」「専門職大学院」へ進学を希望する学生は、詳細を下記に問い合わせてください。

《問い合わせ先》

大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
文学研究科 教育人間科学研究科 経済学研究科 法学研究科 経営学研究科 国際政治経済学研究科 総合文化政策学研究科 社会情報学研究科社会情報学専攻ヒューマンイノベーションコース	大学院事務室 所在：青山キャンパス 総研ビル2階
理工学研究科 社会情報学研究科社会情報学専攻社会情報学コース	スチューデントセンター・学務グループ 所在：相模原キャンパス B棟1階
国際マネジメント研究科	専門職大学院事務室 所在：青山キャンパス5号館1階

専門職大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
国際マネジメント研究科（ビジネススクール） 法務研究科（ロースクール） 会計プロフェッション研究科（アカウンティングスクール）	専門職大学院事務室 所在：青山キャンパス 5号館1階

* 青山学院大学ホームページ（<http://www.aoyama.ac.jp>）にも、情報が載っていますので、参照してください。

○文学研究科

英米文学専攻 博士前期課程

特色	英国・米国の文学作品研究を通して、著者の人間性や時代、社会、文化的背景や特徴を探求します。また、英語という言語について歴史的な分析、意味論、音声学、心理言語学、教育論、翻訳などを通して考察も深めていきます。	
学内進学	学内進学者選抜試験は実施しません。	
	大学院科目特別履修資格試験 (3年生対象：3月実施) ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。 ※大学院に入学するためには入学試験に合格する必要があります。	出願資格： 本学文学部英米文学科3年次に在籍する者で、第3年次終了時点で卒業要件単位の90%以上を修得し、学科科目(英語科目・専門科目)のG.P.A.が2.80以上の者。 ただし、上記の要件を満たす者が3年次から4年次にかけて協定校へ交換留学し、留学終了の次年度も在学を要する場合は、留学終了年度(4年次)での出願を認める。 選考方法：面接(書類審査を含む) 【注意】第3年次の最終成績により、出願資格を満たさなかった者は不合格となります。
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ) *学生募集要項は、秋実施分は7月中旬頃、春実施分は11月中旬頃発行予定	

フランス文学・語学専攻 博士前期課程

特色	17～20世紀の文学作品研究を通して、著者の人間性や時代、社会、文化的背景、その特徴の洞察、あるいは思想、哲学面からなど多面的に考察します。また、語学分野では、文法・語法・音韻などをより深く研究します。	
学内進学	学内進学者選抜試験は実施しません。	
	大学院科目特別履修資格試験 (3年生対象：3月実施) ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。 ※大学院に入学するためには入学試験に合格する必要があります。	出願資格： 本学文学部フランス文学科3年次に在籍する者で、第3年次終了時点で卒業要件単位の90%以上を修得し、学科科目(フランス語科目・専門科目)のG.P.A.が2.60以上の者。 ただし、上記の要件を満たす者が3年次から4年次にかけて協定校へ交換留学し、留学終了の次年度も在学を要する場合は、留学終了年度(4年次)での出願を認める。 選考方法：面接(書類審査を含む) 【注意】第3年次の最終成績により、出願資格を満たさなかった者は不合格となります。
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ) *学生募集要項は、秋実施分は7月中旬頃、春実施分は11月中旬頃発行予定	

日本文学・日本語専攻 博士前期課程

特色	上代から近世・近代までの小説・戯曲・詩歌などをテーマに、文学表現の研究や、時代や社会状況との関係などについて考察を深めます。また、日本語の変遷や文法体系に関する研究、漢文学研究も盛んです。	
学内進学	学内進学者選抜試験は実施していません。	
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ) *学生募集要項は、秋実施分は7月中旬頃、春実施分は11月中旬頃発行予定	

史学専攻 博士前期課程

特色	日本史、東洋史、西洋史の3部門において、古代、中世、近代・現代の各時代における人間の営み・文化を、古文書や遺品、史料、研究論文などから考察します。その他、遺物や遺跡をもとに研究する考古学部門、また、芸術作品から探求する芸術史部門を選ぶこともできます。2008年度より5部門編成となりました。	
学内進学	学内進学者選抜試験は実施しません。	
	大学院科目特別履修資格試験 (3年生対象:3月実施) ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。 ※大学院に入学するためには入学試験に合格する必要があります。	出願資格: 本学文学部史学科3年次に在籍する者で、第3年次終了時点で卒業要件単位の90%以上を修得し、学科科目(専門科目)のG.P.A.が2.60以上の者。 ただし、上記の要件を満たす者が3年次から4年次にかけて協定校へ交換留学し、留学終了の次年度も在学を要する場合は、留学終了年度(4年次)での出願を認める。 選考方法:面接(書類審査を含む) 【注意】 第3年次の最終成績により、出願資格を満たさなかった者は不合格となります。
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ) *学生募集要項は、秋実施分は7月中旬頃、春実施分は11月中旬頃発行予定	

○教育人間科学研究科

教育学専攻 博士前期課程

特色	多様な教育問題を根源から解決していくため、誕生から臨終に至るライフサイクルを視野に入れつつ、実践的かつ理論的な研究を進めています。思想・歴史・理論の領域と臨床・実践・方法の領域の双方が提供するさまざまなアプローチを、現実に応じて協調的に生かす方法を探求します。	
学内進学	学内進学者選抜試験は実施していません。	
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ) *学生募集要項は、7月中旬頃発行予定	

心理学専攻(心理学コース・臨床心理学コース) 博士前期課程

特色	認知心理学や発達心理学など心理学の基礎分野から、実社会に密着した臨床心理学、産業心理学などまで、幅広い研究を通して人間に対する深い洞察力を養成していきます。 (本専攻の臨床心理学コースは財団法人臨床心理士資格認定協会の認定する第1種指定大学院です。臨床心理士の資格取得を目指す方は必ずこのコースに出願してください。)	
学内進学	試験時期:10月頃実施 *学生募集要項は、7月中旬頃発行予定 出願資格:本学文学部 来年3月卒業見込み者 ただし、心理学関連の科目について出願時までに32単位以上修得済みであること。	
	試験科目 [心理学コース]: ・論文読解(心理学関連の英語の論文) ・専門A(心理学に関する論述) ・専門B(心理学研究に関する基礎知識) ・面接	[臨床心理学コース]: ・論文読解(臨床心理学および心理学関連の英語の論文) ・専門A(臨床心理学および心理学に関する論述) ・専門C(臨床心理学および心理学研究に関する基礎知識) ・面接
一般入試	春実施(詳細は要問い合わせ) *学生募集要項は、7月中旬頃発行予定	

○経済学研究科

経済学専攻 博士前期課程

特色	21世紀における国内外の経済的諸問題の探求と解決を目指し、高度かつ総合的な経済学の専門能力を身につけた人材を育成します。	
学内進学	学内進学者選抜試験 (4年生対象)	試験時期：第1回 7月中旬頃実施 第2回 12月上旬頃実施 出願資格：本学経済学部、経営学部及び国際政治経済学部を来年3月卒業見込みの者 ただし前年度までの専門科目および第一外国語(英語必修科目、外国人留学生で第一外国語を日本語として申請している場合は、日本語必修科目)のG.P.A.がそれぞれ2.4以上であること。 試験科目：面接(詳細は要問い合わせ)
	大学院科目特別履修生試験 (3年生対象) ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。	試験時期：第1回 12月上旬頃実施 第2回 2月下旬頃実施 出願資格：本学経済学部第3年次に在学する者で、3年次終了時において、以下の要件を満たす見込みの者。 経済学部の卒業要件単位の90%以上を修得し、3年次までの専門科目のG.P.A.および第一外国語(英語必修科目、外国人留学生で第一外国語を日本語として申請している場合は、日本語必修科目)のG.P.A.がそれぞれ2.4以上でなければならない。 (注意)合格発表後、3年次終了時の成績が出願資格を満たすことができなかった場合、合格は取り消しとなります。 大学院に入学するためには、本専攻の入学試験を受験し、合格する必要があります。 試験科目：面接
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ) *学生募集要項は、秋実施分は7月中旬頃、春実施分は11月中旬頃発行予定	

公共・地域マネジメント専攻 博士前期課程

特色	経済学の知見のもと、新しい公共社会を実現するために、現代に即した経済システムをデザインし、政府や地域・コミュニティのマネジメントを提案していきます。	
学内進学	学内進学者選抜試験 (4年生対象)	試験時期：第1回 7月中旬頃実施 第2回 12月上旬頃実施 出願資格：本学学部を来年3月卒業見込みの者 ただし、前年度までのG.P.A.が2.4以上であること。 試験科目：面接(詳細は要問い合わせ)
	大学院科目特別履修生試験 (3年生対象) ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。	試験時期：第1回 12月上旬頃実施 第2回 2月下旬頃実施 出願資格：本学学部第3年次に在学する者 大学院に入学するためには、本専攻の入学試験を受験し、合格する必要があります。 試験科目：面接
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ) *学生募集要項は、秋実施分は7月中旬頃、春実施分は11月中旬頃発行予定	

○法学研究科

私法専攻 博士前期課程

公法専攻 博士前期課程

特色	私法専攻	社会生活、企業活動、マルチメディア化が進展するなかでの知的所有権など、私法における問題は国際化しています。こうした領域の法学的能力と確かな視点を育み、研究を深めていきます。	
	公法専攻	社会や時代に密接に関わる、憲法解釈、住民権と行政施策との関係といった公法の問題に、的確な判断と深い洞察で柔軟に対応できるよう、高い専門能力を身につけながら研究を進めていきます。	
学内進学	3種類の試験があります (詳細は要問い合わせ)	内部推薦入試 (本学法学部4年生対象)	試験時期：第1回 7月上旬頃実施 第2回 12月上旬頃実施 出願資格：本学法学部を来年3月卒業見込みの者 ただしG.P.A.(外国語および専門教育科目)が2.8以上の者 試験科目：書類審査、面接 すべて詳細は大学院事務室へ問い合わせること。
		外部推薦入試 (出身大学、出身学部問わず)	試験時期：第1回 7月上旬頃実施 第2回 12月上旬頃実施 出願資格：来年大学(本学あるいは本学法学部に限りません)を卒業見込みの者又は既に卒業した者。 試験科目：書類審査、面接 すべて詳細は大学院事務室へ問い合わせること。
		大学院科目特別履修資格試験 (3年生対象：12月実施) ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。 ※大学院に入学するためには入学試験に合格する必要があります。	出願資格：本学法学部3年次在籍学生で下記のすべてに該当すること。 ・法学部3年次終了時点で卒業要件単位の90%以上を修得見込みであり、かつそのG.P.A.が2.80以上であること。 ・3年次までに留年していないこと。ただし、留学による休学等やむをえない事情の場合はこの限りではない。 【注意】合格発表後に3年次終了時の成績が出願資格を満たさなかった場合には、合格は取り消しとなります。 試験科目： ・書類審査 ・口述試験
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ)	*学生募集要項は、7月中旬頃発行予定	

ビジネス法務専攻 修士課程

特色	ビジネス法務専攻は、ビジネスとリーガルのリテラシーを兼ね備えた人材の育成を目的とします。この専攻は、人事労務法務プログラム、知財法務プログラム、税法務プログラム、金融法務プログラムの4つにわかれ、それぞれが専任の教員のほかに実務に精通した兼任教員(弁護士、公認会計士、税理士や企業法務で長い経験をお持ちの方)が実務的な観点から指導を行います。		
学内進学	学内進学者選抜試験は実施しません。		
	大学院科目特別履修資格試験 (3年生対象：12月実施) ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。 ※大学院に入学するためには入学試験に合格する必要があります。	出願資格：本学法学部3年次在籍学生で下記のすべてに該当すること。 ・法学部3年次終了時点で卒業要件単位の90%以上を修得見込みであり、かつそのG.P.A.が2.80以上であること。 ・3年次までに留年していないこと。ただし、留学による休学等やむをえない事情の場合はこの限りではない。 【注意】合格発表後に3年次終了時の成績が出願資格を満たさなかった場合には、合格は取り消しとなります。 試験科目： ・書類審査 ・口述試験	
一般入試	実施(詳細は要問い合わせ)	*学生募集要項は、7月中旬頃発行予定	

○経営学研究科

経営学専攻 博士前期課程

特色	<p>情報技術の急速な発展とそれに伴う意思決定のスピードアップなど、現代の企業経営は多くの課題を抱えています。経営学研究科は、経営学部門、会計学部門、IMC 統合マーケティング部門という3部門によって構成され、企業経営の理論的、実証的研究を行うとともに、高度な専門知識・能力を持つ人材を育成します。</p>	
学内進学	<p>3種類の試験があります (詳細は要問い合わせ)</p> <p>学内進学学生選抜試験 (4年生対象： 第1回7月頃実施 第2回1月頃実施) *学生募集要項は、5月中旬頃発行予定</p> <p>学内飛び級入学試験 (3年生対象： 2・3月頃実施) *学部を3年終了時点で退学し大学院に入学するための試験です。 *学生募集要項は、11月中旬頃発行予定</p> <p>大学院科目特別履修生試験 (3年生対象： 2・3月頃実施) *学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。 *大学院に入学するためには下の入学試験に合格する必要があります。 *試験要項は、11月中旬頃発行予定</p> <p>学内入学試験 (大学院科目特別履修中の4年生対象：10月頃実施) *学生募集要項は、7月中旬頃発行予定</p>	<p>出願資格：本学経営学部及び経済学部を来年3月卒業見込みの者。ただしG.P.A.が2.4以上であること(卒業要件外科目は除く) 試験科目：小論文(入学後の研究領域に関する出題)、口述試験</p> <p>出願資格：本学経営学部第3年次に在学する者で、3年次終了時において、経営学部の卒業要件単位の90%以上を修得し、かつ第一外国語(英語必修科目)の要件単位を満たし、そのG.P.A.がそれぞれ3.0以上の者。(全体のG.P.A.が3.0以上で、かつ英語必修科目のG.P.A.が3.0以上) ただし、第一外国語(英語必修科目)については、第一外国語科目を日本語として申請している外国人留学生は第一外国語(日本語必修科目)とする。 (注1) 出願時において、上記の要件に該当する見込みであること。 (注2) 合格発表後、3年次終了時の成績が出願資格を満たすことができなかった場合、合格は取り消しとなる。 試験科目：口述試験(書類審査を含む)</p> <p>出願資格：本学経営学部第3年次に在学する者で、3年次終了時において、経営学部の卒業要件単位の90%以上を修得し、かつ第一外国語(英語必修科目)の要件単位を満たし、そのG.P.A.がそれぞれ2.6以上の者。(全体のG.P.A.が2.6以上で、かつ英語必修科目のG.P.A.が2.6以上) ただし、第一外国語(英語必修科目)については、第一外国語科目を日本語として申請している外国人留学生は第一外国語(日本語必修科目)とする。 (注1) 出願時において、上記の要件に該当する見込みであること。 (注2) 合格発表後、3年次終了時の成績が出願資格を満たすことができなかった場合、合格は取り消しとなる。 試験科目：口述試験(書類審査を含む)</p> <p>出願資格：本学経営学部第4年次に在学する経営学研究科大学院科目特別履修生で、来年3月卒業見込みの者。 試験科目：口述試験(書類審査を含む)</p>
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ)	*学生募集要項は、秋実施分は7月頃、春実施分は11月頃発行予定

○国際政治経済学研究科

国際政治学専攻 修士課程

国際経済学専攻 修士課程

国際コミュニケーション専攻 修士課程

特色	国際政治学専攻	ダイナミックに変動する国際政治経済の今日の事象について、学際的な解明に取り組んでいます。国際政治事象、安全保障や国際秩序に関する分析、地域経済圏に焦点を当てた地域研究などの分野があります。	
	国際経済学専攻	発展途上国における人口増加や貧困、自然破壊と資源の枯渇など、深刻化する国際経済問題を解決するための理論的、実践的分析力を身につけていきます。関連分野も含め、体系的に理解する研究者の養成を推進します。	
	国際コミュニケーション専攻	国際コミュニケーションに関するさまざまな事象について、1) コミュニケーション論、2) 言語学、3) 比較文化・地域文化論、の諸領域を3本の柱として、理論的、実践的に研究します。	
学内進学	3種類の試験があります (詳細は要問い合わせ)	学内進学者選抜試験 (4年生対象： 7・11月実施予定)	出願資格：国際政治経済学部第4年次在籍学生（国際経済学専攻は経済学部第4年次在籍学生を含む）で、下記のいずれかに該当する者。 ①本研究科科目特別履修試験に合格し、来年3月本学部卒業見込みの者。 ②第3年次終了時点で修得卒業要件単位のG.P.A.が2.50以上で、来年3月本学卒業見込みの者。 試験科目：①該当者…書類審査 ②該当者…口述試問（書類審査を含む）
		学内飛び級入試 (3年生対象： 3月実施予定)	出願資格：本学国際政治経済学部第3年次在籍学生で、下記のすべてに該当する者。 ①第3年次終了時点で卒業要件単位の90%以上を修得し、そのG.P.A.が2.5以上の者。 ②外国語要件単位を満たし、そのうち必修科目のG.P.A.が2.5以上の者。 試験科目：口述試問（書類審査を含む）
		大学院授業科目 特別履修資格試験 (3・4年生対象： 3月・9月実施)	(3年次3月実施予定分) 出願資格：国際政治経済学部3年次在籍学生で、下記のすべてに該当する者。但し、出願資格条件を満たすことができなかった者は、不合格となります。 ①本学部第3年次在籍学生で、第3年次終了時点で卒業要件単位の90%以上修得し、そのG.P.A.が2.50以上取得（見込）の者。 ②本学部外国語要件単位を満たし、そのうち必修科目のG.P.A.が2.50以上修得（見込）の者。 試験科目：口述試問（書類審査を含む） (4年次9月実施予定分) 出願資格：国際政治経済学部4年次在籍学生で、下記のすべてに該当する者。但し、出願資格条件を満たすことができなかった者は、不合格となります。 ①本学部第4年次在籍学生で、第4年次前期終了時点で卒業要件単位の90%以上修得し、そのG.P.A.が2.50以上取得（見込）の者。 ②本学部外国語要件単位を満たし、そのうち必修科目のG.P.A.が2.50以上修得（見込）の者。 試験科目：口述試問（書類審査を含む）
一般入試	秋・春実施（詳細は要問い合わせ）	*学生募集要項は、7月頃発行予定	

○総合文化政策学研究科

文化創造マネジメント専攻 修士課程

特色	文化芸術の創造並びにその事業化、企業・団体における文化政策の立案、文化産業のプロデュース等の分野で高度な専門性を発揮する人材を養成します。専門科目（政策マネジメント分野、都市・国際分野、メディア・アート分野）に加えて、自らが課題を設定し、その解決を図るプロジェクト演習を重視します。修業年限は、標準2年の他に3年制のコースも選べます。
学内選抜	試験時期：第1回 7月頃 第2回 10月頃 出願資格：本学学部を来年3月卒業見込みの者。ただし3年次までのG.P.A.が2.5以上であること。 試験科目：書類審査及び面接（希望する専門分野についての口述諮問を含む）
一般入試	秋・春実施（詳細は問い合わせ） *学生募集要項は、7月頃発行予定

総合文化政策学専攻 博士課程（5年一貫制）

特色	総合文化政策学は、文化に係わるさまざまな問題の発見と解決、文化や芸術の創造のための構想、政策やプロジェクトの立案と具体化の実際を系統的に明らかにするものであります。その分野において、研究者として自立して研究活動を行い、あるいは総合文化政策学と関係する学術分野において高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養います。
学内選抜	試験時期：第1回 7月頃 第2回 10月頃 出願資格：本学学部を来年3月卒業見込みの者。ただし3年次までのG.P.A.が2.5以上であること。 試験科目：書類審査及び面接（希望する専門分野についての口述諮問を含む）
一般入試	秋・春実施（詳細は要問い合わせ） *学生募集要項は、7月頃発行予定

○理工学研究科

理工学専攻 博士前期課程

特色	基礎科学コース	数理科学、理論物理学、宇宙物理学、原子・分子物理学の分野を中心とし、複雑系など新分野へも視野を広げています。また、専門分野の研究を通じて、さまざまな問題に対するモデル構築能力および問題解決能力を涵養します。
	化学コース	物理化学、有機化学、無機分析化学の3分野で構成されています。個々の分子から生体機能などの種々の機能性を示す組織系に至るまでの幅広い分子系を対象にして、化学本来の視点から研究を遂行し、幅広く底深い化学的素養を身につけた学生を育てます。
	機能物質創成コース	新機能を持つ物質の創成を中心に、物質設計やデバイス作製等の応用も視野に入れた総合的な研究を行うことを目的としています。物性物理学、固体化学、物質科学、薄膜工学、電気物性工学、表面科学等のいずれかを基礎におきつつ、分野を横断した幅広い知識に精通した、最先端の物質科学を行う人材を育成します。
	生命科学コース	生命科学の共通基盤となる生化学、分子生物学、細胞生物学、生物物理学の知識を身につけ、これらを応用したバイオテクノロジーやバイオインフォマティクスなどの新しい分野について学ぶとともに、既存学問分野の枠を超えた方法論を駆使して、生命現象を担う分子の構造、機能、および調節機能を研究します。
	電気電子工学コース	回路系から情報通信系、物性系まで広い研究分野の研究室がそれぞれ大学院生を受け入れています。技術者、研究者を目指す者として、現代社会の基盤を支えるエネルギー分野、計測・制御分野、情報・通信分野、電子デバイス分野、材料・物性分野、またそれらの関連分野を対象に学習、研究を進めています。研究指導を重視し、それらを通して自ら考える能力、発見能力、問題解決能力の育成に努めます。
	機械創造コース	本コースは、人類の福祉と持続的発展に役立ち、優れた機能を持つ機器やシステムを創造する研究者を養成します。すなわち、エネルギー・環境・安全・倫理に対する広い視野を持ち、ものの形や機構と力学的作用を深く理解させる教育・研究を行います。さらに、機械に代表されるハードと知能に代表されるソフトとの融合を図り、進んだ情報処理能力、高度な計測技術と解析技術を修得させ、研究指導を通じて総合力を養い、自ら問題発掘と解決のできる学生を育てます。

	知能情報コース	知識処理・ヒューマンインタフェース・ネットワークをキーワードに工学専門領域からビジネスまで広範囲に勉強・研究します。各領域で世界をリードする研究を行い、理系出身者が専門知識を高める専門フロンティアプログラム、また最新のネットワーク技術でビジネス開拓を目指すなど文系出身者を受け入れる複合フロンティアプログラムがあります。
	マネジメントテクノロジーコース	製品ライフサイクル、生産システム、サプライチェーン、環境経営、経営管理などの領域について、情報技術、OR・統計、IEの観点に立ったそれらのマネジメントに必要な概念・方法論・システムの構築とその運用を学びます。
	<p>本学部に在籍の卒業見込み者で、本理工学専攻への進学を第一志望とする者は、「学内進学」入試を受けることができます。この「学内進学」入試は、4年生の前期において、</p> <p>(1) 学科での被推薦資格の認定</p> <p>(2) 各コースでの入学候補者の内定の2段階のステップを踏んで行われます。</p> <p>ステップ(1)では、各学科において、次の「A」または「B」を満たしたものを被推薦資格者として認定します。</p> <p>「A」：3年次終了時(卒業見込者となった時)における成績順位(全科目のG.P.A.または専門科目のG.P.A.による順位)で上位1/2以上であるもの</p> <p>「B」：各学科が定めた独自の推薦基準(実力試験など)を満たしたもの</p> <p>ステップ(2)では、被推薦資格者が希望する指導教員の面接を受けたうえで入学の申請を行い、各コースが審議の上、入学候補者を内定します。</p> <p>各学科が定める独自の推薦基準(上記「B」)を以下に示します。(2010年度参考)</p>	
学内進学	物理学科、 物理・数理学科	物理・数理学科で実施する実力試験において、上位3分の1以内の成績を取めた者。
	化学科、 化学・生命科学科	前記のステップ(1)におけるAの推薦基準に満たない者に対して専門科目に関する実力試験(4月中旬)を課し、一定の合格基準に達した者を被推薦資格者として認定します。ただし、全科目および専門科目のG.P.Aが2.0に達しない者は受験することはできません。
	電気電子工学科	2009年11月に電気電子工学科で実施した学力試験の得点が基準点以上であること。基準点を満たした者は4月上旬に公表します。
	機械創造工学科	機械創造工学科で実施する実力試験で満点の6割以上の成績を取めた者。または、技術士第一次試験合格者。
	経営システム工学科	経営システム工学科で実施する実力試験の結果、大学院推薦レベルに該当する成績を取めた者。または、技術士第一次試験合格者。
	情報テクノロジー学科	2010年2月中旬に行った実力試験で大学院推薦レベルの得点を得た者。
一般入試	<p>一般入試には、「7月入試」と「9月入試」があり、特に「7月入試」については理工学部以外の学部出身者でも受験しやすい内容となっております。ただし、「7月入試」は本学理工学部在籍する学生は、出願できません。</p> <p>7月入試 選考内容(「書類審査」「小論文」および「口述試問」)</p> <p>9月入試 選考内容(「書類審査」「数学」「英語」および「口述試問」)</p> <p>(詳細は要問い合わせ) *学生募集要項は、4月上旬に発行予定。</p>	

○社会情報学研究科

社会情報学専攻 社会情報学コース

社会情報学専攻 ヒューマンイノベーションコース

特色	社会情報学コース	社会情報学は、社会科学と情報科学の融合と、それにより従来の文系、理系の枠に捉われない極めて多角的な視点から現代社会の問題点をえぐり、その問題解決を自らが図れる高度な人材を養成することを目指しています。このような能力は、現代の輻輳した社会において、ファイナンス関連、経済や地域政策関連、情報システム関連等、あらゆる分野で活躍しようとする人々にとって必要不可欠なものです。経営・経済概念の精深な理解、社会活動、経済活動の優れた分析（データ分析や社会調査等）能力、人や社会を考える上で必要となる心理や教育に関する基盤の修得、数量的なものに限らず質的な情報の処理能力、数理的な基盤、情報を高度に利用するための基盤や、情報システム構築のための幅広い素養を身につけた人材を養成します。
	ヒューマンイノベーションコース	『教育機関、公益・非営利団体、企業法人において、「組織学習アプローチ」による知的創造環境（仕組み）のデザイナーおよびプロデューサ』の養成をめざします。人材養成の特色としては、新たに提唱する「真の実践力を生み出す学習学」を教育の根幹に据え、それをベースとして、構想学、知性創発学、組織イノベーションを融合した教育を実現します。そして、とりわけ社会ニーズの高い、教育機関における学習環境デザイナーおよびプロデューサ、公益・非営利団体におけるコミュニティデザイナーおよびプロデューサや、企業法人における革新組織デザイナーおよびプロデューサとなるための履修モデルを設けます。
学内進学	出願資格：本学学部卒業見込みの者。 ただし、大学における3年次までの全取得科目のG.P.A. が2.4以上でなければならない。 試験科目：書類審査及び面接	
一般入試	秋・春実施（詳細は要問い合わせ） *学生募集要項は、7月頃発行予定	

○国際マネジメント研究科

国際マネジメントサイエンス専攻 博士課程（5年一貫制）

特色	創造性豊かな優れた学術研究者の育成を目指す「学術理論研究志向」のPh.D.（博士：国際経営学）プログラムと、企業等で専門性が要求される研究課題に取り組む研究者を養成する「実践的研究志向」のDBA（博士：経営管理）プログラムから構成されています。
学内進学	学内進学入試は実施していないので、一般の入試を受験してください。
一般入試	10月・2月実施（2009年度実績）

○国際マネジメント研究科（専門職大学院）

国際マネジメント専攻

特色	国際社会のより豊かな未来を切り拓いていくために、高い倫理観と国際的視野を身につけた企業家精神に富む人材を育成することをミッションとして掲げています。これを達成するために「自ら考え、分析し、意志決定の行える経営プロフェッショナル」を育成する教育プログラムを開発し、絶え間ない改善努力を続けています。
学内進学	学内進学入試は実施していないので、一般の入試を受験してください。
一般入試	10月・1月・2月実施（2009年度実績）

○法務研究科（専門職大学院）

法務専攻

特色	キリスト教理念に基づく豊かな人間性や法曹としての倫理意識の涵養と、専門的な法知識の確実な修得を基盤として、批判的・創造的な思考力と法的な分析・議論能力を養成し、国際的視野をもって社会的責任を果たすことができる法曹を育成しています。
学内進学	学内進学入試は実施していないので、一般の入試を受験してください。
一般入試	秋実施（2009年度実績） *学生募集要項は、6月下旬発行予定

○会計プロフェッション研究科（専門職大学院）

会計プロフェッション専攻

特色	青山学院の教育理念に基づいた高度な職業倫理性と国際感覚に優れた会計プロフェッション育成を目指しています。質の高い独自のカリキュラムにより、社会的要求に応えられる幅広い人材育成を実践します。
学内進学	学内進学入試は実施していないので、一般又は自己推薦の入試を受験してください。
一般入試	10月実施（2009年度実績）
自己推薦入試	7月・1月・2月実施（2009年度実績）

XII. 大学組織概要

1. 大学役員

院長代行	半田 正夫
学長	伊藤 定良
副学長	長谷川 信
副学長	岡田 昌志
副学長	土山 實男
文学部長	西澤 文昭
教育人間科学部長	池田 稔
経済学部長	米澤 義衛
法学部長	菊池 純一
経営学部長	田中 正郎
国際政治経済学部長	仙波 憲一
総合文化政策学部長	杉浦 勢之
理工学部長	林 洋一
社会情報学部長	稲積 宏誠

2. 教育・研究組織

学部・学科



3. 教員組織

文学部

<准教授>

シュー土戸 ポール

(シューツトド ポール)

英米文学科

<教授>

ダブズ (DABBS, T.W.)

パウンズ (POUNDS, W.E.)

ロビンソン (ROBINSON, P.J.)

ストロング (STRONG, G.B.)

アレン玉井 光江 (アレントマイ ミツエ)

小野寺 典子 (オノデラ ノリコ)

折島 正司 (オリシマ マサシ)

木村 松雄 (キムラ マツオ)

坂口 周作 (サカグチ シュウサク)

佐久間 康夫 (サクマ ヤスオ)

佐藤 紀子 (サトウ ノリコ)

佐野 弘子 (サノ ヒロコ)

高田 賢一 (タカダ ケンイチ)

武内 信一 (タケウチ シンイチ)

伊達 直之 (イダ ナオユキ)

田中 啓史 (タナカ ケイシ)

外池 滋生 (トノイケ シゲオ)

外岡 尚美 (トノオカ ナオミ)

富山 太佳夫 (トミヤマ タカオ)

中澤 和夫 (ナカザワ カズオ)

中野 康司 (ナカノ コウジ)

野邊 修一 (ノベ シュウイチ)

福田 敬子 (フクダ タカコ)

山内 一芳 (ヤマノウチ カズヨシ)

吉波 弘 (ヨシバ ヒロシ)

<准教授>

ディアス (DIAS, J.V.)

マクレディ (McCREADY, E.S., JR.)

麻生 えりか (アソウ エリカ)

稲生 衣代 (イノウ キヌヨ)

大川 道代 (オオカワ ミチヨ)

西本 あづさ (ニシモト アツサ)

横谷 輝男 (ヨコタニ テルオ)

若林 麻希子 (ワカバヤシ マキコ)

フランス文学科

<教授>

ドルヌ (DHORNE, F.)

秋山 伸子 (アキヤマ ノブコ)

荒木 善太 (アラキ センタ)

尾形 こづえ (オガタ コヅエ)

露崎 俊和 (ツユザキ トシカズ)

鳥居 正文 (トリイ マサフミ)

西澤 文昭 (ニシザワ フミアキ)

西村 哲一 (ニシムラ テツイチ)

<准教授>

デグランジュ (DESRANGES, G.)

ルクレール (LECLERCQ, A.)

阿部 崇 (アベ タカシ)

井田 尚 (イダ ヒサシ)

久保田 剛史 (クボタ タケシ)

濱野 耕一郎 (ハマノ コウイチロウ)

和田 恵里 (ワダ エリ)

日本文学科

<教授>

大上 正美 (オオガミ マサミ)

小川 靖彦 (オガワ ヤスヒコ)

片山 宏行 (カタヤマ ヒロユキ)

近藤 泰弘 (コンドウ ヤスヒロ)

佐伯 眞一 (サエキ シンイチ)

佐藤 泉 (サトウ イズミ)

篠原 進 (シノハラ ススム)

高田 祐彦 (タカダ ヒロヒコ)

日置 俊次 (ヒオキ シュンジ)

土方 洋一 (ヒジカタ ヨウイチ)

廣木 一人 (ヒロキ カズヒト)

矢島 泉 (ヤジマ イズミ)

安田 尚道 (ヤスタ ナオミチ)

山下 喜代 (ヤマシタ キヨ)

<准教授>

大屋 多詠子 (オオヤ タエコ)

史学科

<教授>

青木 敦 (アオキ アツシ)

浅井 和春 (アサイ カズハル)

飯島 渉 (イジマ ワタル)

伊藤 定良 (イトウ サダヨシ)

岩田 みゆき (イワタ ミユキ)

小名 康之 (オナ ヤスユキ)

北村 優季 (キタムラ マサキ)

小林 和幸 (コバヤシ カズユキ)

阪本 浩 (サカモト ヒロシ)

清水 信行 (シミズ ノブユキ)

高橋 達史 (タカハシ タツシ)

手塚 直樹 (テツカ ナオキ)

那須 輝彦 (ナス テルヒコ)

平田 雅博 (ヒラタ マサヒロ)

藤原 良章 (フジワラ ヨシアキ)

松尾 精文 (マツオ キョフミ)

三嶋 輝夫 (シマ テルオ)

安村 直己 (ヤスムラ ナオキ)

渡辺 節夫 (ワタナベ セツオ)

教育人間科学部

<教授>

伊藤 悟 (イトウ サトル)

緒方 孝文 (オガタ タカフミ)

<准教授>

高木 亜希子 (タカギ アキコ)

山本 史歩子 (ヤマモト シホコ)

<助教>

北村 哲 (キタムラ テツ)

高島 瑠依 (タカバタケ ルイ)

教育学科

<教授>

池田 稔 (イケダ ミノル)

井上 直子 (イノウエ ナオコ)

今井 重孝 (イマイ シゲタカ)

大森 秀子 (オオモリ ヒデコ)

小田 光宏 (オダ ミツヒロ)

川崎 仁志 (カワサキ ヒトシ)

河本 洋子 (カワモト ヨウコ)

北本 正章 (キタモト マサアキ)

小林 紀子 (コバヤシ トシコ)

小森 茂 (コモリ シゲル)

酒井 豊 (サカイ ユタカ)

庄司 順一 (ショウジ ジュンイチ)

鈴木 宏昭 (スズキ ヒロアキ)

鈴木 眞理 (スズキ マコト)

早坂 方志 (ハヤサカ マサシ)

樋田 大二郎 (ヒダ ダイジロウ)

古荘 純一 (フルシヨウ ジュンイチ)

柳田 雅明 (ヤナギダ マサアキ)

横山 徹 (ヨコヤマ トオル)

<特任教授>

藏元 幸二 (クラモト コウジ)

長嶋 清 (ナガシマ キヨシ)

野口 芳宣 (ノグチ ヨシノリ)

<准教授>

杉谷 祐美子 (スギタニ ユミコ)

野末 俊比古 (ノズエ トシヒコ)

藤田 幹夫 (フジタ ミキオ)

安井 年文 (ヤスイ トシフミ)

吉仲 淳 (ヨシナカ アツシ)

<助教>

佐々木 竜太 (ササキ リュウタ)

心理学科

<教授>

入不二 基義 (イリフジ モトヨシ)

遠藤 健治 (エンドウ ケンジ)

北村 文昭 (キタムラ フミアキ)

重野 純 (シゲノ スミ)

平山 栄治 (ヒラヤマ エイジ)

丸山 千秋 (マルヤマ チアキ)

山根 律子 (ヤマネ リツコ)

<准教授>

小俣 和義 (オマタ カズヨシ)

坂上 裕子 (サカガミ ヒロコ)

繁樹 江里 (シゲマス エリ)

薬師神 玲子 (ヤクシジン レイコ)

経済学部

<教授>

遠藤 光暁(エンドウ ミツアキ)
大島 力(オオシマ チカラ)
小張 敬之(オバリ ヒロユキ)
金田 由紀子(カネダ ユキコ)
黒沼 健(クロヌマ タケン)
三條 和博(サンジョウ カズヒロ)
玉木 隆敏(タマキ タカトシ)
橋本 清一(ハシモト セイイチ)
堀 真理子(ホリ マリコ)

<准教授>

メニッシュ(MENISH, M.C.)

<助教>

北村 紘(キタムラ ヒロシ)

経済学科

<教授>

石井 信之(イシイ ノブユキ)
後藤 文廣(ゴトウ フミヒロ)
白井 邦彦(シライ クニヒコ)
白須 洋子(シラス ヨウコ)
芹田 敏夫(セリタ トシオ)
田付 茉莉子(タツキ マリコ)
中込 正樹(ナカゴメ マサキ)
中澤 進一(ナカザワ シンイチ)
中村 まづる(ナカムラ マヅル)
成田 淳司(ナリタ ジュンジ)
馬場 弓子(ババ ユミコ)
平出 尚道(ヒライデ ナオミチ)
平澤 典男(ヒラサワ ノリオ)
本郷 茂(ホンゴウ シゲル)
本間 照光(ホンマ テルミツ)
松尾 孝一(マツオ コウイチ)
松下 正弘(マツシタ マサヒロ)
矢吹 初(ヤブキ ハジメ)
美添 泰人(ヨシゾエ ヤスト)
米澤 義衛(ヨネザワ ヨシエ)

<准教授>

高嶋 修一(タカシマ シュウイチ)
松本 茂(マツモト シゲル)
水上 英貴(ミズカミ ヒデキ)

<助教>

今 喜史(イマ ヨシフミ)

現代経済デザイン学科

<教授>

井上 孝(イノウエ タカシ)
須田 昌弥(スダ マサヤ)
高橋 重雄(タカハシ シゲオ)
高橋 朋一(タカハシ トモカズ)
中川 辰洋(ナカガワ タツヒロ)
藤村 学(フジムラ マナブ)
堀場 勇夫(ホリバ イサオ)
宮原 勝一(ミヤハラ ショウイチ)

<准教授>

西川 雅史(ニシカワ マサシ)

吉岡 祐次(ヨシオカ ユウジ)

法学部

<教授>

ギブンズ(GIVENS, S.B.)
芦原 貞雄(アシハラ サダオ)
石井 光(イシイ アキラ)
大石 泰彦(オオishi ヤスヒコ)
小蘭 康範(オノノ ヤスノリ)
菊池 純一(キクチ ジュンイチ)
許 末恵(キョ スエ)
久保 茂樹(クボ シゲキ)
酒井 安行(サカイ ヤスユキ)
佐々木 高雄(ササキ タカオ)
申 恵丰(シン ヘボン)
住吉 雅美(スミヨシ マサミ)
関 英昭(セキ ヒデアキ)
藁 豊(グアイ ユタカ)
チェン・ポール(チェン・ポール)
手塚 和彰(テツカ カズアキ)
土橋 正(ドバシ タダシ)
中村 芳昭(ナカムラ ヨシアキ)
夏目 博明(ナツメ ヒロアキ)
西澤 宗英(ニシザワ ムネヒデ)
原口 健司(ハラグチ ケンジ)
廣瀬 久和(ヒロセ ヒサカズ)
藤川 久昭(フジカワ ヒサアキ)
松川 実(マツカワ ミノル)
三木 義一(ミキ ヨシカズ)
山崎 敏彦(ヤマザキ トシヒコ)(法務研究科兼任)
山田 央子(ヤマダ エイコ)

<准教授>

フクダ(FUKUDA, S.E.)
メニム(MENNIM, P.)
安藤 泰子(アンドウ タイコ)
大沢 光(オオサワ ヒカル)
大山 和寿(オオヤマ カズトシ)
塩谷 直也(シオタニ ナオヤ)
室住 信子(ムロズミ ノブコ)
安見 ゆかり(ヤスミ ユカリ)

<専任講師>

伊藤 敬也(イトウ タカヤ)

<助教>

赤間 聡(アカマ サトシ)
楊 林凱(ヨウ リンカイ)
<客員教授>
宇佐美 洋(ウサミ ヒロシ)

<特別任用教授>

小林 一郎(コバヤシ イチロウ)

経営学部

経営学科

<教授>

荒木 万寿夫(アラキ マスオ)
戒野 敏浩(カイノ トシヒロ)
亀坂 安紀子(カメサカ アキコ)
五味 慎太郎(ゴミ シンタロウ)
佐藤 靖(サトウ オサム)
塩澤 友規(シオザワ トモキ)
杉山 学(スギヤマ マナブ)
高橋 邦丸(タカハシ クニマル)
竹田 賢(タケダ ケン)
玉木 欽也(タマキ キンヤ)
寺東 寛治(テラトウ カンジ)
東海 幹夫(トウカイ ミキオ)
西村 優子(ニシムラ ユウコ)
長谷川 信(ハセガワ シン)
林 伸二(ハヤシ シンジ)
安田 洋史(ヤスタ ヒロシ)
山本 寛(ヤマモト ヒロシ)
尹 志煌(ユン シコウ)
吉田 猛(ヨシダ タケン)

<准教授>

楠 由記子(クス ユキコ)
高松 朋史(タカマツ トモフミ)
竹内 規彦(タケウチ ノリヒコ)
立石 義明(タテishi ヨシアキ)
矢澤 憲一(ヤザワ ケンイチ)
矢内 一利(ヤナイ カズトシ)
山下 勝(ヤマシタ マサル)

マーケティング学科

<教授>

岩田 伸人(イワタ ノブト)
鹿島 浩之(カシマ ヒロユキ)
加藤 篤史(カトウ アツシ)
小林 保彦(コバヤシ ヤスヒコ)
佐川 和茂(サガワ カズシゲ)
佐藤 亨(サトウ トオル)
宋 連玉(ソン ヨンオク)
田中 正郎(タナカ マサオ)
芳賀 康浩(ハガ ヤスヒロ)
三村 優美子(ミムラ ユミコ)
森川 信男(モリガワ ノブオ)

<准教授>

ダッフ(DUFF, B.R.)
東 伸一(アズマ ノブカズ)
大道 千穂(オオミチ チホ)
島田 淳二(シマダ ジュンジ)
高砂 民宣(タカサゴ タミノブ)
土橋 治子(ツチハシ ハルコ)
當間 麗(トウマ ウララ)
永井 忠孝(ナガイ タダタカ)
宮崎 純一(ミヤザキ ジュンイチ)

<助教>

理 工 学 部

<教授>

蔭山 友行 (カゲヤマ トモユキ)
加島 健 (カシマ タケシ)
川口 悦 (カワグチ エツ)
瀧本 将弘 (タキモト マサヒロ)
中園 嘉巳 (ナカゾノ ヨシミ)
中村 功 (ナカムラ イサオ)

<准教授>

ペイゲル (PAGEL, J.W.)
リーディ (REEDY, D.W.)
谷口 裕子 (タニグチ ユウコ)

物理・数理学科

<教授>

秋光 純 (アキミツ ジュン)
久保 健 (クボ ケン)
薩摩 順吉 (サツマ ジュンキチ)
柴田 徹 (シバタ トオル)
高野 恭一 (タカノ キョウイチ)
中山 裕道 (ナカヤマ ヒロミチ)
西尾 泉 (ニシオ イズミ)
西山 享 (ニシヤマ キョウ)
古川 信夫 (フルカワ ノブオ)
松川 宏 (マツカワ ヒロシ)
吉田 篤正 (ヨシダ アツマサ)

<准教授>

北野 晴久 (キタノ ハルヒサ)
谷口 健二 (タニグチ ケンジ)
前田 はるか (マエダ ハルカ)
増田 哲 (マズダ テツ)
三井 敏之 (ミツイ トシユキ)
山崎 了 (ヤマザキ リョウ)

<助教>

磯島 伸 (イソジマ シン)
大槻 道夫 (オオツキ ミチオ)
小林 夏野 (コバヤシ カヤ)
榊 直人 (サカキ ナオト)
鈴木 正 (スズキ セイ)
高峰 愛子 (タカミネ アイコ)
藤井 康裕 (フジイ ヤスヒロ)
村田 実貴生 (ムラタ ミキオ)
村中 隆弘 (ムラナカ タカヒロ)
山岡 和貴 (ヤマオカ カズタカ)

<理工学部講師>

青木 和巳 (アオキ カズミ)

化学・生命科学科

<教授>

木村 純二 (キムラ ジュンジ)
小林 迪夫 (コバヤシ ミチオ)
重里 有三 (シゲサト ユウゾウ)
杉村 秀幸 (スギムラ ヒデオキ)
鈴木 正 (スズキ タダシ)
武内 亮 (タケウチ リョウ)
田代 朋子 (タシロ トモコ)

福岡 伸一 (フクオカ シンイチ)

<准教授>

阿部 二郎 (アベ ジロウ)
阿部 文快 (アベ フミヨシ)
中田 恭子 (ナカダ キョウコ)
長谷川 美貴 (ハセガワ ミキ)

<助教>

岡 伸人 (オカ ノブト)
小野寺 玄 (オノデラ ゲン)
木本 篤志 (キモト アツシ)
高橋 勇雄 (タカハシ イサオ)
辻本 恭 (ツジモト タカシ)
根岸 隆之 (ネギシ タカユキ)
福井 博喜 (フクイ ヒロキ)
優 乙石 (ユウ イッセキ)

<理工学部講師>

稲吉 倫子 (イナヨシ トモコ)
<助手>
磯崎 輔 (イソザキ タスク)
川島 麗 (カワシマ レイ)

電気電子工学科

<教授>

井出 英人 (イデ ヒデト)
澤邊 厚仁 (サワベ アツヒト)
地主 創 (ジヌシ ハジメ)
中田 時夫 (ナカダ トキオ)
永田 勇二郎 (ナガタ ユウジロウ)
橋本 修 (ハシモト オサム)
林 洋一 (ハヤシ ヨウイチ)

<准教授>

外林 秀之 (ソトバヤシ ヒデオキ)
春山 純志 (ハルヤマ ジュンジ)
松谷 康之 (マツヤ ヤスユキ)
米山 淳 (ヨネヤマ ジュン)

<助教>

名取 賢二 (ナトリ ケンジ)
水崎 壮一郎 (ミズサキ ソウイチロウ)
渡邊 慎也 (ワタナベ シンヤ)

<助手>

浅野 裕俊 (アサノ ヒロトシ)
井岡 恵理 (イオカ エリ)
今村 薫 (イマムラ カオル)
内田 ゆず (ウチダ ユズ)
風間 保裕 (カザマ ヤスヒロ)
児玉 英之 (コグマ ヒデオキ)
三瀬 貴寛 (ミセ タカヒロ)

機械創造工学科

<教授>

大石 進 (オオイシ ススム)
岡田 昌志 (オカダ マサシ)
小川 武史 (オガワ タケシ)
小林 信之 (コバヤシ ノブユキ)
林 光一 (ハヤシ コウイチ)
横田 和彦 (ヨコタ カズヒコ)
渡邊 昌宏 (ワタナベ マサヒロ)

<准教授>

長 秀雄 (チョウ ヒデオ)
米山 聡 (ヨネヤマ サトル)

<助教>

浅岡 龍徳 (アサオカ タツノリ)
菅原 佳城 (スガワラ ヨシキ)
橋本 宣慶 (ハシモト ノブヨシ)
原 謙介 (ハラ ケンスケ)
藤松 信義 (フジマツ ノブヨシ)
松尾 卓摩 (マツオ タクマ)
山田 英助 (ヤマダ エイスケ)

<助手>

有川 秀一 (アリカワ シュウイチ)
金田 忍 (カナダ シノブ)

経営システム工学科

<教授>

天坂 格郎 (アマサカ カクロウ)
石津 昌平 (イシズ ショウヘイ)
熊谷 敏 (クマガイ ヒサシ)
田部 勉 (タベ ツトム)

<准教授>

大内 紀知 (オウチ ノリトモ)
宋 少秋 (ソン ショウシュウ)
日吉 久礎 (ヒヨシ ヒサモト)
松本 俊之 (マツモト トシユキ)

<助教>

永井 義満 (ナガイ ヨシミツ)
松浦 峻 (マツウラ シュン)

<理工学部講師>

安瀬 美知子 (アンセ ミチコ)
<助手>

梶山 朋子 (カジヤマ トモコ)
金子 雅明 (カネコ マサアキ)
繁住 健哉 (シゲズミ タケヤ)
中田 洋平 (ナカダ ヨウヘイ)
早坂 弘達 (ハヤサカ ヒロタツ)

情報テクノロジー学科

<教授>

テュールスト (DUERST, M.J.)
小宮山 撰 (コミヤマ セツ)
佐久田 博司 (サクタ ヒロシ)
原田 実 (ハラダ ミノル)
馬渡 鎮夫 (マワタリ シズオ)
水澤 純一 (ミズサワ ジュンイチ)

<准教授>

大原 剛三 (オオハラ コウゾウ)
山口 博明 (ヤマグチ ヒロアキ)
<助教>

河上 篤史 (カワカミ アツシ)
狐崎 直文 (キツネザキ ナオフミ)
藤本 悠 (フジモト ユウ)
松田 源立 (マツダ ヨシタツ)
武藤 剛 (ムトウ タケシ)
矢吹 太朗 (ヤブキ タロウ)

<助手>

斉藤 友彦(サイトウ トモヒコ)
松原 俊一(マツバラ シュンイチ)

国際政治経済学部

<教授>

嶋田 順好(シマダ マサヨシ)

国際政治学科

<教授>

押村 高(オシムラ タカシ)
菊池 努(キクチ ツトム)
小島 敏郎(コジマ トシロウ)
高木 誠一郎(タカギ セイイチロウ)
土山 實男(ツチヤマ ジツオ)
中山 俊宏(ナカヤマ トシヒロ)
納家 政嗣(ナヤ マサツグ)
袴田 茂樹(ハカマダ シゲキ)
羽場 久美子(ハバ クミコ)
山本 吉宣(ヤマモト ヨシノブ)

<准教授>

青井 千由紀(アオイ チユキ)
阿部 達也(アベ タツヤ)
倉松 中(クラマツ タダシ)
武田 興欣(タケダ オキヨシ)

<助教>

和田 洋典(ワダ ヒロノリ)

国際経済学科

<教授>

内田 達也(ウチダ タツヤ)
大野 昭彦(オノ アキヒコ)
岡村 稔(オカムラ ミノル)
木村 光彦(キムラ ミツヒコ)
仙波 憲一(センバ ケンイチ)
中川 浩宣(ナカガワ ヒロノブ)
本田 重美(ホンダ シゲミ)
港 徹雄(ミナト テツオ)

<准教授>

飯坂 ひとみ(イザカ ヒトミ)
内山 義英(ウチヤマ ヨシヒデ)
竹田 憲史(タケタ ケンシ)
友原 章典(トモハラ アキノリ)

<専任講師>

瀬尾 佳美(セオ カミ)

国際コミュニケーション学科

<教授>

エバノフ (EVANOFF, R.J.)
ポダルク (PODALKO, P.)
井川 肇(イカワ ハジメ)
井出 静(イデ シズカ)
大久保 典子(オオクボ ミチコ)
抱井 尚子(カカイ ヒサコ)
狩野 良規(カノウ ヨシキ)
末田 清子(スエダ キヨコ)
田辺 正美(タナベ マサミ)
林 世景(リン セイケイ)
渡邊 千秋(ワタナベ チアキ)

<准教授>

幸地 茂(コウチ シゲル)

國分 俊宏(コクフ トシヒロ)

猿橋 順子(サルハシ ジュンコ)

田崎 勝也(タサキ カツヤ)

総合文化政策学部

<教授>

井口 典夫(イグチ ノリオ)
石崎 晴己(イシザキ ハルミ)
内山 隆(ウチヤマ タカシ)
梅津 順一(ウメツ ジュンイチ)
大島 正嗣(オオシマ マサツグ)
岡 真理子(オカ マリコ)
岡部 篤行(オカベ アツユキ)
懸田 豊(カケダ ユタカ)
黒石 いずみ(クロシ イズミ)
茂 牧人(シゲル マキト)
杉浦 勢之(スギウラ セイシ)
鈴木 博之(スズキ ヒロユキ)
東方 敬信(トウボウ ヨシノブ)
鳥越 けい子(トリゴエ ケイコ)
堀内 正博(ホリウチ マサヒロ)
真鍋 一史(マナベ カズフミ)

<准教授>

沖本 幸子(オキモト ユキコ)
関根 小織(セキネ サオリ)
竹内 孝宏(タケウチ タカヒロ)
中野 昌宏(ナカノ マサヒロ)
宮澤 淳一(ミヤザワ ジュンイチ)
矢野 晋吾(ヤノ シンゴ)

<助教>

福田 大輔(フクダ ダイスケ)

社会情報学部

<准教授>

大宮 謙 (オオミヤ ケン)

<助教>

阿部 慶賀 (アベ ケイガ)

社会情報学科

<教授>

飯島 泰裕 (イジマ ヤスヒロ)

石田 博之 (イシダ ヒロユキ)

稲積 宏誠 (イナヅミ ヒロシゲ)

岩井 千尋 (イワイ チヒロ)

魚住 清彦 (ウオズミ キヨヒコ)

苅宿 俊文 (カリヤド トシブミ)

小池 和彦 (コイケ カズヒコ)

佐伯 胖 (サエキ ユタカ)

清水 康司 (シミズ ヤスシ)

高木 光太郎 (タカギ コウタロウ)

長橋 透 (ナガハシ トオル)

開澤 栄相 (ヒラキザワ エイスケ)

福田 亘孝 (フクダ ノブタカ)

増永 良文 (マズナガ ヨシフミ)

宮川 裕之 (ミヤガワ ヒロユキ)

村川 久子 (ムラカワ ヒサコ)

矢野 公一 (ヤノ コウイチ)

<准教授>

ランバッカー (LAMBACHER, S.G.)

伊藤 一成 (イトウ カズナリ)

清成 透子 (キヨナリ トオコ)

寺尾 敦 (テラオ アツシ)

伏屋 広隆 (フシヤ ヒロタカ)

宮治 裕 (ミヤジ ユタカ)

<助教>

遠藤 俊典 (エンドウ トシノリ)

学内兼任

総合文化政策学研究所

<特任教授>

青木 保 (アオキ タモツ)

国際マネジメント研究科

<教授>

岩井 千明 (イワイ チアキ)

榊原 正幸 (サカキバラ マサユキ)

武田 澄広 (タケダ スミヒロ)

中里 宗敬 (ナカサト ムネノリ)

西谷 幸介 (ニシタニ コウスケ)

法務研究科 法務専攻

<教授>

レンツ (LENZ, K.F.)

芹沢 斉 (セリザワ ヒトシ)

新倉 修 (ニクラ オサム)

山崎 敏彦 (ヤマザキ トシヒコ)

<客員教授>

永井 均 (ナガイ ヒトシ)

会計プロフェッション研究科

<教授>

唐沢 昌敬 (カラサワ マサタカ)

鈴木 豊 (スズキ ユタカ)

多賀谷 充 (タガヤ ミツル)

町田 祥弘 (マチダ ヨシヒロ)

松井 隆幸 (マツイ タカユキ)

<客員教授>

平 仁 (ヒラ ヒトシ)

院内兼任

短期大学

今関 公雄 (イマセキ キミオ)

河見 誠 (カワミ マコト)

齋藤 修三 (サイトウ シュウゾウ)

橋本 典子 (ハシモト ノリコ)

松村 伸一 (マツムラ シンイチ)

村知 稔三 (ムラチ トシミ)

幼稚園

多々内 三恵子 (タタウチ ミエコ)

大学特別招聘教授

小倉 和夫 (オグラ カズオ)

榊原 英資 (サカキバラ エイスケ)

非常勤講師

アンダーソン (ANDERSON, T.C.)

アンドラディ (ANDRADE, M.)

アームストロング

(ARMSTRONG, W.H.)

バランス (BALLANCE, T.L.)

バラット (BARAT, R.)

バッソ (BASSO, R.J.)

バウマン (BAUMAN, J.)

バインダー (BINDER, S.R.)

ビゼ (BIZET, F.)

ボダン (BODIN, E.)

ボリンジャー (BOLLINGER, D.J.)

ボレンステン (BORENSTEIN, C.)

ボスウェル (BOSWELL, P.D.)

ブラウン、A. (BRAUN, A.)

ブロードブリッジ

(BROADBRIDGE, J.R.)

ブルック (BROOKE, S.J.)

ブラウニング (BROWNING, T.L.)

ブルース (BRUCE, J.M.)

バックレー (BUCKLEY, H.L.)

ブラック (BLACK, J.J.)

バント (BUNDT, L.L.)

バトラー、B.J. (BUTLER, B.J.)

カマチョ クルス

(CAMACHO CRUZ, J.)

カルトン (CARTON, M.)

カズウェル (CASWELL, I.M.)

コーエン (COHEN, V.I.)

コンルール (CONREUR, G.)

コートニー (COURTNEY, G.R.)

クレイグ (CRAIG, J.R.)

クレイン (CRANE, G.A.)

クレピュー (CREPIEUX, G.)

ダーリン (DARLING, M.W.)

デニー (DENNY, J.S.)

ドーラン (DORAN, S.)

ダイグナン (DUGNAN, R.)

ドボルジャーク (DVOŘÁK, Y.)

エリオット (ELLIOTT, M.)

ガルシアールイス (GARCIA-RUIZ, P.)

ガブリロワ (GAVRILOVA, M.)

ガーション (GERSHON, B.)

ガダード (GODDARD, J.A.)

グレイ (GRAY, M.A.)

ホイサーマン、P.

(HAEUSSERMANN, P.)

ハミルトン (HAMILTON, J.N.)

ハードグレイヴ (HARDGRAVE, B.J.)

ヒントンの、R.D. (HINTON, R.D.)

ハウル (HOWL, P.F.)

ジャンセン (JANSEN, W.A.)

カミムラ タンウォング

(KAMIMURA, T.H.)

カーリン (KARLIN, O.C.)

カズマー (KASMER, W.B.)

キース (KEITH, E.A.)

ケン フジオカ (KEN FUJIOKA)

ケスレル (KESSLER, C.)

ランバート (LAMBERT, N.)

ローガン (LOGAN, R.A., JR.)

マディーン (MADEEN, E.C.)

マレシャル (MARECHAL, B.)

マーティン (MARTIN, J.P.)

マッケベリ (McEVILLY, P.M.)

ミーハン (MEEHAN, K.)

ミニオン (MIGNON, E.T.)

ミゲス (MIGUEZ, G.V.)

ミルティアドス (MILTIADOUS, M.M.)

モハメッド (MOHAMED, G.A.)

モーク (MORK, C.M.)

ネルソン (NELSON, F.M.)

オチャンド (OCHANDO, F.)

オクハラ-カズウェル

(OKUHARA-CASWELL)

モミヤマ (ORDONEZ DE MOMIYAMA, M.)

ペンゴスロ (PENGOSRO, E.K.)

ピーターソン (PETERSON, L.M.)

ピンギントン (PINNINGTON, A.J.)

ポポフスキー (POPOVSKI, V.)

プラスキー (PULASKI, J.C.)

ラフボ (RACHUBO, A.P.)

ラルフ (RALPH, B.J.)

レイナード (RANARD, A.B.)

リーバー (REBER, M.F.)

リー、S. (REE, S.A.)

ライリー (REILLY, J.E.)

ライマン (REIMANN, A.N.)

レンジェル (RENJEL, R.)

ルヌール (RENOUL, C.)

リチャードソン (RICHARDSON, C.A.)

ロバートソン (ROBERTSON, P.E.)

ローゼンキヤー (ROSENKJAR, P.R.)

ルシンスキー (RUCYNSKI, T.J.)

ラファエル (RUIZ, RAFAEL)

サガズ (SAGAZ, M.)

シェイド (SHADE, E.)

ソロモンス (SOLOMONS, R.A.)

タケダ (TAKEDA, N.K.)

タニグチ (TANIGUCHI, J.M.)

トムソン (THOMSON, B.J.)

トッテン (TOTTEN, P.J.)

ウチダ (UCHIDA, A.)

ヴァジラサーン (VAJIRASARN, A.)

バルギース (VARGHESE, M.)

ヴォート (VOGT, L.)

ウォルツァー (WALZER, R.)

ヨダ (YODER, R.S.)

ヤング (YOUNG, J.)

青木 詔司 (アオキ ショウジ)

青木 久子 (アオキ ヒサコ)

青柳 いづみこ (アオヤギ イヅミコ)

青山 清英 (アオヤマ キヨヒデ)

青山 治世 (アオヤマ ハルトシ)	石澤 一志 (イシザワ カズシ)	植村 恒一郎 (ウエムラ ツネイチロウ)	小笠原 弘幸 (オガサワラ ヒロユキ)
赤崎 祐子 (アカサキ ユウコ)	石橋 和代 (イシハシ カズヨ)	魚谷 武志 (ウオタニ タケシ)	岡田 純一 (オカダ ジュンイチ)
安形 輝 (アガタ テル)	石原 信一 (イシハラ シンイチ)	右近 修治 (ウコン シュウジ)	小方 伴子 (オカタ トモコ)
赤沼 多佳 (アカヌマ タカ)	石原 比伊呂 (イシハラ ヒイロ)	牛島 健 (ウシジマ ケン)	岡留 聡子 (オガドメ サトコ)
秋場 勝彦 (アキバ カツヒコ)	石本 英彦 (イシモト ヒデアヒコ)	牛丸 元 (ウシマル ハジメ)	岡野 智彦 (オカノ トモヒコ)
秋山 聰 (アキヤマ アキラ)	石渡 彰二 (イシワタ ショウジ)	宇田川 久美子 (ウダガワ クミコ)	岡村 陽子 (オカムラ ヨウコ)
秋山 映一 (アキヤマ エイチ)	石和田 昌利 (イシワダ マサトシ)	内桶 真二 (ウチオケ シンジ)	岡本 さだこ (オカモト サダコ)
秋山 茂幸 (アキヤマ シゲユキ)	泉 忠司 (イズミ タダシ)	内田 英二 (ウチダ エイジ)	小川 誠子 (オガワ セイコ)
秋山 純子 (アキヤマ ジュンコ)	磯山 久美子 (イソヤマ クミコ)	内田 啓一 (ウチダ ケイチ)	小川 忠 (オガワ タダシ)
秋山 武清 (アキヤマ タケキヨ)	板井 広明 (イタイ ヒロアキ)	内田 智史 (ウチダ サトシ)	小川 ルビー (オガワ ルビー)
阿久津 純恵 (アクツ スミエ)	板垣 良一 (イタガキ リョウイチ)	内田 滋 (ウチダ シゲル)	小川原 宏幸 (オガワラ ヒロユキ)
浅香 武和 (アサカ タケカズ)	市川 やよい (イチカワ ヤヨイ)	内田 有紀 (ウチダ ユウキ)	沖 一雄 (オキ カズオ)
浅野 清彦 (アサノ キョヒコ)	井出 功一 (イデ コウイチ)	内田 利菜 (ウチダ リナ)	沖塩 有希子 (オキシオ ユキコ)
朝比奈 大作 (アサヒナ ダイサク)	伊藤 健一郎 (イトウ ケンイチロウ)	内村 勉 (ウチムラ ツトム)	小木曾 郁子 (オギノ イクコ)
朝広 謙次郎 (アサヒロ ケンジロウ)	伊藤 丈人 (イトウ タケヒト)	内山 幸久 (ウチヤマ ユキヒサ)	荻野 克美 (オギノ カツミ)
浅利 浩一 (アサリ コウイチ)	伊藤 直 (イトウ タダシ)	宇野 雅章 (ウノ マサアキ)	荻原 幸子 (オギワラ サチコ)
東 徹 (アズマ トオル)	伊藤 忠弘 (イトウ タダヒロ)	梅田 和昇 (ウメダ カズノリ)	奥田 英信 (オクダ ヒデノブ)
東 英弥 (アズマ ヒデア)	伊藤 徹哉 (イトウ テツヤ)	浦部 尚志 (ウラベ タカシ)	奥成 達 (オクナリ サトル)
麻生 英子 (アソウ エイコ)	伊藤 匡美 (イトウ マサミ)	江田 幸子 (エダ サチコ)	奥野 理恵子 (オクノ リエコ)
足立 崇 (アダチ タカシ)	伊東 弥香 (イトウ ミカ)	衛藤 英達 (エトウ ヒデサト)	奥村 大志 (オクムラ タイシ)
厚木 和彦 (アツキ カズヒコ)	伊藤 由樹子 (イトウ ユキコ)	海老沢 達郎 (エビザワ タツオ)	小倉 ひろみ (オクラ ヒロミ)
荒井 勇雄 (アライ イサオ)	井戸 美里 (イド ミサト)	円居 総一 (エンキョ ソウイチ)	生越 まり子 (オゴシ マリコ)
新井 恵理 (アライ エリ)	伊奈 久喜 (イナ ヒサヨシ)	遠藤 徹 (エンドウ トオル)	生越 詔二 (オゴセ ショウジ)
荒井 健二郎 (アライ ケンジロウ)	稲垣 久和 (イナガキ ヒサカズ)	王 凌 (オウ リョウ)	尾崎 久記 (オザキ ヒサキ)
荒川 慎太郎 (アラカワ シンタロウ)	稲垣 文男 (イナガキ フミオ)	王 敏 (オウ ビン)	長田 尚子 (オサダ ナオコ)
荒木 暉 (アラキ ヒカル)	稲本 絵理 (イナモト エリ)	大石 紘一郎 (オオishi コウイチロウ)	織田 弥生 (オダ ヤヨイ)
荒巻 朋子 (アラマキ トモコ)	井野 葉子 (イノ ヨウコ)	大岩 雄次郎 (オオイワ ユウジロウ)	越智 通勝 (オチ ミチカツ)
新谷 淳一 (アラヤ ジュンイチ)	井上 恵子 (イノウエ ケイコ)	大内 雅浩 (オオウチ マサヒロ)	鬼丸 洋 (オニマル ヒロシ)
安家 達也 (アンケ タツヤ)	井上 櫻子 (イノウエ サクラコ)	大川 裕子 (オオカワ ユウコ)	鬼山 敬邦 (オニヤマ タカクニ)
安齋 有紀 (アンザイ ユキ)	井上 順雄 (イノウエ ノブオ)	大木 京子 (オオキ キョウコ)	小野 晃典 (オノ アキノリ)
安西 弥生 (アンザイ ヤヨイ)	井上 正 (イノウエ マサシ)	大窪 高志 (オオクボ タカシ)	小野 新 (オノ アラタ)
安藤 勉 (アンドウ ツトム)	井上 裕夫 (イノウエ ヤスオ)	大倉 正典 (オオクラ マサノリ)	小野 公一 (オノ コウイチ)
安藤 壽茂 (アンドウ ヒサシゲ)	井上 泰日子 (イノウエ ヤスヒコ)	太下 義之 (オオシタ ヨシユキ)	小野 壽美子 (オノ スミコ)
李 恵淑 (イ ヘスク)	猪塚 元 (イノヅカ ハジメ)	大原 一元 (オオハラ カズモト)	小野 正敏 (オノ マサトシ)
飯沢 耕太郎 (イイザワ コウタロウ)	今井 章久 (イマイ アキヒサ)	大場 静枝 (オオバ シズエ)	小野 森都子 (オノ モトコ)
飯田 晴巳 (イイダ ハルミ)	今井 福司 (イマイ フクジ)	大島 有子 (オオシマ アリス)	小野田 撰子 (オノダ セツコ)
飯田 道子 (イイダ ミチコ)	今泉 忠 (イマイズミ タダシ)	太田 和子 (オオタ カズコ)	小野塚 久枝 (オノヅカ ヒサエ)
飯野 明 (イイノ アキラ)	今泉 美由紀 (イマイズミ ミユキ)	太田 さつき (オオタ サツキ)	小幡 一雄 (オバタ カズオ)
生田 かおる (イクタ カオル)	今川 正浩 (イマガワ マサヒロ)	太田 浩 (オオタ ヒロシ)	小幡 勝彦 (オバタ カツヒコ)
井口 磯夫 (イグチ イソオ)	岩井 克文 (イワイ カツフミ)	大竹 誠 (オオtake マコト)	小畑 精和 (オバタ ヨシカズ)
池内 守厚 (イケウチ モリアツ)	岩崎 努 (イワサキ ツトム)	大谷 康晴 (オオタニ ヤスハル)	小原 格 (オハラ ツトム)
池田 明子 (イケダ アキコ)	岩下 誠 (イワシタ アキラ)	大津 浩 (オオツ ヒロシ)	小俣 一平 (オマタ イッペイ)
池田 明史 (イケダ アキフミ)	岩成 和子 (イワナリ カズコ)	大出 敦 (オオデ アツシ)	恩田 英治 (オンダ ヒデハル)
池田 和子 (イケダ カズコ)	岩原 武則 (イワハラ タケノリ)	大西 幸子 (オオニシ サチコ)	ガーニエ ナナ (ガーニエ ナナ)
池田 信夫 (イケダ ノブオ)	岩丸 良明 (イワマル ヨシアキ)	大沼 博靖 (オオヌマ ヒロヤス)	甲斐 利恵子 (カイ リエコ)
池田 まさみ (イケダ マサミ)	上杉 嘉見 (ウエスギ ヨシミ)	大野 和男 (オノ カズオ)	香川 知晶 (カガワ チアキ)
石井 一平 (イシイ イッペイ)	植芝 牧 (ウエシバ マキ)	大野 秀夫 (オノ ヒデオ)	柿崎 孝夫 (カキザキ タカオ)
石井 啓子 (イシイ ケイコ)	上田 修一 (ウエダ シュウイチ)	大野 広之 (オノ ヒロユキ)	柿元 資子 (カキモト モトコ)
石井 恵子 (イシイ ケイコ)	植田 美佳 (ウエダ ヨシカ)	大橋 知子 (オオハシ トモコ)	賀来 道生 (カク ミチオ)
石井 健 (イシイ タケン)	植田 みどり (ウエダ ミドリ)	大橋 直義 (オオハシ ナオシ)	笠羽 晴夫 (カサバ ハルオ)
石井 丈二 (イシイ タケジ)	上野 直樹 (ウエノ ナオキ)	大橋 憲広 (オオハシ ノリヒロ)	風間 賢二 (カザマ ケンジ)
石井 信明 (イシイ ノブアキ)	上野 祐紀子 (ウエノ ユキコ)	大房 潤一 (オオフサ ジュンイチ)	糧淵 めぐみ (カシバチ メグミ)
石井 仁 (イシイ ヒトシ)	上原 美知子 (ウエハラ ミチコ)	大堀 壽夫 (オオホリ トシオ)	加島 勝 (カシマ マサル)
石川 健治 (イシカワ ケンジ)	植松 希久磨 (ウエマツ キクタマ)	大村 和人 (オオムラ カズヒト)	片上 英俊 (カタガミ ヒデオ)
石川 泰 (イシカワ タイ)	植松 公彦 (ウエマツ キミヒコ)	大山 恭子 (オオヤマ キョウコ)	片桐 祐 (カタギリ ユウ)
石口 彰 (イシグチ アキラ)	上村 佳世子 (ウエムラ カヨコ)	大輪 公壺 (オオワ コウイチ)	片野 修一郎 (カタノ シュウイチロウ)
石黒 弓美子 (イシクロ ユミコ)	上村 威 (ウエムラ タケン)	小笠原 耕司 (オガサワラ コウジ)	片見 彰夫 (カクミ アキオ)

片山 等(カタヤマ ヒトシ)
勝田 千恵子(カツダ チエコ)
勝西 良典(カツニシ ヨシノリ)
勝又 恵理子(カツマタ エリコ)
勝山 裕之(カツヤマ ヒロユキ)
加藤 章(カトウ アキラ)
加藤 恵子(カトウ ケイコ)
加藤 光一(カトウ コウイチ)
加藤 譲(カトウ ジョウ)
加藤 尚子(カトウ ナオコ)
加藤 宏(カトウ ヒロシ)
加藤 浩(カトウ ヒロシ)
加藤 麻衣子(カトウ マイコ)
加藤 昌弘(カトウ マサヒロ)
加藤 めぐみ(カトウ メグミ)
門倉 俊雄(カドクラ トシオ)
香取 英男(カトリ ヒデオ)
金井 光太郎(カナイ コウタロウ)
金沢 陽(カナザワ ヨウ)
金田 耕一(カナダ コウイチ)
金丸 芙美(カナマル フミ)
金森 努(カナモリ ツトム)
金谷 良夫(カナヤ ヨシオ)
金子 一秀(カネコ カズヒデ)
兼利 琢也(カネシ タクヤ)
兼平 充明(カネヒラ ミツアキ)
金山 秋男(カネヤマ アキオ)
狩野 昌央(カノウ マサヒロ)
狩野 雄(カノウ ユウ)
鎌田 裕美(カマタ ヒロミ)
神尾 真知子(カミオ マチコ)
神鷹 徳治(カミタカ トクハル)
亀井 奈保美(カメイ ナオミ)
狩俣 恵美(カリマタ エミ)
唐澤 一友(カラサワ カズトモ)
川井 勇雄(カワイ イサオ)
河合 久(カワイ ヒサシ)
河合 史恵(カワイ フミエ)
川合 ゆみ子(カワイ ユミコ)
川上 泰(カワカミ ヤスシ)
川口 恵子(カワグチ ケイコ)
川口 裕司(カワグチ ユウジ)
川口 義晴(カワグチ ヨシハル)
河島 伸子(カワシマ ノブコ)
川鍋 定男(カワナベ サダオ)
河野 克也(カワノ カツヤ)
河野 誠哉(カワノ セイヤ)
川端 有子(カワバタ アリコ)
川端 芳子(カワバタ ヨシコ)
河原 清志(カワハラ キヨシ)
川邊 雄大(カワベ ユウダイ)
河村 弘祐(カワムラ コウスケ)
川村 祥子(カワムラ ショウコ)
河原 清(カワラ キヨシ)
河原崎 やす子(カワラサキ ヤスコ)
姜 公淑(カン コンス)
神崎 繁(カンザキ シゲル)

神崎 愷(カンザキ ヤスシ)
神原 紀之(カンバラ ノリユキ)
菊池 韶彦(キクチ アキヒコ)
菊池 進(キクチ スム)
菊池 威(キクチ タケシ)
菊池 哲也(キクチ テツヤ)
木崎 悠子(キザキ ユウコ)
岸 彩子(キシ アヤコ)
北垣 潔(キタガキ キヨシ)
北出 広子(キタデ ヒロコ)
北村 麻紀子(キタムラ マキコ)
北村 昌彦(キタムラ マサヒコ)
北山 研二(キタヤマ ケンジ)
北山 雅昭(キタヤマ マサアキ)
橘川 武郎(キツカワ タケオ)
橘田 栄子(キツタ エイコ)
橘田 正造(キツタ ショウゾウ)
木野井 美紗子(キノイ ミサコ)
木原 朝子(キハラ アサコ)
金 愛慶(キム エキヨシ)
金 敬黙(キム キョムク)
金 俊晃(キム ジュンホウ)
金 恵信(キム ヘシン)
木村 武雄(キムラ タケオ)
木村 みどり(キムラ ミドリ)
木元 豊(キモト ユタカ)
久野 康彦(キウノ ヤスヒコ)
清川 美也子(キヨカワ ミヤコ)
清野 嘉之(キヨノ ヨシユキ)
吉良 文孝(キラ フミタカ)
桐谷 佳裕(キリタニ ヨシヒロ)
桐谷 栄希(キリヤ エイキ)
吟谷 泰裕(ギンタニ ヤスヒロ)
日下 正一(クサカ ショウイチ)
楠 裕行(クスノキ ヒロユキ)
楠本 和哉(クスモト カズヤ)
楠本 重行(クスモト シゲユキ)
工藤 章(クドウ アキラ)
工藤 健一(クドウ ケンイチ)
工藤 早恵(クドウ サエ)
工藤 眞一(クドウ シンイチ)
工藤 文三(クドウ フンゾウ)
国宗 知子(クニムネ トモコ)
久保 陽一(クボ ヨウイチ)
久保田 忠利(クボタ タダシ)
久保寺 紀江(クボテラ ノリエ)
隈井 秀人(クマイ ヒデオ)
熊沢 孝(クマザワ タカシ)
久山 道彦(クヤマ ミチヒコ)
栗山 保之(クリヤマ ヤスユキ)
黒川 学(クロカワ マナブ)
黒川 美和(クロカワ ミワ)
黒澤 文貴(クロサワ フミタカ)
黒嶋 敏(クロシマ サトル)
桑名 恵(クワナ メグミ)
黒田 俊太郎(クロダ シュンタロウ)
胡 世光(コ セイコ)

小池 茂子(コイケ シゲコ)
小池 惇平(コイケ ジュンペイ)
小池 政行(コイケ マサユキ)
小泉 晋一(コイズミ シンイチ)
小泉 徹(コイズミ トオル)
小磯 花絵(コイソ ハナエ)
黄 漢青(コウ カンセイ)
郷 義孝(ゴウ ヨシタカ)
河野 貴美子(コウノ キミコ)
河野 康成(コウノ ヤスナリ)
小枝 義人(コエダ ヨシト)
小坂 昭雄(コサカ アキオ)
越川 邦夫(コシカワ クニオ)
小島 慶一(コジマ ケイイチ)
小島 佐恵子(コジマ サエコ)
小島 章子(コジマ ショウコ)
小嶋 久子(コジマ ヒサコ)
小島 聡子(コジマ フサコ)
兒島 峰(コジマ ミネ)
小島 優子(コジマ ユウコ)
小嶋 洋介(コジマ ヨウスケ)
小関 和弘(コセキ カズヒロ)
小谷 真理子(コタニ マリコ)
児玉 公信(コタマ キミノブ)
後藤 和子(ゴトウ カズコ)
後藤 直(ゴトウ ナオシ)
小西 奎二(コニシ ケイジ)
小林 愛明(コバヤシ アイメイ)
小林 篤志(コバヤシ アツシ)
小林 加奈子(コバヤシ カナコ)
小林 群司(コバヤシ グンジ)
小林 賢司(コバヤシ ケンジ)
小林 正(コバヤシ タダシ)
小林 晴子(コバヤシ ハルコ)
小林 弘和(コバヤシ ヒロカズ)
小林 裕子(コバヤシ ヤスコ)
小林 由紀(コバヤシ ユキ)
小日向 英俊(コヒナタ ヒデオシ)
駒田 亜紀子(コマダ アキコ)
小松 弥生(コマツ ヤヨイ)
小峰 和子(コミネ カズコ)
小峰 隆夫(コミネ タカオ)
五味 潤 典嗣(ゴミヅチ ノリツグ)
小柳 春一郎(コヤナギ シュンイチロウ)
古山 みゆき(コヤマ ミユキ)
根田 隆平(ネダ リュウヘイ)
近藤 存志(コンドウ アリユキ)
権藤 俊彦(ゴンドウ トシヒコ)
近藤 瑞木(コンドウ ミズキ)
近藤 倫弘(コンドウ ミチヒロ)
近藤 ゆう子(コンドウ ユウコ)
紺野 卓(コンノ タク)
雑賀 恭一(サイガ キョウイチ)
西前 明(サイゼン アキラ)
齋藤 かおる(サイトウ カオル)
齋藤 直(サイトウ ナオ)
齋藤 長行(サイトウ ナガユキ)

齋藤 裕(サイトウ ユタカ)
齋野 岳廊(サイノ タケロウ)
佐伯 奈津子(サエキ ナツコ)
酒井 和子(サカイ カズコ)
酒井 智宏(サカイ トモヒロ)
酒井 潔(サカイ キヨシ)
坂井 信行(サカイ ノブユキ)
酒井 幸子(サカイ ユキコ)
境家 史郎(サカイヤ シロウ)
榊原 英資(サカキバラ エイスケ)
阪口 美津子(サカグチ ミツコ)
坂野 慎二(サカノ シンジ)
坂原 眞里(サカハラ マリ)
坂元 忠明(サカモト タダアキ)
坂本 秀人(サカモト ヒデオ)
坂本 誠(サカモト マコト)
佐久間 勲(サクマ イサオ)
桜井 恵子(サクライ ケイコ)
櫻井 道子(サクライ ミチコ)
笹川 あゆみ(ササガワ アユミ)
佐々木 重人(ササキ シゲト)
佐々木 恵(ササキ メグミ)
左治木 吾郎(サジキゴロウ)
佐竹 由帆(サタケ ヨシホ)
薩摩 秀登(サツマ ヒデオ)
佐藤 和孝(サトウ カズタカ)
佐藤 修司(サトウ シュウジ)
佐藤 進(サトウ スム)
佐藤 拓司(サトウ タクジ)
佐藤 健生(サトウ タケオ)
佐藤 千明(サトウ チアキ)
佐藤 憲久(サトウ ノリヒサ)
佐藤 宏(サトウ ヒロシ)
佐藤 道生(サトウ ミチオ)
佐藤 美由紀(サトウ ミユキ)
佐藤 由美(サトウ ユミ)
佐藤 義夫(サトウ ヨシオ)
佐藤 凉子(サトウ リョウコ)
佐野 栄一(サノ エイイチ)
佐野 智子(サノ トモコ)
佐野 大樹(サノ モトキ)
佐橋 亮(サハシ リョウ)
澤村 明(サワムラ アキラ)
椎野 若菜(シノ ワカナ)
塩谷 敬(シノヤ ケイ)
志賀 義雄(シガ ヨシオ)
繁田 進(シゲタ スム)
重田 晴生(シゲタ ハルオ)
重光 由加(シゲミツ ユカ)
宍戸 真(シシド マコト)
篠崎 昌子(シノザキ マサコ)
芝崎 和美(シバサキ カズミ)
柴崎 聡(シバサキ サトシ)
柴田 教昭(シバタ ノリアキ)
澁川 顕一(シバカワ ケンイチ)
澁谷 陽子(シバヤ ヨウコ)
嶋 正(シマ タダシ)

島崎 三津子 (シマザキ ミツコ)	関根 正幸 (セキネ マサユキ)	田中 敬文 (タナカ タカフミ)	東松 秀雄 (トウマツ ヒデオ)
嶋田 淳恵 (シマダ アツエ)	妹尾 新太郎 (セノオ シンタロウ)	田中 智子 (タナカ トモコ)	遠山 明子 (トオヤマ アキコ)
島田 和夫 (シマダ カズオ)	泉水 清志 (センスイ キヨシ)	田中 成行 (タナカ ナリユキ)	時弘 哲治 (トキヒロ テツジ)
島村 直幸 (シマムラ ナオユキ)	仙波 圭子 (センバ ケイコ)	田中 憲彦 (タナカ ノリヒコ)	徳田 英明 (トクダ エイメイ)
嶋村 元宏 (シマムラ モトヒロ)	曾根 美恵 (ソネ ミエ)	田中 秀明 (タナカ ヒデアキ)	徳田 皇毅 (トクダ コウキ)
清水 純子 (シミズ ジュンコ)	曾根田 純子 (ソネダ ジュンコ)	田中 正邦 (タナカ マサクニ)	徳地 秀士 (トクチ ヒデシ)
清水 尚哉 (シミズ ヒサヤ)	園田 洋一 (ソノダ ヨウイチ)	田中 裕司 (タナカ ユウジ)	徳永 健伸 (トクナガ タケノブ)
清水 弥生 (シミズ ヤヨイ)	孫 晶 (ソン ジェン)	田中 洋平 (タナカ ヨウヘイ)	土佐 尚子 (トサ ナオコ)
下澤 礼子 (シモザワ レイコ)	宋 俊憲 (ソン ジュンホン)	谷川 多佳子 (タニガワ タカコ)	戸田 勉 (トダ ユツム)
下田 淳 (シモダ ジュン)	田井 健太郎 (タイ ケンタロウ)	谷口 将紀 (タニグチ マサキ)	戸田 真夏 (トダ マナツ)
赤土 正貴 (シャクト マサタカ)	大門 芳行 (ダイモン ヨシユキ)	谷口 康浩 (タニグチ ヤスヒロ)	戸田 裕美子 (トダ ユミコ)
朱 全安 (シュ センアン)	高井 晋 (タカイ ススム)	谷澤 叙彦 (タニザワ ノブヒコ)	戸所 隆 (トドコロ タカシ)
朱 珉 (シュ ミン)	高江洲 昌哉 (タカエス マサヤ)	田原 啓祐 (タハラ ケイスケ)	飛田 綾子 (トビタ アヤコ)
周 剛 (シュウ コウ)	高尾 享幸 (タカオ タカユキ)	太原 孝英 (タハラ タカヒデ)	富澤 達三 (トミザワ タツゾウ)
荀 涛 (ジュン トウ)	高木 友子 (タカキ ユウコ)	玉井 朗 (タマイ アキラ)	友澤 宏隆 (トモザワ ヒロタカ)
庄司 達也 (ショウジ タツヤ)	高木 葉子 (タカギ ヨウコ)	田村 惠一 (タムラ ケイイチ)	友野 清文 (トモノ キヨフミ)
正田 良 (ショウダ リョウ)	高嶋 景子 (タカシマ ケイコ)	田村 達久 (タムラ タツヒサ)	鳥越 泰彦 (トリゴエ ヤスヒコ)
白岩 拓哉 (シライワ タクヤ)	高梨 守弘 (タカナシ モリヒロ)	田村 亮 (タムラ リョウ)	トレント 信子 (トレント ノブコ)
白川 優治 (シラカワ ユウジ)	高橋 千香子 (タカハシ チカコ)	丹波 美佐子 (タンバ ミサコ)	内藤 敦之 (ナイトウ アツシ)
白土 茂雄 (シラド シゲオ)	高橋 徹 (タカハシ トオル)	漆 紅 (チー ホン)	内藤 雅一 (ナイトウ マサカズ)
申 美穂 (シン ミホ)	高橋 信弘 (タカハシ ノブヒロ)	近本 謙介 (チカモト ケンスケ)	内藤 正人 (ナイトウ マサト)
新宮 富美子 (シングウ フミコ)	高橋 肇 (タカハシ ハジメ)	茅野 嘉司郎 (チノ カシロウ)	内藤 元和 (ナイトウ ユキカズ)
新宅 巖 (シンタク イワオ)	高橋 ひさ子 (タカハシ ヒサコ)	千葉 一大 (チバ イチダイ)	中 一郎 (ナカ イチロウ)
真道 洋子 (シンドウ ヨウコ)	高橋 史安 (タカハシ フミヤス)	千葉 悦子 (チバ エツコ)	中井 均 (ナカイ ヒトシ)
新保 良明 (シンボ リョウメイ)	高橋 道子 (タカハシ ミチコ)	千葉 淳一 (チバ ジュンイチ)	長井 秀友 (ナガイ ヒデオモ)
陶 智子 (スエ トモコ)	高橋 美弥子 (タカハシ ミネコ)	千葉 宏史 (チバ ヒロフミ)	長江 眞弥 (ナガエ ナオヤ)
菅 桂太 (スガ ケイタ)	高橋 幸雄 (タカハシ ユキオ)	千葉 優子 (チバ ユウコ)	長尾 敦子 (ナガオ アツコ)
菅野 昌彦 (スガノ マサヒコ)	高部 千春 (タカベ チナル)	千本 英史 (チモト ヒデシ)	中尾 正史 (ナカオ マサシ)
菅原 克也 (スガワラ カツヤ)	高村 正志 (タカムラ マサシ)	趙 聖九 (チョウ ソンク)	長岡 政憲 (ナガオカ マサノリ)
菅原 純 (スガワラ ジュン)	高山 俊則 (タカヤマ トシノリ)	趙 小鳳 (チョウ ショウホウ)	中兼 和津次 (ナカガネ カツジ)
菅原 恒彦 (スガワラ ツネヒコ)	瀧川 裕貴 (タキガワ ヒロキ)	千代島 雅 (チヨジマ タダシ)	中川 明博 (ナカガワ アキヒロ)
杉田 多佳子 (スギタ タカコ)	滝沢 昌彦 (タキザワ マサヒコ)	鄭 洲 (チョン ジュ)	中川 千恵子 (ナカガワ チエコ)
杉野 早苗月 (スギノ サツキ)	田北 康成 (タキタ ヤスナリ)	陳 祖蓓 (チン ソバイ)	中川 恭明 (ナカガワ ヤスアキ)
杉本 卓 (スギモト タク)	田口 幹比古 (タグチ ミキヒコ)	塚越 千史 (ツカコシ チフミ)	長島 一比古 (ナガシマ カズヒコ)
杉山 明 (スギヤマ アキラ)	宅間 文夫 (タクマ フミオ)	塚田 朋子 (ツカダ トモコ)	中島 隆 (ナカジマ タカシ)
杉山 裕 (スギヤマ ヒロシ)	竹内 倫和 (タケウチ トモカズ)	塚田 雅也 (ツカダ マサヤ)	中島 秀男 (ナカジマ ヒデオ)
鈴木 敦夫 (スズキ アツオ)	竹内 智子 (タケウチ トモコ)	塚原 拓馬 (ツカハラ タクマ)	中島 洋 (ナカジマ ヒロシ)
鈴木 海三 (スズキ カイゾウ)	竹田 久美子 (タケダ クミコ)	塚本 俊也 (ツカモト トシヤ)	中島 理暁 (ナカジマ マサアキ)
鈴木 聡子 (スズキ サトコ)	竹田 智志 (タケダ サトシ)	佃 陽子 (ツダ ヨウコ)	中嶋 幸子 (ナカジマ ユキコ)
鈴木 淳平 (スズキ ジュンペイ)	竹中 治堅 (タケナカ ハルカタ)	辻 リン (ツジ リン)	永瀬 紘子 (ナガセ ヒロコ)
鈴木 隆 (スズキ タカシ)	竹野 一雄 (タケノ カズオ)	柘山 堯司 (ツゲヤマ タカシ)	中曾根 敬子 (ナカソネ ケイコ)
鈴木 隆芳 (スズキ タカヨシ)	田代 一聡 (タシロ カズトシ)	辻本 拓司 (ツジモト タクジ)	仲田 大人 (ナカタ ヒロト)
鈴木 健 (スズキ タケン)	田嶋 規雄 (タジマ ノリオ)	津田 千悦子 (ツダ チエコ)	仲田 治喜 (ナカタ ハルキ)
鈴木 匡 (スズキ タダシ)	多田 寿康 (タダ トシヤス)	土田 久美子 (ツチダ クミコ)	中田 裕康 (ナカタ ヒロヤス)
鈴木 千代 (スズキ チヨ)	多田 洋子 (タダ ヨウコ)	土屋 文子 (ツチヤ フミコ)	永谷 万里雄 (ナガタニ マリオ)
鈴木 ふさ子 (スズキ フサコ)	多田羅 徹 (タタラ トオル)	堤 一彦 (ツツミ カズヒコ)	長綱 啓典 (ナガツナ ケイスケ)
鈴木 美恵子 (スズキ ミエコ)	辰己 丈夫 (タツミ タケオ)	堤 康徳 (ツツミ ヤスノリ)	中西 史 (ナカニシ フミ)
鈴木 光重 (スズキ ミツシゲ)	立石 謙次 (タテishi ケンジ)	津留崎 毅 (ツルサキ タケン)	長沼 将一 (ナガヌマ ショウイチ)
鈴木 勇一郎 (スズキ ユウイチロウ)	立松 隆介 (タテマツ リュウスケ)	鶴見 典子 (ツルミ ノリコ)	中野 京子 (ナカノ キョウコ)
須山 聡 (スヤマ サトシ)	立山 利治 (タテヤマ トシハル)	ティムソン 真澄 (ティムソン マスミ)	中野 光子 (ナカノ ミツコ)
関 統造 (セキ トウゾウ)	田中 亜美 (タナカ アミ)	手塚 裕子 (テヅカ ユウコ)	長浜 三千代 (ナガハマ ミチヨ)
関 仁 (セキ ヒトシ)	田中 恵美子 (タナカ エミコ)	寺井 あすか (テライ アスカ)	中原 暁彦 (ナカハラ アキヒコ)
関口 研二 (セキグチ ケンジ)	田中 訓子 (タナカ クニコ)	寺岡 喜和 (テラオカ ヨシカズ)	中原 裕貴 (ナカハラ ユタカ)
関口 博巨 (セキグチ ヒロオ)	田中 城次郎 (タナカ ジョウジロウ)	寺田 至 (テラダ イタル)	長又 高夫 (ナガマタ タカオ)
関口 幸男 (セキグチ ユキオ)	田中 信司 (タナカ シンジ)	寺田 誠一 (テラダ セイイチ)	中村 馨 (ナカムラ カオル)
関戸 英紀 (セキド ヒデノリ)	田中 誠一 (タナカ セイイチ)	寺戸 淳子 (テラド ジュンコ)	中村 國則 (ナカムラ クニノリ)
関戸 冬彦 (セキド フユヒコ)	田中 孝文 (タナカ タカフミ)	寺西 範恭 (テラニシ ノリヤス)	中村 隆宏 (ナカムラ タカヒロ)

中村 孝文 (ナカムラ タカフミ)
中村 直子 (ナカムラ ナオコ)
中村 尚子 (ナカムラ ナオコ)
中村 祐子 (ナカムラ ユウコ)
中本 恭平 (ナカモト キョウヘイ)
南雲 智 (ナグモ サトル)
梨本 進 (ナシモト ススム)
夏目 麻子 (ナツメ アサコ)
夏目 省悟 (ナツメ ショウゴ)
成家 亘宏 (ナリヤ ノブヒロ)
成瀬 俊一 (ナルセ シュンイチ)
難波 和子 (ナンバ カズコ)
新居 美津子 (ニイ ミツコ)
新村 香 (ニムラ カオリ)
西 和彦 (ニシ カズヒコ)
西井 正造 (ニシイ ショウゾウ)
西海 孝夫 (ニシウミ タカオ)
西岡 祥文 (ニシオカ ショウフミ)
西川 恵 (ニシカワ メグミ)
西島 央 (ニシジマ ヒロシ)
西田 依麻 (ニシダ エマ)
仁科 貞文 (ニシナ サダフミ)
西原 稔 (ニシハラ ミノル)
西村 まりこ (ニシムラ マリコ)
西村 美香 (ニシムラ ミカ)
西山 千恵子 (ニシヤマ チエコ)
新田 司 (ニッタ ツカサ)
庭野 延子 (ニワノ ノブコ)
額谷 修二 (ヌカタニ シュウジ)
根岸 徹郎 (ネギシ テツロウ)
根岸 知生 (ネギシ トモオ)
祢津 啓 (ネツ アキラ)
根本 貴行 (ネモト タカユキ)
野口 和彦 (ノグチ カズヒコ)
野田 秀三 (ノダ シュウゾウ)
野津 寛 (ノツ ヒロシ)
野津 浩 (ノツ ヒロシ)
野中 雅代 (ノナカ マサヨ)
野村 昌代 (ノムラ マサヨ)
野村 祐之 (ノムラ ユウシ)
野本 茂夫 (ノモト シゲオ)
乗富 秀富 (ノリトミ ヒデタカ)
萩原 綾 (ハギワラ アヤ)
白 榮助 (ハク エイクン)
朴 倍暎 (ハク ベエヨン)
橋本 到 (ハシモト イタル)
橋本 克己 (ハシモト カツミ)
橋本 健一 (ハシモト ケンイチ)
橋本 早予 (ハシモト サヨ)
橋本 貴子 (ハシモト タカコ)
橋本 匡朗 (ハシモト タダアキ)
橋本 政彦 (ハシモト マサヒコ)
橋本 由紀子 (ハシモト ユキコ)
長谷川 秀司 (ハセガワ シュウジ)
長谷川 淳一 (ハセガワ ジュンイチ)
長谷川 輝紀 (ハセガワ テルノリ)
長谷川 泰隆 (ハセガワ ヤスタカ)

長谷川 宜之 (ハセガワ ヨシユキ)
栢山 茂樹 (ハセヤマ シゲキ)
畑中 千晶 (ハタナカ チアキ)
波多野 知子 (ハタノ トモコ)
服部 カトリーヌ
(ハットリ カトリーヌ)
服部 訓和 (ハットリ クニカズ)
羽藤 律 (ハトウ タダス)
波戸岡 景太 (ハトオカ ケイタ)
花岡 民子 (ハナオカ タミコ)
羽田 雄一 (ハネダ ユウイチ)
馬場 弘臣 (ババ ヒロオミ)
浜田 一字 (ハマダ カズイェ)
濱田 庸子 (ハマダ ヨウコ)
濱村 良久 (ハマムラ ヨシヒサ)
早川 亜里 (ハヤカワ アリ)
早川 淳 (ハヤカワ ジュン)
早川 勉 (ハヤカワ ツトム)
早川 洋子 (ハヤカワ ヨウコ)
早坂 五郎 (ハヤサカゴロウ)
早崎 鐘基 (ハヤサキ ショウキ)
林 克彦 (ハヤシ カツヒコ)
林 精子 (ハヤシ セイコ)
林 英樹 (ハヤシ ヒデキ)
林 茂人 (ハヤシ マキト)
林 康子 (ハヤシ ヤスコ)
林 瑠美子 (ハヤシ ルミコ)
羽山 博 (ハヤマ ヒロシ)
原 潔 (ハラ キヨシ)
原田 敦史 (ハラダ アツシ)
原田 理恵 (ハラダ リエ)
春名 宏昭 (ハルナ ヒロアキ)
針原 素子 (ハリハラ モトコ)
伴 浩美 (バン ヒロミ)
伴 好彦 (バン ヨシヒコ)
范 力 (ハン リキ)
半田 純子 (ハンダ ジュンコ)
東泉 裕子 (ヒガシイズミ ユウコ)
樋口 泰裕 (ヒグチ ヤスヒロ)
彦江 智弘 (ヒコエ トモヒロ)
日高 薫 (ヒダカ カオリ)
日野 康一郎 (ヒノ コウイチロウ)
日吉 和子 (ヒヨシ カズコ)
平井 孝志 (ヒライ タカシ)
平岡 敦 (ヒラオカ アツシ)
平岡 久夫 (ヒラオカ ヒサオ)
平木 真快 (ヒラキ シンカイ)
平野 晶子 (ヒラノ アキコ)
平野 信輔 (ヒラノ シンスケ)
平野 正樹 (ヒラノ マサキ)
平松 博 (ヒラマツ ヒロシ)
平山 修平 (ヒラヤマ シュウヘイ)
平山 真理 (ヒラヤマ マリ)
広瀬 洋子 (ヒロセ ヨウコ)
広瀬 佳一 (ヒロセ ヨシカズ)
広田 紘一 (ヒロタ コウイチ)
廣田 尚子 (ヒロタ ナオコ)

廣田 治子 (ヒロタ ハルコ)
廣本 寿夫 (ヒロモト ヒサオ)
深井 智朗 (フカイ トモアキ)
深井 吉男 (フカイ ヨシオ)
深江 敬志 (フカエ ケイジ)
深澤 了子 (フカサワ ノリコ)
福島 君子 (フクシマ キミコ)
福島 尚文 (フクシマ ナオフミ)
福島 洋尚 (フクシマ ヒロナオ)
福嶋 揚 (フクシマ ヨウ)
福嶋 義博 (フクシマ ヨシヒロ)
福田 耕介 (フクダ コウスケ)
福田 保 (フクダ タモツ)
福富 満久 (フクトミ ミツヒサ)
藤井 貴志 (フジイ タカシ)
藤尾 美佐 (フジオ ミサ)
藤掛 洋子 (フジカケ ヨウコ)
藤倉 達郎 (フジクラ タツロウ)
藤田 孝弥 (フジタ タカヤ)
藤田 幸広 (フジタ ユキヒロ)
藤林 道夫 (フジバヤシ ミチオ)
藤原 正仁 (フジハラ マサヒト)
藤牧 新 (フジマキ アラタ)
藤牧 喜久子 (フジマキ キクコ)
藤村 待子 (フジムラ マチコ)
藤本 敬三 (フジモト ケイゾウ)
藤本 満 (フジモト ミツル)
藤本 頼人 (フジモト ヨリヒト)
藤原 淳賀 (フジワラ アツヨシ)
藤原 雅子 (フジワラ マサコ)
二村 まどか (フタムラ マドカ)
船木 順一 (フナキ ジュンイチ)
船木 亨 (フナキ トオル)
船田 眞里子 (フナダ マリコ)
舟橋 美香 (フナハシ ミカ)
船水 直子 (フナミズ ナオコ)
降旗 千恵 (フリハタ チエ)
古川 江里子 (フルカワ エリコ)
古田 知章 (フルタ トモアキ)
古田 洋 (フルタ ヒロシ)
古屋 秀樹 (フルヤ ヒデキ)
部家 直樹 (ヘヤ ナオキ)
妻 始美 (メ ヨシミ)
寶劔 久俊 (ホウケン ヒサトシ)
保莉 尚 (ホカリ ヒサシ)
保坂 佳男 (ホサカ ヨシオ)
星崎 和子 (ホシザキ カツコ)
星崎 幸子 (ホシザキ サチコ)
星野 愛秀 (ホシノ アイシュウ)
星野 悦子 (ホシノ エツコ)
細谷 等 (ホソヤ ヒトシ)
堀 宏治 (ホリ コウジ)
堀 健志 (ホリ タケシ)
堀 千和子 (ホリ チワコ)
堀 広治 (ホリ ヒロハル)
堀 芙三夫 (ホリ フミオ)
堀内 淑子 (ホリウチ ヨシコ)

堀尾 あづみ (ホリオ アヅミ)
堀尾 耕一 (ホリオ コウイチ)
堀川 洋子 (ホリカワ ヨウコ)
堀越 宏一 (ホリコシ コウイチ)
蓼岩 晶 (ホロイワ アキラ)
本所 靖博 (ホンジョ ヤスヒロ)
本田 明美 (ホンダ アケミ)
本田 龍央 (ホンダ タツオ)
本田 秀仁 (ホンダ ヒデヒト)
本名 信行 (ホンナ ノブユキ)
本間 俊一 (ホンマ トシカズ)
本間 紀子 (ホンマ ノリコ)
本間 晴樹 (ホンマ ハルキ)
本間 裕章 (ホンマ ヒロアキ)
本間 裕子 (ホンマ ヒロコ)
前川 務 (マエカワ ツトム)
前川 洋子 (マエカワ ヨウコ)
前沢 明枝 (マエザワ アキエ)
前島 和也 (マエジマ カズヤ)
前田 崇 (マエダ タカシ)
益井 明子 (メイイ アキコ)
益井 岳樹 (メイイ タカキ)
俣野 房子 (マノ フサコ)
町田 隆吉 (マチダ タカヨシ)
町田 俊之 (マチダ トシユキ)
町田 行男 (マチダ ユキオ)
松井 賢治 (マツイ ケンジ)
松井 洋 (マツイ ヒロシ)
松尾 知明 (マツオ トモアキ)
松岡 和美 (マツオカ カズミ)
松岡 チカ子 (マツオカ チカコ)
松崎 英士 (マツザキ エイジ)
松崎 かおり (マツザキ カオリ)
松崎 くみ子 (マツザキ クミコ)
松崎 毅 (マツザキ タケシ)
松澤 孝紀 (マツザワ タカトシ)
松下 みどり (マツシタ ミドリ)
松田 英子 (マツダ エイコ)
松田 英 (マツダ スグル)
松田 奈利子 (マツダ ナリコ)
松田 真由美 (マツダ マユミ)
松野 彩 (マツノ アヤ)
松村 茂樹 (マツムラ シゲキ)
松村 芳明 (マツムラ ヨシアキ)
松本 麻子 (マツモト アサコ)
松本 恵美子 (マツモト エミコ)
松本 通孝 (マツモト ミチタカ)
松本 光朗 (マツモト ミツオ)
松本 渉 (マツモト ワタル)
真殿 達 (マドノ サトル)
眞部 清孝 (マナベ キョウタカ)
眞鍋 淳哉 (マナベ ジュンヤ)
眞鍋 正紀 (マナベ マサノリ)
馬淵 彰 (マブチ アキラ)
三浦 逸雄 (ミウラ イツオ)
三浦 太郎 (ミウラ タロウ)
三浦 正広 (ミウラ マサヒロ)

美甘 哲秀 (ミカモ テツヒデ)
三上 威彦 (ミカミ タケヒコ)
三木 泰弘 (ミキ ヤスヒロ)
三栖 功 (ミス イサオ)
水嶋 裕子 (ミズシマ ヒロコ)
水島 陽子 (ミズシマ ヨウコ)
水谷 尚子 (ミズタニ ナオコ)
水野 利紀 (ミズノ トシキ)
水野 浩幸 (ミズノ ヒロユキ)
水野 的 (ミズノ アキラ)
水本 義彦 (ミズモト ヨシヒコ)
見世 千賀子 (ミセ チカコ)
溝口 甲順 (ミゾグチ カブスン)
三田村 智 (ミタムラ サトシ)
道下 徳成 (ミチシタ ナルシゲ)
三井 はるみ (ミツイ ハルミ)
光延 京子 (ミツノブ キョウコ)
光延 真哉 (ミツノブ シンヤ)
三橋 郁雄 (ミツハシ イクオ)
湊 照宏 (ミナト テルヒロ)
南山 宏之 (ミナミヤマ ヒロユキ)
三原 裕子 (ミハラ ユウコ)
宮尾 依子 (ミヤオ ヨリコ)
宮川 真一 (ミヤガワ シンイチ)
宮城 妙子 (ミヤギ タエコ)
三宅 京子 (ミヤケ キョウコ)
三宅 正純 (ミヤケ マサスミ)
宮坂 渉 (ミヤサカ ワタル)
宮崎 文典 (ミヤザキ フミノリ)
宮下 清 (ミヤシタ キヨシ)
宮下 聡子 (ミヤシタ サトコ)
宮丸 裕二 (ミヤマル ユウジ)
宮本 和武 (ミヤモト カズム)
宮本 直利 (ミヤモト ナオトシ)
宮脇 和 (ミヤワキ カノウ)
明日 誠一 (ミョウガ セイイチ)
三輪 イルマ (ミワ イルマ)
三輪 久恵 (ミワ ヒサエ)
向島 正喜 (ムコウジマ マサキ)
武藤 正義 (ムトウ マサヨシ)
宗実 陽子 (ムネザネ ヨウコ)
村井 英紀 (ムライ ヒデノリ)
村岡 正敏 (ムラオカ マサトシ)
村上 桂一 (ムラカミ ケイイチ)
村椿 真理 (ムラツバキ マコト)
村中 亮子 (ムラナカ リョウコ)
村松 廣二 (ムラマツ コウジ)
村山 祐季子 (ムラヤマ ユキコ)
妻鹿 裕子 (メガ ユウコ)
持田 顕一 (モチダ ケンイチ)
望月 正光 (モチツキ マサミツ)
元橋 富士子 (モトハシ フジコ)
元山 斉 (モトヤマ ヒトシ)
森 一郎 (モリ イチロウ)
森 啓次郎 (モリ ケイジロウ)
森 幸穂 (モリ サチホ)
森 長秀 (モリ ナガヒデ)

森 晴代 (モリ ハルヨ)
森 秀善 (モリ ヒデヨシ)
森 雅文 (モリ マサフミ)
森崎 初男 (モリサキ ハツオ)
森田 茂之 (モリタ シゲユキ)
森田 千草 (モリタ チグサ)
森田 英利 (モリタ ヒデトシ)
森本 真一 (モリモト シンイチ)
森本 平 (モリモト タイラ)
八重田 美衣 (ヤエダ ミエ)
矢ヶ崎 隆二郎 (ヤガサキ リュウジロウ)
八木 直人 (ヤギ ナオト)
八木岡 茂一 (ヤギオカ モイチ)
薬 会 (ヤク カイ)
矢頭 攸介 (ヤズ ユウスケ)
安田 孝子 (ヤスダ タカコ)
安田 努 (ヤスダ ツトム)
安富 義泰 (ヤストミ ヨシヤス)
安原 伸一郎 (ヤスハラ シンイチロウ)
谷田 征子 (ヤツダ マサコ)
箭内 道彦 (ヤナイ ミチヒコ)
柳 宏 (ヤナギ ヒロシ)
柳澤 波香 (ヤナギサワ ナミカ)
柳沢 のどか (ヤナギサワ ノドカ)
柳原 恵津子 (ヤナギハラ エツコ)
矢野 陽子 (ヤノ ヨウコ)
矢延 洋泰 (ヤノブ ヒロヤス)
山内 豊 (ヤマウチ ユタカ)
山岡 透 (ヤマオカ トオル)
山岡 洋一 (ヤマオカ ヨウイチ)
山上 真貴子 (ヤマガミ マキコ)
八卷 直一 (ヤマキ ナオカズ)
山岸 健一 (ヤマギシ ケンイチ)
山岸 敬道 (ヤマギシ タカミチ)
山口 浩平 (ヤマグチ コウヘイ)
山口 しのぶ (ヤマグチ シノブ)
山口 まどか (ヤマグチ マドカ)
山口 理沙 (ヤマグチ リサ)
山崎 和美 (ヤマザキ カズミ)
山崎 澄江 (ヤマザキ スミエ)
山崎 俊明 (ヤマザキ トシアキ)
山路 顕 (ヤマジ アキラ)
山下 清美 (ヤマシタ キヨミ)
山下 隆之 (ヤマシタ タカユキ)
山田 晶雄 (ヤマダ アキオ)
山田 高敬 (ヤマダ タカヒロ)
山田 忠彰 (ヤマダ タダアキ)
山田 晴通 (ヤマダ ハルミチ)
山田 博志 (ヤマダ ヒロシ)
山田 寛子 (ヤマダ ヒロコ)
山田 好一 (ヤマダ ヨシカズ)
大和 洋子 (ヤマト ヨウコ)
山中 宏治 (ヤマナカ コウジ)
山根 信二 (ヤマネ シンジ)
山内 康英 (ヤマノウチ ヤスヒデ)
山邊 進 (ヤマベ ススム)
山邊 美登子 (ヤマベ ミトコ)

山本 昭代 (ヤマモト アキヨ)
山本 啓介 (ヤマモト ケイスケ)
山本 直人 (ヤマモト ナオト)
山本 宣明 (ヤマモト ノブアキ)
山本 裕一 (ヤマモト ユウイチ)
横江 公美 (ヨコエ クミ)
横川 耕二 (ヨコカワ コウジ)
横田 順子 (ヨコタ ジュンコ)
横山 俊一 (ヨコヤマ シュンイチ)
横山 詔一 (ヨコヤマ ショウイチ)
吉岡 愛子 (ヨシオカ アイコ)
吉岡 貴雄 (ヨシオカ タカオ)
吉岡 秀輝 (ヨシオカ ヒデキ)
吉川 純子 (ヨシカワ ジュンコ)
吉川 真 (ヨシカワ マコト)
芳川 ゆかり (ヨシカワ ユカリ)
吉川 好昭 (ヨシカワ ヨシアキ)
吉田 哲史 (ヨシダ テツシ)
吉田 典代 (ヨシダ ノリヨ)
吉田 パトリシア (ヨシダ パトリシア)
吉田 寛 (ヨシダ ヒロシ)
吉富 透 (ヨシトミ トウル)
吉野 有助 (ヨシノ ユウスケ)
吉本 素子 (ヨシモト モトコ)
米倉 律 (ヨネクラ リツ)
米田 博美 (ヨネダ ヒロミ)
羅 奇祥 (ラ キョウ)
李 鴻谷 (リ コウコク)
李 鍾強 (リ ソウキョウ)
李 哲権 (リ テツケン)
流郷 吐夢 (リュウゴウ トム)
若園 智明 (ワカゾノ チアキ)
涌井 陽子 (ワクイ ヨウコ)
和嶋 雄一郎 (ワジマ ユウイチロウ)
和治元 義博 (ワジモト ヨシヒロ)
渡邊 章 (ワタナベ アキラ)
渡辺 聡 (ワタナベ アキラ)
渡辺 敦子 (ワタナベ アツコ)
渡邊 和矩 (ワタナベ カズノリ)
渡邊 恭子 (ワタナベ キョウコ)
渡邊 浩司 (ワタナベ コウジ)
渡辺 紫乃 (ワタナベ シノ)
渡辺 隆司 (ワタナベ タカシ)
渡辺 岳夫 (ワタナベ タケオ)
渡部 富栄 (ワタナベ トミエ)
渡邊 直樹 (ワタナベ ナオキ)
渡邊 英則 (ワタナベ ヒデノリ)
渡辺 浩 (ワタナベ ヒロシ)
渡辺 博之 (ワタナベ ヒロユキ)
渡部 友晴 (ワタベ トモハル)
渡邊 雅之 (ワタナベ マサユキ)
渡部 良子 (ワタベ リョウコ)

教育人間科学部

教育学科

心理学科

講 義 内 容

講義内容目次

外国語科目	外国語 I	2
教育学科	学科科目	36
心理学科	学科科目	100

相模原キャンパス開講科目

この冊子『講義内容』の内容と、WEB版講義内容検索システムの内容とに相違がある場合は、**WEBの内容を優先**します。

講義内容では履修年次を履修可能な年次で表しています。
履修順序などで履修が制限されることがありますので、授業要覧で必ず確認し、なるべく望ましい年次での履修を心がけてください。

教育人間科学部
外国語科目

外国語 I

教育人間科学部 教育学科・心理学科 外国語科目 担当者一覧および講義内容目次

授業科目の名称	単位数	担当者		学期	履修年次	キャンパス	頁
英語講読 I	2	高木 亜希子	(教)	通年	1～4	相模原	5
英語講読 I	2	山本 史歩子	(教)	通年	1～4	相模原	5
英語講読 I	2	加藤 麻衣子	(教)	通年	1～4	相模原	6
英語講読 I	2	難波 和子	(教)	通年	1～4	相模原	7
英語講読 I	2	吉川 純子	(教)	通年	1～4	相模原	8
英語講読 I	2	奥野 理恵子	(心)	通年	1～4	相模原	9
英語講読 I	2	田口 幹比古	(心)	通年	1～4	相模原	9
英語講読 I	2	塚田 雅也	(心)	通年	1～4	相模原	10
英語講読 II	2	緒方 孝文	(教)	通年	2～4	相模原	11
英語講読 II	2	高木 亜希子	(教)	通年	2～4	相模原	12
英語講読 II	2	山本 史歩子	(教)	通年	2～4	相模原	13
英語講読 II	2	阪口 美津子	(教)	通年	2～4	相模原	14
英語講読 II	2	中嶋 幸子	(教)	通年	2～4	相模原	14
英語講読 II	2	緒方 孝文	(心)	通年	2～4	相模原	15
英語講読 II	2	新宮 富美子	(心)	通年	2～4	相模原	16
英語講読 II	2	藤牧 新	(心)	通年	2～4	相模原	16
オーラル・イングリッシュ I	2	ARMSTRONG, W.H.	(教・心)	通年	1～4	相模原	17
オーラル・イングリッシュ I	2	BROWNING, T.L.	(教・心)	通年	1～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ I	2	BULACH, J.J.	(教・心)	通年	1～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ I	2	BUNDT, L.L.	(教・心)	通年	1～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ I	2	BUTLER, B.J.	(教・心)	通年	1～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ I	2	HARDGRAVE, B.J.	(教・心)	通年	1～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ I	2	HOWL, P.F.	(教・心)	通年	1～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ I	2	MORK, C.M.	(教・心)	通年	1～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ I	2	PULASKI, J.C.	(教・心)	通年	1～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ I	2	RICHARDSON, C.A.	(教・心)	通年	1～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ I	2	SHADE, E.	(教・心)	通年	1～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ I	2	TAKEDA, N.K.	(教・心)	通年	1～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ I	2	THOMSON, B.	(教・心)	通年	1～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ II	2	ANDRADE, M.	(教・心)	通年	2～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ II	2	BARAT, R.	(教・心)	通年	2～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ II	2	BASSO, R.J.	(教・心)	通年	2～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ II	2	BINDER, S.R.	(教・心)	通年	2～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ II	2	BROADBRIDGE, J.R.	(教・心)	通年	2～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ II	2	BRUCE, J.M.	(教・心)	通年	2～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ II	2	BUTLER, B.J.	(教・心)	通年	2～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ II	2	MEEHAN, K.	(教・心)	通年	2～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ II	2	MOHAMED, G.A.	(教・心)	通年	2～4	相模原	
オーラル・イングリッシュ II	2	TAKEDA, N.K.	(教・心)	通年	2～4	相模原	

オーラル・イングリッシュⅡ	2	VAJIRASARN, A.	(教・心)	通年	2～4	相模原	
オーラル・イングリッシュⅡ	2	小川 ルビー	(教・心)	通年	2～4	相模原	
オーラル・イングリッシュⅡ	2	ティムソン 真澄	(教・心)	通年	2～4	相模原	
英作文Ⅰ	2	高木 亜希子	(教)	通年	2～4	相模原	18
英作文Ⅰ	2	山本 史歩子	(教)	通年	2～4	相模原	19
英作文Ⅰ	2	小谷 真理子	(教)	通年	2～4	相模原	19
英作文Ⅰ	2	藤牧 新	(教)	通年	2～4	相模原	20
英作文Ⅰ	2	本間 裕子	(教)	通年	2～4	相模原	21
英作文Ⅰ	2	向島 正喜	(教)	通年	2～4	相模原	21
英作文Ⅰ	2	吉川 純子	(教)	通年	2～4	相模原	22
英作文	2	緒方 孝文	(心)	通年	2～4	相模原	23
英作文	2	小谷 真理子	(心)	通年	2～4	相模原	24
英作文	2	永谷 万里雄	(心)	通年	2～4	相模原	25
英作文	2	水野 利紀	(心)	通年	2～4	相模原	26
英作文	2	涌井 陽子	(心)	通年	2～4	相模原	27
日本語初級 A	2	奥村 大志	(外国人留学生用)	通年	1～4	相模原	27
日本語初級 B	2	酒井 和子	(外国人留学生用)	通年	1～4	相模原	28
日本語初級 C	2	小島 聡子	(外国人留学生用)	通年	1～4	相模原	29
日本語中級 A	2	奥村 大志	(外国人留学生用)	通年	2～4	相模原	29
日本語中級 B	2	酒井 和子	(外国人留学生用)	通年	2～4	相模原	30
日本語上級	2	(2011年度開講)	(外国人留学生用)	通年	3～4	青山	

英語講読 I

学期 (通年) 履修年次 (1~4) 単位 (2)
高木 亜希子 (教)

【授業の到達目標及びテーマ】

英文を正確かつ速く読むためのリーディングスキルを身につけるとともに、批判的に英文を読み、内容を深く理解した上で、自分の意見を述べる力を育成します。

【講義概要】

本講義では、文化、社会、環境など幅広いトピックを題材とし、アカデミックな英語読解力を身につけることを目指して、語彙力を身につけ、スキミング、スキヤニング、文脈からの推測、テキストマッピングなどのリーディングスキルを養成します。また、英文読解を通して、世界や社会の問題について学び、各自の視野を広げるとともに、クラスメイトと英語でディスカッションを行います。教科書以外に、速読教材やシャドーイング教材を用いて、多角的に受講者の英語力を伸ばしたいと考えています。

【授業計画】

(前期)

- 第1回 ガイダンスとリーディング力診断
- 第2回 Unit 1 The Millennial Generation
- 第3回 Unit 2 (1) An American Finding Her Chinese Face
- 第4回 Unit 2 (2) A Clean Break
- 第5回 Unit 3 (1) Consumer Lifestyle
- 第6回 Unit 3 (2) A Frugal Alternative?
- 第7回 Unit 4 (1) How to Grow Old and Stay Young
- 第8回 Unit 4 (2) Lost Keys
- 第9回 Unit 5 (1) Youth Takes Action Against Child Labor
- 第10回 Unit 5 (2) Teen Talking to Teens
- 第11回 Unit 6 (1) The Body and Soul of Club Culture
- 第12回 Unit 6 (2) Privacy in the Music Industry
- 第13回 Reading Skills (1)
- 第14回 Reading Skills (2)
- 第15回 前期試験

(後期)

- 第1回 後期授業ガイダンスとVocabulary Activity
- 第2回 Unit 7 (1) The Invasion of Work
- 第3回 Unit 7 (2) A Handful of Dates
- 第4回 Unit 8 (1) Inequality in the World
- 第5回 Unit 8 (2) Poorest Women Gaining Equality
- 第6回 Unit 9 (1) Ripe Figs
- 第7回 Unit 9 (2) Advice to My Son
- 第8回 Unit 10 (1) Endangered Languages
- 第9回 Unit 10 (2) Crickets
- 第10回 Unit 11 (1) Protecting the Wild
- 第11回 Unit 11 (2) Lift Ban on Ivory
- 第12回 Unit 12 The Final Frontier
- 第13回 Reading Skills (3)
- 第14回 Reading Skills (4)
- 第15回 後期試験

【成績評価方法】

前期試験 (20%) 後期試験 (20%) 出席 (20%) シャドーイングテスト (20%) 語彙テスト (20%)

【教科書】

Global Outlook 2: Advanced Reading (Brenda Dyer & Brenda Bushell) McGraw Hill 出版

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【その他】

授業には辞書を持参してください。

英語講読 I

学期 (通年) 履修年次 (1~4) 単位 (2)
山本 史歩子 (教)

【講義題目】

ことばと人・社会・文化を学びます

【授業の到達目標及びテーマ】

ことばと人・社会・文化は複雑に関係しています。普段あまり意識することなく発していることばが、いかに我々の生活や人間関係に影響しているかは容易に想像できると思います。従って、ことばと社会の密接な関係を学ぶことは、学生たちの英知を養う手助けになると思われます。この授業では、2009年に起きた世界のニュース記事を読むことで、英字新聞に親しむだけでなく、今世界で起きていること、journalistic English を学びたいと思います。様々なトピックを扱うので、楽しみながら英語について更なる理解を深めることを期待しています。

【講義概要】

この授業では、学部の1、2年レベルの英文を正確に読む力を養うだけでなく、その内容を十分に消化し、自分のことばで

意見を述べることができるようになることを目標とします。そのために、語い・文法構造・イディオム表現・言外の意味についても学びます。更に、音読を通して、発音もチェックしていきます。授業は、あらかじめ各自に割り当てられている箇所を授業で日本語に訳してもらい、正確に意味を理解できているか検証していきます。更に、内容に対する各自のコメントや、それにまつわるエピソードなどあれば交えながら授業を進めていきます。学生たちの積極的な参加を期待しています。

【授業計画】

(前期)

- 第1回 Sleepy Wyoming town morphs into English-teaching hub
- 第2回 Boold types - do they shape a personality or are they mere stereotypes?
- 第3回 Wakata to become first Japanese to spend 3 months in space
- 第4回 A first family that looks like America
- 第5回 Note to parents: Teaching manners is part of raising a healthy child
- 第6回 Care workers struggling with kanji
- 第7回 Arab women find a job, and freedom, at 35,000 feet
- 第8回 Two Japanese films bag Oscars - Slumdog sweeps awards-
- 第9回 China court takes aim at vigilantism on Internet
- 第10回 4,800 books, 2 burros and one striving teacher
- 第11回 Darwin and Darwinism
- 第12回 Somalia sinks into total disintegration
- 第13回 Japan rules baseball world again
- 第14回 Shoe-throwing Iraqi becomes a symbol
- 第15回 前期試験

(後期)

- 第16回 Ethnic tensions threaten fragile Bosnia pact
- 第17回 Women begin leading the way in Reykjavik
- 第18回 Inner-city students in New York learn Japanese as their third language
- 第19回 A collective as sanctuary for Russian orphans
- 第20回 A youth subculture thrives in Argentina
- 第21回 Amateur singer becomes Internet sensation
- 第22回 Three Physicists Share Nobel Prize
- 第23回 Chinese hip-hop grows in shadows
- 第24回 Demise of the French cafe, and a way of life
- 第25回 Japanese teen creating a buzz - Ishikawa can't cut it in PGA Tour debut
- 第26回 print
- 第27回 print
- 第28回 print
- 第29回 print
- 第30回 後期試験

【成績評価方法】

出席 (10%)・授業への積極的な参加、各自の担当の発表 (30%)、学期末の試験 (60%) による総合評価をします。

【教科書】

English through the News Media 2009 by M. Takahashi, N. Itoh and R. Powell 2009 Asahi Press

【参考書】

教室にて適宜指示

【その他】

予め各自テキストを読んでおくこと。

英語講読 I

学期 (通年) 履修年次 (1~4) 単位 (2)

加藤 麻衣子 (教)

【講義題目】

コミュニケーションや文化を扱った文章、エッセイや短編小説など色々なテキストを読み、読解力と思考力を養います。

【授業の到達目標及びテーマ】

基本的な語彙、構文、文法の知識の整理と、英文を正確に読む力の養成。

文単位での理解からパラグラフ、さらにチャプター単位での内容理解に深めるための訓練。

【講義概要】

今まで学んできた文法や語彙などについて確認しながら、ただ英文を読んで訳して、というのではなく正確な解釈やそこから自分なりに考えたこと、調べたことを発表しあいます。

授業の初回に発表グループと座席を決めます。これは担当教員と受講者が各自の名前を覚えられるように、また積極的な発言がしやすい環境をつくるためです。

毎回4ページ前後を読みます。前もって担当者グループ(7-8人程度)を決めておき、授業での発表時までレジュメを作成してもらいます。授業はクラス全員に配布されたレジュメによる担当者の発表(本文の要約、語彙や文法、興味をもったこと、調べたことなど)、続いて他の人たちの質問(グループ単位での発言も可)、読んだ内容に関して調べたこと、意見の交換によって進められます。

テキストは、短編小説、エッセイ、演説など多くのジャンルのものを扱っているので、読みながら英語圏の文化や人々の生活についての理解を深めてほしいと思います。

【授業計画】

前期

- 第1回 オリエンテーション / Kate Chopin, "Regret"
 第2回 "Regret"
 第3回 "Regret" & "Bernard Malamud, My Son the Murderer"
 第4回 "My Son the Murderer"
 第5回 "My Son the Murderer"
 第6回 小テスト / E. L. Doctorow, "The Writer in the Family"
 第7回 "The Writer in the Family"
 第8回 "The Writer in the Family"
 第9回 "The Writer in the Family"
 第10回 "The Writer in the Family"
 第11回 John Updike, "Still of Some Use"
 第12回 "Still of Some Use"
 第13回 Bob Greene, "A Moment to Care"
 第14回 Bob Greene, "Misty's Book"
 第15回 期末試験

後期

- 第16回 Raymond Carver, "Elephant"
 第17回 "Elephant"
 第18回 "Elephant"
 第19回 "Elephant"
 第20回 "Elephant"
 第21回 小テスト / Leo Buscaglia, "Choose Life"
 第22回 "Choose Life"
 第23回 "Choose Life"
 第24回 "Choose Life"
 第25回 "Choose Life"
 第26回 "Choose Life"
 第27回 "The Inaugural Address of Barack Obama"
 第28回 "The Inaugural Address of Barack Obama"
 第29回 総復習
 第30回 期末試験

【成績評価方法】

出席点＝授業でのアクティビティを十分に行っているかどうか 30%

提出物（発表レジュメ他）、小テストなど 30%

期末試験 40%

欠席の回数によって出席点が差し引かれることはありませんが、単に教室に座っているだけでは出席とみなされません。予習、授業中におけるアクティビティ（問題演習、課題の準備など）を十分に行っていることで、出席と認められます。

遅刻、早退報告のない人、出欠確認時に返事をしない（あるいはしそびれた）人は欠席扱いになります。また、予習をしない、辞書や教科書を忘れた人は出席点減点の対象になります。

【教科書】

John Updike, Kate Chopin, et al. *American Families* (Sanshusha, 1995)

他に「オバマ大統領就任演説」及びLeo Buscaglia, *Living, Loving & Learning* (朝日出版社)、*Bob Greene's Best Sketches of Life* (松柏社) より抜粋、プリントを使用。

【準備】

必ず予習をしてください。

発表者以外の発言は、本文の解釈についての質問、読んで気づいたことなど何でも構いません。

発表者は半期に最低一度はレジュメを作成すること。

【その他】

毎回辞書を用意すること。一般の辞書、電子辞書のどれでも良いですが、ポケット版と初版年月日の古いものは使わないこと。

英語講読 I

学期（通年）履修年次（1～4）単位（2）

難波 和子（教）

【講義題目】

英文読解

【授業の到達目標及びテーマ】

英文を正確に読み理解する力を養成します。

【講義概要】

2008～2009年発行の英字新聞（The New York Times, The Los Angeles Times, The Washington Post, The Asahi Shinbun など7紙）の社会、政治経済、文化、言語、教育など多岐にわたる記事を読み、世界の様々な国や分野への関心を高めながら、英文の読解力養成を目指します。

テキストは1回に1、2課ずつ（前期1～12、後期13～24）進む予定です。4人ずつのグループに分かれグループ内で討論した後で、1つのグループが1つのユニットを担当し、それぞれのトピックに関することを調べて発表します。

語彙を増やすため、毎週授業の始めに単語テストを行います。'Words and Phrases'の中から2単語ずつ出題します。

【授業計画】

（前期）

第1回 Introduction

- 第2回 1. Sleepy Wyoming town morphs into English-teaching hub
- 第3回 2. Blood types – do they shape a personality or are they mere stereotype?
- 第4回 3. Wakata to become first Japanese to spend 3 months in space
- 第5回 4. A first family that looks America
- 第6回 5. Note to parents: Teaching manners is part of raising a healthy child
- 第7回 6. 'Care workers struggling with kanji
- 第8回 Mid-term test
- 第9回 7. Arab women find a job and freedom at 35,000 feet
- 第10回 8. Two Japanese films bag Oscars / Slumdog sweeps awards
- 第11回 9. China court takes aim at vigilantism on Internet
- 第12回 10. 4,8000 books, 2 burros and one striving teacher
- 第13回 11. Darwin and Darwinism
- 第14回 12. Somalia sinks into total disintegration
- 第15回 Final test

(後期)

- 第1回 Introduction
- 第2回 13. Japan rules baseball world again
- 第3回 14. Shoe-throwing Iraqi becomes a symbol
- 第4回 15. Chinese parents favor foreign-brand toys even if made in China
- 第5回 16. Ethnic tensions threaten fragile Bosnia pact
- 第6回 17. Women begin leading the way in Reykjavik
- 第7回 18. A collective as sanctuary for Russian orphans
- 第8回 Mid-term test
- 第9回 19. A youth subculture thrives in Argentina
- 第10回 20. Amateur singer becomes Internet sensation
- 第11回 21. Three physicists Share Nobel Prize
- 第12回 22. Chinese hip-hop grows in shadows
- 第13回 23. Demise of the French café, and a way of life
- 第14回 24. Japanese teen creating a buzz
- 第15回 Final test

【成績評価方法】

定期試験(前期、後期各2回実施) 65%、平常点15%、口頭発表10%、単語テスト10%

【教科書】

English through the News Media 2010 Edition, Masami Takahashi, Asahi Press

【その他】

出席は重視します。(70%以上 遅刻3回で欠席1回とします) ただしやむをえない場合は課題を出しますので早目に欠席事由をお知らせください。必ず予習をして授業に臨んでください。

英語講読 I

学期(通年)履修年次(1~4)単位(2)

吉川 純子 (教)

【講義題目】

英文の読み方の様々なスキルを学ぶ。

【授業の到達目標及びテーマ】

英文の趣旨をより明確に把握できるようにする。

【講義概要】

速読、多読、要約などの作業を通じて、英文読解力を向上させる。

【授業計画】

前期	後期
第1回 第1章 Personality	第1回 第8章 Populations in peril
第2回 第1章 Personality	第2回 第8章 Populations in peril
第3回 第2章 Punishment	第3回 第9章 Sports
第4回 第2章 Punishment	第4回 第9章 Sports
第5回 第3章 Extensive reading	第5回 第10章 West meets East
第6回 第3章 Extensive reading	第6回 第10章 West meets East
第7回 第4章 Money	第7回 第11章 Media
第8回 第4章 Money	第8回 第11章 Media
第9回 第5章 Love	第9回 第12章 Success
第10回 第5章 Love	第10回 第12章 Success
第11回 第6章 The Internet	第11回 Owl Creek Bridge
第12回 第6章 The Internet	第12回 Owl Creek Bridge
第13回 第7章 Language	第13回 Beyond the Wall
第14回 第7章 Language	第14回 Beyond the Wall
第15回 定期試験	第15回 定期試験

【成績評価方法】

定期試験80% 出席・発言20%

【教科書】

Essential Reading 3

MACMILLAN

英語講読 I

学期 (通年) 履修年次 (1~4) 単位 (2)

奥野 理恵子 (心)

【講義概要】

The New York Times, International Herald Tribune, The Associated Press, The Washington Press等から社会、文化、政治経済、教育、スポーツの記事を収録した記事を読み、世界中のニュースに触れ、読み、語彙を増やし、内容を正確に理解する力をつけることを目標とします。問題意識を持って考え、意見交換できるように進めていきます。随時、要約文の提出を課します。上質な要約文の作成が、内容の理解を示すものとなります。

テキストに加えて短編小説、人間観察について書かれた論文の一部を取り上げます。多様な英文に触れるようにします。

【授業計画】

前期

第1回：テキストの説明と要約の方法について解説

第2回：Blood types

第3回：Arab women find a job, and freedom, at 35,000 feet

第4回：プリント教材

第5回：プリント教材

第6回：プリント教材

第7回：Two Japanese films bag Oscars

第8回：Care workers struggling with Kanji

第9回：China court takes aim at vigilantism on Internet

第10回：4,800 books, 2 burros and one striving teacher

第11回：Darwin and Darwinism

第12回：Somalia sinks into total disintegration

第13回：Notes to Parents;

第14回：プリント教材

第15回：定期試験

後期

第1回：プリント教材

第2回：プリント教材

第3回：プリント教材

第4回：Japanese teen creating a buzz

第5回：Shoe-throwing Iraqi becomes a symbol

第6回：Ethnic tensions threaten fragile Bosnia pact

第7回：Women begins leading the way in Reykjavik

第8回：プリント教材

第9回：Inner-city students in N.Y.

第10回：A Collective as sanctuary for Russian orphans

第11回：A youth subculture thrives in Argentina

第12回：Amateur singer becomes Internet sensation

第13回：Three Physicists Share Nobel Prize

第14回：プリント教材

第15回：定期試験

【成績評価方法】

出席重視。

定期試験による評価60%、平常点 (出席状況・課題提出・授業参加度等) 40%

【教科書】

English through the News Media

Richard Powell 編

朝日出版社

英語講読 I

学期 (通年) 履修年次 (1~4) 単位 (2)

田口 幹比古 (心)

【講義題目】

ことば人・社会・文化を学びます。

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ 「現代英語の正確な読解力の養成」

授業の到達目標は現代英語を正確に読みとる力を身につけることです。このために語彙、慣用表現を増やし、文法の知識を確実にしていきます。同時に“Exercises”を通して内容要約力の養成も図ります。

【講義概要】

使用するテキストは比較的易しい英文で書かれているので、皆さんの理解の度合いをみながら、説明に濃淡を付けて授業を進めていきます。高校までに学んだ文法事項を確認し、さらに英文を効果的に読むのに必要なパラグラフ・リーディングなどのスキルも必要に応じて解説します。現代の様々な結婚をテーマとした英文と短編小説を読みますので、幅広い分野の語彙とイディオムを身につけることとなります。また、必要に応じてプリントを用い英語力強化に役立てます。授業では、学生の皆さんに予め割り当てておいた英文を訳してもらい、必要に応じて田口が解説を加えるという手順で進めていきます。1時間で

相当な分量を読むこととなりますから各自、十分な予習が要求されます。

【授業計画】

（前期）

- 第1回：オリエンテーション（授業の進め方、評価基準等の説明）A King's Love Created the Church of England（1）
- 第2回：A King's Love Created the Church of England（2）, The Protestant Clergy May Marry（1）
- 第3回：The Protestant Clergy May Marry（2）
- 第4回：Polygamy in America
- 第5回：Shinran was the First Priest to Marry
- 第6回：Islam Allows as Many as Four Wives
- 第7回：Legalizing Same-Sex Unions
- 第8回：New Marriage Patterns in the Farming Communities of China
- 第9回：Single Mothers are Not Failures
- 第10回：Cohabitation is Perfectly Natural in the West
- 第11回：There is No True Divorce Among the Inuit
- 第12回：In China, Women were not allowed to Take Their Husband's Last Name
- 第13回：Japanese Wives Take Their Husband's Last Name
- 第14回：In Britain You Can Name as You Please
- 第15回：前期試験

（後期）

- 第1回：The Mega Families of Shirakawa Village
- 第2回：Changes in the Family Structure Mirror Social Changes
- 第3回：The Husband Moves in with His Bride's Family
- 第4回：An Experiment without Precedent in Human History
- 第5回：Singapore Enacts Many New Family Policies
- 第6回：The Pro-Choice / Pro-Life Debate
- 第7回：Gender Issues in Japan
- 第8回：Suttee
- 第9回：Japan Enters the Era of Declining Birth Rate and Population
- 第10回：Three's a Crowd
- 第11回：短編小説（1）
- 第12回：短編小説（2）
- 第13回：短編小説（3）
- 第14回：短編小説（4）
- 第15回：後期試験（5）

【成績評価方法】

単位取得の条件として、全授業回数の4分の3以上の出席が必要です。なお、遅刻は2回で1回分の欠席と見なします。成績は、前期と後期の定期試験の成績を80パーセント、授業への参加度を20%として出します。授業への参加度とは、出席回数、発表、積極的な授業への参加等をいいます。

【教科書】

The Changing Face of Marriage and Family by H.Ohashi and B.Baxter 成美堂

【参考書】

江川泰一郎『英文法解説』（金子書房）

【その他】

英和辞書、あるいは英英辞書をひきながら意味や、用法の確認をするので、必ず辞書を持参して下さい。

英語講読Ⅰ

学期（通年）履修年次（1～4）単位（2）

塚田 雅也（心）

【講義題目】

英文リーディングの基礎

【授業の到達目標及びテーマ】

英文の精読から多読へ

【講義概要】

大学入学以前にも英文を多く読んできたと思いますが、多くの学生にとって、それは和訳し設問に答えるためのものではなかったでしょうか。しかしこれから求められるのは、必要な情報を得たり知見を広めるための“スキル”としての「読み」となります。この授業では、文法的に逐語訳するだけではなく、内容を正しく理解し、より速くより多くの英文を読むことを目標とします。そのために比較的平易で短めの文章を教材として使用します。

授業は、ランダムに指名し、学生1人につき1段落の英文和訳を基本とします。したがって予習は必須です。また場合によっては和訳以外のタスクをしてもらう場合があります。また、担当教員は原則として全文の訳しなおしをしないので、集中して授業に臨むことが求められますが、内容が多岐にわたるので必要に応じて解説・補足説明をします。また、語彙や内容に関する設問についても指名の上で解答してもらいます。さらに読解スキルとしてPhrase Reading, Skimming, Scanningを学びます。またテキスト以外に、大学での英語学習者として知ってほしい知識として、OEDのひき方、英文記事の読み方、語の成り立ち（接頭辞・接尾辞など）や簡単な英語の歴史も扱います。

【授業計画】

<前期>

- 第1回 授業ガイダンス
- 第2回 Unit 1: Blogging

- 第3回 Unit 2: The Sphinx
- 第4回 Unit 3: Spiders
- 第5回 Reading Skills 1: Phrase Reading
- 第6回 Unit 4: Blockbuster Movies
- 第7回 Unit 5: The Tour de France
- 第8回 Unit 6: Left-Handedness
- 第9回 Additional Tasks 1: How to Use OED
- 第10回 Unit 7: Jennifer Lopez
- 第11回 Unit 8: Body Language
- 第12回 Unit 9: Cosmetic Surgery
- 第13回 Additional Tasks 2: Word-formation
- 第14回 Unit 10: Oil Spills
- 第15回 前期試験

<後期>

- 第1回 Reading Skills 2: Newspaper Reading
- 第2回 Unit 11: Delivering the Mail
- 第3回 Unit 12: Speed Dating
- 第4回 Unit 13: Mystery Mansion
- 第5回 Unit 14: International Baseball
- 第6回 Reading Skills 3: Skimming & Scanning
- 第7回 Unit 15: Strange Foods
- 第8回 Unit 16: Secret Station
- 第9回 Unit 17: Taekwondo
- 第10回 Unit 18: White Sands
- 第11回 Additional Tasks 3: Brief History of English
- 第12回 Unit 19: The Great Pretender
- 第13回 Unit 20: Modern Art
- 第14回 まとめ
- 第15回 後期試験

【成績評価方法】

成績は、期末試験（50%）、課題点（20%）、授業点（30%）で評価します。

課題点は上記授業計画のReading SkillsやAdditional Tasksに関する小レポートです。授業点は和訳・設問に対する解答です。不十分な予習や解答に時間を要する場合には授業点になりません。

欠席が全授業回数の3分の1以上の場合は単位を認めません。また遅刻は30分以内とし、遅刻3回で欠席1回として扱います。ただし遅刻した場合、その回の授業では指名しないので、遅刻が多い場合には必然的に授業点が下がります。

【教科書】

Advanced Faster Reading, Casey Malarcher・森田 彰・原田慎一著（成美堂）

【その他】

英和辞典を必携のこと。

英語講読Ⅱ

学期（通年）履修年次（2～4）単位（2）
緒方 孝文（教）

【授業の到達目標及びテーマ】

「英語講読」とは単に英語を日本語に機械的に訳すことではない。日本語に訳したことで英語を理解したと思込むのは大きな間違いである。英語を正確な日本語に訳す努力は必要だが、同時に訳読だけでは伝えきれない筆者の主張を“解釈”し、さらにそれに対してしっかりと自分の意見を言えるようにしなければならない。本授業では語彙・文法・構文や翻訳法などの語学的習得を目指すとともに、内容理解にも重点を置き、筆者の主張に対する積極的な議論が最終的にできるようになることを目標とした。受動的に日本語訳を写すだけではなく、積極的に英文を“解釈する”習慣を身につけてほしい。また、次第にリーディングのスピードを上げるので、パラグラフ単位・章単位での内容把握ができるように努めてほしい。

【講義概要】

日米の文化的差異を扱った英文を読むが、教科書には日常的なエピソードが多数載っているので、心理を専門とする皆さんにも楽しめるはずである。同じようなエピソードや経験について皆で考え、国際的な見地から人間関係における価値観の相違とその対処法などについて活発な議論ができることを期待している。我々がふだん当たり前と思っている文化的な事象（ことば、生活習慣、マナー、思考様式など）も、他国の価値観からすると常識はずれであるものが少なくない。どちらが良い悪いということではなく、価値観の違いを感受できる広い視野をもって種々の出来事を見る習慣をつけてもらいたい。当てられた者だけが訳読して終わるのではなく、全員が積極的に意見を言い合える授業になることを望む。

【授業計画】

（前期）

- 第1回 イン트로ダクションー文を理解するとはどういうことか。
- 第2回 Cultural Patterns 1
- 第3回 Cultural Patterns 2
- 第4回 The Physical Environment 1
- 第5回 The Physical Environment 2
- 第6回 Religion 1
- 第7回 Religion 2
- 第8回 Politics 1

- 第9回 Politics 2
- 第10回 Authority 1
- 第11回 Authority 2
- 第12回 Time 1
- 第13回 Time 2
- 第14回 Diversity
- 第15回 定期試験
(後期)
- 第1回 Appearances 1
- 第2回 Appearances 2
- 第3回 Sexual Issues 1
- 第4回 Sexual Issues 2
- 第5回 Housing 1
- 第6回 Housing 2
- 第7回 Sports 1
- 第8回 Sports 2
- 第9回 Newspapers 1
- 第10回 Newspapers 2
- 第11回 Shopping and Business 1
- 第12回 Shopping and Business 2
- 第13回 The New Family
- 第14回 The New Student
- 第15回 定期試験

【成績評価方法】

定期試験の点数 (70%) に授業参加度・発言度 (30%) を考慮して総合評価する。

【教科書】

Exploring Hidden Culture, Paul Stapleton (金星堂)

【参考書】

『週刊ST』各号

英語講読Ⅱ

学期 (通年) 履修年次 (2~4) 単位 (2)

高木 亜希子 (教)

【授業の到達目標及びテーマ】

本授業では、英語講読Ⅰに続き、英文の概要の把握、解釈、分析、評価などのアカデミックリーディングスキルを身につけることで英語読解能力を向上することを目的とします。また、テキストの種類や読む目的の違いに応じて、リーディングストラテジーを適切に選択できる能力を身につけます。

【講義概要】

本授業で扱うトピックは、結婚、家族、文化、ジェンダー、メディア、法律など多岐に渡っています。興味深い題材を通して、内容を理解したり、効果的に英文を読むためのスキルを向上するのみならず、英文に基づいて、各自の考えをエッセイでまとめたり、クラスメイトとディスカッションをすることで、クリティカルシンキングを育成します。授業はグループ活動が中心となり、受講者の積極的な参加が求められます。

【授業計画】

(前期)

- 第1回 ガイダンスとリーディング力診断
- 第2回 Chapter 1 Marriage, Family and the Home (1) The Family Today
- 第3回 Chapter 1 Marriage, Family and the Home (2) Alternative Lifestyles
- 第4回 Chapter 1 Marriage, Family and the Home (3) How We Learn to Behave
- 第5回 Chapter 2 The Power of the Group (1) The Influence of Culture
- 第6回 Chapter 2 The Power of the Group (2) Peer Group Pressure
- 第7回 Chapter 2 The Power of the Group (3) Crowds
- 第8回 Chapter 3 Growing Up Male or Female (1) Bringing Up Boys and Girls
- 第9回 Chapter 3 Growing Up Male or Female (2) Learning Gender Lessons at School
- 第10回 Chapter 3 Growing Up Male or Female (3) Gender Roles in Media
- 第11回 Chapter 4 Gender Issued Today (1) Balancing Home and Work
- 第12回 Chapter 4 Gender Issued Today (2) Sexual Harassment
- 第13回 Chapter 5 Mass Media Today (1) Reporting the Facts
- 第14回 Chapter 5 Mass Media Today (2) Advertising in the Media
- 第15回 前期試験

(後期)

- 第1回 Chapter 6 The Influence of the Media (1) Privacy and the Media
- 第2回 Chapter 6 The Influence of the Media (2) Internet Issues
- 第3回 Chapter 7 Crime and Criminals (1) Deviance and Crime
- 第4回 Chapter 7 Crime and Criminals (2) Computers and Crime
- 第5回 Chapter 7 Crime and Criminals (3) Techniques for Solving Crimes
- 第6回 Chapter 8 Controlling Crime (1) Prisons
- 第7回 Chapter 8 Controlling Crime (2) The Death Penalty

- 第8回 Chapter 8 Controlling Crime (3) The War on Drugs
- 第9回 Chapter 9 Cultural Change (1) Cultural Variation and Change
- 第10回 Chapter 9 Cultural Change (2) Subcultures and Cults
- 第11回 Chapter 9 Cultural Change (3) The Changing Workplace
- 第12回 Chapter 10 Global Issues (1) Population Change
- 第13回 Chapter 10 Global Issues (2) Flights to the Cities
- 第14回 Chapter 10 Global Issues (3) The Environment
- 第15回 後期試験

【成績評価方法】

前期試験 (20%) 後期試験 (20%) 出席 (20%) Learning Journal (10%) その他課題 (30%)

【教科書】

Academic Encounters: Life in Society (Kristine Brown & Susan Hood) Cambridge University Press

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【その他】

授業には辞書を持参してください。

英語講読Ⅱ

学期 (通年) 履修年次 (2~4) 単位 (2)
山本 史歩子 (教)

【授業の到達目標及びテーマ】

一年間で様々なジャンルの英語に親しむ。

【講義概要】

ことば・人・文化・文学・社会・政治・法律など関する様々なジャンルの英語で書かれた文章を数多く読むことで、どんな英語にでも対応できる読解力を養成することを目標とします。また、文法・語彙・言外の意味などももちろん考慮した上で、読み進めていきます。更にその内容を十分消化し、自分のことばで意見を言えるようになることを目指します。ことばを通じて世界の様々な価値観をみなさんといっしょに学びたいと思っています。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：日英語の鏡像関係
- 第3回：二十年後
- 第4回：科学論
- 第5回：フランクリン自伝
- 第6回：雪女
- 第7回：スポーツと競争心
- 第8回：物を忘れる方法
- 第9回：日本国憲法前文
- 第10回：もし3日間だけ目が見えたら
- 第11回：ゲティスバーグ演説
- 第12回：雄弁家としてのエイブラハム・リンカーン
- 第13回：ケネディ大統領就任演説
- 第14回：孤独
- 第15回：前期試験
- 第16回：言語の持つ性質
- 第17回：サンタクロースは本当にいるのですか？
- 第18回：思想の自由
- 第19回：読書論
- 第20回：「武士道」序文
- 第21回：言語とは何か
- 第22回：アメリカ人とは何か
- 第23回：利休死出の茶
- 第24回：プリント
- 第25回：プリント
- 第26回：プリント
- 第27回：プリント
- 第28回：プリント
- 第29回：プリント
- 第30回：後期試験

【成績評価方法】

出席 (10%)、Presentation (40%)、定期試験 (50%) による総合評価とします。

【教科書】

『総合英語』 朝日出版 2008 野村忠夫他。プリントは、必要に応じて配布。

【参考書】

適宜教室で指示

【準備】

予習をして授業に臨むこと。

英語講読Ⅱ

学期（通年）履修年次（2～4）単位（2）
 阪口 美津子（教）

【講義題目】

現代の英語、アメリカの現実社会を学びます。

【授業の到達目標及びテーマ】

現代のアメリカ社会で用いられている様々な表現を通して、英語の特徴、英語を母語にする人々の発想などを考察します。

【講義概要】

テキストの著者であるMaria Shriverはテレビジャーナリスト、作家家としても活躍している女性で、この本は1998年に彼女が大学の卒業式で行ったスピーチを基にして作られたものです。進路、職業の選択、結婚、仕事など人生の様々な経験をユーモアを混じえていきいきと語っています。学生からみても大いに興味深く共感できるところも多いのではないかと思います。基本的文法を確認しつつ、英語の特徴などを説明していきます。学生の積極的授業参加を期待します。

【授業計画】

（前期）

- 第1回 授業についてのオリエンテーション／Chapter 1
- 第2回 Chapter 1
- 第3回 Chapter 1
- 第4回 Chapter 2
- 第5回 Chapter 2
- 第6回 Chapter 2
- 第7回 Chapter 3
- 第8回 Chapter 3
- 第9回 Chapter 4
- 第10回 Chapter 4
- 第11回 Chapter 5
- 第12回 Chapter 5
- 第13回 Chapter 5
- 第14回 質問等
- 第15回 前期試験

（後期）

- 第1回 Chapter 6
- 第2回 Chapter 6
- 第3回 Chapter 7
- 第4回 Chapter 7
- 第5回 Chapter 7
- 第6回 Chapter 8
- 第7回 Chapter 8
- 第8回 Chapter 8
- 第9回 Chapter 9
- 第10回 Chapter 9
- 第11回 Chapter 9
- 第12回 Chapter 10
- 第13回 Chapter 10
- 第14回 質問等
- 第15回 後期試験

【成績評価方法】

前期後期の試験80%、平常点20%（授業時の発表、出席など）、欠席は1／3まで。遅刻は3回を欠席1回とします。

【教科書】

Ten Things by Maria Shriver ASAHI PRESS

英語講読Ⅱ

学期（通年）履修年次（2～4）単位（2）
 中嶋 幸子（教）

【授業の到達目標及びテーマ】

英文の読解力を質的に、また、量的に向上させることを目指します。どのような文章に接しても、それぞれに応じて、その特徴を迅速に理解し、内容を的確に読みとることの出来る、柔軟な読解力を養成します。

【講義概要】

教室で文章を訳読する際には、文法や語彙の説明や確認も行いますが、表面的に訳すのではなく、その先の、内容の十分な理解を重視します。

授業では、まず、訳読に入る前に、英文の朗読を聴きます。これは、英文の発音を確認するためだけでなく、むしろ、聴きながらその文章の内容を即座に理解する力（リスニングコンプリヘンション）を伸ばすためで、各自、集中力が求められます。約1ページの英文の朗読を聴いた後で、その部分の内容の概要を、指名した学生に、説明してもらいます。

次に、テキストの英文を読み進めます。1ページを4～5人で担当し、それぞれが、本文を音読してから訳します。その後で、担当部分についての文法的な説明や、内容についての補足説明や解説、また、自分の意見など、コメントを発表します。

こちらからは、ある程度までテキストを読み進めた段階で、必要に応じて解説を加えるつもりです。また、クラスの全員を対象として、内容についての読み込みを確認する質問をしますので、積極的に手を挙げて授業に参加して欲しい。

訳読の担当は、当初は一巡するまで名簿の順番で進めますが、その後は適宜、教室で指名する予定です。

授業で読んだ英文の内容が的確に理解されているかを確認するために、テキストに設けられた問題にも取り組みます。

【授業計画】

毎回到1単元を読み上げる予定です。

前期	後期
第1回 オリエンテーション及びUnit 1	第1回 Unit 14
第2回 Unit 2	第2回 Unit 15
第3回 Unit 3	第3回 Unit 16
第4回 Unit 4	第4回 Unit 17
第5回 Unit 5	第5回 Unit 18
第6回 Unit 6	第6回 Unit 19
第7回 Unit 7	第7回 Unit 20
第8回 Unit 8	第8回 Unit 21
第9回 Unit 9	第9回 Unit 22
第10回 Unit 10	第10回 Unit 23
第11回 Unit 11	第11回 Unit 24
第12回 Unit 12	第12回 Unit 25
第13回 Unit 13	第13回 Unit 26
第14回 Review	第14回 Review
第15回 前期試験	第15回 後期試験

【成績評価方法】

授業での積極的な参加、各自の担当の発表内容、定期試験の成績、レポートを総合して評価を行います。

【教科書】

Global View by H. Natsume, S. Kawahara, M. Yamabe, eds., 朝日出版社

【その他】

テキストに取り上げられた話題は、映画やファッションからネット環境、家族観、教育事情、国際事情等に幅広く及んでいます。それぞれの話題に、同時代の視点で関心を持ち、時には、周辺の関連あることなども調べて、理解を深めましょう。

英語講読Ⅱ

学期（通年）履修年次（2～4）単位（2）
緒方 孝文（心）

【授業の到達目標及びテーマ】

「英文を読む」とは単に英語を日本語に訳すことではない。英語にもっとも近い日本語を探索する努力は常に必要であるが、一方で、逐語訳では伝えきれない筆者の主張を、想像力を駆使して読み取り、さらにそれに対する自分の意見をしっかりと主張できるようにしなければならない。特に、教職において外国語を指導する際には、語学的知識だけでなく、文化的価値観の相違に関する知識が大いに役に立つはずである。本授業ではリーディングを通して語彙・文法・構文や翻訳法などの語学的習得を目指すと同時に、内容理解にも重点を置き、筆者の主張に対する積極的な議論が最終的にできるようになることを目標としたい。受動的に日本語訳を写すだけでなく、積極的に英文を“解釈する”習慣を身につけてほしい。

【講義概要】

やさしいエピソードを通して日米の文化的差異を扱った英文を読む。我々がふだん当たり前と思っている文化的な事象（ことば、生活習慣、マナー、思考様式など）も、他国の価値観からすると常識はずれであるものが少なくない。どちらが良い悪いということではなく、価値観の違いを感受できる広い視野をもって種々の出来事を見る習慣をつけてもらいたい。最初の内は時間をかけてゆっくり読んでいくが、徐々に読むスピードを上げてパラグラフ・リーディングができるようにしたい。当てられた者だけが訳読して終わるのではなく、全員が積極的に意見を言い合える授業になることを期待する。

【授業計画】

（前期）

- 第1回 インTRODクシヨーン文を理解するとはどういうことか。
- 第2回 Cultural Patterns 1
- 第3回 Cultural Patterns 2
- 第4回 The Physical Environment 1
- 第5回 The Physical Environment 2
- 第6回 Religion 1
- 第7回 Religion 2
- 第8回 Politics 1
- 第9回 Politics 2
- 第10回 Authority 1
- 第11回 Authority 2
- 第12回 Time 1
- 第13回 Time 2
- 第14回 Diversity
- 第15回 定期試験

（後期）

- 第1回 Appearances 1
- 第2回 Appearances 2
- 第3回 Sexual Issues 1
- 第4回 Sexual Issues 2
- 第5回 Housing 1

- 第6回 Housing 2
- 第7回 Sports 1
- 第8回 Sports 2
- 第9回 Newspapers 1
- 第10回 Newspapers 2
- 第11回 Shopping and Business 1
- 第12回 Shopping and Business 2
- 第13回 The New Family
- 第14回 The New Student
- 第15回 定期試験

【成績評価方法】

定期試験の点数(70%)に授業参加度・発言度(30%)を考慮して総合評価する。

【教科書】

Exploring Hidden Culture, Paul Stapleton (金星堂)

【参考書】

『週刊ST』各号

英語講読Ⅱ

学期(通年)履修年次(2~4)単位(2)
新宮 富美子(心)

【授業の到達目標及びテーマ】

英文を正確に読む力、内容を要約し、解釈する力を養うことを目標とする。

【講義概要】

英米の作家の短編を、構文、イディオム、文法等を確認しながら読むことによって、英文の正しい理解につなげ、さらに段落や作品全体の内容の把握に努める。また、作品を通して異文化などに対する理解を深める。なお、併せて英字新聞を用い、今日の国際社会が直面している現実や問題の一端にも触れていきたい。

【授業計画】

(前期)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 The Wreath
- 第3回 The Wreath
- 第4回 Crown-Fire
- 第5回 Crown-Fire
- 第6回 The End of Something
- 第7回 The End of Something
- 第8回 Three Lambs
- 第9回 Three Lambs
- 第10回 Soldiers of the Republic
- 第11回 Soldiers of the Republic
- 第12回 Soldiers of the Republic
- 第13回 英字新聞記事
- 第14回 英字新聞記事
- 第15回 定期試験

(後期)

- 第1回 Genesis and Catastrophe
- 第2回 Genesis and Catastrophe
- 第3回 Genesis and Catastrophe
- 第4回 Wine
- 第5回 Wine
- 第6回 Wine
- 第7回 A Shocking Accident
- 第8回 A Shocking Accident
- 第9回 A Shocking Accident
- 第10回 Escape from Civilization
- 第11回 Escape from Civilization
- 第12回 Escape from Civilization
- 第13回 英字新聞記事
- 第14回 英字新聞記事
- 第15回 定期試験

【成績評価方法】

前期、後期の定期試験、小テスト、レポート、授業時の発表、出席状況などから総合的に評価する。

【教科書】

教科書・参考文献:

British and American Short Story Masterpieces Ⅲ (金星堂)

プリント

【その他】

全授業回数の3分の1以上の欠席は不合格とする。遅刻は3回で欠席1回とみなす。

英語講読Ⅱ

学期(通年)履修年次(2~4)単位(2)
藤牧 新(心)

【講義概要】

外国語を学ぶには、「ことば」(language skill)、「こと」(fact)、「ところ」(culture) 三者の総合的な学習が必要である。すなわち、言葉自体に関する修練はもちろん、常に「こと」と関連させながら「ところ」についても理解を深めていくという学習態度が望ましい。この観点から、授業では、国際社会のダイナミズム・現代の息吹を伝える文章を積極的に読むことを通して、様々なreading skillsをより効果的に使えるようになるための訓練を行い、英語の総合的運用能力を1年次のものよりもさらに伸ばすことを目標とする。

【授業計画】

この授業では、筆者の諸説を正確に読み取るための練習に加えて、そのテーマに関連した自分の考えを表現するための基礎作りも行うこととした。具体的には、次のようなステップを考えている。

1. 自分の知識・経験・理解力を最大限に活用する読解前の練習。
2. authenticな英文を読んで、内容を正確に理解する練習。

3. 筆者の意見に関する自分の見解をまとめ、それを的確な英語で表現する練習。
 4. それをペアワーク、グループワークで互いに英語で発表し、コメントする練習。

【成績評価方法】

評価は、試験結果・レポート・小テスト・出席状況・授業への積極的参加度などに基づき総合的に行う。

【教科書】

Graded Reading Series: PRISM (orange), Macmillan Languagehouse

【その他】

英語学習を通して世界の様々なことを学ぶ知的な好奇心旺盛な学生諸君を歓迎します。

オーラル・イングリッシュ I

学期 (通年) 履修年次 (1~4) 単位 (2)
 複数教員担当

【授業の到達目標及びテーマ】

- 1) To improve students' confidence in using English for oral communication, and to a lesser degree, their skills in reading, listening, and writing.
- 2) Through demonstration in class, students will be shown the Communicative method of language teaching (CLT), as well as the manner of choosing appropriate tasks for language learners such as the small group discussion project, and the vocabulary notebook, and by student participation in assignments and classroom tasks.

【講義概要】

【担当教員】

Armstrong, W.H.	Browning, T.L.	Bulach, J.J.	Bundt, L.L.
Butler, B.J.	Hardgrave, B.J.	Howl, P.F.	Mork, C.M.
Pulaski, J.C.	Richardson, C.A.	Shade, E.	Takeda, N. K.
Thomson, B. J.			

An introduction to Oral Communication and to using English for communication in writing, listening, and reading.

【授業計画】

- 1) Student choose newspaper articles, then prepare written summaries of them with questions for other students. In class, these same students lead a small group discussion on the topic through questioning and using follow-up questions with the other group members. Afterward, the student serving as group leader, making notes on the article, summarizing it, selecting vocabulary with developing discussion questions. Finally, face an audience of peers and lead a discussion on the peers.
- 2) A term project of an Interview, Poster presentation, or PSA as well as a Vocabulary Notebook of new words.

【成績評価方法】

Serving as Discussion Leader and news summary writing 40%, Vocabulary notebook 15%, Vocabulary tests 10%, class participation 5%, interview project, poster session, or PSA 30%.

【教科書】

Richards, J., with Hull, J., and Proctor, S. (2005) *New Interchange 2*. (Cambridge: CUP), or Steckler, T., Franklyn, I. (2003). *Star Taxi*. Drama Works: Tokyo.

【参考書】

Additional materials will be provided by the teacher.

オーラル・イングリッシュ II

学期 (通年) 履修年次 (2~4) 単位 (2)
 複数教員担当

【授業の到達目標及びテーマ】

- 1) To improve students' confidence in using English for oral communication, and their skills in reading, listening, and writing.
- 2) Through demonstration in class, students will be shown the Communicative method of language teaching (CLT), as well as the manner of choosing appropriate tasks for language learners such as the small group discussion project, and the vocabulary notebook, and by student participation in debates, other assignments and classroom tasks.

【講義概要】

【担当教員】

Andrade, M.	Barat, R.	Basso, R.J.	Binder, S.R.
Broadbridge, J.R.	Bruce, J.M.	Butler, B.J.	Darling, M.W.
Meehan, K.	Mohamed, G. A.	Takeda, N.K.	Vajirasarn, A.
小川 ルビー	ティムソン 真澄		

Further development of the Oral Communication abilities of students for communication in writing, listening, and reading.

【授業計画】

- 1) Students choose newspaper articles, then prepare written summaries of them with questions for other students. In class, these same students lead a small group discussion on the topic through questioning and using follow-up questions with the other group members. Afterward, the student serving as group leader, making notes on the article, summarizing it, selecting vocabulary with developing discussion questions. Finally, face an audience of peers and lead a discussion on the peers.
- 2) A term project of a Group Presentation, Mini-Debate or Short Documentary as well as a Vocabulary notebook of new words.

【成績評価方法】

Serving as Discussion Leader and news summary writing 40%, Vocabulary notebook 15%, Vocabulary and reading tests 10%, class participation 5 %, interview project, mini-debate, or short documentary 30%.

【教科書】

Interchange 3 (3rd ed.) by Jack Richards, with Jonathan Hull and Susan Proctor (Cambridge: CUP, 2005).

【参考書】

Additional materials will be provided by the teacher.

英作文 I

学期 (通年) 履修年次 (2~4) 単位 (2)
高木 亜希子 (教)

【授業の到達目標及びテーマ】

パラグラフライティングの基礎を学び、身近なことについて英語で表現する力を身につけます。

【講義概要】

本授業では、実践を通してパラグラフライティングの基礎を学びます。受講者にとって身近な様々なテーマについて、Brainstorming, Prewriting, Drafting, Editing, Revisingというプロセスを大切に、段階を踏んで英文を完成していきます。BrainstormingやPrewritingの段階では、豊富な事例を参照し、クラスメイトとペアワークを行いながら英文の構造やパラグラフの書き方について理解を深めます。また、WritingやEditingの段階では、各自の原稿を学生同士で読み合うことで、常に読み手を意識してライティングに取り組みます。その他に、日本人に共通する文法的な誤りについて、受講生の英文を例に解説を行います。受講者の皆さんには楽しみながら、ライティング能力を向上していただきたいと思っております。

【授業計画】

(前期)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 Preview/Unit 1 About me (1) Prewriting (main ideas, general and specific information, topic sentences)
- 第3回 Unit 1 About me (2) Writing (writing a paragraph about things I like to do)
- 第4回 Unit 1 About me (3) Editing (paragraph format)
- 第5回 Unit 2 Career consultant (1) Prewriting (logical organization, inference sentences)
- 第6回 Unit 2 Career consultant (2) Writing (writing a composition about career choice)
- 第7回 Unit 2 Career consultant (3) Editing (sentence connections)
- 第8回 Unit 3 A dream come true (1) Prewriting (facts and examples in paragraphs, supporting sentences)
- 第9回 Unit 3 A dream come true (2) Writing (writing a magazine article about a classmate)
- 第10回 Unit 3 A dream come true (3) Editing (direct and indirect speech)
- 第11回 Unit 4 Invent! (1) Prewriting (definition paragraphs, attention getters)
- 第12回 Unit 4 Invent! (2) Writing (writing a composition about an invention)
- 第13回 Unit 4 Invent! (3) Editing (direct and indirect speech)
- 第14回 Unit 5 It changed my life! (1) Prewriting (cause-and-effect paragraphs, introductory paragraphs)
- 第15回 Review

(後期)

- 第1回 Unit 5 It changed my life! (2) Writing (writing a composition about an important day)
- 第2回 Unit 5 It changed my life! (3) Editing (cause-and-effect words)
- 第3回 Unit 6 Exciting Destinations (1) Prewriting (process paragraphs, guidebook styles)
- 第4回 Unit 6 Exciting Destinations (2) Writing (writing a guidebook article about a one-day tour)
- 第5回 Unit 6 Exciting Destinations (3) Editing (modifiers)
- 第6回 Unit 7 Research survey (1) Prewriting (classification style, concluding paragraphs)
- 第7回 Unit 7 Research survey (2) Writing (writing a research report)
- 第8回 Unit 7 Research survey (3) Editing (commas)
- 第9回 Unit 9 Personal goals (1) Prewriting (persuasive paragraphs, parallelism, sentence transitions)
- 第10回 Unit 9 Personal goals (2) Writing (writing a letter to myself about goals)
- 第11回 Unit 9 Personal goals (3) Editing (incomplete sentences)
- 第12回 Unit 11 My role models (1) Prewriting (paragraph links)
- 第13回 Unit 11 My role models (2) Writing (writing a composition about an important person)
- 第14回 Unit 11 My role models (3) Editing (subject-verb agreement)
- 第15回 Review

【成績評価方法】

ライティングの提出課題 (前期4回、後期4回を予定) 80% 出席と授業への参加20%

【教科書】

Writing from Within (Curtis Kelly & Arlen Gargagliano) Cambridge University Press

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【その他】

課題は、できるだけタイプしたものを提出してください。

英作文 I

学期 (通年) 履修年次 (2~4) 単位 (2)
山本 史歩子 (教)

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ 「論理的に首尾一貫した英語のパラグラフを作成する」

到達点 本授業では、文法的な側面 (英語の文法上正しくかつ複雑な構文の作成) だけではなく、内容も首尾一貫した論理的な文章を英語で書けるようにする。更に、英語独特のイディオム表現や連語なども取り入れた文章の作成を目指す。パラグラフライティングを習得した後、エッセイの作成に取り組む。

【講義概要】

英語で文法的に正しく、かつ論理的な文章を作成するために、まず英語の文章の形式を習得する。実際に書くという作業の中で、アウトラインの作成方法、校正作業についても細かく指導していく。約150語のパラグラフを1つ作成することに専念し、最後に前期で習得したパラグラフを発展させ、約350語程度のエッセイを作成する。

【授業計画】

(前期)

第1回 オリエンテーション (講義の目的、到達点、進め方、評価について説明)

第2回 English Paragraphの構造を学ぶ。Pre-writing Activity

第3回 For Writing a Draft

第4回 Revising and Editing

第5回 Family and Friends (Descriptive Writing)

第6回 Revising and Editing the first draft

第7回 Revising and Editing the second draft

第8回 Submitting the final paper. Music and Sports (Classification Writing)

第9回 Revising and Editing the first draft

第10回 Revising and Editing the second draft

第11回 Submitting the final paper. Japana and the UK (Comparison and Contrast)

第12回 Revising and Editing the first draft

第13回 Revising and Editing the second draft

第14回 Submitting the final paper.

第15回 Review

(後期)

第16回 Latter Marriages (Cause and Effect Writing)

第17回 Revising and Editing the first draft

第18回 Revising and Editing the second draft

第19回 Submitting the final paper. Part-time Job (Personal Opinion Writing)

第20回 Revising and Editing the first draft

第21回 Revising and Editing the second draft

第22回 Submitting the final paper. Ways to Keep Healthy (Problem Solution Writing)

第23回 Revising and Editing the first draft

第24回 Revising and Editing the second draft

第25回 Submitting the final paper. Basics of Essay Writing

第26回 Writing Your Essay

第27回 Revising and Editing the first draft

第28回 Revising and Editing the second draft

第29回 Submitting the final essay

第30回 Review

【成績評価方法】

パラグラフ・エッセイ 50% (完成原稿を提出 前期3回、後期3回の計6回分)

授業への参加点 20% (授業時のグループワークなどに積極的に参加し、意見を述べる)

出席点 30%

【教科書】

Primary Course on Paragraph Writing, Yoshihito Sugita and Richard R. Caraker SEIBIDO 2007

必要に応じて、プリントを使用する。

【参考書】

『学習指導要領』

英作文 I

学期 (通年) 履修年次 (2~4) 単位 (2)
小谷 真理子 (教)

【講義題目】

Paragraph Writingを学ぶ

【授業の到達目標及びテーマ】

Paragraph Writing の基礎を学び、実践を通して、各自が英語のパラグラフを書くことができる力を身につけることを到達目標とする。

【講義概要】

授業では、英文パラグラフ特有の性質—その基本的構成や種類—を学び、またWritingの流れとして、Prewriting, Outlining, Drafting, Revising, Editingというステップを経ることで、まったくアイディアのないところから、少しずつアウトラインを作成し、推敲を重ねた上で、最終的にFinal Draft (Single Paragraph)を完成させるというプロセスを経験する。また、

文とは、主語と述語とは、接続詞の使い方、単文・重文・複文、陥りやすい文法ミスといった文法事項も確認していく。書く内容としては、「人を紹介する」「特徴を列挙する」「時間軸に沿って指示をする」「理由を述べて具体例でサポートする」という4種の基本的なパラグラフを扱い、その枠組みの中で各自が創造性を発揮して楽しみながら独自の内容を考えることが望まれる。クラス内でのPracticeを頻繁に行い、なるべく授業内でPrewritingやEditingを行うことで相談しながら学習を進めることができるようにする。また、出来上がったParagraphをクラスメートの前で口頭発表することも経験する。

【授業計画】

前期

UNIT 1: Introducing People

- Week 1 What is a Paragraph?
- Week 2 Organization: Paragraph Form
- Week 3 Grammar: Sentence, Subjects & Verbs
- Week 4 Sentence Structure: Simple Sentences
- Week 5 Writing Process: Freewriting

UNIT 2: Listing-Order Paragraphs

- Week 6 Prewriting: Clustering
- Week 7 Organization: Three Parts of a Paragraph
- Week 8 Outlining
- Week 9 Transition Signals, Paragraph Unity
- Week 10 Grammar: Fixing Comma Splices & Run-on Sentences
- Week 11 Coordinating Conjunctions
- Week 12 Topic Sentence
- Week 13 Sentence Structure: Compound Sentences
- Week 14 Grammar: Capitalization, Commas
- Week 15 Writing Process: Listing Characteristics

後期

UNIT 3: Giving Instructions

- Week 1 Prewriting: Listing
- Week 2 Organization: Time-Order Paragraphs
- Week 3 Topic & Concluding Sentences in "How To" Paragraphs
- Week 4 Simple Outline, Time-Order Signals
- Week 5 Sentence Structure: Complex Sentences
- Week 6 Grammar: Fixing Fragments
- Week 7 Sentence Structure: Three Types of Sentences

UNIT 4: Stating Reasons and Using Examples

- Week 8 Organization: Reasons & Examples
- Week 9 Prewriting
- Week 10 Detailed Outline
- Week 11 Transition Signals with Reasons & Examples
- Week 12 Sentence Structure: More About Complex Sentences
- Week 13 Reason and Condition Subordinators
- Week 14 Writing Process: Recommending Something
- Week 15 Review

クラスの進み具合により、予定を調整することがある。

【成績評価方法】

- Paragraph Writing Assignments (5~6回) とその口頭発表 = 60%
- 授業中に随時課すPracticeの提出 = 20%
- 平常点 (出席、授業中に個人/ペア/グループで行うActivityへの参加) = 20%

【教科書】

Hogue, A. (2008). *First Steps in Academic Writing* (2nd ed.). White Plains, NY: Longman.

【その他】

クラス内でのpracticeやwritingを頻繁に行うため出席が必須です。第1回目授業でくわしく説明しますので、必ず出席してください。

英作文 I

学期 (通年) 履修年次 (2~4) 単位 (2)

藤牧 新 (教)

【講義概要】

様々な面でいわゆる国際化が進行しつつある現代は、万人が世界に向かって発信できるインターネットの時代である。この時代の特徴を生かし、かつ自分の考えを主張するためには、発信すべき情報・意見を持っていること、そして、その情報を正確に表現する能力を有することが必要とされる。端的にいえば、国際的に通用する英語が書けることが必要条件となる。この授業では、上で述べたような時代の要請をも十分考慮に入れ、自分の持つ情報や意見を簡潔にかつ正確に英語で表現するための基礎作りを目標とする。

【授業計画】

この授業では、テーマに関連した自分の考えを英語で表現するための基礎作りを行うことを主眼としたい。具体的には、文単位の英文作成から、英文パラグラフがどのように構成されているかという点の理解を深めながら、パラグラフ・ライティングへと授業を展開していきたいと考えている。すなわち、writingの基本的な流れととして認識されている、prewriting, outlining, drafting, revising, editingというプロセスを経て、最終的にfinal draftを完成させるという醍醐味を味わうというこ

とを目標とする。また、その作品をベアーク、グループワークでお互いに英語で発表し、コメントする練習も随時行いたい。

【成績評価方法】

評価は、試験結果・レポート・小テスト・出席状況・授業への積極的参加度などに基き総合的に行う。

【教科書】

Success With College Writing, Macmillan Languagehouse

【その他】

英語学習を通して世界の様々なことを学び、また、自分の考えを世界に向けて発信するという知的好奇心旺盛な学生諸君を歓迎します。

英作文 I

学期（通年）履修年次（2～4）単位（2）

本間 裕子（教）

【授業の到達目標及びテーマ】

英語のライティング力および語彙力を伸ばすことが目標です。英語を総合的に理解するように努めましょう。

【講義概要】

英文エッセイの書きかたを一年かけて学びます。まず正しい英語を書く基本を復習し、パラグラフやエッセイの構造を学ぶことが目標です。教科書で幅広いトピックの語彙を増やし、エッセイに対応できるようになります。

【授業計画】

（前期）

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1: I go to an usual school
- 第3回 Unit 1: Definition of a sentence
- 第4回 Unit 2: Funny stories
- 第5回 Unit 2: Reviewing the parts of speech
- 第6回 Unit 3: I'm from Bagkok
- 第7回 Unit 3: Adding details to a sentence with adverbs of time
- 第8回 Unit 4: She seems lonely
- 第9回 Unit 4: Expanding sentences with adverb phrases of location
- 第10回 Unit 5: She has brown eyes
- 第11回 Unit 5: Describing people with *be* and *have*
- 第12回 Unit 6: I like playing soccer
- 第13回 Unit 6: Using gerunds
- 第14回 Review
- 第15回 試験

（後期）

- 第1回 前期授業の復習と後期授業進行の確認
- 第2回 Unit 7: Faded jeans are cool
- 第3回 Unit 7: Putting adjectives in the correct order
- 第4回 Unit 8: I'm a business major
- 第5回 Unit 8: Format of a paragraph
- 第6回 Unit 9: I'm in Barcelona
- 第7回 Unit 9: Formal and informal language
- 第8回 Unit 10: It's a kind of French game
- 第9回 Unit 10: The topic sentence and the concluding sentence
- 第10回 Unit 11: It has great graphics
- 第11回 Unit 11: Supporting sentences
- 第12回 Unit 12: I've never been to Australia
- 第13回 Unit 12: Using *However* in a paragraph
- 第14回 Review
- 第15回 試験

【成績評価方法】

前後期テストおよび授業点で総合的に評価します。（それぞれ約三分の一ずつの割合）出席は必要ですが、授業点としては予習や課題、授業への参加度を重視します。

【教科書】

Dorothy E. Zemach, *Sentence Writing*. (Macmillan)
山下光洋ほか『徹底対策TOEIC TESTリーディング』音羽書房

【その他】

授業には必ず予習すること、また辞書を携帯のこと。

英作文 I

学期（通年）履修年次（2～4）単位（2）

向島 正喜（教）

【授業の到達目標及びテーマ】

英文法の復習と基本的なパラグラフ・ライティングの学習をします。

【講義概要】

英文を正しく書く練習をし、英語による表現力向上のための訓練を行います。
 そのために、語彙と文法の力をつけながら、英文ライティングの方法について学習します。

【授業計画】

はじめに、英文ライティングの基本について勉強します。
 その後、語彙や文法の力を利用して正しい英文を作成する訓練をします。
 基本的な勉強が終わってから、書く主題についてパラグラフ・ライティングを行います。
 最終的に、エッセイ・ライティングに進みます。
 尚、基本的英文作成は教科書及びプリントを用いて随時行い、口頭発表なども適宜実施します。

(前期)

- 第1回 英文ライティングの基本
- 第2回 英文の作り方
- 第3回 英文の修正・訂正の基本
- 第4回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第5回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第6回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第7回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第8回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第9回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第10回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第11回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第12回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第13回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第14回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第15回 期末試験

(後期)

- 第1回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第2回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第3回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第4回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第5回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第6回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第7回 パラグラフ・ライティングの学習、文法事項の確認
- 第8回 エッセイ・ライティングの基本
- 第9回 エッセイ・ライティングの基本
- 第10回 エッセイ・ライティングの学習
- 第11回 エッセイ・ライティングの学習
- 第12回 エッセイ・ライティングの学習
- 第13回 エッセイ・ライティングの学習
- 第14回 エッセイ・ライティングの学習
- 第15回 期末試験

【成績評価方法】

評価基準の原則は、試験60%、学習態度、レポート30%、出席10%です。
 原則として、80%以上の出席を評価の基本とします。

【教科書】

Primary Course on Paragraph Writing 杉田由仁、Richard R. Caraker 成美堂
A Shorter Course in Basic Sentences 藤井基精、熊沢佐夫 南雲堂

【参考書】

適宜取り上げます。

英作文 I

学期 (通年) 履修年次 (2~4) 単位 (2)
 吉川 純子 (教)

【講義題目】

パラグラフ・ライティングの基礎を学ぶ。

【授業の到達目標及びテーマ】

センテンスからパラグラフを組み立てられるようにする。

【講義概要】

前期はパラグラフ・ライティングの基礎を学び、後期は実際にパラグラフを書く訓練をする。

【授業計画】

前期

- 第1回 第1章 定義
- 第2回 第2章 経験を語る
- 第3回 第3章 手順の説明
- 第4回 第4章 パラグラフの書き方
- 第5回 第5章 描写
- 第6回 第6章 例示

第7回	第7章	プロセス・ライティング
第8回	第8章	分類
第9回	第9章	理由
第10回	第10章	原因と結果
第11回	第11章	比較
第12回	第12章	パラグラフからエッセイへ
第13回	第13章	意見文
第14回	第14章	グラフの解釈
第15回	第15章	自己アピール
後期		
第1回	第1章	英文ライティングの基本
第2回	第2章	英文の作り方
第3回	第3章	修正・訂正の基本
第4回	第4章	記述
第5回	第5章	例示
第6回	第6章	時間的順序
第7回	第7章	分類
第8回	第8章	比較
第9回	第9章	対照
第10回	第10章	定義
第11回	第11章	原因と結果
第12回	第12章	意見
第13回	第13章	問題解決
第14回	第14章	エッセイ・ライティングの基本
第15回	第15章	エッセイを書く

【成績評価方法】

課題80% 出席・発言20%

【教科書】

前期 *Writing Frontiers* 金星堂

後期 パラグラフ・ライティング基礎演習 成美堂

英作文

学期（通年）履修年次（2～4）単位（2）

緒方 孝文（心）

【授業の到達目標及びテーマ】

文単位での英作文から始め、パラグラフ・ライティング（自由英作文）へと作文能力を高めていく訓練をします。1パラグラフ程度の課題作文を毎回練習したのちに、最終的には3パラグラフ程度のパラグラフが作成できるようになることを最終的な目標とします。同時に、語彙、文法、構文などの基礎的な知識を鍛える練習を課します。またそれとは別に、逐語訳的ではない柔軟な作文能力を養成するために、毎回、課題とする短い日本語の英訳を皆でいくつも考えてもらい、ひとつの日本語に多様な英文が可能であることを学びます。

【講義概要】

英作文（composition）は翻訳（translation）とは違います。自分なりの主張を作成する（compose）わけですから、まずは主題となる独自の考え・主張をしっかりと持たなければなりません。簡単なことのように、豊かな発想をもつことは意外に日本人が苦手とするところです。次に、相手を説得する文を書くためには、思考を整理しておかなければなりません。いたずらに例や理由などを並べているうちに話題が細部にわたりすぎたり他にずれてしまったりすると、筆者の主張がうすれてしまいます。また、英文のIntroductionは単なる挨拶や言い訳ではありません。授業では、毎回、様々なパターンのパラグラフ・ライティングを紹介し、各自でオリジナルなパラグラフを作成する練習をします。また、口頭発表や板書による発表を行い、学生同士で添削し合います。

【授業計画】

（前期）

第1回 英作文とは？ パラグラフの成り立ち Proofreading, Plagiarismなど

第2回 Main Ideas and Topic Sentences

第3回 Descriptive Paragraph（1）

第4回 Descriptive Paragraph（2） 課題レポート提出（1）

第5回 Narrative Paragraph（1）

第6回 Narrative Paragraph（2）

第7回 Personal Opinion（1）

第8回 Personal Opinion（2） 課題レポート提出（2）

第9回 Illustration（1）

第10回 Illustration（2）

第11回 Classification（1）

第12回 Classification（2） 課題レポート提出（3）

第13回 E-mail Letters（1）

第14回 E-mail Letters（2）

第15回 前期のまとめ 2～3パラグラフ課題作文提出

（後期）

第1回 前期の復習

- 第2回 Cause and Effect (1)
 第3回 Cause and Effect (2)
 第4回 Comparison (1) 課題レポート提出 (4)
 第5回 Comparison (2)
 第6回 Contrast (1)
 第7回 Contrast (2)
 第8回 Problem-Solution (1) 課題レポート提出 (5)
 第9回 Problem-Solution (2)
 第10回 Analysis (1)
 第11回 Analysis (2)
 第12回 From Paragraph to Essays (1) 課題レポート提出 (6)
 第13回 From Paragraph to Essays (2)
 第14回 Resume
 第15回 後期のまとめ 3パラグラフ課題作文提出

【成績評価方法】

学期中に3回程度求められる課題レポートまたは作文の点数(70%)に授業への参加度(30%)を考慮して総合評価します。

【教科書】

Writing English Paragraphs 北尾・S・キャスリーン著 (英潮社フェニックス)

授業中に作文をするので、(電子)辞書を持参すること。

【参考書】

『週刊ST』各号

Basic Writing Strategies 北尾・S・キャスリーン著 (英潮社フェニックス)

英作文

学期(通年)履修年次(2~4)単位(2)

小谷 真理子 (心)

【講義題目】

Paragraph Writingを学ぶ

【授業の到達目標及びテーマ】

Paragraph Writingの基礎を学び、実践を通して、各自が英語のパラグラフを書くことができる力を身につけることを到達目標とする。

【講義概要】

授業では、英文パラグラフ特有の性質—その基本的構成や種類—を学び、またWritingの流れとして、Prewriting, Outlining, Drafting, Revising, Editingというステップを経ることで、まったくアイディアのないところから、少しずつアウトラインを作成し、推敲を重ねた上で、最終的にFinal Draft (Single Paragraph)を完成させるというプロセスを経験する。また、文とは、主語と述語とは、接続詞の使い方、単文・重文・複文、陥りやすい文法ミスといった文法事項も確認していく。書く内容としては、「人を紹介する」「特徴を列挙する」「時間軸に沿って指示をする」「理由を述べて具体例でサポートする」という4種の基本的なパラグラフを扱い、その枠組みの中で各自が創造性を発揮して楽しみながら独自の内容を考えることが望まれる。クラス内でのPracticeを頻繁に行い、なるべく授業内でPrewritingやEditingを行うことで相談しながら学習を進めることができるようにする。また、出来上がったParagraphをクラスメートの前で口頭発表することも経験する。

【授業計画】

前期

UNIT 1: Introducing People

- Week 1 What is a Paragraph?
- Week 2 Organization: Paragraph Form
- Week 3 Grammar: Sentence, Subjects & Verbs
- Week 4 Sentence Structure: Simple Sentences
- Week 5 Writing Process: Freewriting

UNIT 2: Listing-Order Paragraphs

- Week 6 Prewriting: Clustering
- Week 7 Organization: Three Parts of a Paragraph
- Week 8 Outlining
- Week 9 Transition Signals, Paragraph Unity
- Week 10 Grammar: Fixing Comma Splices & Run-on Sentences
- Week 11 Coordinating Conjunctions
- Week 12 Topic Sentence
- Week 13 Sentence Structure: Compound Sentences
- Week 14 Grammar: Capitalization, Commas
- Week 15 Writing Process: Listing Characteristics

後期

UNIT 3: Giving Instructions

- Week 1 Prewriting: Listing
- Week 2 Organization: Time-Order Paragraphs
- Week 3 Topic & Concluding Sentences in "How To" Paragraphs
- Week 4 Simple Outline, Time-Order Signals
- Week 5 Sentence Structure: Complex Sentences
- Week 6 Grammar: Fixing Fragments

- Week 7 Sentence Structure: Three Types of Sentences
- UNIT 4: Stating Reasons and Using Examples
 - Week 8 Organization: Reasons & Examples
 - Week 9 Prewriting
 - Week 10 Detailed Outline
 - Week 11 Transition Signals with Reasons & Examples
 - Week 12 Sentence Structure: More About Complex Sentences
 - Week 13 Reason and Condition Subordinators
 - Week 14 Writing Process: Recommending Something
 - Week 15 Review

クラスの進み具合により、予定を調整することがある。

【成績評価方法】

- Paragraph Writing Assignments（5～6回）とその口頭発表 = 60%
- 授業中に随時課すPracticeの提出 = 20%
- 平常点（出席、授業中に個人/ペア/グループで行うActivityへの参加） = 20%

【教科書】

Hogue, A. (2008). *First Steps in Academic Writing* (2nd ed.). White Plains, NY: Longman.

【その他】

クラス内でのpracticeやwritingを頻繁に行うため出席が必須です。第1回目授業でくわしく説明しますので、必ず出席してください。

英作文

学期（通年）履修年次（2～4）単位（2）

永谷 万里雄（心）

【講義概要】

パラグラフ理解を基本に据えて確固たる作文力養成を目指します。まず英語のパラグラフの特徴を把握し、次に意味が明確に伝わる英文を書くうえで不可欠のトピックセンテンス及びパラグラフ内のつながりを理解練習したあとに、記述、意見表明、説明、分類、原因と結果、比較、対照、問題解決などの種々のパラグラフの文章を通して、いくつかのパラグラフを連ねたエッセイを書くことを習得していただきます。

【授業計画】

前期の目的は、英語のパラグラフの構成と英語でよく使用される10種類のパラグラフの特徴を学ぶ。

後期では、パラグラフを連ねたエッセイがパラグラフとどのような関係になっているかを学び、実践練習を行う。教育人間学のテーマで書くことも英語で書く楽しさが増します。

（前期）

- 第1回 The English Paragraph
- 第2回 Free-writing
- 第3回 Main Idea and Topic Sentences
- 第4回 Free-writing
- 第5回 Transitions in a Paragraph
- 第6回 Free-writing
- 第7回 Description and Illustration
- 第8回 Free-writing
- 第9回 Classification and Analysis
- 第10回 Free-writing
- 第11回 Cause and Effect（1）
- 第12回 Free-writing
- 第13回 Comparison and Contrast
- 第14回 Paragraph Writingに関する質疑応答
- 第15回 試験

（後期）

- 第1回 From Paragraphs to Essays
- 第2回 Free-writing
- 第3回 Analysis
- 第4回 Free-writing
- 第5回 Classification
- 第6回 Free-writing
- 第7回 Cause and Effect（2）
- 第8回 Free-writing
- 第9回 Personal Opinion
- 第10回 Free-writing
- 第11回 Problem-Solution
- 第12回 Free-writing
- 第13回 Review
- 第14回 英語論文の書き方、総論・各論
- 第15回 試験

【成績評価方法】

エッセイ・ライティングの課題提出、授業中の発表、練習問題の得点、出席などを総合的にポイントします。

【教科書】

【教科書・参考文献】

From Paragraph to Essays (英潮社)
S.キャスリーン北尾 他著 ¥1,785

【その他】

辞書、参考文献などでよく調べ健筆をふるってください。

英作文

学期(通年)履修年次(2~4)単位(2)
水野 利紀(心)

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ「パラグラフ・ライティング」

パラグラフ展開のきっかけを掴むためのBrainstormingや、Descriptive(描写・説明)、Opinion(意見)といったさまざまなパラグラフの形態を学び、論理的に展開されたパラグラフに基づく英文を書く練習を行うことで、基本的なライティング能力の向上を目指します。最終的には、複数のパラグラフからなるエッセイを書けるようになることを目標とします。

【講義概要】

文法・構文の知識を正しく使うことによって、英文を的確に書く練習を行います。テキストには、効果的なパラグラフ・ライティングの方法について説明したものを用います。それぞれのユニットではパラグラフ・ライティングのテクニックを学んでいき、各ユニットの終わりには毎回各自でパラグラフを書いてもらいます。

【授業計画】

(前期)

- 第1回 Unit 1: The Sentence and the Paragraph (Part 1: Stimulating Ideas; Part 2: Developing a Paragraph)
- 第2回 Unit 1: The Sentence and the Paragraph (Part 3: Unity and Coherence)
- 第3回 Unit 1: The Sentence and the Paragraph (Part 4: Editing Your Writing)
- 第4回 Unit 1: The Sentence and the Paragraph (Part 5: Putting It All Together)
- 第5回 Unit 2: Descriptive Paragraph (Part 1: Stimulating Ideas; Part 2: Brainstorming and Outlining)
- 第6回 Unit 2: Descriptive Paragraph (Part 3: Developing Your Ideas)
- 第7回 Unit 2: Descriptive Paragraph (Part 4: Editing Your Writing)
- 第8回 Unit 2: Descriptive Paragraph (Part 5: Putting It All Together)
- 第9回 Unit 3: Example Paragraphs (Part 1: Stimulating Ideas; Part 2: Brainstorming and Outlining)
- 第10回 Unit 3: Example Paragraphs (Part 3: Developing Your Ideas)
- 第11回 Unit 3: Example Paragraphs (Part 4: Editing Your Writing)
- 第12回 Unit 3: Example Paragraphs (Part 5: Putting It All Together)
- 第13回 Review
- 第14回 Review
- 第15回 前期試験

(後期)

- 第1回 Unit 4: Process Paragraphs (Part 1: Stimulating Ideas; Part 2: Brainstorming and Outlining)
- 第2回 Unit 4: Process Paragraphs (Part 3: Developing Your Ideas)
- 第3回 Unit 4: Process Paragraphs (Part 4: Editing Your Writing)
- 第4回 Unit 4: Process Paragraphs (Part 5: Putting It All Together)
- 第5回 Unit 5: Opinion Paragraphs (Part 1: Stimulating Ideas; Part 2: Brainstorming and Outlining)
- 第6回 Unit 5: Opinion Paragraphs (Part 3: Developing Your Ideas)
- 第7回 Unit 5: Opinion Paragraphs (Part 4: Editing Your Writing)
- 第8回 Unit 5: Opinion Paragraphs (Part 5: Putting It All Together)
- 第9回 Unit 6: Narrative Paragraphs (Part 1: Stimulating Ideas; Part 2: Brainstorming and Outlining)
- 第10回 Unit 6: Narrative Paragraphs (Part 3: Developing Your Ideas)
- 第11回 Unit 6: Narrative Paragraphs (Part 4: Editing Your Writing)
- 第12回 Unit 6: Narrative Paragraphs (Part 5: Putting It All Together)
- 第13回 Review
- 第14回 Review
- 第15回 後期試験

【成績評価方法】

平常点(出席・発表・演習・小テスト:60%)、および定期試験(40%)から総合的に評価します。

【教科書】

Effective Academic Writing 1: The Paragraph (Alice Savage, Masoud Shafiei), Oxford University Press

【その他】

欠席が全授業回数の3分の1以上となった場合は、自動的に単位取得は不可となるので注意してください。また遅刻3回で欠席1回分とカウントします。

英作文

学期(通年)履修年次(2~4)単位(2)
涌井 陽子(心)

【講義題目】

書くことを楽しむ

【授業の到達目標及びテーマ】

本当の英語の実力をつけるには「書く」のみでなく、「話す」、「読む」、「聞く」の4技能が必要です。授業では、「書く」ことを中心にこの4技能を磨き、基本的な文法を駆使し正確な英文や表現力を養成してパラグラフ・ライティングを楽しく学びます。

【講義概要】

この授業では、「パラグラフとは何か」「どのようなパラグラフがあるのか」「どのようにパラグラフを書くのか」等を学ぶことが主な目的ですが、このためには自分のメッセージを正確に伝える事が出来る文法力や表現力がとても大切です。又かなりの文を間違えを気にせず書くことも重要なので、たくさんの英文を楽しみながら作って力をつけます。自分自身が自ら学び教師がそれを手助けする学生中心型のクラスです。

【授業計画】

(前期)	(後期)
1. Introduction	1. Review
2. Paragraph Format	2. Process Paragraphs
3. Paragraph Format	3. Process Paragraphs
4. Narrative Paragraphs	4. Comparison/Contrast Paragraphs
5. Narrative Paragraphs	5. Comparison/Contrast Paragraphs
6. Paragraph Structure	6. Definition Paragraphs
7. Paragraph Structure	7. Definition Paragraphs
8. Descriptive Paragraph	8. Essay Organization
9. Descriptive Paragraph	9. Essay Organization
10. Logical Division of Ideas	10. Opinion Essays
11. Logical Division of Ideas	11. Opinion Essays
12. Review & Conference	12. Review & Conference
13. Review & Conference	13. Review & Conference
14. Test	14. Test
15. Test	15. Test

【成績評価方法】

課題作文 (30%)、出席 (30%)、テスト (20%)、自由作文 (10%)、授業態度・参加意欲 (10%)

【教科書】

教科書：*Introduction to Academic Writing*. Third Edition.

著者：Oshima, Alice, and Ann Hogue.

出版社：Longman

【その他】

単位認定には3分の2の出席が必要ですが、3回の遅刻は1回の欠席扱いです。授業態度は、授業中の私語、携帯使用、授業以外の作業等が減点対象です。教室には辞書を持参して下さい。

日本語初級A

学期 (通年) 履修年次 (1~4) 単位 (2)
奥村 大志

【講義題目】

口頭での伝達

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ：「わかりやすく話し、相手に効果的に伝える」

- ①社会的・専門的な話題について説明、描写を行う
- ②相手への配慮をしながら、裏付けを伴った意見や反論を述べる
- ③相手への配慮をしながら、説得・助言・交渉をする

【講義概要】

「話す」という言語活動に関する内容を扱うクラスである。本年度は、「わかりやすく話し、相手に効果的に伝える」をテーマとする。

【授業計画】

前期

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 好きなシーンを紹介しよう (1)
- 第3回 好きなシーンを紹介しよう (2)
- 第4回 子どもたちに母国の行事を紹介しよう (1)
- 第5回 子どもたちに母国の行事を紹介しよう (2)
- 第6回 困った状況を伝えて交渉しよう (1)
- 第7回 困った状況を伝えて交渉しよう (2)
- 第8回 不満に対処しよう (1)
- 第9回 不満に対処しよう (2)
- 第10回 目上の人に注意を促そう (1)
- 第11回 目上の人に注意を促そう (2)
- 第12回 グラフや表を説明しよう (1)
- 第13回 グラフや表を説明しよう (2)
- 第14回 前期のまとめ
- 第15回 試験

後期

- 第1回 ステレオタイプを打ち破ろう(1)
- 第2回 ステレオタイプを打ち破ろう(2)
- 第3回 就職試験制度について説明しよう(1)
- 第4回 就職試験制度について説明しよう(2)
- 第5回 働くことの意義について討論しよう(1)
- 第6回 働くことの意義について討論しよう(2)
- 第7回 環境問題について話そう(1)
- 第8回 環境問題について話そう(2)
- 第9回 犯罪傾向から現代社会を語ろう(1)
- 第10回 犯罪傾向から現代社会を語ろう(2)
- 第11回 マスコミの功罪について討論しよう(1)
- 第12回 マスコミの功罪について討論しよう(2)
- 第13回 身の回りの問題点を指摘しよう(1)
- 第14回 身の回りの問題点を指摘しよう(2)
- 第15回 試験

【成績評価方法】

定期試験70%、授業態度(出席も含む)30%

【教科書】

『日本語超絶話者へのかけはしーきちんと伝える技術と表現一』(荻原稚佳子・齊藤真理子・伊藤とく美 スリーエーネットワーク2007年)

【参考書】

特に指定しない。

【その他】

連絡の必要があるときには、t12074@cc.aoyama.ac.jpまで。

日本語初級B

学期(通年)履修年次(1~4)単位(2)
酒井 和子

【授業の到達目標及びテーマ】

- 1.日本語の基礎力の確認と強化
- 2.日本人の生活や考え方、物事の見方等への認識を深める

【講義概要】

- 1.各種日本語のテキストを読みこなし、自ら作品を試作することを通して、語彙の充実やより高度で、多様な表現の獲得と運用を習得する。
- 2.学生同士の積極的な議論や自主的な発表を通して、バランスのとれたスキルの向上を目指す。

【授業計画】

前期	第1回	オリエンテーション、インタビューの仕方とその表現
	第2回	インタビュー報告
	第3回	小説①を読む(前半)
	第4回	小説①の後半創作
	第5回	創作部の発表と検討
	第6回	小説②を読む(前半)
	第7回	小説②の後半創作
	第8回	小説②の創作部の発表と検討
	第9回	小説前半部創作ーグループ
	第10回	小説後半部創作ーグループ
	第11回	発表と検討
	第12回	短編小説を書く
	第13回	短編小説を書く
	第14回	創作作品発表会
	第15回	前期試験
後期	第16回	前期試験を基に個人面談
	第17回	スピーチ会開催の要領説明
	第18回	スピーチの実例の紹介①
	第19回	スピーチ実例の紹介②
	第20回	各自のスピーチのテーマの選択と決定
	第21回	スピーチテーマについての調査方法の検討
	第22回	スピーチテーマについての調査実施
	第23回	スピーチ原稿の作成
	第24回	スピーチ原稿の推敲——個人指導
	第25回	スピーチ原稿の完成
	第26回	スピーチ原稿の発音練習①
	第27回	スピーチ原稿の発音練習②
	第28回	スピーチ会予行演習
	第29回	スピーチ会実施
	第30回	後期試験

【成績評価方法】

- 1.出席回数－25%
- 2.提出物－25%
- 3.授業の姿勢、参加度－25%
- 4.期末テスト－25%

【教科書】

各種新聞記事、ビデオ等は担当者が必要に応じて配布する。

日本語初級C

学期（通年）履修年次（1～4）単位（2）

小島 聡子

【授業の到達目標及びテーマ】

レポートや論文に必要な論理的な文章が書けるようにすることが目標です。

【講義概要】

日本語の聞く・話す・読む・書くという4つのスキルの中で、特に「書く力」を伸ばすことを目標とした授業です。書くためには、何を書くのか、自分の考えをどのように表現するのか、どのような構成にするのが重要です。そのための材料として新聞記事や論文などを、文章の構成や論理の組み立て方に注意しながら読み、その手法を学んでいきます。そして最終的には、自分のテーマを決めてレポートを書き上げるという活動をします。

【授業計画】

短い文章から次第に長い文章を書きます。その中で、語彙や表現を文脈の中で適切に使えるように考えていきます。書いた文章や内容について発表してクラスメートの意見を聞き、それを参考にして文章を推敲して書き直すというピア活動も行います。

前期

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文体、文法を確認しながら、200字～400字程度の文章を書く
- 第3回 同上、ピア活動
- 第4回 同上、ピア活動
- 第5回 語彙の選択、表現の適切さを確認しながら、400字程度の文章を書く
- 第6回 同上、ピア活動
- 第7回 同上、ピア活動
- 第8回 新聞記事・論文などを分析的に読んで、その談話型に沿った文章を書く
- 第9回 同上、ピア活動
- 第10回 同上、ピア活動
- 第11回 基本的なレポートの書き方
- 第12回 新聞記事・論文などを分析的に読んで、そのテーマで短いレポートを書く
- 第13回 同上、ピア活動
- 第14回 同上、ピア活動
- 第15回 試験

後期

- 第1回 レポート作成に向けて
- 第2回 ①引用の方法、説明の方法
- 第3回 ②分類の方法、定義の方法
- 第4回 ③比較・対照の方法
- 第5回 ④因果関係の書き方
- 第6回 ⑤資料の利用
- 第7回 各自のテーマを決めてレポートを書く
- 第8回 テーマの発表
- 第9回 目次の作成／構成メモの作成
- 第10回 レポートを書く
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 レポート内容の発表
- 第14回 同上
- 第15回 試験

【成績評価方法】

提出物・発表30% 出席20% 前期試験20% 後期試験30%

【教科書】

その都度プリント教材を配布します。

日本語中級A

学期（通年）履修年次（2～4）単位（2）

奥村 大志

【講義題目】

日本の理解

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ 「日本の文化や社会について」

日本の文化や社会について理解を深めるのが目標である。

【講義概要】

日本の文化や社会をテーマにした文章、あるいは文学作品の読解を通じて、日本の文化への理解を深める。なお、語学的側面に関しては課題を出し、それについての小テストを行うなどの学習促進策をとる。

【授業計画】

前期

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文学作品の読解（1）
- 第3回 文学作品の読解（2）
- 第4回 文学作品の読解（3）
- 第5回 文学作品の読解（4）
- 第6回 文学作品の読解（5）
- 第7回 文学作品の読解（6）
- 第8回 日本文化について書かれた文章の読解（1）
- 第9回 日本文化について書かれた文章の読解（2）
- 第10回 日本文化について書かれた文章の読解（3）
- 第11回 日本文化について書かれた文章の読解（4）
- 第12回 日本文化について書かれた文章の読解（5）
- 第13回 前期の内容に関する質疑応答（1）
- 第14回 前期の内容に関する質疑応答（2）
- 第15回 前期試験

後期

- 第1回 日本の社会をテーマにした文章の読解（1）
- 第2回 日本の社会をテーマにした文章の読解（2）
- 第3回 日本の社会をテーマにした文章の読解（3）
- 第4回 日本の社会をテーマにした文章の読解（4）
- 第5回 日本の社会をテーマにした文章の読解（5）
- 第6回 日本の社会をテーマにした文章の読解（6）
- 第7回 日本の社会をテーマにした文章の読解（7）
- 第8回 日本の社会をテーマにした文章の読解（8）
- 第9回 日本の社会をテーマにした文章の読解（9）
- 第10回 日本の社会をテーマにした文章の読解（10）
- 第11回 日本の社会をテーマにした文章の読解（11）
- 第12回 日本の社会をテーマにした文章の読解（12）
- 第13回 後期の内容に関する質疑応答（1）
- 第14回 後期の内容に関する質疑応答（2）
- 第15回 後期試験

【成績評価方法】

- 1 前期試験・後期試験の結果70%
- 2 平常点（課題などやるべきことをやっているかどうか）30%
- 3 ただし、上記の合計をしたうえで、出席状況についての減点をする。その方式は、欠席4回目から、その回数に応じて減点するというシステムである。（ただし3回目までの欠席は減点対象にしない。）遅刻に関しては、遅刻2回で欠席1回と見なす。

【教科書】

副教材：『漢検プチドリル2級』（三訂版）旺文社

【参考書】

『日本の論点』（文藝春秋編 文藝春秋）※各年版が存在する。

【その他】

連絡の必要があるときには、t12074@cc.aoyama.ac.jpまで。

日本語中級B

学期（通年）履修年次（2～4）単位（2）
酒井 和子

【授業の到達目標及びテーマ】

- 1 今後の学生生活が円滑に送れるための日本語能力の充実を図る
- 2 日本人の生活や考え方、物事の感じ方等への認識を深める

【講義概要】

- 1 各種日本語資料を通して適切で論理的な文章表現能力を養成する
- 2 作成された文章の誤用分析研究を通して自己の作文のセルフチェック能力を育成する
- 3 プレゼンテーション能力の養成と確立

【授業計画】

前期

- 第1回 オリエンテーション、
- 第2回 作文の誤用例の提示とその分析練習①——文法を中心に
- 第3回 作文の誤用例の提示とその分析練習②——文型を中心に
- 第4回 作文の誤用例の提示とその分析練習③——語彙を中心に
- 第5回 作文の誤用例の提示とその分析練習④——文体、主述の不一致他
- 第6回 論説文を読む①
- 第7回 討論
- 第8回 意見文の作成
- 第9回 作成した文章の誤用分析
- 第10回 論説文を読む②
- 第11回 討論
- 第12回 意見文の作成
- 第13回 作成した文章の誤用分析
- 第14回 意見発表
- 第15回 前期試験

後期

- 第16回 前期試験を基に個人面談
- 第17回 研究発表会の要綱説明
- 第18回 研究発表実例研究①
- 第19回 研究発表実例研究②
- 第20回 研究発表テーマの選択と決定
- 第21回 研究発表テーマの調査方法の検討
- 第22回 研究発表に関する調査探索について第23回 研究発表原稿作成
- 第24回 研究発表資料作成
- 第25回 研究発表会原稿と資料の完成
- 第26回 研究発表会予行演習
- 第27回 研究発表会実施
- 第28回 研究発表会を振り返る
- 第29回 研究発表の効果的方法論の再考
- 第30回 後期試験

【成績評価方法】

- 1.出席回数－25%
- 2.提出物－25%
- 3.授業の姿勢、参加度－25%
- 4.期末テスト－25%

【教科書】

各種資料は担当者が必要に応じて配布する。
自己の発表テーマに関する資料は各自が用意すること。

I N D E X

科目五十音索引

【ア行】

英語講読 I
英語講読 II
英作文
英作文
英作文
英作文
英作文
英作文 I
オーラル・イングリッシュ I
オーラル・イングリッシュ II

奥野 理恵子 (心) …… 9
加藤 麻衣子 (教) …… 6
高木 亜希子 (教) …… 5
田口 幹比古 (心) …… 9
塚田 雅也 (心) ……10
難波 和子 (教) …… 7
山本 史歩子 (教) …… 5
吉川 純子 (教) …… 8
緒方 孝文 (教) ……11
緒方 孝文 (心) ……15
阪口 美津子 (教) ……14
新宮 富美子 (心) ……16
高木 亜希子 (教) ……12
中嶋 幸子 (教) ……14
藤牧 新 (心) ……16
山本 史歩子 (教) ……13
緒方 孝文 (心) ……23
小谷 真理子 (心) ……24
永谷 万里雄 (心) ……25
水野 利紀 (心) ……26
涌井 陽子 (心) ……26
小谷 真理子 (教) ……19
高木 亜希子 (教) ……18
藤牧 新 (教) ……20
本間 裕子 (教) ……21
向島 正喜 (教) ……21
山本 史歩子 (教) ……19
吉川 純子 (教) ……22
複数教員担当 ……17
複数教員担当 ……17

【ナ行】

日本語初級A
日本語初級B
日本語初級C
日本語中級A
日本語中級B

奥村 大志 ……27
酒井 和子 ……28
小島 聡子 ……29
奥村 大志 ……29
酒井 和子 ……30

教育学科

学科科目

教育人間科学部教育学科 学科科目担当者一覧および講義内容目次

区分	授業科目の名称	単位数	担当者	学期	履修年次	キャンパス	頁
第 0 群	教育学概説	2	柳田 雅明	前期	1	相模原	43
	〃	2	藤田 幹夫	前期	1	相模原	43
	教育心理学概説	2	庄司 順一	後期	1	相模原	44
	〃	2	早坂 方志	後期	1	相模原	44
	教育制度概説	2	鈴木 眞理	後期	1	相模原	45
	教育思想概説	2	大森 秀子	前期	1	相模原	46
	教育学研究法	2	酒井 豊	前期	2	相模原	46
	〃	2	樋田 大二郎	前期	2	相模原	46
	基礎演習	2	今井 重孝	前期	1	相模原	47
	〃	2	河本 洋子	前期	1	相模原	47
	〃	2	北本 正章	前期	1	相模原	48
	〃	2	古荘 純一	前期	1	相模原	48
	〃	2	佐々木 竜太	前期	1	相模原	49
	教職総合演習	2	蔵元 幸二	後期	1	相模原	49
	〃	2	長嶋 清	後期	1	相模原	50
	〃	2	野口 芳宣	後期	1	相模原	51
	〃	2	岡田 純一	後期	1	相模原	52
	応用演習 I	2	小林 紀子	前期	2	相模原	53
	〃	2	小森 茂	前期	2	相模原	53
	〃	2	鈴木 宏昭	前期	2	相模原	54
	〃	2	早坂 方志	前期	2	相模原	54
	〃	2	藤田 幹夫	前期	2	相模原	55
	応用演習 II	2	大森 秀子	後期	2	相模原	55
	〃	2	小田 光宏	後期	2	相模原	56
	〃	2	小林 紀子	後期	2	相模原	56
	〃	2	小森 茂	後期	2	相模原	57
	〃	2	酒井 豊	後期	2	相模原	58
	〃	2	鈴木 宏昭	後期	2	相模原	58
	〃	2	早坂 方志	後期	2	相模原	59
	〃	2	古荘 純一	後期	2	相模原	59
〃	2	柳田 雅明	後期	2	相模原	60	
〃	2	藤田 幹夫	後期	2	相模原	61	
	専門演習	4	2011年度開講	通年	3	青山	
	卒業研究	8	2012年度開講	通年	4	青山	
第 I 群	人間形成学総論	2	酒井 豊	後期	1・2・3・4	相模原	61
	日本教育史 I	2	酒井 豊	前期	1・2・3・4	相模原	62
	日本教育史 II	2	酒井 豊	後期	1・2・3・4	相模原	62
	西洋教育史 I	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	西洋教育史 II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育史特殊講義	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	

第 I 群	宗教教育学	2	大森 秀子	後期	2・3・4	相模原	63
	発達と文化 A	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	発達と文化 B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育哲学 A	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育哲学 B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育学特論 A	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育学特論 B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育社会学総論	2	今井 重孝	前期	1・2・3・4	相模原	64
	比較発達社会学	2	今井 重孝	前期	1・2・3・4	相模原	64
	生涯発達心理学 I	2	高橋 千香子	前期	1・2・3・4	相模原	65
	生涯発達心理学 II	2	高橋 千香子	後期	1・2・3・4	相模原	65
	キャリア教育 A	2	小川 誠子	後期	2・3・4	相模原	66
	キャリア教育 B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	家庭教育 A	2	北本 正章	前期	2・3・4	相模原	67
	家庭教育 B	2	北本 正章	後期	2・3・4	相模原	67
	比較教育学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	異文化理解教育	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	老年学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育学特論 C	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育学特論 D	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
第 II 群	臨床教育学総論	2	庄司 順一	前期	1・2・3・4	相模原	68
	社会福祉概論	2	宮本 和武	後期	2・3・4	相模原	68
	臨床心理学概論 I	2	丸山 千秋	前期	2・3・4	相模原	69
	臨床心理学概論 II	2	丸山 千秋	後期	2・3・4	相模原	70
	小児精神神経学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	相談心理学 I	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	相談心理学 II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	特別支援教育	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	障害児・者の心理 I	2	早坂 方志	前期	2・3・4	相模原	70
	障害児・者の心理 II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	障害児・者の施設実習	2	丸山 千秋	不定	2・3・4	相模原	71
	障害児・者の教育	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	障害児・者の福祉	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	障害児・者の医学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育学特論 E	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育学特論 F	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	生涯学習概論 I	2	柳田 雅明	前期	2・3・4	相模原	71
	生涯学習概論 II	2	柳田 雅明	後期	2・3・4	相模原	72
	高等教育論 A	2	小島 佐恵子	前期	2・3・4	相模原	73
	高等教育論 B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
社会教育計画 I	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
社会教育計画 II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		

第II群	社会教育課題研究	4	2011年度開講	通年	3・4	青山	
	高齢化社会と教育	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	青年期と教育	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	ジェンダーと教育	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	青年文化論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	ボランティア教育論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	地域ネットワーク論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	スポーツ・レクリエーション論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育学特論 G	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育学特論 H	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
第III群	教育情報学総論	2	阿部 慶賀	後期	1・2・3・4	相模原	73
	メディア・コミュニケーション総論	2	山下 清美	前期	1・2・3・4	相模原	74
	認知科学概論	2	鈴木 宏昭	前期	2・3・4	相模原	75
	学校経営と学校図書館	2	小田 光宏	前期	2・3・4	相模原	75
	視聴覚教育メディア論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	インターフェース論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	知的表現論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教材開発論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	学習指導と学校図書館	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	学校図書館メディア	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	情報メディア利用論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	読書教育論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	学習心理学 I	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	学習心理学 II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	社会心理学 I	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	社会心理学 II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育学特論 I	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育学特論 J	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	図書館情報学概論	2	小田 光宏	前期	2・3・4	相模原	76
	図書館システムサービス論	2	小田 光宏	後期	2・3・4	相模原	77
	図書館情報文化論	2	三浦 太郎	前期	2・3・4	相模原	77
	図書館システム経営論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	情報メディア論 A	2	三浦 太郎	前期	2・3・4	相模原	78
	情報メディア論 B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	情報メディア論 C	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	児童サービス論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	メディア組織法 I	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
メディア組織法 II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
メディア組織法 III	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
情報サービス論 I	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
情報サービス論 II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
情報検索法 I	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		

第 III 群	情報検索法II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	図書館情報学実習	2	2012年度開講	集中	4	青山	
	教育学特論K	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育学特論L	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
第 IV 群	幼児教育原理 A	2	小林 紀子	前期	1・2・3・4	相模原	78
	幼児教育原理 B	2	小林 紀子	後期	1・2・3・4	相模原	79
	児童福祉論	2	澁谷 陽子	後期	1・2・3・4	相模原	79
	臨床保育学 A	2	庄司 順一	前期	2・3・4	相模原	80
	臨床保育学 B	2	庄司 順一	後期	2・3・4	相模原	81
	小児保健論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育学特論 M	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育学特論 N	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	保育方法研究 A	2	高嶋 景子	前期	2・3・4	相模原	81
	保育方法研究 B	2	宇田川 久美子	後期	2・3・4	相模原	82
	保育内容総論 A	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	保育内容総論 B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	保育内容教育法 (健康)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	保育内容教育法 (人間関係)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	保育内容教育法 (環境)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	保育内容教育法 (ことば)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	保育内容教育法 (表現 A)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	保育内容教育法 (表現 B)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	小児栄養学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	教育学特論 O	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
教育学特論 P	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
第 V 群	学校教育学総論	2	樋田 大二郎	前期	1・2・3・4	相模原	82
	初等教育原理 A	2	堀 健志	前期	1・2・3・4	相模原	83
	初等教育原理 B	2	堀 健志	後期	1・2・3・4	相模原	84
	教職論	2	蔵元 幸二	前期	2・3・4	相模原	84
	教職論	2	早坂 五郎	前期	2・3・4	相模原	85
	教育方法論	2	樋田 大二郎	後期	2・3・4	相模原	86
	教育課程論	2	桜井 恵子	後期	2・3・4	相模原	86
	初等教科教育法 (国語科)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	初等教科教育法 (算数科)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	初等教科教育法 (理科)	2	2011年度開講	前期・後期	3・4	青山	
	初等教科教育法 (社会科)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	初等教科教育法 (生活科)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	初等教科教育法 (音楽科)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	初等教科教育法 (図画工作科)	2	2011年度開講	前期・後期	3・4	青山	
	初等教科教育法 (体育科)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
	初等教科教育法 (家庭科)	2	2011年度開講	前期・後期	3・4	青山	
	生徒・進路指導論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	

第 V 群	教育相談	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	特別活動論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	道德教育指導法	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	学校心理学	2	2011年度開講	半期	(2)・3・4	青山		
	教育学特論 Q	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	教育学特論 R	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	算数概説 A	2	正田 良	前期	1・2・3・4	相模原		87
	算数概説 B	2	正田 良	後期	1・2・3・4	相模原		88
	理科概説 A	2	堀 芙三夫	前期	1・2・3・4	相模原		88
	理科概説 B	2	堀 芙三夫	後期	1・2・3・4	相模原		89
	体育概説 (理論)	2	河本 洋子	前期	1・2・3・4	相模原		90
	体育概説 (運動)	2	2011年度開講	前期・後期	3・4	青山		
	音楽概説 (理論)	2	吉仲 淳	前期	1・2・3・4	相模原		91
	音楽概説 (器楽 A)	2	吉仲 淳	後期	2・3・4	相模原		} 91
	音楽概説 (器楽 A)	2	村山 祐季子	前期	2・3・4	相模原		
	音楽概説 (器楽 A)	2	清川 美也子	後期	2・3・4	相模原		
	音楽概説 (器楽 B)	2	2011年度開講	前期・後期	3・4	青山		
	音楽概説 (声楽)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	初等国語概説	2	野口 芳宣	前期	2・3・4	相模原		92
	社会科概説	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	生活科概説	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	図画工作概説 (美術)	2	横山 徹	前期	2・3・4	相模原		92
	図画工作概説 (造形)	2	横山 徹	後期	2・3・4	相模原		93
図画工作概説 (理論)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山			
家庭科概説 (被服)	2	2011年度開講	前期・後期	3・4	青山			
家庭科概説 (食物)	2	2011年度開講	前期・後期	3・4	青山			
初等英語概説 A	2	2011年度開講	半期	3・4	青山			
初等英語概説 B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山			
教育学特論 S	2	2011年度開講	半期	3・4	青山			
教育学特論 T	2	2011年度開講	半期	3・4	青山			
第 VI 群	英語概説	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	英作文 II	2	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	英文学	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	英国文学史	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	英語音声学 (講義)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	英語音声学 (演習)	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	初等英語特論	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	中等国語概説	2	野口 芳宣	前期	2・3・4	相模原	94	
	国文学	4	小関 和弘	通年	1・2・3・4	相模原	94	
	国文学史	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	漢文学	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	書道	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		

第 VI 群	書理論	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	日本史	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	外国史（東洋史及び西洋史）	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	人文地理学	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	自然地理学	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	地理情報分析法	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	気象学	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	地誌学概論	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	法律学概説	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	政治学概説	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	社会学概説	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	経済学総論	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	哲学史	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	倫理学概説	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	宗教学	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	心理学概説	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	職業指導	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
教育学概説II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
生涯学習概論III	2	2011年度開講	半期	3・4	青山	
第 VII 群	インストラクショナルデザイン総論	2	2011年度開講	半期	(2)・3・4	青山
	教育システムのためのITファンダメンタル	2	2011年度開講	半期	(2)・3・4	青山
	コンピュータ利用教育と学習理論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	コンテンツ開発演習	2	2011年度開講	半期	(2)・3・4	青山
	eラーニングシステムマネジメント演習	2	2011年度開講	半期	(2)・3・4	青山
	コース実施と学習支援演習	2	2011年度開講	半期	(2)・3・4	青山
	オンライン調査解析演習	2	2011年度開講	半期	(2)・3・4	青山
	協調学習デザイン演習	2	2011年度開講	半期	(2)・3・4	青山
第 VIII 群	キリスト教学校論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	聖書の世界（旧約）	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	聖書の世界（新約）	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	キリスト教の教理	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	キリスト教と法思想	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	宗教と社会	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	礼拝学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	キリスト教と精神医学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山

教育学概説

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）
柳田 雅明

【講義題目】

教育（学）への招待

【授業の到達目標及びテーマ】

教育学を初めて学ぶ学生が「教育とは何か」、また教育を研究対象とする「教育学とはどのような学問か」を理解すること

【講義概要】

人間の誕生から死に至るまでの成長と成熟に関する基礎概念、人間形成の理論と教育実践の関係、人間の発達と文化、思考と言語、また情報化・国際化社会における教育、いじめ・不登校・教育格差・教育改革等様々な現実的諸問題を取り上げる。それらの問題に対する教育学の基本的アプローチを提示し、教育学の各専門分野への入門的ガイドを行う。

授業を進めるにあたっては、学生同士のディスカッションも交えることで、一方的に知識をする提示だけでないやり方で、理解度を高めていくこととする。

【授業計画】

- (1) オリエンテーション
- (2) 教育（学）を学ぶ以前に、何を身に付けてなくてはならないのか
- いじめ・ハラスメント、多様性とマイノリティへの配慮、言葉への配慮
- (3) 「学校って何？」 1 - 学校は、いつどのようにして始まったのか
- (4) 「学校って何？」 2 - 学校は、どのように変わってきたのか
- (5) 「学校って何？」 3 - 学級とは、何なのか
- (6) 「学校って何？」 4 - なぜ義務教育があるのか
- (7) 「学校って何？」 5 - なぜ教える内容を統一するのか
「方言札」「教科書」「学習指導要領」
- (8) 「学校って何？」 6 - 知識以外も、学校で教えられ身に付けさせられるのはなぜか
- (9) 教員とは何なのか、そしてなぜ免許があるのか
- (10) 学校と社会はどう関係しているのか
- 工場モデル、差異化と平準化、評価と選別
- (11) 学校へ行かないこと、そして学校はなくせるのか
- (12) 学校教育を取り巻くものは何か - 地域・家庭・その他の教育
- (13) では、そもそも教育って何？
- 教えるのか、育つのか、それとも、学習？ 発育？ 発達？
- (14) 生涯学習化社会の学校とは何か
「自ら学ぶようになるためには、たくさん教えなければならない」
- (15) まとめ - 「教育学」と聞いたら、気を付けろ-

【成績評価方法】

授業参画30%、小レポート20%、期末レポート50%

【教科書】

指定しない。

【参考書】

その都度紹介する。

教育学概説

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）
藤田 幹夫

【講義題目】

教育（学）への招待

【授業の到達目標及びテーマ】

教育学を初めて学ぶ学生が「教育とは何か」、また教育を研究対象とする「教育学とはどのような学問か」を理解すること

【講義概要】

人間の誕生から死に至るまでの成長と成熟に関する基礎概念、人間形成の理論と教育実践の関係、人間の発達と文化、思考と言語、また情報化・国際化社会における教育、いじめ・不登校・教育格差・教育改革等様々な現実的諸問題を取り上げる。それらの問題に対する教育学の基本的アプローチを提示し、教育学の各専門分野への入門的ガイドを行う。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 教育って何だろう？
- 3 自分史と人類の歩み
- 4 身体
- 5 言語と思考
- 6 定住と食料生産
- 7 文学と都市
- 8 法・哲学・宗教
- 9 科学と技術
- 10 芸術と歴史
- 11 格差と改革
- 12 教員の仕事
- 13 教育的センス
- 14 （予備）

15 まとめ

【成績評価方法】

出席 30%、小レポート 20%、期末試験あるいはレポート 50%

【参考書】

その都度紹介します。

教育心理学概説

学期(後期)履修年次(1~4)単位(2)

庄司 順一

【講義題目】

発達と学習における理論と実際

【授業の到達目標及びテーマ】

発達と学習(「障害のある子ども」も含む)に関して、基本的な理論と実際を学び、併せて教育心理学の視点から教育に関わる現象や人間形成に関する課題について理解する。

【講義概要】

乳幼児から老年までの発達の過程と様相、ピアジェやエリクソン等の「発達」の理論、学習の理論、動機づけ、パーソナリティと不適応行動、および「障害のある子ども」の発達と学習について学びます。また、講義に関連する資料の配布や視聴覚教材の提示を行い、受講者がそれらに対して自らの考えをまとめたり、話し合ったりする機会を設けますので、積極的に取り組むことを求めます。

なお、この講義科目は、教育学科1年生配置の必修科目として、2年次以降に配置されている教育学の様々な専門領域の教育学科科目を学ぶ上での入門的・基礎的な内容の科目として位置づけられています。

【授業計画】

1. オリエンテーション(教育と心理学)
2. 教育心理学の課題と方法
3. 発達①(発達の概念、生涯発達心理学)
4. 発達②(発達に影響する要因、発達研究の方法)
5. 発達③(主な発達理論、ゲゼル、ピアジェ、ヴィゴツキー)
6. 発達④(乳幼児期・児童期)
7. 発達⑤(青年期・成人期・老年期)
8. 学習①(学習の理論)
9. 学習②(学習と動機づけ)
10. パーソナリティの理解
11. 知能と学力の理解
12. 不適応行動の理解と教育相談
13. 「障害のある子ども」の教育と学習
14. 教育評価
15. 定期試験

【成績評価方法】

授業での課題への取り組みとレポート(50点)、ならびに試験(50点)により合計100点満点で評価します。

【教科書】

『教職をめざす人のための教育心理学』(藤田・楠本編著 福村出版)

【参考書】

『教育心理学キーワード』(森・秋田編著 有斐閣)

『ソーシャルワーカーのための心理学』(庄司・西澤編著 有斐閣)

【その他】

講義は出席が前提であり、欠席・遅刻をしないこと。私語を慎むこと。

教育心理学概説

学期(後期)履修年次(1~4)単位(2)

早坂 方志

【講義題目】

発達と学習における理論と実際

【授業の到達目標及びテーマ】

発達と学習(「障害のある子ども」も含む)に関して、基本的な理論と実際を学び、併せて教育心理学の視点から教育に関わる現象や人間形成に関する課題について理解する。

【講義概要】

乳幼児から老年までの発達の過程と様相及びエリクソン、E. H.、ピアジェ、J. 等の「発達」の理論、行動主義的学習、認知的学習、状況的学習等の「学習」の理論と実際、併せて「障害のある子ども」の発達と学習について学びます。また、講義で取り上げるトピック毎に、関連する資料の配布や視聴覚教材の提示を行い、受講者がそれらに対して自らの考えをまとめたり、話し合ったりする機会を設けますので、積極的に取り組むことを求めます。

なお、この講義科目は、教育学科1年生配置の必修科目として、2年次以降に配置されている教育学の様々な専門領域の教育学科科目を学ぶ上での入門的・基礎的な内容の科目として位置づけられています。

【授業計画】

1. 発達と学習の概要
2. 発達①(概念、運動機能の発達等)
3. 発達②(遺伝と環境、ことばの発達等)

4. 発達③（発達段階、乳・幼児期）
5. 発達④（児童期、青年期）
6. 発達⑤（成人期、老年期、発達の理論1〈エリクソン等〉、
発達の理論2〈ピアジェ等〉）
7. 発達⑥（発達の最近接領域）、「発達」のまとめ
8. 学習①（行動主義的学習理論）
9. 学習②（認知主義的学習理論）
10. 学習③（状況的学習理論）、「学習」のまとめ
11. 教育評価
12. パーソナリティ
13. 障害児・者の教育
14. 障害児・者の学習
15. 定期試験

【成績評価方法】

授業での課題への取り組み（50パーセント）、ならびに試験（50パーセント）の合計により評価します。

【教科書】

『教育心理学 エッセンシャルズ』（西村・井森編著 ナカニシヤ出版）

【参考書】

『発達の臨床から見た子どもの教育相談』（平山・早坂編著 ミネルヴァ書房）

『教育心理学キーワード』（森・秋田編著 有斐閣）

【その他】

次の次項を確認し、初回の授業に必ず出席して、授業の概要と受講の仕方について理解すること。

- ・欠席しないこと。
- ・遅刻しないこと。
- ・授業中の課題に必ず取り組むこと。

教育制度概説

学期（後期）履修年次（1～4）単位（2）

鈴木 眞理

【授業の到達目標及びテーマ】

到達目標は、教育制度ならびにに関する基礎理解を十分にすること。教育を制度面でとらえる態度を形成することが、テーマとなる。

【講義概要】

教育という営みはどこでも見られるものであるが、ここでは、現在の日本社会を前提にして、教育が行政によってどのように組織化されているか、その制度はどのようにになっているか、という基礎的な理解を得ることを目的とする。

その際、教育は学校教育のみにとどまらず、社会教育・生涯学習支援という行政領域もあることに留意し、そこでの組織化の形態との異同等についても理解してもらうことを期待している。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教育の概念（その1：学習と教育）
- 第3回 教育の概念（その2：学校教育・社会教育・家庭教育）
- 第4回 教育の概念（その3：生涯教育・生涯学習）
- 第5回 教育の組織化をめぐる問題（事例から①）
- 第6回 教育の組織化をめぐる問題（事例から②）
- 第7回 教育制度の基礎理解（その1：日本国憲法・教育基本法）
- 第8回 教育制度の基礎理解（その2：教育法規の体系とその基本原理）
- 第9回 教育行政の基礎理解（その1：文部科学省の組織と役割）
- 第10回 教育行政の基礎理解（その2：教育委員会の組織と役割）
- 第11回 学校教育改革の動向（学校教育法をめぐる問題）
- 第12回 学校教育改革の動向（地教行法をめぐる問題）
- 第13回 学社連携・学社融合の議論
- 第14回 社会教育行政をめぐる問題
- 第15回 試験と解説

【成績評価方法】

筆記試験。レポートや毎回の講義への応答も勘案する。出席は大前提。

【教科書】

鈴木眞理『学ばないこと・学ぶことーとまれ・生涯学習の・ススメ』学文社

【参考書】

鈴木眞理・佐々木英和編『社会教育と学校』（シリーズ生涯学習社会における社会教育第2巻）学文社

岡本徹・佐々木司編著『新しい時代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房

【その他】

詳しくは講義時に指示するが、『教育六法』（三省堂）、『教育小六法』（学陽書房）等を用いて関連の法律については適宜参照できるようにしておくこと。

教育思想概説

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）
大森 秀子

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ「欧米の教育思想」

教育学を専門的に学ぼうとする人や教職を志す人が、欧米の教育思想の入門的学びを通して人間のあり方、学校のあり方、社会のあり方、授業のあり方などについて理解を深め、現代教育の諸問題に対して思想レベルから多角的に考える能力を身につけることを授業の到達目標とする。

【講義概要】

教育の理論、理念、目的、方法、価値、対象、関係などについて古来どのような思想的営みがなされてきたのかを、内外の教育思想史、教育の精神文化史研究の成果に学びながら、教育習俗や実践経験の中からどのような教育理念・思想が結実するのかを概観する。とりわけ近代以前と近代以降とを比較した場合、近代学校が次第に社会的機能を増すようになってきたのに伴って、それまでとは違う子どもの発達観を生み出すとともに、教育における知識観、能力観も大きく変容し、近代以降の教育思想の構造転換をもたらしたことを考察する。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（講義の目的、内容、進め方、評価の方法、受講上の注意事項など）
- 第2回：子どもと教育（1）—ルソーの教育思想—
- 第3回：子どもと教育（2）—ベスタロッチの教育実践—
- 第4回：子どもと教育（3）—フレーベルの幼児教育思想—
- 第5回：社会と教育（1）—プラトンの国家論—
- 第6回：社会と教育（2）—デューイの民主主義の教育—
- 第7回：学校と教育（1）—コメニウスの学校教育構想—
- 第8回：学校と教育（2）—コンドルセの公教育論—
- 第9回：学校と教育（3）—ホーレス・マンの公立学校運動—
- 第10回：学級教授と個別教授 —ランカスターとパーカストの教育方法—
- 第11回：早期知育 —モンテッソーリ教育—
- 第12回：科学としての教育 —ヘルバルト教育学の展開—
- 第13回：実存と教育 —ボルノー教育学—
- 第14回：講義内容に関する質疑応答
- 第15回：試験

【成績評価方法】

毎回の授業出席。授業内容に関する小レポートの提出（40%）。定期試験による評価（60%）。3分の1以上欠席した者は単位取得の意志がない者とみなす。

【教科書】

講義内容に関する資料として、各思想家の原典からの抜粋資料を配布する。

【参考書】

『学習指導要領』

梅根悟・勝田守一監修『世界教育学選集』（明治図書）

教育学研究法

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）
樋田 大二郎、酒井 豊

【講義題目】

教育学研究法を入門する

【授業の到達目標及びテーマ】

教育学の主要な研究方法を概観し、それらが必要とされた背景および意義を具体例を紹介しながら検討する。

【講義概要】

教育学科での学びは能動的な学びである。既存の知識を一方的に注入されるだけでなく、学生が自らの関心に基づいて教育に関する問を立て、この問に基づいて主体的に教育事象を探索しあるいは働きかけていくことになる。講義は、教育学科の一連の演習・卒業研究の基礎となるものであり、まず教育学分野に於ける研究の意義・目的がどこにあるのかを考える。そして、問題意識の設定、仮説の設定と検証、共時的研究と経時的研究、既存資料の収集と分析、文献研究、エスノグラフィックな研究、参与観察、アクションリサーチ、実験法、活動分析法、事例調査法、聞き取り調査、質問紙調査、エスノグラフィックな考察、統計的考察などの実際の研究に必要な知識と方法を習得する。この授業は酒井（文献研究法）と樋田（調査研究法）が交代で行う。

【授業計画】

- 1（1）. 授業紹介と授業のコミュニティ作り
- 2（9）. 教育学の対象領域。分野と当該分野に関係する事実・事象へのアプローチ方法
- 3（10）. 文献研究における日本と諸外国、現在と過去、原典・翻訳、資料、その他
- 4（11）. 検索。出典、引用
- 5（12）. 分野別文献①理念・思想・制度・歴史
- 6（13）. 分野別文献②発達・学習・学校（乳幼児保育施設～高等教育機関）・生涯学習
- 7（14）. 一覧・調査・統計資料
- 8（15）. 実践記録（授業・保育・多様な教育活動）
- 9（2）. なぜ調査？—オリエンテーション
- 10（3）. 問題意識が育つ
- 11（4）. アンケート調査・・・事例、背景、意義
- 12（5）. インタビュー調査・・・事例、背景、意義

- 13 (6). フィールド調査①授業研究・・・事例、背景、意義
 14 (7). フィールド調査②ヒューマンドキュメント・・・事例、背景、意義
 15 (8). フィールド調査③参与観察、アクションリサーチ・・・事例、背景、意義

※2クラス開講して一方のクラスは括弧付きの数字の順番で開講し、他方のクラスは括弧無し数字の順番で開講する。

【成績評価方法】

酒井と樋田のそれぞれの講義の中で小試験・課題を複数回実施する。試験・課題内容については、授業中に提示する。

【教科書】

授業中にそれぞれの教授から提示する。

【参考書】

授業中にそれぞれの教授から提示する。

基礎演習

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）

今井 重孝

【授業の到達目標及びテーマ】

ホリスティック教育をテーマとしています。

ゼミ報告の仕方、ゼミでの議論の仕方を学びます。

【講義概要】

この授業では、大学での学習の特徴である、あるテーマについて調べて報告し、議論しレポートを書くといった学習の仕方について学ぶことを目指しています。そのさい、『ホリスティック教育ガイドブック』をテキストとして、有力な学際的アプローチであるホリスティックアプローチを学ぶことも同時に目指しています。テキストは、ホリスティック教育をめぐる多様なテーマが簡潔に解説されています。まず最初に、ホリスティック教育について、テーマの選び方、調べ方、報告の仕方、レポートの書き方について解説をします。そのあとで、ガイドブックに出てくる多様なテーマの中から自分が関心を持つテーマを選んでもらいます。それぞれが、選んだテーマについて調べて順次報告し、議論します。それぞれのテーマをさらに発展させて、レポートにまとめ、提出します。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. ホリスティック教育とは何か
3. 調査、報告の仕方についての説明
4. 各自の報告
5. レポートの書き方についての説明
6. 各自の報告
7. レポートの提出とまとめ

【成績評価方法】

出席、報告、ディスカッションへの参加、レポートを総合して評価します。

【教科書】

日本ホリスティック教育協会編『ホリスティック教育ガイドブック』せせらぎ出版

基礎演習

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）

河本 洋子

【講義題目】

教育に関する基礎的、総合的な演習

【授業の到達目標及びテーマ】

幅広い視野から教育のあり方を考え、各自の問題意識を明確にして、レポートを作成する。

【講義概要】

幅広い視野から教育のあり方を考え合っていく。各自が教育に関する問題関心を掘り起こし、各自のテーマを設定する。そのテーマに関する情報を収集し、文献を調べ、探究し、伝えたいことを明確にする。個人発表なので、レジュメを準備し、視聴覚教材も活用しながらプレゼンテーションを工夫する。発表は、一方的に内容を伝えるだけではなく、将来教員を目指す人は特に、聴く相手とのコミュニケーションも考慮に入れて行う。質問や意見を言うコメント力も培う。最も大切なのは、主張したいことを筋道を立てて、レポートにまとめ、今後の大学での学びが実り多きものとなるよう、主体的・積極的に取り組むことである。

【授業計画】

はじめは、口頭発表の仕方や、レポートの書き方について、資料を配布し、担当者がイニシアティブをとるが、発表する日が決まれば、受講者が順次プレゼンテーションを行う。20数名という少人数の良さを生かし、受講生一人ひとりが自らの個性、実力を発揮できる場にしていきたい。学生参加型の演習なので、プレゼンターは、受講生が興味関心を示すように工夫し、質疑応答にも応えられるよう、周到な準備をすること。レジュメは、出来るだけ前日までに、B棟5階の教育学科講義準備室にて印刷の仕方を教わり、自分で人数分印刷し配布すること。期末には、さらに充実したレポートにして、達成感を得てほしい。レジュメやレポートには、参考文献、参考URLを明記すること。

【成績評価方法】

授業（テーマ決定・レジュメづくり・プレゼンテーション・質疑応答・意見発表など）への取り組み（50%）、レポートのでき具合（50%）などを、総合的に評価。

【参考書】

参考文献は、各自が図書館ほかで見つける。インターネットは便利だが、そこからダウンロードしてくるだけということのないように、必ず何冊かの文献を参考にすること。

基礎演習

学期 (前期) 履修年次 (1~4) 単位 (2)
北本 正章

【講義題目】

人類の世界史における人間学あるいは人間理解の展開

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ：人類の世界史における人間学あるいは人間理解の展開

この授業の成果目標は、人類の世界史における人間の発達・成長・形成・成熟について学問的な見方と考え方を深めるとともに、人間の内面を加工する知学 (Arete) と人間の外界を構成する物を加工する知学 (Technee) の両方の術 (わざ) をもって、人間形成と教育に関する基本命題についての理解を世界史的な視野と課題として深めることである。

【講義概要】

人間学と教養に関する基本的な概念やトピックを扱った短い文献を毎回いくつか取り上げ、それを解読するなかで、関連する教育学の基礎知識、解釈の道筋、関連する学術情報を提供するとともに「学び方」の視点などを、演習 (セミナー) 形式で検討する。必要に応じて、個別・分担発表、講義と解説、課題学習、コメンテーター・リアクションなど、「演習」授業としての工夫を取り込み、プレゼンテーション能力を磨き、共通理解を深めるための助言をする。

【授業計画】

- (1) 発題——世界史における人間理解の展開
- (2) ゼミの研究活動の内容 (1) Guidance Lecture on Educational Terms & Concepts (事項解説)
- (3) ゼミの研究活動の内容 (2) Textkritik (texte critique) (文献解読)
- (4) ゼミの研究活動の内容 (3) Academic Information Service (情報提供)
- (5) ゼミの研究活動の内容 (4) Sample Presentation (参照事例)
- (6) 文献解読の方法 (2回)
- (7) レジュメの作成方法
- (8) 検討文献候補と分担設定および発表 (1) 北本正章「勉学についてのささやかな助言」
- (9) 検討文献候補と分担設定および発表 (2) 下村湖人「人生と出発」
- (10) 検討文献候補と分担設定および発表 (3) 山田邦男「閑暇を得て退歩就己すること——真の教養とは何か」
- (11) 検討文献候補と分担設定および発表 (4) 加藤恒彦「現代における教養——歴史の見直しにかかわって」
- (12) 検討文献候補と分担設定および発表 (5) 栗原彬「教養とは、自分と世界を変える身体行動」
- (13) 検討文献候補と分担設定および発表 (6) 佐藤学「教養の危機——その構造と再生への方法」
- (14) 検討文献候補と分担設定および発表 (7) 左近毅「ファジーのなかの「教養」」
- (15) 検討文献候補と分担設定および発表 (8) 沖田行司「序章 日本の教育を考える」
- (16) 文献探索の方法
- (17) おわりに——研究計画法

【成績評価方法】

- (1) 出席状況 (10%)、(2) 発表レジュメの作成 (10%)、(3) 研究発表 (30%)、(4) 課題レポート (50%)

【教科書】

特に指定しませんが、授業の過程で適宜文献解題を行います。

【参考書】

マクファーレン (田口俊樹訳) 『リリーへの手紙』(ソフトバンククリエイティブ、2005)
外山滋比古『思考の生理学』(ちくま文庫、1986)
佐藤望 (編) 『アカデミック・スキルズ——大学生のための知的技法入門』(慶応大学出版会)

基礎演習

学期 (前期) 履修年次 (1~4) 単位 (2)
古荘 純一

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ 「学校での子どもの心身の発育の理解と支援」

学校は、子どもたちが、その成長発達過程の中で、集団で一定期間過ごす場所である。それゆえ、学校では、子どもの心身の発育過程を観察することが可能であり、さらに心身の問題の早期発見、早期対応が可能である。学校に通う子どもたちの健全な発育を理解し、また心身・行動面の問題に気づきどのように対策を理解することを授業の到達目標とする。

【講義概要】

学童期の子どもの心身の問題の把握する。前半の時間は、予め課題を提供しそれに簡単な解説を加えた後議論を行い、後半の時間は、グループで発表を行い質疑応答を加える。

【授業計画】

- 1) オリエンテーション、参考図書およびレポート作成の注意事項
- 2) 幼児期の子どもの発育の理解
- 3) 児童・生徒の発育の理解
- 4) 幼児期の子どもの発育を阻害する状況、虐待を中心に
- 5) 発達障害総論
- 6) 発達障害と特別支援教育
- 7) 子どもの幸福感と自尊心
- 8) 子どもの睡眠とその障害
- 9) 子どもの食生活と食育
- 10) 子どもの携帯電話使用の諸問題
- 11) いじめの現況と対策
- 12) 不登校の現況と対策
- 13) 薬物使用の現況と教育

- 14) 子どもの非行、犯罪
15) 質疑応答とレポート確認およびレポート提出

【成績評価方法】

授業は毎回参加を原則とし、2/3以上の出席が必要である。期間中2～3回の小レポート(30%)、最終レポート(60%)、それに授業の平常点(10%)を加え総合評価する。

【教科書】

特に指定しないがレポートは、『日本の子どもの自尊感情はなぜ低いのか』古荘純一著、光文社新書、を参考にすることを推奨する。また、参考図書などいくつかの文献読み、作成すること。

【参考書】

- 『私なら、こう変える。20年後からの教育改革』ほんの木編、2010年
『日本の子どもの自尊感情はなぜ低いのか』古荘純一著、光文社新書、2009年
『家族・支援者のための発達障害サポートマニュアル』古荘純一著、河出書房新社、2008年
『不安に潰される子どもたち』古荘純一著、祥伝社新書、2007年
『軽度発達障害と思春期、理解と対応のハンドブック』古荘純一著、明石書店、2006年
『新 小児精神神経学』古荘純一著、日本小児医事出版社、2006年

【準備】

発表の際は、必ず予習をして人数分の資料を作成すること。

基礎演習

学期(前期)履修年次(1～4)単位(2)
佐々木 竜太

【授業の到達目標及びテーマ】

本講義は、教育学の基礎的概念、教育に関する現代的事象を取り上げ、それらを学ぶ過程の中で、大学生として必要なスタディ・スキルを修得することを目標とします。

【講義概要】

本講義では、教育学科に入学したみなさんが、これから教育学を学ぶ上で土台となる基礎的概念、教育に関する様々な事象に関する文献を、個人・グループで読み解きます。その際、単に読むのではなく、批判的・論理的に読むことに主眼を置きます。講義の前半部分ではまず、そうした読み方に必要なスキルを講義形式で学びます。後半からは、前半で学んだ内容をグループ発表やディスカッションなどの実践を通して、深めます。そして最終的には、個人でレポートを作成し、学習の成果を確認することとします。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 大学生としての「学び」
3. 図書館の利用の仕方
4. インターネットでの資料検索
5. 課題文献を読み解く①
6. 課題文献を読み解く②
7. プレゼンテーションの基本
8. グループ発表とディスカッション①
9. グループ発表とディスカッション②
10. グループ発表とディスカッション③
11. グループ発表とディスカッション④
12. グループ発表とディスカッション⑤
13. グループ発表とディスカッション⑥
14. レポートの作成について
15. まとめ

【成績評価方法】

レポート・・・50%、プレゼンテーション・・・20%、プレゼンテーション資料・・・10%、出席状況・・・10%、ディスカッションへの参加度など授業に臨む姿勢・・・10%

【教科書】

特に指定しません。授業時に配布するレジュメをもとにすすめていきます。

【参考書】

適宜、授業時に紹介します。

【その他】

本講義は、講義名からもわかるとおり、少人数の「演習」形式の授業です。そのため授業は欠席せず、積極的に学ぶ姿勢が求められます。「演習」形式の特徴を生かせるよう、主体的に参加し、ともに学んでいきましょう。

教職総合演習

学期(後期)履修年次(1～4)単位(2)
蔵元 幸二

【講義題目】

課題の追求法及び発表の仕方を学ぶ

【授業の到達目標及びテーマ】

- 一問題解決能力を高めるために一
- ・レジュメをもとに研究課題を追求することができる。
 - ・工夫した発表をすることができる。

【講義概要】

教員養成カリキュラムが2000年度に大幅に改訂されました。そこでは、教員養成系の大学で教員免許状を取得するためには「総合演習」の履修が義務づけられています。

なぜ、「総合演習」の履修が義務づけられたのでしょうか。

世界が密接に関係しあう時代、さまざまな問題が地球的規模で起きている時代、この21世紀を生きる子ども達は、日本国民として、地球市民としてどのような資質能力を有すればよいのでしょうか。子ども達の教育に直接携わる教師にもそれに相応した資質能力が求められるのは当然のことといえます。

そこで、本演習では

- 1) 人間尊重・人権尊重の精神はもとより、地球環境、異文化理解など人類に共通するテーマ
 - 2) 少子・高齢化と福祉、家庭のありかたなど我が国の社会全体に関わるテーマ
- をもとに、関心のある問題をグループで追及し、まとめそれを発表することを中心に展開します。
- 研究の動機、現状把握とその背景、及び問題点の明確化、そしてその解決の方向を探るという一連の活動を通して、最も必要とされる個人及び集団としての問題解決能力を高めたいと思っています。

国連難民高等弁務官で長く仕事に携わっていた緒方貞子さんは、
 “21世紀に生きる人類のキーワードは「連帯感」だ”と述べています。そのために、今、日本人にとって最も必要なのは「現状理解」だと強調されています。さまざまな形で国際支援活動を行っている人をインタビューすると口をそろえて同じことを言われます。

どう現状を把握するか、そこに力点を置いて演習を進めていきたいと考えています。

【授業計画】

- 1 「生きる」ということは、（グレートジャーニーの話）
- 2 なぜ総合演習を学ぶのか、（その意義と内容と学び方）
- 3 “新聞を読む”（小グループで各自取り上げた記事について話し合う）
- 4 関心のある社会的問題をテーマに研究グループをつくり、研究課題及び研究の動機を発表する。
- 5 参考事例をもとに研究課題の追及の仕方を学ぶ。
- 6 研究計画表の作成と参考事例をもとにレジユメの意味と形式を理解する。
- 7 研究活動（資料収集の方法と発表方法の工夫）
- 8 研究活動の経過報告
- 9 各グループの研究発表及びその感想メモの提出
- 10 同上
- 11 同上
- 12 同上
- 13 同上
- 14 同上
- 15 「総合的な学習」をすすめるために（まとめ）
 レポート課題及び提出について

【成績評価方法】

- ・ 成績評価の中心は、課題研究レポートです
- ・ 研究発表及び感想メモ等は評価に加味します
- ・ 出席は毎時間とり、評価に加味します
 （教育実習、介護体験、就職活動、部活動等は考慮）
- ・ 全授業回数の2/3以上出席してください

【教科書】

奥山晃弘・半田博・蔵元幸二編著
 『総合演習 ワークシート』 田研出版

【その他】

- ・ 授業中の私語は禁止です
- ・ 「楽しい授業」をこころがけます

教職総合演習

学期（後期）履修年次（1～4）単位（2）
 長嶋 清

【講義題目】

教師としての総合的な実践力の育成

【授業の到達目標及びテーマ】

- テーマ「教師として、常に広い視野に立って適切に対応できる実践的な資質、能力を身に付け、社会の変化や生徒の実態に柔軟に対応できるようにする」
- ・ 研究実践例としては、コミュニケーション、人権尊重、異文化理解、環境問題、福祉問題、携帯電話問題、保護者の期待や要望、生きる力等
- ・ グループで調査研究したことを発表し、学び合う。
- ・ 教師としての実践的な対応力、指導力、問題解決力等の素地を培う。

【講義概要】

小・中・高等学校における総合的な学習の時間の内容や学校の課題や問題の実態・原因の分析と、その対応の仕方等についての発表を通して学び合う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（講義の目的、内容、進め方（双方向の授業）、単位の取得（発表、レポート、出席）、参考図書、教師になるためのライフステージについて、アンケート調査（この結果を講義内容に生かす）

- 第2回 アンケートの調査結果と配付資料「学校教育の様々な課題」を基に研究課題等について話し合う。
- 第3回 今日的な教育課題講義（コミュニケーション、人権、異文化）
- 第4回 今日的な教育課題講義（環境問題、携帯電話問題、児童指導、他）
- 第5回 グループ作りと研究課題の検討協議
作業活動、指導助言
- 第6回 作業活動、指導助言
- 第7回 作業活動、指導助言
- 第8回 作業活動、指導助言
- 第9回 グループ毎の発表、研究協議、コメント
- 第10回 グループ毎の発表、研究協議、コメント
- 第11回 グループ毎の発表、研究協議、コメント
- 第12回 グループ毎の発表、研究協議、コメント
- 第13回 グループ毎の発表、研究協議、コメント
- 第14回 学校教育における課題とその解決の仕方についてまとめる
- 第15回 試験

【成績評価方法】

毎回授業に出席すること。毎時間、その日の授業について意見や感想を書いて提出してもらう。

定期試験による評価（60%）、学期末に講義に関する内容をデーターにした論文を提出してもらう（30%）。これに授業の出席等を考慮して総合評価する（10%）。

【教科書】

『学校担任だより』長嶋 清著（東洋館出版）

講義内容に関する資料と学校教育の課題等に関する情報等を毎回配付する。

【参考書】

中学校・高等学校学習指導要領総則、「中教審答申」、文部省各種通達

教職総合演習

学期（後期）履修年次（1～4）単位（2）

野口 芳宣

【授業の到達目標及びテーマ】

「21世紀を創造する教師になろう」

人間尊重・人権尊重、人類に共通する課題、我が国社会全体にかかわる課題等に関する分析及び検討、ならびにその課題について理解を深め視野をひろげるとともに、これら諸課題に関して幼児・児童・生徒を指導するための方法及び技術を身につける。

【講義概要】

上記目標を達成するために、学生各自は、価値ある課題を自ら一つ決め、それぞれについて少人数（3～最大4名）からなるグループによって追究及び検討（考察）を加えたものを報告する。

各グループの報告を演習によって検討、協議し、解決策に迫る。併せて、いろいろな協議の方法を身に付ける。

（学生は、下掲の課題例から1課題を選び、それぞれ研究、報告、提案して演習に付す。）

○各グループはすべてのグループを対象に研究成果を報告し、協議に資する。

○この活動に対して、研究法、報告作成法、報告（提案）法、協議法等について、随時指導される。

研究課題例（選択）

I 群 <人類に共通する課題>

環境 エネルギー 資源 戦争と平和 児童の権利に関する条約 異文化理解（国際理解教育） その他

II 群 <我が国社会全体に関わる課題>

日本国憲法 教育基本法 児童福祉と児童虐待 マスコミと幼児・児童・青少年文化 その他

III 群 <教科等を横断して行う教育の充実に関する課題>

道徳 生徒指導 保健・安全・給食 食育 ものづくり教育 キャリア教育 その他

IV 群 <学校・教師と法律>

教育活動と著作権法 教育活動と個人情報保護法 教育活動と発達障害者支援法
学校と児童虐待防止法 学校事故と国家賠償法 就学奨励と就学援助 教師の副業
体罰 信用失墜行為 その他

V 群 <学校教育をめぐる諸問題>

不登校 経営困難学級への対応 保護者の要求への対応 危機管理 学級経営の柱と学級文化
地域との連携 外部機関との連携 その他

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
研究課題例の提示と解説・協議
課題別グループ編成と研究計画の作成
- 2 グループごとの研究課題の発表・交流
- 3 グループごとの作業活動（調査研究）
- 4 グループごとの作業活動（調査研究）
- 5 グループごとの報告 研究協議
- 6 グループごとの報告 研究協議
- 7 グループごとの報告 研究協議
- 8 グループごとの報告 研究協議
- 9 グループごとの報告 研究協議
- 10 グループごとの報告 研究協議

- 11 グループごとの報告 研究協議
- 12 グループごとの報告 研究協議
- 13 グループごとの報告 研究協議
- 14 派生する重要課題についての協議

【成績評価方法】

演習への参加状況（研究 20% 協議 20%） 報告書 30% 提案性の適正 10%
毎時の批評箋・自己評価票（記述式・20%）

【教科書】

各グループの作成・報告する提案

【参考書】

中教審教育課程部会答申（平成20年1月17日）

その都度紹介する。

- 例 [環境問題] の場合 京都議定書 環境基本法 環境教育基本法
『いまずぐ考えよう！地球温暖化 全3巻』（岩崎書店）
『ほんとうの環境問題』（新潮社）

教職総合演習

学期（後期）履修年次（1～4）単位（2）
岡田 純一

【授業の到達目標及びテーマ】

教職総合演習として求められる課題、すなわち教育職員免許法施行規則第1章第6条備考7に記されているとおり人類共通というきわめて広い視野を求められる課題に対して教師は何を行い、今後どのような取り組みをしなければならないのか。この点について考察するため、児童・生徒の実態、教師のあり方、そして自らの生き方を捉えつつ、学習指導要領をもとに教師に求められる意識や配慮について把握し、今後実践し得る力を各自が身につけることを、全体的な本演習の到達目標として掲げたい。

具体的には、教育課程上における学習指導要領にみられるさまざまな背景を探りつつ、理論的な側面の理解を充分に図り、教師の総合演習に取り組む姿勢をとした考察を行う。そして、そこから各自およびグループによるシミュレーション、すなわち実際の場面でどのような手段や方法を用い、横断的・総合的な学習をすすめることができるかについて考察を重ねるとともに、各自が総合演習として興味・関心を抱くテーマの選択および計画立案をし、それらをもとに個人発表を行う展開としたい。

【講義概要】

学習指導要領における総合演習の役割と探求および実践

1. 現行学習指導要領にみられる背景……A) これまでの学習指導要領との比較 B) 現代社会を踏まえた学校教育 C) 子どもをとりまく現状の把握と理解 D) 生きる力とはなにか E) 生涯学習社会における自己教育力・自己主導的学習の重要性 F) 地域・家庭と学校との融合の重要性 G) カリキュラム構築に対する不易—流行および内的要因—外的要因の視点 H) 学力低下と確かな学力・わかる授業 I) 教員に求められる資質・能力の把握
2. グループにおける計画立案と個人発表の準備……A) 教育内容の適切性 B) 教育方法の多様性 C) 教師の教育的配慮 D) 児童・生徒の教育的効果に関する検討 E) 人類共通の課題に対する探求 F) 効果的なプレゼンテーション方法の検討
3. 個人による発表……A) 人類共通の課題の提示 B) 自己主張と人類共通との整合性に対する説明 C) 話し方、伝え方の工夫についての体得 D) 教員に求められる資質の確認 E) 学校、現場における展開例の提示 F) 質疑応答・意見から得られた今後の課題の確認

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（講義の目的、課題の提示、内容、すすめ方、評価方法）
- 第2回：自己をみつめなおす作業（書く作業）①、総合演習をとりまく教育事情（講義）①
- 第3回：自己をみつめなおす作業②、総合演習をとりまく教育事情②
- 第4回：自己をみつめなおす作業③、総合演習をとりまく教育事情③
- 第5回：自己をみつめなおす作業④、総合演習をとりまく教育事情④
- 第6回：自己をみつめなおす作業⑤、総合演習をとりまく教育事情⑤
- 第7回：自己をみつめなおす作業⑥、総合演習をとりまく教育事情⑥
- 第8回：グループにおけるディスカッションをもとにした作業（グループ内で受講者における各自のテーマ発表と、本講義の課題との整合性の確認、発表に向けた準備）①
- 第9回：グループにおけるディスカッションをもとにした作業②
- 第10回：グループにおけるディスカッションをもとにした作業③
- 第11回：グループにおけるディスカッションをもとにした作業④
- 第12回：個人発表および討議（持ち時間のもとに受講者各人が発表を行い、それをもとに質疑および意見交換を図る）①
- 第13回：個人発表および討議②
- 第14回：個人発表および討議③
- 第15回：個人発表および討議④

【成績評価方法】

毎回出席は当然のこと。グループ活動や個人発表など、講義内の積極的活動と、レポートにより総合的に判断する。

【教科書】

とくになし

【参考書】

『学習指導要領』

『教育的効果をもたらす評価の理論と実践』 岡田純一著（学事出版）

【その他】

授業計画については、履修者の学習深度により、順序等を変更することがある。

応用演習 I

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）
小林 紀子

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ「教育研究の手順や実際の方法を学ぶ」

教育研究はある問題の解決を目標とすることから、①問題意識をもつこと ②問題の解決に必要な資料を収集すること ③解決に向かって設定された仮説を実証するために収集した資料を比較・分析・総合などの思考活動を行う ④問題の解決を導き出し、その結論を検証し、簡潔な表現で発表する、などの手順を経ることを理解すると共に、資料収集の違いにより研究方法が分かれることを学ぶ。

【講義概要】

教育学研究における、教育方法の手順や実際の方法を学ぶ。具体的には、歴史的方法、質問紙法、事例調査法、学校調査法、活動分析法などの実際を演習形式で学び、理解する。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（授業の目的、内容、すすめ方）
- 第2回：研究手順を理解する（1）
- 第3回：研究手順を理解する（2）
- 第4回：歴史的方法の実際について（1）
- 第5回：歴史的方法の実際について（2）
- 第6回：質問紙法の実際について（1）
- 第7回：質問紙法の実際について（2）
- 第8回：事例調査法の実際について（1）
- 第9回：事例調査法の実際について（2）
- 第10回：学校調査法の実際について（1）
- 第11回：学校調査法の実際について（2）
- 第12回：活動分析法の実際について（1）
- 第13回：活動分析法の実際について（2）
- 第14回：学びの振り返り
- 第15回：まとめ

【成績評価方法】

毎時間、その授業について、意見や感想を書いて提出してもらう。授業のレポート（70%）と学びカード（30%）を考慮して総合評価する。

【参考書】

必要に応じて資料を配布する。

応用演習 I

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）
小森 茂

【授業の到達目標及びテーマ】

初等教員の実践力（応用力 I）の育成を目指す。特に、国語科等の教科指導を取り上げ、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の領域に即した実践力（応用力 I）を育成する。

【講義概要】

教育課程・国語の実践課題は、「伝え合う力」を育成することである。その実現のために、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の領域ごとに、目標に照らしながら、「教材研究と発問研究」等を中心に「本時の学習指導案」を作成する。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（演習のねらい、内容と方法、進め方、参考文献等）
- 第2回：「A話すこと・聞くこと」の「事柄の順序」についての「教材研究と発問研究」
- 第3回：「A話すこと・聞くこと」の「筋道を立てて」についての「教材研究と発問研究」①
- 第4回：「A話すこと・聞くこと」の「筋道を立てて」についての「教材研究と発問研究」②
- 第5回：「A話すこと・聞くこと」の「的確に話す」と「相手の意図」についての「教材研究と発問研究」
- 第6回：「B書くこと」の「順序と簡単な構成」についての「教材研究と発問研究」
- 第7回：「B書くこと」の「段落相互の関係」についての「教材研究と発問研究」①
- 第8回：「B書くこと」の「段落相互の関係」についての「教材研究と発問研究」②
- 第9回：「B書くこと」の「構成の効果」についての「教材研究と発問研究」
- 第10回：「C読むこと」の「事柄の順序」についての「教材研究と発問研究」
- 第11回：「C読むこと」の「段落相互の関係」についての「教材研究と発問研究」①
- 第12回：「C読むこと」の「段落相互の関係」についての「教材研究と発問研究」②
- 第13回：「C読むこと」の「内容や要旨」の「教材研究と発問研究」
- 第14回：実践力（応用力 I）全体の総括、質疑・応答
- 第15回：試験

【成績評価方法】

- ・毎回演習に参加できたか。
- ・演習に参加して、気付いたことや考えたこと等をワークシートにメモができたか。
- ・各自の演習課題に取り組み、発表メモを作成し説明や発表ができたか。（以上、40%）
- ・定期試験ができたか。（60%）

【教科書】

- ①『小学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省、平成20年、東洋館出版、122円）
- ・その他、適宜に助言する。

【参考書】

- ①『初等教育資料』（文部科学省、東洋館出版）
 - ②『小学校国語教科書』①『「読解力」で授業をかえる』（ぎょうせい、小森 茂編）
 - ③『小学校国語科の実践指針』（明治図書出版 小森 茂著）
- ・その他、適宜に助言する。

【準備】

- ・スピーチやプレゼンテーション等は、リハーサルをすること。
- ・毎回の演習は、気付きメモを取ること。
- ・評価は、自己評価と他者の気付きメモを活用すること。

【その他】

- ・真摯な取り組み

応用演習 I

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）

鈴木 宏昭

【講義題目】

レポート作成のための問題設定と論述

【授業の到達目標及びテーマ】

3年次以降の専門演習、卒業研究に必要なレポート、論文の執筆の能力を身につける。

【講義概要】

大学ではレポートや論文を書くことが求められる。これらを執筆する際には、関連文献を検索すること、それを読み問題を見つけること、そして論理的に書くことが求められる。本演習では、これらを体験することを通して、資料探索、問題発見、論述のための能力を磨く。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. レポート・論文の構造
3. 文献の探し方・まとめ方（1）
4. 文献の探し方・まとめ方（2）
5. 問題発見演習（1）
6. 問題発見演習（2）
7. 問題発見演習（3）
8. 問題発見実習（1）
9. 問題発見実習（2）
10. 論文目次案発表（1）
11. 論文目次案発表（2）
12. 論文目次案発表（3）
13. まとめ

【成績評価方法】

講義中に提出される課題と期末レポートによる。

【参考書】

- 戸田山和久「論文の教室」（NHK）
小笠原喜康「論文の書き方」（ダイヤモンド社）

応用演習 I

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）

早坂 方志

【授業の到達目標及びテーマ】

教育学研究法のうち、①教育実践に関わる研究の概要について知ると共に、②教育実践で用いられている研究法の中から観察法と面接調査法を取り上げ、その基本的内容について知る。

【講義概要】

教育学研究法のうち、①教育実践に関わる研究の概要について、教育実践の多様性と主体、研究（問題、仮説の設定等）・研究法の実践、研究倫理等に関する事項を知る。また、②教育実践で用いられている研究法の中から観察法と面接調査法を取り上げ、その概要と実際に関して基本的内容について知る。課題に対して積極的に取り組むことが求められる。

【授業計画】

1. 教育学研究法と教育実践
2. 教育実践の多様性と主体
3. 研究・研究法、研究倫理
4. 文献研究 1
5. 文献研究 2
6. 文献研究 3
7. 研究の概要のまとめ
8. 観察法 1：概要
9. 観察法 2：検討 1
10. 観察法 3：検討 2
11. 面接調査法 1：概要
12. 面接調査法 2：検討 1

13. 面接調査法3：検討 2
14. 質疑応答
15. 全体のまとめ

【成績評価方法】

授業での発表・討議への参加（必ず授業に出席して小レポートを提出すること、30パーセント）と、期末レポート（70パーセント）により評価する。

【教科書】

教科書は指定しない。授業で資料を配付する。

【参考書】

『教育研究のメソロジー』（2005）、秋田喜代美他編、東京大学出版会
『エピソード記述入門』（2005）エピソード記述入門、鯨岡峻、東京大学出版会
『人間科学研究法ハンドブック』（1998）、高橋順一他編、ナカニシヤ出版

【その他】

- ・初回の授業に必ず出席し、授業の受講等について理解すること。
- ・遅刻しないこと。
- ・欠席しないこと。
- ・課題に必ず取り組むこと。

応用演習Ⅰ

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）
藤田 幹夫

【講義題目】

授業入門

【授業の到達目標及びテーマ】

自分（たち）で授業をやってみる

【講義概要】

人数や教室などいろいろな制限があるだろうが、同級生を生徒に見立て、自分が選んだトピックで、短時間の模擬授業を行う。発表前には集中的に準備と練習の時間が必要だけれど、授業発表の経験をとおして、授業準備に必要なことや、授業中に注意すべきことなど、大切なことを自分で学び、検討会でそれを共有する。

授業のできる場所、使える教材、生徒に教えるべき内容のレベルなど、条件はきついかもかもしれないが、アドヴァイスはする。

2・3人で先生役をやるチーム・ティーチングを行うことも考慮する。

【授業計画】

（履修者の人数によって変更することがある）

1. オリエンテーション、人数制限
2. 授業の準備、授業案、発表日の決定
3. 担当者による授業
4. 準備予定日
- 5～13. 参加者による模擬授業発表と検討会
14. 15. よい授業とは何だろう

【成績評価方法】

授業の準備、発表、レポート、発言・コメントなどによる参加などの総合点

応用演習Ⅱ

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）
大森 秀子

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ「人間科学的な研究法としての文献研究」

「応用演習Ⅰ」で習得した知識や技能を、教育学の研究に適用できるようになることを授業の到達目標とする。

【講義概要】

本演習では教育学研究法の中でも、人間科学的な研究法としての文献研究の方法を中心に学び、それをういて研究する。最初の数回は教育学の各領域においてどのようなアプローチができるのかについて、事例研究を行う。次に、受講者の関心に従って、各自が研究対象を定め、テーマを設定する。先行研究をもとに仮説を立て、文献講読を通して得た理論を教育事象の分析に応用する。研究の成果はクラスで報告し、批判的建設的に検討しあう。最終的に研究内容を小論文にまとめ、論文の作法を身につける。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（演習の目的、内容、進め方、評価の方法、受講上の注意事項など）
- 第2回：文献研究法（1）
- 第3回：文献研究法（2）
- 第4回：文献研究法（3）
- 第5回：文献研究法（4）
- 第6回：文献研究法（5）
- 第7回：研究発表（1）
- 第8回：研究発表（2）
- 第9回：研究発表（3）
- 第10回：研究発表（4）
- 第11回：研究発表（5）

第12回：研究発表（6）

第13回：研究発表（7）

第14回：総括

第15回：小論文の提出

【成績評価方法】

毎回の授業出席、研究発表・ディスカッションなどの平常点（40%）。小論文による評価（60%）。

3分の1以上欠席した者は単位取得の意志がない者とみなす。

【教科書】

開講時に指示する。

応用演習Ⅱ

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）

小田 光宏

【講義題目】

社会調査の手法

【授業の到達目標及びテーマ】

「応用演習Ⅰ」で習得した知識と技能をもとに、教育学の研究方法の一つとして用いられる社会調査の手法に関する知識と技術を身に付け、3年次の「専門演習」、4年次の「卒業研究」のための基礎を固めることが、この授業の到達目標です。

【講義概要】

社会調査の手法、とりわけ、質問紙調査（アンケート調査）や面接調査の知識と技法を学び、演習形式でその実際を体験します。学習の過程で、問題意識の確認、先行研究や既存資料に基づく仮説の設定、調査対象と調査内容の確定、調査の準備と配慮、調査結果の分析といった点に関する、理解を深めます。

【授業計画】

第1回 インTRODクシヨン（授業の進め方ほか）

第2回 社会調査の概要

第3回 質問紙調査の事例

第4回 面接調査の事例

第5回 質問紙の設計（1）

第6回 質問紙の設計（2）

第7回 質問紙の設計（3）

第8回 質問紙の設計（4）

第9回 実査の準備（1）

第10回 実査の準備（2）

第11回 データ分析（1）

第12回 データ分析（2）

第13回 データ分析（3）

第14回 データ分析（4）

第15回 総括

【成績評価方法】

授業で取り上げる課題への取り組み状況を総合して評価します。

【教科書】

使用しません。

【参考書】

授業中に紹介します。

【その他】

グループ作業を行うことから、授業への遅刻・欠席や身勝手な行動は、他の受講者への多大な迷惑となりますので、留意してください。

応用演習Ⅱ

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）

小林 紀子

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ「習得した知識と技能をもとに教育学の研究を体験的に学ぶ」

実際に、資料を収集する、現場を訪ねる、現場に働きかけるなどの調査研究の在り方を理解する。この過程で、①自分自身の問題意識を設定する ②先行経験や既存資料をもとに仮説を立てる ③フィールドを決める ④フィールドとの関係構築 ⑤調査・研究の楽しさ・意義を理解し、学ぶ。

【講義概要】

応用演習Ⅰで習得した知識と技能をもとに教育学の研究を体験的に学ぶ。本演習で習得した研究方法と研究対象についての理解は、3年次の専門演習、4年次の卒業研究へとつながるものとなる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション（授業の目的、内容、すすめ方）

第2回：応用演習での学びの確認（1）

第3回：応用演習での学びの確認（2）

第4回：フィールドとの関係構築（1）

第5回：フィールドとの関係構築（2）

第6回：フィールドからのデータ収集（1）

- 第7回：フィールドからのデータ収集（2）
- 第8回：調査・研究の実際（1）
- 第9回：調査・研究の実際（2）
- 第10回：調査・研究の実際（3）
- 第11回：調査研究のまとめ（1）
- 第12回：調査研究のまとめ（2）
- 第13回：調査研究のまとめ（3）
- 第14回：学びの振り返り
- 第15回：まとめ

【成績評価方法】

毎時間、その授業について、意見や感想を書いて提出してもらう。授業のレポート（70%）と学びカード（30%）を考慮して総合評価する。

【参考書】

必要に応じて資料を配布する。

応用演習Ⅱ

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）
小森 茂

【授業の到達目標及びテーマ】

初等教員の実践力（応用力Ⅱ）の育成を目指す。特に、国語科等の教科指導を取り上げ、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の領域に即した実践力（応用力Ⅱ）を育成する。

【講義概要】

教育課程・国語の実践課題は、「伝え合う力」を育成することである。その実現のために学習指導要領・国語の内容理解と関連させながら、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の領域ごとに、「教材研究と発問研究」に基づく「本時の学習指導案」を作成し、「模擬授業」で検証する。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（演習のねらい、内容と方法、進め方、参考文献等）
- 第2回：「A話すこと・聞くこと」の「事柄の順序」についての「模擬授業」
- 第3回：「A話すこと・聞くこと」の「筋道を立てて」についての「模擬授業」①
- 第4回：「A話すこと・聞くこと」の「筋道を立てて」についての「模擬授業」②
- 第5回：「A話すこと・聞くこと」の「的確に話す」と「相手の意図」についての「模擬授業」
- 第6回：「B書くこと」の「順序と簡単な構成」についての「模擬授業」
- 第7回：「B書くこと」の「段落相互の関係」についての「模擬授業」①
- 第8回：「B書くこと」の「段落相互の関係」についての「模擬授業」②
- 第9回：「B書くこと」の「構成の効果」についての「模擬授業」
- 第10回：「C読むこと」の「事柄の順序」についての「模擬授業」
- 第11回：「C読むこと」の「段落相互の関係」についての「模擬授業」①
- 第12回：「C読むこと」の「段落相互の関係」についての「模擬授業」②
- 第13回：「C読むこと」の「内容や要旨」の「模擬授業」
- 第14回：実践力（応用力Ⅱ）全体の総括、質疑・応答
- 第15回：試験

【成績評価方法】

- ・毎回演習に参加できたか。
- ・演習に参加して、気付いたことや考えたこと等をワークシートにメモができたか。
- ・各自の演習課題に取り組み、発表メモを作成し説明や発表ができたか。（以上、40%）
- ・定期試験ができたか。（60%）

【教科書】

- ①『小学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省、平成20年、東洋館出版、122円）
- ・その他、適宜に助言する。

【参考書】

- ①『初等教育資料』（文部科学省、東洋館出版）
- ②『小学校国語教科書』
- ③『「読解力」で授業をかえる』（ぎょうせい、小森 茂編）
- ④『小学校国語科の実践指針』（明治図書出版、小森 茂著）
- ・その他、適宜に助言する。

【準備】

- ・スピーチやプレゼンテーション等は、リハーサルをすること。
- ・毎回の演習は、気付きメモを取ること。
- ・評価は、自己評価と他者の気付きメモを活用すること。

【その他】

- ・真摯な取り組み

応用演習Ⅱ

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）
酒井 豊

【講義題目】

「教育基本法」の制定・改定過程

【授業の到達目標及びテーマ】

現在の日本の教育の形を理解するための一つの方法として、第二次大戦における敗戦を機に制定された「教育基本法」を取り上げ、それがどのような位置に置かれて歴史を歩み、2006年12月の改定に至ったのかを、受講者の発表を通して考える。

【講義概要】

生活環境が質と量両面で劇的に変化する今日、大半の人々は、過去から未来への流れを今現在の現実において結びつけることができなくなっている。人間にとって「過去」は、文献や遺物などの多様な個物を似非考古学的に確認し時系列的に配列する作業の先にあるのではない。それはそれら個物の現在の意味がその時点で想定される世界観・環境観との相関で意味づけられて初めて決着する、「現実の構造」の中にある。「教育基本法」の制定・実施・改定の一連の流れは、本講では取り上げないにせよ「教育勅語」とは対照的であり、日本人による日本人のための教育・人間形成環境の構築という観点から、最も多くの観点からの検討ができると考える。授業では個人・グループを単位とした作業を求め、演習形式をとるが、本講は2010年度が初めてなので、試行錯誤的になることが予想される。

【授業計画】

- 1 導入： テーマと作業の確認、文献の紹介
- 2 作業単位の決定
- 3 近現代における日本の教育改革に関する担当教員からの予備的説明（1）
- 4 近現代における日本の教育改革に関する担当教員からの予備的説明（2）
- 5 発表と意見交換（1）
- 6 発表と意見交換（2）
- 7 発表と意見交換（3）
- 8 発表と意見交換（4）
- 9 発表と意見交換（5）
- 10 発表と意見交換（6）
- 11 発表と意見交換（7）
- 12 発表と意見交換（8）
- 13 発表と意見交換（9）
- 14 発表と意見交換（10）
- 15 総括： 総括的討論、発展的課題

【成績評価方法】

①演習の展開への貢献度、②発表時のレジュメ。なお出席は毎回取る。

【教科書】

参照文献目録、基礎テキストはコピーして配布する。

【参考書】

特になし。

応用演習Ⅱ

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）
鈴木 宏昭

【講義題目】

メディアリテラシーと批判的思考

【授業の到達目標及びテーマ】

人間の思考のクセを理解し、新聞、テレビ、インターネットにおける情報を吟味する能力、自らの思考を振り返る能力＝批判的思考能力を身につける。

【講義概要】

人は思考のバイアスというものを持っており、情報を正しく判断することができないことが多い。また世の中にはこうした人のクセを逆手に取った情報操作が少ない。

この演習では

- ・人の思考のクセを知ること、
 - ・現実社会の中での情報操作を見抜くこと、
 - ・これらをわかりやすく人に伝えること、
- を学ぶ。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. 人の思考のクセ（1）
3. 人の思考のクセ（2）
4. 人の思考のクセ（3）
5. 現実社会における情報操作（1）
6. 現実社会における情報操作（2）
7. 現実社会における情報操作（3）
8. プレゼンテーションのためのグループワーク
9. プレゼンテーション（1）
10. プレゼンテーション（2）
11. プレゼンテーション（3）

12. プレゼンテーション（4）

13. まとめ

【成績評価方法】

講義における課題の提出、発表、学期末レポートによる。

【教科書】

モッテルリーニ「世界は感情で動く」（紀伊国屋書店）

応用演習Ⅱ

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）

早坂 方志

【授業の到達目標及びテーマ】

教育学研究法のうち、①教育実践に関わる研究の概要についての理解をより深めると共に、②教育実践で用いられる研究法の中から観察法と面接調査法を取り上げ、その基本的な内容について理解し、専門演習（3年次）へと発展させる端緒とする。

【講義概要】

教育学研究法のうち、①教育実践に関わる研究の概要について、教育実践の多様性と主体、研究（問題、仮説の設定等）・研究法の実際、研究倫理等に関する事項の理解を深める。また、②教育実践で用いられている研究法の中から観察法と面接調査法を取り上げ、その概要と実際に関して基本的な内容について理解する。課題に対して積極的に取り組むことが求められる。

【授業計画】

1. 教育学研究法と教育実践
2. 教育実践の多様性と主体、文献研究 1
3. 研究・研究法、文献研究 2
4. 研究倫理、文献研究 3
5. 研究の概要のまとめ
6. 観察法 1：概要
7. 観察法 2：検討 1
8. 観察法 3：検討 2
9. 観察法 4：検討 3
10. 面接調査法 1：概要
11. 面接調査法 2：検討 1
12. 面接調査法 3：検討 2
13. 面接調査法 4：検討 3
14. 質疑応答
15. 全体のまとめ

【成績評価方法】

授業での発表・討議への参加（必ず授業に出席し小レポートを提出すること、30パーセント）と、期末レポート（70パーセント）により評価する。

【教科書】

教科書は指定しない。授業で資料を配付する。

【参考書】

『教育研究のメソロジー』、秋田喜代美他編、東京大学出版会

『エピソード記述入門』、鯨岡峻、東京大学出版会

『人間科学研究法ハンドブック』、高橋順一他編、ナカニシヤ出版

【その他】

- ・初回の授業に必ず出席し、授業の受講等について理解すること。
- ・遅刻しないこと。
- ・欠席しないこと。
- ・課題に必ず取り組むこと。

応用演習Ⅱ

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）

古荘 純一

【授業の到達目標及びテーマ】

身近におこった子どもの保健学的な問題を把握し、教育学的視点を含めて多面的に具体的に考察していく。

【講義概要】

昨年度の小児保健学演習で取り上げられたテーマおよび、各自が経験したあるいは報道された事例をもとに、自らの関心に基づいて、現在の問題点をとらえ、主体的に問題点に関しての答えを探索していくこととする。まず研究の意義・目的がどこにあるのか、どうして自身で重要と思ったかを整理する。そして、問題意識の設定、仮説の設定とおよびその検証方法、既存資料の収集と分析、文献研究、などの実際の研究に必要な知識と方法を習得し、最後にレポートにまとめていく。この講義は、教育学科の一連の演習・卒業研究の基礎となるものと把握すること。

【授業計画】

ガイダンスに続いて、いくつかのグループに分かれグループワークを行う。グループで課題の設定、資料収集・整理を行い発表する。後半は個別研究とする。各自の研究発表を行い全員で質疑応答の機会を設けて発表のスキルをあげる。

1. オリエンテーション。小児保健学演習論文集の紹介
2. 論文の書き方について
3. 研究課題設定
4. グループワーク（1）

5. グループワーク（2）
6. グループワーク（3）
7. グループワーク（4）
8. 個人研究課題の検討
9. 個別報告（1）
10. 個人報告（2）
11. 個人報告（3）
12. 個人報告（4）
13. 全体討論（1）
14. 全体討論（2）
15. 質疑応答およびレポート提出

【成績評価方法】

学期末に提出したレポートと平常点（出席、発表およびその準備）を総合的に評価する。レポート非提出、特別の理由なく4回以上の欠席は評価の対象とならない。

【教科書】

指定しない。

【参考書】

授業中に紹介する。

応用演習Ⅱ

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）

柳田 雅明

【授業の到達目標及びテーマ】

「応用演習Ⅰ」で習得した知識と技能をもとに教育学の研究を体験的に学習する。受講生は実際に、資料を収集する、現場を訪ねる、現場に働きかけるなどの調査研究を行う。この過程で、①自分自身の問題意識を設定する、②先行研究や既存資料をもとに仮説を立てる、③フィールド（現場、研究対象、研究領域）を決める、④フィールドとの関係構築を試みる、⑤実際に調査結果の考察を行う、⑥調査・研究の楽しさ、興奮を体感するなどを行う。本演習で習得した研究方法と研究対象についての理解は、3年次の専門演習、4年次の卒業研究へとつながるものとなる。

【講義概要】

本演習では、教育における評価がそもそも何の目的でどのように行われているのかについて、学問的に調査研究を体験することを通じて、広い視野のもと根本に立ち返って考察する力を獲得していく。

教育学を学ぶか学ばないかにかかわらず、教員になるかならないかにかかわらず、人は人の学びを評価している。その代表的なものは、入試を含む一斉筆記式試験である。たとえ試験を実施する側にならない場合でも、その評価判定に基づきもしくは少なくともそれを参考にして人は生きている。

ではそれで一体、一斉筆記式試験によって何がどこまでわかるのであろうか。入学試験に代表されるように、一斉筆記式試験は選別するための手段として従来使われてきた。そして優秀者を選びそれ以外の者の学習機会を閉め出す手段となるということが肌で感じられてきた。それゆえ、できれば避けたいものとも思われがちである。

その一方で、一斉筆記式試験ではわからないことを、それ以外の方法でどのようにして確認していくのであろうか。学び手を励まし育み伸ばしていくような評価のやり方もたしかにある。例えば、社会的に不利な立場にある学習者を、中でも特に障害がある学習者を的確に診断することで、より効果的な教育を可能となってもいる。

以上のようにして存在している評価を、本演習では学生が主体的に調査していく。調査結果は、授業時に発表して、参加者全員で考察していく。そうすることで、試験を含めた教育における評価を広い視野のもとに捉える力を、調査研究を体験することを通じて獲得していく。よって、教育成果を数量化する技術や手法を取得することには、主眼を置かない。

【授業計画】

基本的な下記の流れで授業を進めていきたい。ただし、状況に応じて多少の変更もあり得る。

1. 導入（1） オリエンテーション
2. 導入（2） 教育評価とは何か
3. 導入（3） 学力とは何か。そしてそれは測れるものなのか
4. 導入（4） 知能指数とは何か
5. 学生発表（1） 通知表
6. 学生発表（2） 歴史的な一斉試験について（科学等）
7. 学生発表（3） 大学入試（大学入試センター試験等）
8. 学生発表（4） 国際バカロレア
9. 学生発表（5） 国際学力調査 TIMSS・PISA
10. 学生発表（6） 学歴
11. 学生発表（7） 組織内での昇進
12. 学生発表（8） 職業資格
13. 学生発表（9） 形成的評価・ポートフォリオ評価
14. 学生発表（10） 障害児・者への教育評価
15. まとめ

【成績評価方法】

発表を含めた授業参画度およびそれを前提とする期末レポートによる。欠席者は指定方式で欠席届を提出する。

【参考書】

- 田中耕治（2008）『教育評価』岩波書店
 田中耕治編（2005）『よくわかる教育評価』ミネルヴァ書房
 佐藤達哉（1997）『知能指数』講談社
 天野郁夫（1983）『試験の社会史』東京大学出版会

応用演習Ⅱ

学期 (後期) 履修年次 (2~4) 単位 (2)
藤田 幹夫

【講義題目】

児童文学と子どもの世界

【授業の到達目標及びテーマ】

子どもの本に触れることによって、子どもの世界を (再) 発見すること

【講義概要】

私たちの多くが、子ども時代にはお話や本が好きだった。が、大人になるにつれ、物語や詩や小説などの世界から遠ざかってしまい、それらに心を閉ざしてしまった人もいる。この応用演習は、今年から始まる新しい試みなのだが、子どもの本の世界に再び親しむため、共通のテキストを読んだり、自分のお気に入りの本や物語を紹介したり、自分でお話やイラストを作ってみたり、参加者がそれぞれに工夫してつくりあげていくものにした。

【授業計画】

(履修者の人数と希望により変更することに注意)

1. オリエンテーション
- 2~5. 共通のテキスト (英文) 購読
- 6~13. 参加者による発表
14. 児童文学と子どもの世界
15. まとめ

【成績評価方法】

テキスト購読、発表 (紹介や製作)、レポートなどによる総合評価

人間形成学総論

学期 (後期) 履修年次 (1~4) 単位 (2)
酒井 豊

【講義題目】

形成formationの視点からの人間理解

【授業の到達目標及びテーマ】

近代教育の父と称されるJ. A. コメニウスは17世紀半ばに「人間は、人間になるべきであるとすれば、人間として形成formariされなければならぬこと」(『大教授学』)を教育の課題の一つとして認識していた。この授業では、この課題をめぐって、人間理解に関係する様々な分野での研究を参考にしながら、教育と人間について考える際の考え方が常に形成的発達であることが有効であることを考察する。人間は後天的な学習・学びを宿命づけられた生命体であるが、形成の視点は、人間が営む文化的社会的な事物・事象のすべてを、柔軟に、常に可能性を秘めたものとして対象化し再定義していくために必要な方法であり、教育学を学ぶ基礎とする所以である。

【講義概要】

教育学は人間についての学問として最も広い世界に開かれている。なぜならそれは①胎児・乳幼児から大人・高齢者までのすべての年齢層の人、②健常者・障害者・病人のすべての人、③自然・社会・文化などの環境の違い、時代・歴史の違いを超えたすべての人に起きている事象を対象とし、しかもその研究は与えられた今現在の現実に活かされなければ意味がないという実践的課題を備えているからである。

人間は後天的に学ぶことで他者への意思表示・伝達、他者との情意や情報の交換等を発達させ高度化させてしかし、その現実の生活環境が自然・社会・文化等のあらゆる面で包括的に変化しつつある今日、そのような事態を招いた人間が改めてその現実に対処して人間としての自負・尊厳を守ることができるかどうかが問われている。現実に存在する全ての事物は常に生成・形成の過程にあるが、人間存在の本質的理解を、個体・類体の両面において、胎生期から老年期までの全ライフステージ、遠い過去からポストモダンの現在までにわたって、生成・形成の視座から学問の対象にできるのは教育学だけであることを踏まえ、人間が自己理解のために重ねてきた様々な分野での探究の成果から時代の要請に応えるための鍵となる考え方、言葉を取りだし、概観する。

【授業計画】

- 第1回 近代教育とコメニウス 自らを定義すべきことの自覚 「形」は人間が開発し定式化し管理するもの
- 第2回 人間という種の生命戦略：生活の中の模倣から目的的・方法的な学び、そして現実への適用・実践へ
- 第3回 不思議・神秘・分からない・問い・疑問 分かった・答え・解決 評価
- 第4回 乳幼児期における与えられた発達環境の肯定的受容 記憶される「形象」と特定の言語構造を内蔵する「ことば」
- 第5回 学校式教育における事象の言語化 手段としてのことば
- 第6回 自然的なものの統合性、「形」の柔軟性
- 第7回 知識・学問の形 分類・分化、科学・教科 相対的に完結した全体
- 第8回 文化 社会 認識された形の保存・継承・伝達手段としての言語
- 第9回 表象される事象・意味 言語・身体・芸術等の表象手段の表象力
- 第10回 形の維持・保守としての教育・伝達
- 第11回 真理 可能性・希望としての無いこと・隠されていること・見えないこと
- 第12回 実存的生 生きるための学び
- 第13回 現生人類の発達・形成の可能性
- 第14回 人間形成環境としての高度化された生活環境 産業・情報システムが規制する形 管理
- 第15回 ルネサンス ことばの再生

【成績評価方法】

毎月の小レポートと期末の論述試験による。評価の観点としては、いずれ人間形成・学びに実践的に関わることになる指導

者には、今日新たな創造性や真に主体的で示範的な行動力が求められることから、講義を通して提示した課題にどこまで主体的に応えようとしたかを診る。出席は取るが、それが評価の材料として信頼できるか否かは出席者の受講態度によって決めた。

【教科書】

必要に応じてコピー資料を配布する。

日本教育史Ⅰ

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）

酒井 豊

【講義題目】

人間形成の環境史から見た日本Ⅰ

【授業の到達目標及びテーマ】

「人間は一人一人、与えられた生の環境との相関における後天的な発達・学習によって、相対的に完結した人間形成を実現する」という人間存在の基本原則、その生の環境が段階的に人為性を高めてきたことで現在のポストモダンとしての状況があるとの現在の歴史認識を前提に、日本の歴史過程を人間形成の環境史の観点から理解する。

【講義概要】

世界全体が文明史的な移行期・転換期にあることを踏まえ、今の時代を規定する解決困難な複雑な課題を解きほぐし、新たな時代を次世代・次次世代に可能な限り人間性を損ねない形で伝えるための知恵を、人間形成の歴史的な展開を構造的に捉えなおすことを通じて探究する。

あらゆる生命体の生はその生命体としての成体（成人・オトナ）に成長するために必要な発達・形成プログラムを共通に備えて始まり、全く独自の発達プログラムをもつヒトも、この点では決して例外ではない。そして現在われわれがその先端を日々歩みつつ推し進めている現生人類は、その、初期的に与えられた生育環境に即していかなる言語、いかなる行動様式でも習得できるような、想像を絶する適応能力によって、地球上の各地でこの10数万年なり3万年とされる時間、生命をつないで今日に至った。その過程で、人類が自らを対象化し人・man等の名を与えた時点は定かでないが、ヒトが人としてのオトナに成長するには一定の過程が必要なおことに気付き、子ども期について人間形成的な視線を向けるようになったのがようやく二千数百年前の古代ギリシャ、その成否の鍵を《ことば》が握ることに着目して近代教授学・教育学の基礎が築かれ始めたのは400年足らず前のボヘミアであった。

本講は、このような人類による自己理解、他の生物は決してしない自己の形成的把握が、なぜ歴史の進行とともにますます強く自覚化され、終には臨床的課題にまでなってしまったのか、ということへの問いを前提として、この日本という風土で発達した社会、文化等を環境としてどのような人間が形成されてきたのかを、特に日本語の言語構造上の特質に着目して描き、最終的には日本人として実存的に真実に生きるための基盤形成はどうすれば可能なのかを探究したい。

【授業計画】

始め数回にわたって、講義の骨格をなす「現代における教育の課題と現実世界を形成史的に捉えるための基本的な考え方」をプリントを配布して説明した後、日本における言語環境の発達を基盤に設定した時期区分に従い、各時代に日本人が置かれてきた学習・発達環境がどのようにその段階での過去（経験の重層的複合的蓄積）に規定されつつ、その時代固有の文化的社会的課題の認識と解決を促すものとなったのかを概説する。

第1回 教育史を構成するための基本的な考え方（1）形成・発達の観点

第2回 教育史を構成するための基本的な考え方（2）人類の自己理解史

第3回 人間形成史としての教育史 世界・環境の言語化

第4回 時期区分と全体の概要

第5回 現生人類の発達・形成の可能性

第6回 人類の誕生と進化

第7回 日本列島の成立、ひとの移住

第8回 発達環境としての先史時代

第9回 日本の先史時代

第10回 文字文化の始まり 約400年～900年（1）

第11回 大宝令の大学規定、古代仏教 約400年～900年（2）

第12回 文字文化の日本的完成 約400年～900年（3）

第13回 中世の宗教性、寺院の世俗化 900年～1400年（1）

第14回 日本中世のリテラシー 900年～1400年（2）

第15回 文字学習方法の定型化 900年～1400年（3）

【成績評価方法】

課題レポートによる。知的指導者に新たな創造性や真に主体的で示範的な行動力が求められる今日、講義を通して提示した課題にどこまで主体的に応えようとしたかを診る。

【教科書】

木下法也、池田 稔、酒井 豊編『教育の歴史』学文社

その他、必要な文献は適宜コピーを配布するとともに、参考文献を提示する。

日本教育史Ⅱ

学期（後期）履修年次（1～4）単位（2）

酒井 豊

【講義題目】

人間形成の環境史から見た日本Ⅱ

【授業の到達目標及びテーマ】

「人間は一人一人、与えられた生の環境との相関における後天的な発達・学習によって、相対的に完結した人間形成を実現する」という人間存在の基本原則、その生の環境が段階的に人為性を高めてきたことで現在のポストモダンとしての状況がある

るとの現在の歴史認識を前提に、日本の歴史過程を人間形成の環境史の観点から理解する。

【講義概要】

世界全体が文明史的な移行期・転換期にあることを踏まえ、今の時代を規定する解決困難な複雑な課題を解きほぐし、新たな時代を次世代・次次世代に可能な限り人間性を損ねない形で伝えるための知恵を、人間形成の歴史的な展開を構造的に捉えなおすことを通して探究する。

あらゆる生命体の生はその生命体としての成体（成人・オトナ）に成長するために必要な発達・形成プログラムを共通に備えて始まり、全く独自の発達プログラムをもつヒトも、この点では決して例外ではない。そして現在われわれがその先端を日々歩みつつ推し進めている現生人類は、その、初期的に与えられた生育環境に即していかなる言語、いかなる行動様式でも習得できるような、想像を絶する適応能力によって、地球上の各地でこの10数万年なり3万年とされる時間、生命をつないで今日に至った。その過程で、人類が自らを対象化し人・man等の名を与えた時点は定かでないが、ヒトが人としてのオトナに成長するには一定の過程が必要なおことに気づき、子ども期について人間形成的な視線を向けるようになったのがようやく二千年前の古代ギリシャ、その成否の鍵を《ことば》が握ることに着目して近代教授学・教育学の基礎が築かれ始めたのは400年足らず前のボヘミアであった。

本講は、このような人類による自己理解、他の生物は決してしない自己の形成的把握が、なぜ歴史の進行とともにますます強く自覚化され、終には臨床的課題にまでなってしまったのか、ということへの問いを前提として、この日本という風土で発達した社会、文化等を環境としてどのような人間が形成されてきたのかを、特に日本語の言語構造上の特質に着目して描き、最終的には日本人として実存的に真実に生きるための基盤形成はどうすれば可能なかを探究したい。

【授業計画】

始め数回にわたって、講義の骨格をなす“現代における教育の課題と現実世界を形成史的に捉えるための基本的な考え方”をプリントを配布して説明した後、日本における言語環境の発達を基盤に設定した時期区分に従い、各時代に日本人が置かれてきた学習・発達環境がどのようにその段階での過去（経験の重層的複合的蓄積）に規定されつつ、その時代固有の文化的社会的課題の認識と解決を促すものとなったのかを概説する。

第1回 教育史を構成するための基本的な考え方（1）形成・発達の観点

第2回 教育史を構成するための基本的な考え方（2）人類の自己理解史

第3回 人間形成史としての教育史 世界・環境の言語化

第4回 本講における時期区分

第5回 日本における初期的言語文化の構造的課題

第6回 近世における相対的社会体制の形成と日本語 1400年～1800年（1）

第7回 平民の台頭、学校の発達、言語的知の形骸化 1400年～1800年（2）

第8回 自律的近代化の可能性、儒学の言語・思想性 1400年～1800年（3）

第9回 近代的社会体制の構築と教育 1800年～1970年（1）

第10回 日本近代における知の借用性・目的合理性の強まり 1800年～1970年（2）

第11回 日本戦後の人間形成・発達環境 1800年～1970年（3）

第12回 世界文明のポストモダン時代の移行と日本における受容 1970年～（1）

第13回 高度化と新たな人間形成環境構築の要請、日本的展開 1970年～（2）

第14回 日本におけるシステム依存・マスの知・無の意図的利用等の蔓延と人間形成 1970年～（3）

第15回 全体の総括 人間の尊厳と誇らしさを回復する可能性

【成績評価方法】

論述試験による。知的指導者に新たな創造性や真に主体的で示範的な行動力が求められる今日、講義を通して提示した課題にどこまで主体的に応えようとしたかを診る。

【教科書】

木下法也、池田 稔、酒井 豊編『教育の歴史』 学文社

その他、必要な文献は適宜コピーを配布するとともに、参考文献を提示する。

宗教教育学

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）

大森 秀子

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ「宗教教育の二つのアプローチ」

教育学を専門的に学ぼうとする人や教職を志す人が、教育学の一領域としての宗教教育学を学ぶことを通して、教育そのものの概念を拡げ、宗教的人間形成や多文化社会における宗教学習の重要性を把握し、公立学校と私立学校における宗教の取り扱いについて正しく理解することを到達目標とする。

【講義概要】

宗教教育の概念を二つに分類し、その概念規定に従って講義する。特定の宗教宗派にとらわれない広義の宗教教育に関し、思想的観点からリベラルな宗教教育を展開した教育思想家、教育者を取り上げ、宗教的人間形成の営みについて考察する。また、世界の公教育の宗教教育の動向を概観し、日本の公教育における宗教の取り扱いと宗教教育の位置づけを検討しつつ、日本の宗教教育の可能性を探る。他方、狭義の特定の宗教宗派に基づく宗派教育に関し、キリスト教教育を取り上げ、キリスト教人間形成論について講義する。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション（講義の目的、内容、進め方、評価の方法、受講上の注意事項など）

第2回：宗教的人間形成を考えるために（1）－シュタイナー－

第3回：宗教的人間形成を考えるために（2）－エマソン－

第4回：宗教的人間形成を考えるために（3）－デューイー－

第5回：宗教的人間形成を考えるために（4）－新渡戸稲造と成瀬仁蔵－

第6回：世界の公教育と宗教（1）－アメリカ－

第7回：世界の公教育と宗教（2）－フランス－

第8回：世界の公教育と宗教（3）－英国・ドイツ－

- 第9回：日本の公教育と宗教（1）
- 第10回：日本の公教育と宗教（2）
- 第11回：日本の公教育と宗教（3）
- 第12回：一般の教育とキリスト教教育（1）
- 第13回：一般の教育とキリスト教教育（2）
- 第14回：講義内容に関する質疑応答
- 第15回：総括・レポート提出

【成績評価方法】

毎回の授業出席と小レポートの提出（25%）。学期末レポートによる評価（75%）。3分の1以上欠席した者は単位取得の意志がない者とみなす。

【教科書】

講義内容に関する資料を適宜配布する。

【参考書】

- 『学習指導要領』
- 『世界の宗教教科書』（大正大学出版会）
- 大森秀子『多元的宗教教育の成立過程』（東信堂）

教育社会学総論

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）
今井 重孝

【授業の到達目標及びテーマ】

常識を疑うというテーマで話をし、どんなことでも疑いうるということを知り、自分で考えることの大切さを学びます。

【講義概要】

常識を疑うというテーマで話をします。学校、カリキュラム、教育方法などについてあたりまえとされていることが、どのように疑えるのかについて話をします。当たり前と思われていることも疑いえるという複眼的視点を身につけることを目指します。

【授業計画】

1. 常識を疑う
2. 学校は本当に必要なのか？
3. 学校はなぜなくなるならない？
4. 子ども観の常識を疑う
5. カリキュラムの常識を疑う
6. 教育方法の常識を疑う
7. 教師論の常識を疑う
8. 教育目的の常識を疑う
9. 教育評価の常識を疑う
10. 学力低下論の常識を疑う
11. 教育史の常識を疑う
12. 教育組織の常識を疑う
13. 治療教育の常識を疑う
14. まとめ
15. 定期試験

【成績評価方法】

試験ないしレポート、出席、リアクションペーパーによって総合的に評価します。

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【その他】

三分の二以上出席していないと単位取得が困難です。

比較発達社会学

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）
今井 重孝

【授業の到達目標及びテーマ】

個人の発達について社会的な視点も交えながら理解する。

【講義概要】

社会が混迷を迎え、社会の未来が見通しにくくなっています。今こそ「希望の哲学」が必要とされているといえるでしょう。本講義では、有力な「社会の未来」像を指し示しているルドルフ・シュタイナーの発達論を基軸に据えながら、個人の発達についての主要な理論を取り上げ、個人の発達について社会的な視点も交えて考察します。

具体的には、シュタイナー、ピアジェ、エリクソン、ウィルバー、日本の伝統的子育て、「銀河鉄道の夜」などを手がかりにして考察します。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. シュタイナー教育について
3. シュタイナーの発達段階論（1）
4. 日本の民俗学の知見

5. 7のエチュード
6. シュタイナーの発達段階論（2）
7. ピアジェの発達段階論
8. エリクソンの発達段階論
9. コールバーグの発達段階論
10. ウィルバーの発達段階論（1）
11. ウィルバーの発達段階論（2）
12. シュタイナーの発達段階論（3）
13. 宮澤賢治の「銀河鉄道の夜」を発達段階として読む
14. まとめ
15. 試験あるいはレポート

【成績評価方法】

試験ないしレポート、出席、リアクションペーパーによって総合的に評価します。

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【その他】

三分の二以上出席していないと単位取得が困難です。

生涯発達心理学Ⅰ

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）

高橋 千香子

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ「私たちはどのように発達してきたのか・していくのかを考える」

生涯発達心理学は、加齢による人の生涯の変化過程を対象にしています。幼い頃は「加齢」を意識することはあまりないかもしれませんが、その時間との関数の中で「生きる」ということは、絶えず一人間として変化、発達している過程ということになります。私たちはどのように変化、発達してきたのか・していくのかを学び、人を理解しようとするのを授業の到達目標とします。

【講義概要】

人の発達の道筋を自らの成長・発達を通して学び、さらにこれからの自分の発達、未来を予測することで、人への理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（講義の目的、内容、進め方）
- 第2回 心理学とは
- 第3回 発達心理学とは
- 第4回 発達とは：生涯発達という視点
- 第5回 乳幼児期（1）
- 第6回 乳幼児期（2）
- 第7回 児童期（1）
- 第8回 児童期（2）
- 第9回 思春期
- 第10回 青年期
- 第11回 成人期
- 第12回 それぞれの発達を振り返る
- 第13回 成人後期、中高年期、老年期を予測する
- 第14回 現代の発達の課題、問題点を考える
- 第15回 試験（もしくは、レポート）

【成績評価方法】

毎回授業に出席すること。毎時間その日の授業について、意見や感想を書いて提出してもらいます。試験もしくはレポートによる評価と、授業の平常点等を考慮して総合評価します。

【教科書】

必要に応じて随時、資料等を配布します。

【準備】

遅刻厳禁。

【その他】

後期の生涯発達心理学Ⅱを合わせて履修することが望ましい。

生涯発達心理学Ⅱ

学期（後期）履修年次（1～4）単位（2）

高橋 千香子

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ「発達をさまざまな側面からとらえ、それぞれの課題、問題点を考える」

発達には運動、知能、情動などさまざまな側面があり、そのときどきの様相が総合されて、その人の在り方を決定づけていると考えられます。いくつかの重要な側面の発達の道筋、年齢的課題、問題点等を理解することを授業の到達目標とします。

【講義概要】

「人の発達を支えるものは何か？」を常に考えながら、発達をさまざまな側面から多角的にとらえることを学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（講義の目的、内容、進め方）
- 第2回 発達さまざまな側面：人としての機能から
- 第3回 アタッチメント（1）
- 第4回 アタッチメント（2）
- 第5回 知能（1）
- 第6回 知能（2）
- 第7回 情動（1）
- 第8回 情動（2）
- 第9回 社会性（1）
- 第10回 社会性（2）
- 第11回 エイジング（1）
- 第12回 エイジング（2）
- 第13回 自己意識
- 第14回 現代の発達の課題、問題点を考える
- 第15回 試験（もしくは、レポート）

【成績評価方法】

毎回授業に出席すること。毎時間その日の授業について、意見や感想を書いて提出してもらいます。試験もしくはレポートによる評価と、授業の平常点等を考慮して総合評価します。

【教科書】

必要に応じて随時、資料等を配布します。

【準備】

遅刻厳禁。

【その他】

前期の生涯発達心理学Ⅰを合わせて履修することが望ましい。

昨年度は11～12月にそれぞれ興味のあるテーマを設定してグループワークをし、パワーポイントによる発表資料作成、プレゼンテーションをしました。「家庭教育の国際比較」「性格形成の要因分析」「高齢者介護の実情」「アイデンティティの形成」「虐待」などのテーマについて発表があり、共に楽しく学びました。

キャリア教育A

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）

小川 誠子

【講義題目】

生涯にわたるキャリア形成支援

【授業の到達目標及びテーマ】

この授業のテーマは、キャリア教育を生涯にわたるキャリア形成支援という観点から考察することである。長期的視点に立つて働くことの意味やキャリア形成支援の意味について考えていくことができるような授業展開に努める。

【講義概要】

前半は、キャリア概念の歴史的展開を踏まえ、キャリア教育の理論的根拠を示す代表的な学説・理論を詳述する。

後半は、初等・中等教育段階、高等教育段階、企業におけるキャリア教育並びにキャリア形成支援の実態を把握する作業のなかで課題を浮き彫りにし、今後の対策について検討していく。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 キャリアの概念（1）
- 第3回 キャリアの概念（2）
- 第4回 キャリア教育の概念と意義
- 第5回 キャリア教育の基礎理論（1）職業選択理論
- 第6回 キャリア教育の基礎理論（2）職業適応理論
- 第7回 キャリア教育の基礎理論（3）キャリア発達理論
- 第8回 キャリア教育の基礎理論（4）キャリア発達理論
- 第9回 初等・中等教育段階におけるキャリア教育
- 第10回 高等教育段階におけるキャリア形成支援
- 第11回 企業におけるキャリア形成支援（1）
- 第12回 企業におけるキャリア形成支援（2）
- 第13回 企業におけるキャリア形成支援（3）

【成績評価方法】

下記の通り、レポート、出席状況、受講態度によって総合的に評価する。

- （1）レポート 50%
- （2）出席状況 30%（全授業回数の75%以上出席すること）
- （3）受講態度 20%（リアクションペーパーへの記入状況を含む）

【教科書】

テキストは使用しない。必要ときはプリントを配布する。

【参考書】

日本キャリア教育学会編『キャリア教育概説』東洋館出版社、2008
 吉田辰雄他編『進路指導・キャリア教育の理論と実践』日本文化科学社、2007
 その他、必要に応じて授業時に紹介する。

【その他】

上記の授業計画は、リアクションペーパーの活用によって、一部変更することがある。

家庭教育A

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）
北本 正章

【講義題目】

親子関係史と家庭の教育力

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ：家庭の教育力とは何か？

この授業の到達目標は、子どもの発達と教育の文化的基盤を人類家族史という視野の中で捉え直し、従来の子どもの認識や発達観を社会史的なリアリズムの中で相対化するとともに、現代社会の子どもの観、教育観の問題の積層のなかに家庭の教育力の条件を探ることである。

【講義概要】

この講義では、「家族とは何か？」「家族は人間の成長と発達、人間的成熟にとってそれを促す精神的土壌なのか、それとも障壁なのか？」「家庭の教育力とは何か？」という一連の問いを発題とし、国内外の家族史研究、比較教育思想史研究、子育てと子ども観の社会史研究、親子関係史研究、しつけの歴史人類学研究、などの研究成果を紹介し、親子関係と家庭の教育力の社会史的基盤の構築を目指す。

【授業計画】

- (1) 発題——今、なぜ家庭教育を問うのか？
- (2) 乳幼児期の発達と家庭教育
- (3) 子ども期の発達と家庭教育
- (4) 思春期の発達と家庭教育
- (5) 青年期の発達と家庭教育
- (6) 親子関係と家庭生活
- (7) 「良い家庭のチェックリスト」に見るしつけの変貌
- (8) 人口動態と家族関係の変貌（近代以前）
- (9) 人口動態と家族関係の変貌（近代以降）
- (10) 家庭の教育力とは何か？
- (11) 進化心理学における親子関係（1）
- (12) 進化心理学における親子関係（2）
- (13) 進化心理学における親子関係（3）
- (14) 親子関係のサイコヒストリー研究から
- (15) 社会構成主義的親子関係論
- (16) おわりに

【成績評価方法】

- (1) 出席回数（20%）、(2) 「ミニレポート」（20%）、(3) 「ミニ・クイズテスト」（20%）、(4) 「課題レポート」（40%）

【教科書】

特に指定しませんが、講義の課程で適宜、参考文献リストを配布し、解説します。

【参考書】

マクファーレン（田口俊樹訳）『リリーへの手紙』（ソフトバンククリエイティブ、2005）

外山滋比古『思考の生理学』（ちくま文庫、1986）

佐藤望（編）『アカデミック・スキルズ——大学生のための知的技法入門』（慶応大学出版会）

家庭教育B

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）
北本 正章

【講義題目】

学校と家庭の関係史

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ：近現代日本の学校と家庭の教育力

この授業の到達目標は、近現代の日本における学校の社会的機能と家庭の教育力の変貌を、子どもの認識と発達観の社会史的なリアリズムの中でとらえる共に、現代社会の子どもの観、教育観の問題の積層のなかに家庭の教育力の条件を探ることである。

【講義概要】

この講義では、とくに近現代の日本の学校史の展開の中で、家庭の教育力がどのように関わってきたのかを、国内外の家族史研究、比較教育思想史研究、子育てと子ども観の社会史研究、親子関係史研究、しつけの歴史人類学研究、などの文脈から、構造的に理解することをめざす。

【授業計画】

- (1) 発題
- (2) 家族史研究に見る子育ての習俗と親子関係（乳幼児期）
- (3) 家族史研究に見る子育ての習俗と親子関係（子ども期）
- (4) 家族史研究に見る子育ての習俗と親子関係（思春期）
- (5) 家族史研究に見る子育ての習俗と親子関係（青年期）
- (6) 家族史研究に見る子育ての習俗と親子関係（ヤングアダルト期）
- (7) 家族史の中の若者文化（シャリヴァリを中心に）
- (8) 「旅の教育力」あるいは「親離れの社会史」

- (9) 近代日本の家族と学校（江戸後期）
- (10) 近代日本の家族と学校（明治期）
- (11) 近代日本の家族と学校（昭和戦前期）
- (12) 戦後日本の家族と学校（敗戦復興期）
- (13) 戦後日本の家族と学校（経済成長期から現代まで）
- (14) 「子どもの発見」と教育認識の諸問題（1）啓蒙主義の子ども観
- (15) 「子どもの発見」と教育認識の諸問題（2）大衆教育の子ども観
- (16) 「子どもの発見」と教育認識の諸問題（3）子ども期の解体とメディア社会
- (17) 人間形成の4つの基軸について
- (18) おわりに——家庭教育学の課題と展望

【成績評価方法】

(1) 出席回数 (20%)、(2) 「ミニレポート」 (20%)、(3) 「ミニ・クイズテスト」 (20%)、(4) 「課題レポート」 (40%)

【教科書】

特に指定しませんが、講義の課程で適宜、参考文献リストを配布し、解説します。

【参考書】

マクファーレン（田口俊樹訳）『リリーへの手紙』（ソフトバンククリエイティブ、2005）

外山滋比古『思考の生理学』（ちくま文庫、1986）

佐藤望（編）『アカデミック・スキルズ——大学生のための知的技法入門』（慶応大学出版会）

臨床教育学総論

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）
庄司 順一

【講義題目】

臨床教育学の理解

【授業の到達目標及びテーマ】

臨床教育学の目的、方法、基礎となる考え方を学ぶことと、いわゆる教育病理といわれる諸現象の実態とそこに含まれる課題（「障害のある子ども」を含む）について理解を深める。

【講義概要】

臨床教育学は教育学の中では新しい領域である。臨床教育学が要請される背景には教育病理現象といわれる不登校、いじめ、暴力行為などが多く発生しているとともに、その対応に苦慮しているという現実がある。また、教育の場において、虐待を受けた児童生徒への対応も求められている。受講者の中にも身近にこれらの問題とかかわった経験をもつ人もいるだろう。ただ、個人的な体験に終わらず、今日の教育にかかわる問題としてとらえるためには、法制度や統計、関係機関などについての理解が必要である。VTR教材や統計資料なども用い、小グループでのディスカッションも行う。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション、臨床教育学が要請される背景
- 2 臨床教育学の基礎
- 3 子ども虐待（1）概念、実態
- 4 子ども虐待（2）対応における学校の役割
- 5 不登校（1）概念、実態、タイプ
- 6 不登校（2）対応の場
- 7 いじめ（1）概念、実態、いじめのとりえ方
- 8 いじめ（2）対応の基本、外国の状況
- 9 暴力行為と非行（1）概念、実態
- 10 暴力行為と非行（2）対応の場
- 11 障害のある子どもの理解
- 12 その他の教育病理現象（高校中退など）
- 13 臨床教育学再考
- 14 まとめ
- 15 試験

【成績評価方法】

授業中に行う小レポート（20%）と学期末試験（80%）による。

【教科書】

教科書は使用しない。

【参考書】

河合隼雄「臨床教育学入門」岩波書店

庄司順一「改訂新版子ども虐待の理解と対応」フレーベル館

【準備】

遅刻をしないこと、私語を慎むこと。

社会福祉概論

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）
宮本 和武

【講義題目】

「社会福祉とは何か—社会福祉基礎構造改革時代の人間の福祉」

【授業の到達目標及びテーマ】

広く社会福祉を学ぶ学生が、社会福祉とは何かを、新聞記事や実践事例を通じて身近に感じてもらうことができるように図

りながら、関心を深めることができるようにする。授業に参加をし、その中から福祉の課題を見出し、レポートでまとめることを通じて、今日の社会福祉の全体像を理解することを授業の到達目標とする。

【講義概要】

社会福祉制度改革が進められている現代社会で、その動向に着眼しながら、社会福祉とは何かということについて、その基本理念・概念、歴史、制度、実践について学んでいく。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（講義の目的、内容、進め方）、社会福祉の理念
- 第2回：社会福祉の歴史
- 第3回：社会福祉の概念①（福祉、社会保障、社会福祉事業等の概念）
- 第4回：社会福祉の概念②（社会福祉援助技術）
- 第5回：社会福祉の対象と主体
- 第6回：社会福祉の主体（政策・経営・実践）
- 第7回：社会福祉専門職
- 第8回：社会福祉の行財政①（法制度、運営組織）
- 第9回：社会福祉の行財政②（措置制度と利用制度、費用負担、費用徴収）
- 第10回：社会保障①（社会保障の体系と仕組み）
- 第11回：社会保障②（社会保険Ⅰ）
- 第12回：社会保障③（社会保険Ⅱ、社会扶助）
- 第13回：社会保障④（社会保障と経済）
- 第14回：今後の社会福祉の課題
- 第15回：試験

【成績評価方法】

毎回授業に出席すること。定期試験による評価（50%）、レポート（授業時に課題提示）による評価（30%）、授業の平常点（20%）などを考慮して総合評価する。

【教科書】

『社会福祉概論』宮本和武・横倉聡編著（建帛社）
講義内容に関する資料は追加配布する。

【参考書】

『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房編集部（ミネルヴァ書房）

臨床心理学概論Ⅰ

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）

丸山 千秋

【講義題目】

心の不応と、それへの対応

【授業の到達目標及びテーマ】

心の不応への対応について、臨床心理学の理論、臨床心理査定、臨床心理面接などを理論として学び、理解する。

【講義概要】

心に問題を抱える人たちに対して、臨床心理学が、これまでどのような役割を担ってきたのかを概説する。

具体的には、その歴史、さまざまな立場の理論、心理査定、心理療法などについて述べるつもりである。また、実際の臨床に関する話題や、現代の心の問題に関するビデオも、折に触れて観てもらおうつもりである。

【授業計画】

- 1 授業のガイダンス、臨床心理学とは
- 2～3 前提となる知識の復習
- 4～7 臨床心理学の理論
- 8～10 心理査定1～3
- 11～14 心理面接1～4
- 15 試験

【成績評価方法】

学期末に、論述式の試験を行う。試験は100点満点で、6割以上の得点を取った者を合格とする。数回、出席をとる。試験での点数が6割に満たない者に対してのみ、1回5点の出席点を与える。その場合、試験の得点と出席点の合計が6割に達すれば、合格とする。

【教科書】

下山晴彦編著 2009 「よくわかる臨床心理学」(改訂新版) ミネルヴァ書房

【参考書】

下山晴彦編著 2000 「臨床心理学研究の技法」 福村出版

その他、参考書は、授業の時に、その都度紹介する。

【その他】

この授業を履修したあと、引き続き、「臨床心理学概論Ⅱ」を履修することが望ましい。

授業は、教員と受講者として作り上げていくものである。授業中の私語や飲食、および、教室を勝手に出たり入ったりする行為は厳禁であり、また、特別な事情がない限り、教室では帽子を脱いでもらう。

これらのことが守れない場合には、学生証を持って前に出て来てもらうことがある。

【講義題目】

心の不適応と、それへの対応

【授業の到達目標及びテーマ】

ライフサイクルと心の問題について、それぞれの発達段階で陥りやすい問題を探り上げ、その対処法を学び、理解する。

【講義概要】

人間が生まれてから死ぬまで、それぞれの発達段階で特徴的に現われやすい心の問題とそれへの対処法を概説する。

また、実際の臨床に関する話題や、現代の心の問題に関するビデオも、折に触れて観てもらおうつもりである。

【授業計画】

- | | | | |
|-------|--------------|-------|---------|
| 1 | 授業のガイダンス | | |
| 2 | ライフサイクルと心の問題 | 1 | 胎児、乳児期 |
| 3～5 | ライフサイクルと心の問題 | 2～4 | 発達障害 |
| 6～8 | ライフサイクルと心の問題 | 5～7 | 幼児期 |
| 9～10 | ライフサイクルと心の問題 | 8～9 | 児童期 |
| 11～13 | ライフサイクルと心の問題 | 10～12 | 青年期 |
| 14 | ライフサイクルと心の問題 | 13 | 成人期、老年期 |
| 15 | 試験 | | |

【成績評価方法】

学期末に、論述式の試験を行う。試験は100点満点で、6割以上の得点を取った者を合格とする。数回、出席をとる。試験での点数が6割に満たない者に対してのみ、1回5点の出席点を与える。その場合、試験の得点と出席点の合計が6割に達すれば、合格とする。

【教科書】

下山晴彦編著 2009 「よくわかる臨床心理学」(改訂新版) ミネルヴァ書房

【参考書】

下山晴彦編著 2000 「臨床心理学研究の技法」 福村出版

その他、参考書は、授業の時に、その都度紹介する。

【その他】

この授業を履修する前に、「臨床心理学概論Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。

授業は、教員と受講者として作り上げていくものである。授業中の私語や飲食、および、教室を勝手に出たり入ったりする行為は厳禁であり、また、特別な事情がない限り、教室では帽子を脱いでもらう。

これらのことが守れない場合には、学生証を持って前に出て来てもらうことがある。

障害児・者の心理Ⅰ

【講義題目】

障害児・者の理解と援助

【授業の到達目標及びテーマ】

障害児・者の理解と援助について、障害による相違ならびに障害児・者を取りまく今日的な状況を理解する。

【講義概要】

授業では、障害児・者の理解と援助について視聴覚教材や文献資料を基に論じ、障害児・者を取りまく今日的な内外の社会状況についても取り上げます。

講義を聴くという授業形態ではありません。受講者は、毎回の授業で資料として配付された事例や手記等について、自らの考えをまとめて発表し討議することが求められます。障害児・者一人ひとりの状況をどのように理解するか、ならびに理解しながらどう援助するかについて、受講者が自ら考えることが必要となります。

【授業計画】

1. オリエンテーション（授業概要、受講者の学習等）、「障害」の疑似体験
2. 「障害」概念
3. 「障害者」
4. 知的障害①
5. 知的障害②
6. 知的障害③
7. 肢体不自由①
8. 肢体不自由②
9. 肢体不自由③
10. 視覚障害①
11. 視覚障害②
12. 障害のある子供の養育
13. 特別支援教育
14. 発達障害
15. 定期試験

【成績評価方法】

授業での課題への取り組みと期末のレポート（50パーセント）ならびに、定期試験（50パーセント）の合計により評価します。

【教科書】

『特別支援教育概説』（学芸図書）

【参考書】

『発達障害白書2010』（日本文化科学社）

【その他】

受講しようとする場合は、以下の要件について必ず確認してから履修登録すること。履修登録をした者は、これらの点を了承しているものとみなし、これらの点を満たせない時は、学期途中でであってもそれ以降の受講を認めないことがあります。

- ・初回の授業に必ず出席し、授業計画、受講の仕方、成績評価について理解すること。
- ・欠席しないこと。
- ・遅刻しないこと。
- ・授業中の課題に必ず取り組むこと。
- ・私語、睡眠、携帯電話でのメール送受信など、授業と無関係のことをしないこと。

障害児・者の施設実習

学期（不定集中）履修年次（2～4）単位（2）

丸山 千秋

【講義題目】

障害児・者とともに生きる

【授業の到達目標及びテーマ】

障害児・者が自分を受け容れてくれるようになること、そのためには、自分も変わらなければならない。また、実習機関の職員の仕事の概略が理解できること。

【講義概要】

この科目は、実際に現場で教員や指導員、その他の職員から指導を受けながら、障害児・者と自分がどう関わっていきけるのかを学び、また、実習機関で行われている仕事の内容の一端を学ぶためのものである。諸資格（教職の「介護等体験」等）とは何ら関係がない。

この実習に参加できるのは、心理学科、教育学科の学生のうち、前年度中に予備登録を済ませ、レポートを数回提出して合格した者のみである。また、これまでに、障害児・者関係のいずれかの講義を受講した、もしくは、前期中に受講できる者が望ましい。

実習は、毎週決められた曜日に1年間通う形式と、9泊10日もしくは10泊11日の宿泊で集中して実習を行う形式の2つから各自選択する。実習先は必ずしも希望通りにはならないことがある。実習説明会において、実習機関の詳細について説明し、実習先の希望をとる。

【授業計画】

実習説明会を行う。相模原キャンパスは、3月31日（水）午後3時00分からF201教室、青山キャンパスは、4月3日（土）午後7時00分に、1120教室に集合すること。この日に欠席した者は、実習に参加することはできない。

実習期間および対象とする障害

- ①学校法人愛育学園「愛育養護学校」（港区南麻布）、
4月下旬から来年3月下旬まで毎週1度の通い、自閉症の児童
- ②社会福祉法人「光道園」（福井県鯖江市）、
夏休み中の9泊10日、視覚障害および視覚障害との重複障害の成人
- ③社会福祉法人縦の木福祉会「山の子学園共同村」（長野県小県郡）、
夏休み中の9泊10日、知的障害の成人
- ④社会福祉法人「野菊寮」（静岡県御殿場市）、
青山祭期間をはさんだ9泊10日もしくは10泊11日、知的障害その他の成人

【成績評価方法】

実習機関からの評価と、実習記録による。

【教科書】

指定しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【その他】

実習にかかる諸費用（実習謝金、交通費、宿泊費、食費、その他）は、自己負担とする。

常識と礼儀作法をわきまえ、コミュニケーション能力に優れ、心身ともに健康に自信のある者に限る。

生涯学習概論 I

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）

柳田 雅明

【授業の到達目標及びテーマ】

学校教育にとどまらない幅広い学習活動についてその概観を把握して、自分自身の日常と問題意識とかがかわらせながら、「生涯学習」の観点から考察できる力を身に付けること。

【講義概要】

生涯学習に関する基本的事項について、概説する。社会教育職員資格の必修単位でもあるので、行政上実際に使用されている概念を正確に身につけることには特に力点を置く。その際、社会的話題となっている事項については、適宜積極的に取り上げる。

【授業計画】

基本的に以下の順序で、主として日本を対象に授業を進める。

- (1) はじめに
- (2) 「生涯学習」「学校教育」「社会教育」の概念
- (3) 国連における「生涯教育」と日本の「生涯学習」

- (4) 「社会教育法」「生涯学習振興法」
- (5) 生涯学習の行政組織と社会教育職員
- (6) 公民館
- (7) 青少年教育と青少年教育施設
- (8) 学校成人教育1<自立支援および中等教育水準>
- (9) 学校成人教育2<大学・高等教育水準>
- (10) 学校教育と社会教育との連携（学校施設開放、地域との連携）
- (11) 大学開放
- (12) 民間教育文化事業（カルチャーセンター等）
- (13) ボランティア・NPOと生涯学習
- (14) 公的職業能力開発と企業内教育訓練
- (15) まとめ 日本の生涯学習の特徴

【成績評価方法】

授業参画度および期末レポートによる。欠席者には、指定書式で欠席届提出を求める。レポート作成にあたっては、積極的で丁寧な作業を求める。

【教科書】

指定しない。

【参考書】

授業時その都度示す。

【その他】

私語は、他の受講生に大変迷惑です。注意を受けた場合には、学年・学科そして自分の名前を名乗った上でその場で謝ってもらいます。それでも改まらない人には、単位を出しません。

生涯学習概論Ⅱ

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）

柳田 雅明

【授業の到達目標及びテーマ】

学校教育にとどまらない幅広い学習活動についてその概観を把握して、自分自身の日常と問題意識とかわらせながら、「生涯学習」の観点から考察できる力を身に付けること。

【講義概要】

国際比較検討を通じて、生涯学習に関する視野を拓けていく。行政上実際に使用されている概念を正確に身につけることには特に力点を置く。その際、社会的話題となっている事項については、適宜積極的に取り上げる。

【授業計画】

生涯学習にかかわる世界各国の状況について概観する。特に各国の社会経済情勢との関連、およびその国における生涯学習にあたるものの位置づけを説明していく。以下の順番で取り上げる予定である。ただし社会情勢の変化等により、採り上げる国の若干の変更もあり得る。

- (1) はじめに
- (2) ヨーロッパでの前史（民衆識字を軸に）
- (3) イギリス1（歴史的成立過程を軸に）
- (4) イギリス2（成人教育のモデルとしての検討を軸に）
- (5) スウェーデン（社会人入学・学習サークル等を軸に）
- (6) ドイツ（マイスター制・市民大学を軸に）
- (7) フランス（生涯教育理念の祖国が抱える苦悩を軸に）
- (8) ブルキナ・ファソ（開発途上国そして旧植民地の事例）
- (9) アメリカ合衆国1（ボランティア教育とNPOを軸に）
- (10) アメリカ合衆国2（年齢を超えた学習社会の光と影を軸に）
- (11) メキシコ（中進国の事例、成人基礎教育を軸に）
- (12) 中華人民共和国（巨大国家における展開、学校外青少年教育に力点を置いて）
- (13) 韓国（日本の合わせ鏡として見てみることを軸に）
- (14) まとめ1・世界の中の日本（日本型生涯学習とは何かを軸に）
- (15) まとめ2・世界の中の日本（日本型生涯学習のもとの学習者を軸に）

【成績評価方法】

授業参画度および期末レポートによる。欠席者には、指定書式で欠席届提出を求める。レポート作成にあたっては、積極的で丁寧な作業を求める。

【教科書】

指定しない。

【参考書】

授業時その都度示す。

【その他】

私語は、他の受講生に大変迷惑です。注意を受けた場合には、学年・学科そして自分の名前を名乗った上でその場で謝ってもらいます。それでも改まらない人には、単位を出しません。

【講義題目】

大学について学び、社会における大学の役割・大学生としての自分の役割を考える

【授業の到達目標及びテーマ】

本講義では、高等教育の中でもとくに大学を取り上げ、受講者とともに多面的に考察することをテーマとする。また、本講義では、①受講者が、大学の歴史や大学の構造・特質を学び、自分の言葉で説明できること、②国際的な比較を含め、大学の現状と動向をふまえ、課題を考察し、それを自分の言葉で表現できること、③自分自身が大学で学んでいる意味や、大学とは何かについて、講義内容を基に自分の考えを述べることができると、を到達目標とする。

【講義概要】

本講義では、社会制度としての大学がどのように生まれ、変化し、発展してきたのかを歴史的に追いつつ、現状と課題について、受講者とともに学び、考えることを目的としている。全体の内容は、国際的な比較を含みつつ、大学の過去・現在・未来（大学の起源と発展（全2回）、日本の大学の成り立ちと特質（全4回）、大学の役割と課題（全4回））について考察するという流れになっている。講義の中では、受講者にとって身近だと考えられる話題も積極的に取り入れていきたいと考えている。日本では、戦後と現代を比較すると、大学数は約4倍、進学率は約5倍へと増加している。このことから、社会ももちろん変化しているが、それとともに大学の在り方、意義や役割も変化していることが容易に想像できよう。このような背景をふまえ、高校から大学への進学・移行、大学におけるキャリア形成・職業への移行、教員養成機関としての大学の課題等について、考察していきたい。そして、最終回には、講義全体をふまえたうえで、受講者自身の大学生としての役割、大学の役割を改めて問い直す機会ももちたいと考えている。「大学には進学したけれど、大学とはそもそもどんなところなんだろう？」「自分はなぜここで学んでいるんだろう？」「高校までの教育と大学、大学と社会はどんなふうにつながっているんだろう？」と大学に関していろいろな疑問を持っている学生には興味深い内容になるだろう。なお、受講者の人数によっては、受講者同士のディスカッションを行うことを考えている。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（講義の目的・内容・進め方等の説明）
- 第2回 大学改革の動向（現代の大学を取り巻く課題）
- 第3回 大学政策の動向（大学政策の展開）
- 第4回 大学の起源と発展（1）（大学はいつどこで始まったのか）
- 第5回 大学の起源と発展（2）（世界の大学（米英独仏を中心に））
- 第6回 日本の大学の成り立ちと特質（1）（日本の大学の成り立ち（歴史））
- 第7回 日本の大学の成り立ちと特質（2）（設置形態・教育費負担）
- 第8回 日本の大学の成り立ちと特質（3）（入試制度・教育課程とカリキュラム）
- 第9回 日本の大学の成り立ちと特質（4）（教育機会の拡大、学生文化の変容）
- 第10回 大学の役割と課題（1）（高校から大学への移行、学生調査に見る学生支援の課題）
- 第11回 大学の役割と課題（2）（大学におけるキャリア形成・職業世界への移行）
- 第12回 大学の役割と課題（3）（教員養成の課題）
- 第13回 大学の役割と課題（4）（大学の質保証）
- 第14回 全体のまとめとふりかえり（大学の役割、大学で学ぶ意味、大学生としての自分の役割を考える）、内容に関する質疑応答
- 第15回 試験

【成績評価方法】

毎回の受講態度、授業中に出す課題への取り組み（評価の50%）、学期末試験（評価の50%）。なお、課題には授業で理解したことや質問、意見、感想を書いたコメントシートの提出、受講者同士のディスカッションへの参加を含む。

【教科書】

とくになし。毎回資料を配布する。

【準備】

本講義を受講するにあたって、どのようなことを学びたいか（受講生とともにディスカッションしたいか）、普段自分はどのような疑問を持っているかということを考えてくること。

教育情報学総論

【講義題目】

教育場面における「情報」

【授業の到達目標及びテーマ】

教育場面では人が人や図書、その他さまざまな情報源から情報を取得するだけでなく、得た情報をもとに新たな情報を生成、発信する営みが行われる。その情報がどのようなプロセスで広まり、用いられていくのかを考え、情報リテラシーや情報発信に対する責任について知見を深めることを目標とする。

【講義概要】

人が学ぶ環境での情報交換のプロセスとそれを支える仕組みについて概観し、応用の可能性を考察する。

【授業計画】

- 第1回 教育場面での情報利用
- 第2回 個人が物事を理解するまで
- 第3回 理解を支援する道具、できない道具
- 第4回 道具の使用を理解する
- 第5回 学習を支援する環境
- 第6回 学習のパートナーとしてのコンピュータ

- 第7回 学習の情報源としての他者
- 第8回 集団で情報を共有するプロセス
- 第9回 卓越した個人か平凡な集団か
- 第10回 学習環境としての図書館
- 第11回 図書とレポートの情報化
- 第12回 ハイブリッドな情報の探索
- 第13回 情報化社会における情報倫理
- 第14回 教科「情報」にみる、求められる情報リテラシー像
- 第15回 総合討論

【成績評価方法】

不定期の小レポート課題と学期末の試験で評価を行う。

【教科書】

特になし。

【参考書】

毎回の講義で参考図書を提示する。

【準備】

2年次以降の学生は情報スキルⅠの単位を取得してから履修することが望ましい。

メディア・コミュニケーション総論

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）

山下 清美

【講義題目】

メディア特にインターネットにおけるコミュニケーション

【授業の到達目標及びテーマ】

- (1) メディアリテラシーとは何かを学び、最低限のルールを実践的に身に付ける。
- (2) ネット上のコミュニケーションを考察するために必要な基本概念や歴史の概略を知る。
- (3) ネット上のコミュニケーションの浸透や変化が、人々の心理や人間関係、社会生活にどのような変化をもたらしているかについて、さまざまな切り口から考察できるようになるための知識を得る。
- (4) ネットワーク社会が人間にとって豊かな世界となるために、現在どのような問題が存在し、またそれをどのように解決していくべきかを自ら検討し、問題提起と解決策の提案ができるようになる。

【講義概要】

メディアリテラシーについて知り、メディアを介して情報を受信したり発信したりする際の最低限のリテラシーを身に付ける。

ネットワークを介した、あるいは、ネットワークという場における、人々のコミュニケーションの特性や社会のあり方について、心理学（社会心理学・認知心理学）の立場から検討する。情報社会におけるコミュニケーションのあり方について考察し、提言を行うための問題意識と考察力を養う。

【授業計画】

（内容や順序は変更になる可能性がある。）

1. ガイダンス、メディアリテラシーとは何か
2. メディアの受信・発信のルール
3. マスメディア、パーソナルメディア、インターネット
4. コミュニケーションとコミュニティ
5. メールで人の印象は変わるか
6. ネットの議論で結論は出るのか
7. ネットにはまる人々・ネットに助けられる人々
8. 顔を知らなくても強い絆は生まれるか
9. ケータイは家族の絆を強めるか
10. ウェブログは自己表現かコミュニケーションか
11. ネットゲームは孤独を癒せるか
12. クチコミの威力と破壊力
13. つながりをどのように分析するか
14. シームレスな空間としてのネット
15. まとめと今後の展望

【成績評価方法】

毎回講義中に提出する小課題・ディスカッションへの貢献度（40%）、予習・復習を兼ねた宿題（30%）、2回程度のレポート課題（30%）を総合して評価する。

レポートについては、著作権を侵害する行為が認められた場合は、無効とする。

【教科書】

なし

【参考書】

- 山下清美他 『ウェブログの心理学』 NTT出版
- 池田謙一編著 『インターネット・コミュニティと日常世界』 誠信書房
- 三浦麻子他 『インターネット心理学のフロンティア』 誠信書房
- 松田美佐・岡部大介・伊藤瑞子編 『ケータイのある風景』 北大路書房
- 遠藤薫編著 『ネットメディアと<コミュニティ>形成』 東京電機大学出版局
- 濱野智史 『アーキテクチャの生態系』 NTT出版
- 増田直紀著 『わたしたちはどのようにつながっているか』 中公新書

【その他】

一方向の講義のみではなく、時々グループでのディスカッションを行う参加型の授業である。宿題やレポートの多くは、授業の中で使用する。グループのメンバーに迷惑がかかるので、遅刻や欠席をしないこと。また、宿題やレポートを必ず準備すること。

認知科学概論

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）

鈴木 宏昭

【授業の到達目標及びテーマ】

人間の知覚、記憶、思考が、生成的な性質を持つこと、また多様な資源を利用する過程であることを理解する。

【講義概要】

認知科学は知性の性質を研究する学際的な研究分野である。本講義では、まず認知科学の古典的モデルである情報処理モデルについての解説を行う。その後、知覚や記憶を取り上げ、認識が生じるメカニズムについて検討を行う。次に問題解決や推論を取り上げ、その性質について実験データを用いながら検討する。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. 認知科学のフレームワーク 1：表象と計算
3. 認知科学のフレームワーク 2：認知の資源
4. 認知科学のフレームワーク 3：認知科学における科学性
5. 記憶の情報処理：チャンキング
6. 記憶の情報処理：特異な記憶
7. 記憶の情報処理：記憶内のネットワーク
8. 表象の生成性 1：変化盲
9. 表象の生成性 2：目撃者証言
10. 思考の冗長性 1：思考の基本フレームワーク
11. 思考の冗長性 2：思考のバイアス、メディアリテラシー
12. 思考の冗長性 3：文脈依存性
13. 認知の開放性 1：外的資源の利用
14. 認知の開放性 2：インタフェースの現状
15. 認知の開放性 3：課題分割とインタフェース

【成績評価方法】

人数に応じて変更する可能性があるが、小テスト、出席を兼ねた心理実験参加、期末試験に基づいて行う。

【参考書】

鈴木宏昭（編）「知性の創発と起源」（オーム社）
 稲垣佳世子・鈴木宏昭・大浦容子「新訂認知過程研究」（放送大学）

学校経営と学校図書館

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）

小田 光宏

【講義題目】

学校教育の視点から、学校図書館を理解する

【授業の到達目標及びテーマ】

学習の主眼となる下記の5点について説明できるようになることが、この授業の到達目標です。

- ・学校図書館では、職員（司書教諭、学校司書）にどのような役割が期待されているか
- ・学校図書館は、どのような制度によって支えられているか
- ・学校図書館は、どのようなしくみ（組織）になっているか
- ・学校図書館では、どのような活動（サービス）が実践されているか
- ・学校図書館は、学校教育においてどのような機能を果たすか

【講義概要】

この科目は、学校図書館（スクールメディアセンター）の現代的意義を学び、学校図書館の専門職である司書教諭に必要な基礎知識を身に付けることを目的としています。また、司書教諭の資格取得のための根幹科目という性質上、学校教育ならびに学校経営における学校図書館の果たす役割と、司書教諭が実践することが期待される専門的業務に焦点を合わせます。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション（科目の意義／授業の進め方／参考文献の紹介ほか）
- 第2回 学校図書館では、何が行われているか（その一）
- 第3回 学校図書館では、何が行われているか（その二）
- 第4回 学校図書館では、何が行われているか（その三）
- 第5回 司書教諭は、何をすればよいか（その一）
- 第6回 司書教諭は、何をすればよいか（その二）
- 第7回 学校図書館は、どのような資料を扱えばよいか（その一）
- 第8回 学校図書館は、どのような資料を扱えばよいか（その二）
- 第9回 学校図書館は、どのような資料を扱えばよいか（その三）
- 第10回 快適な学校図書館とは、どのような空間か（その一）
- 第11回 快適な学校図書館とは、どのような空間か（その二）
- 第12回 学校図書館を支えるしくみには、何かあるか（その一）
- 第13回 学校図書館を支えるしくみには、何かあるか（その二）

第14回 学校図書館を支えるしくみには、何かあるか（その三）

第15回 総括

【成績評価方法】

5回の作業課題（各回20%）を総合して評価します。なお、これとは別に、授業への積極的参加を、加点要素として考慮します。

【教科書】

使用しません。

【参考書】

授業中に指示します。

【その他】

第1回の授業において、作業課題の指示ならびに提出などに使用する、青山学院大学eラーニング人材育成研究センターのCCS（Cyber Campus System）の利用方法、ならびに、ID、PWの取得について説明しますので、必ず出席してください。

図書館情報学概論

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）

小田 光宏

【講義題目】

図書館情報学事始め

【授業の到達目標及びテーマ】

図書館ならびに関連事象を捉えることができるよう、分析の「対象」と「方法」に関して理解することが、この授業の到達目標となります。

「対象」は、三つに分かれます。第一は、文字情報、画像情報、音声情報といった各種の情報を記録する情報メディアです。第二は、情報メディアを収集、組織、保存、提供するために存在する社会的システム、すなわち、の図書館という仕組み（システム）です。第三は、図書館システムにおいて、情報メディアを扱う際に用いられる様々な専門知識・専門技術です。

「方法」には、二つの課題があります。一つは、情報メディアや図書館が置かれる社会的な背景について、制度、理念、機能といった観点から整理することです。もう一つは、図書館情報学の研究方法や学習方法を理解することです。

【講義概要】

この科目は、図書館情報学の入門にあたる役割を果たします。また、司書資格取得のための課程において、基礎知識を確実にするための科目として位置づけられています。すなわち、2年次後期、あるいは、3年次以降で履修する関連諸科目の基盤となる科目です。

【授業計画】

第1回 イントロダクション（科目の意義／授業の方針／参考文献の紹介ほか）

第2回 図書館と図書館情報学

第3回 図書館の定義／図書館に関する情報収集の方法

第4回 図書館の機能とサービス

第5回 図書館の種類と資料

第6回 学校図書館の可能性／学習活動と情報・資料

第7回 大学図書館の役割／学術情報の世界

第8回 専門図書館の独自性／類縁機関の存在

第9回 日本の図書館制度／図書館法の理解

第10回 公立（公共）図書館の経営／地域社会の課題

第11回 国立図書館のはたらき／国立国会図書館の活動

第12回 デジタルライブラリーの登場

第13回 世界の図書館

第14回 図書館経営・活動を支える理念

第15回 図書館員の専門性、専門的知識と技術

【成績評価方法】

定期試験期間中に実施する筆記試験（100%）。なお、授業中の作業課題を、加点要素として考慮します。

【教科書】

使用しません。

【参考書】

下記の用語辞典を推奨します。専門用語の理解は重要です。この授業ばかりではなく、他の関連科目を履修する上でも役立ちます。

日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第3版、丸善、2007。

また、次の2点は、図書館情報学の基礎とその広がり、初学者が理解する上で有効です。筆記試験にも、（読めば）効果的です。

塩見昇編著『図書館概論』新訂版、日本図書館協会、2008。（図書館情報学テキストシリーズⅡ）

三浦逸雄監修『図書館情報学の地平：50のキーワード』日本図書館協会、2005。

【その他】

授業の進め方ならびに方針、受講に際して守っていただきたいこと、学習を効果的にするためのアドバイスなどを、第1回の授業でお伝えします。第1回の授業にやむを得ず出席できない場合にも、これらを了解しているものとみなします。

【講義題目】

図書館サービスは、いま

【授業の到達目標及びテーマ】

次の内容を達成することが、この授業の到達目標です。

- ・ 図書館サービスの実際（方法）について認識する
- ・ 図書館サービスを行うための原理（背後にある理論）を理解する
- ・ 図書館サービスとは何か、他者に具体的に説明する

【講義概要】

この科目は、図書館を有機的な仕組み（システム）として捉え、そこで提供されている各種の便宜（サービス）について検討し、図書館の実務を支える原理や方法に対する理解を深めることを目的としています。とりわけ、図書館職員の視点とともに、利用者の視点に立ちながら、実践されている業務に関する専門的知識・技術を捉えることを目指します。なお、検討対象とする図書館は、市区町村立図書館です。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション（科目の位置づけ／授業の方針／参考文献の紹介ほか）
- 第2回 図書館サービスの意義
- 第3回 閲覧サービスと空間整備
- 第4回 図書館サービスとマネジメント
- 第5回 社会資本としての図書館サービス
- 第6回 貸出サービスの構造
- 第7回 資料提供の展開
- 第8回 資料提供と情報提供
- 第9回 図書館サービスの定量的評価
- 第10回 利用対象に応じたサービス
- 第11回 利用目的に配慮した多様な利用者サービス
- 第12回 利用者との交流活動
- 第13回 地域に根ざした図書館サービス
- 第14回 図書館サービスの最前線
- 第15回 図書館サービスのケーススタディ

【成績評価方法】

1. 定期試験期間中の筆記試験（60%）
2. 図書館調査小レポート4回（40%）

なお、授業への積極的な参加を、加点要素として考慮します。

【教科書】

小田光宏編著『図書館サービス論』日本図書館協会、2010（JLA図書館情報学テキストシリーズⅡ）

【参考書】

日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第3版、丸善、2007.

【準備】

前期に開講される「図書館情報学概論」で扱う内容、とりわけ、以下の知識を授業の前提とします。

- ・ 図書館の定義
- ・ 図書館法の理解
- ・ 図書館の要素

【その他】

第1回の授業で、小レポートの指示や提出などに使用する、青山学院大学eラーニング人材育成研究センターのCCS（Cyber Campus System）の使用方法ならびにID、PWの取得方法について説明しますので、必ず出席してください。

図書館情報文化論

【授業の到達目標及びテーマ】

図書館情報文化を理解する際に図書館史に関する知識は重要である。欧米や日本における図書や図書館の発達過程について概括的に理解することを目指す。

【講義概要】

図書の保存・利用の場として、図書館は歴史的にどのように発展してきたのだろうか。本講義では、欧米や日本の図書館の歴史について論じる。

本を手にしたとき、ふと「これって、なんでこんな形なんだろう」と思ったり、近所の公共図書館で勉強していて、なんとなく「図書館って、いつ頃からあるのか」と疑問に感じたことがあるかもしれない。この授業では、図書や図書館にまつわるいくつかのトピックを拾いながら、その成り立ちや移り変わりについて理解を深めることをねらいとする。なかでも「近代公共図書館」という考え方が誕生した背景や、そうした考え方が日本に入ってきた経緯に焦点を合わせたい。

【授業計画】

主に論じる事項は下記のとおりである。

1. イントロダクション
2. 文字の誕生と図書
3. 中世修道院図書室と黙読文化
4. 近世ゲーテンベルク革命と印刷の始まり
5. ドイツにおける近代図書館思想の萌芽

6. アメリカにおける近代公共図書館思想 1
7. アメリカにおける近代公共図書館思想 2
8. 図書館界の牽引者：デューイとカーネギー
9. イギリスにおける近代公共図書館思想
10. 前近代日本の文庫思想
11. 明治期日本における「書籍館」の誕生
12. 戦時下の図書館展開
13. 戦後占領期日本の図書館改革
14. 『中小レポート』と『市民の図書館』
15. まとめ

【成績評価方法】

期末試験によって評価する（80%）。このほか、2～3回ほど小レポート提出を求める（20%）。

【教科書】

とくに指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

岩猿敏生『日本図書館史概説』日外アソシエーツ, 2007.

小川徹ほか『公共図書館サービス・運動の歴史』（1）（2）日本図書館協会, 2006.

小黒浩司編著『図書及び図書館史』JLA図書館情報学テキストシリーズ12, 日本図書館協会, 2000.

情報メディア論A

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）

三浦 太郎

【授業の到達目標及びテーマ】

図書館における資料・メディアの種類や特性、その選択・収集・保存・流通をめぐる理論と実際について理解する。

【講義概要】

図書館では、どのような理念のもとに資料が収集されるのだろうか。本講義では、図書館におけるコレクション形成過程や、資料収集・提供の土台となる「図書館の自由」の考えを中心に論じる。

図書館内部における資料構成と資料選択の理論、資料収集方針、図書選択の自由などの考えについて見るとともに、図書館外部環境としての出版流通機構についての理解も図る。

【授業計画】

- (1) 図書館におけるコレクション形成 1
- (2) 図書館におけるコレクション形成 2
- (3) コレクション管理
- (4) 資料構成と資料選択の理論
- (5) 「図書館の権利宣言」制定
- (6) 「図書館の権利宣言」改訂 1
- (7) 「図書館の権利宣言」改訂 2
- (8) 「図書館の自由に関する宣言」制定
- (9) 「図書館の自由に関する宣言」改訂 1
- (10) 「図書館の自由に関する宣言」改訂 2
- (11) 印刷資料の諸類型と特性
- (12) 非印刷資料の諸類型と特性
- (13) 出版流通機構 1
- (14) 出版流通機構 2
- (15) まとめ

【成績評価方法】

期末試験によって評価する（80%）。このほか、2～3回ほど小レポート提出を求める（20%）。

【教科書】

とくに指定しない。

【参考書】

小黒浩司編著『図書館資料論』新訂版, 新現代図書館学講座 8, 東京書籍, 2008.

馬場俊明編著『図書館資料論』新訂版, JLA図書館情報学テキストシリーズ 7, 日本図書館協会, 2004.

幼児教育原理A

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）

小林 紀子

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ「自らの子ども観を見つめ、幼児教育とは何かを考える」

幼児教育における、養護と教育の意義を考え、子ども理解及び保育内容・指導方法の原理について学ぶ。また、幼児教育における子ども観の歴史的変遷について学ぶと同時に、幼児教育現場における様々な子ども観の在り様を知り、自らの子ども観をみつめる。その上で、幼児教育とは何かを考えることを授業の到達目標とする。

【講義概要】

幼児教育における保育内容・指導方法の原理について学ぶと同時に、自らの子ども観を見つめ、幼児教育とは何かを考える。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション（講義の目的、内容、進め方（参画授業）、参考図書の紹介

第2回：幼児教育（保育）とは何か（1）

- 第3回：幼児教育（保育）とは何か（2）
- 第4回：幼児教育の基盤としての子ども観
- 第5回：幼児教育における子ども観の歴史の変遷
- 第6回：自らの子ども観をみつめる
- 第7回：子ども理解と保育の原理
- 第8回：子どもの生活・遊び理解
- 第9回：子どもが育つ環境の理解
- 第10回：保育内容とは
- 第11回：保育内容の原理
- 第12回：指導方法とは
- 第13回：幼児教育における指導方法の原理（1）
- 第14回：幼児教育における指導方法の原理（2）
- 第15回：学びの振り返り

【成績評価方法】

毎時間、その授業について、意見や感想を書いて提出してもらう。試験による評価（60%）、講義に関連するレポート（30%）を提出してもらう。これに授業時の学びカード等（10%）を考慮して総合評価する。

【教科書】

『保育原理』小林紀子他編（ミネルヴァ書房）

【参考書】

『幼稚園教育要領』『最新保育資料集』（ミネルヴァ書房）

幼児教育原理B

学期（後期）履修年次（1～4）単位（2）

小林 紀子

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ「自らの子ども観を振り返りつつ、今後の幼児教育を展望する」

自らの子ども観をみつめつつ、「善く生きようとする人間モデル」としての子どもに視点を置き、幼児教育の現状を理解する。また、幼児教育における子ども理解及び保育内容・指導方法を基盤に、「計画・評価と実践」「保育者の専門性」「家庭・地域の連携」の原理について学び、今後の幼児教育を展望することを授業の到達目標とする。

【講義概要】

自らの子ども観を振り返りつつ、幼児教育における「計画・評価と実践」「保育者の専門性」「家庭・地域の連携」の原理について学び、今後の幼児教育を展望する。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（講義の目的、内容、進め方（参画授業）、参考図書を紹介）
- 第2回：子ども観の振り返りと幼児教育の現状
- 第3回：幼児教育の計画と実践（1）
- 第4回：幼児教育の計画と実践（2）
- 第5回：幼児教育における健康・安全への配慮
- 第6回：多様な子どもの理解と配慮
- 第7回：幼児教育の歴史に何を学ぶか（1）
- 第8回：幼児教育の歴史に何を学ぶか（2）
- 第9回：保育者の専門性
- 第10回：小学校との連携
- 第11回：家庭・地域との連携
- 第12回：家族援助と子育て支援
- 第13回：幼児教育における評価と対応
- 第14回：幼児教育の課題と展望
- 第15回：学びの振り返り

【成績評価方法】

毎時間、その授業について、意見や感想を書いて提出してもらう。試験による評価（60%）、講義に関連するレポート（30%）を提出してもらう。これに授業の学びカード等（10%）を考慮して総合評価する。

【教科書】

『保育原理』小林紀子他編（ミネルヴァ書房）

【参考書】

『幼稚園教育要領』『最新保育資料集』（ミネルヴァ書房）

児童福祉論

学期（後期）履修年次（1～4）単位（2）

澁谷 陽子

【授業の到達目標及びテーマ】

児童福祉の概要を理解することを目標とする。

【講義概要】

現在、少子化や子どもへの虐待をはじめとした社会的問題が指摘され、子どもを取り巻く環境が大きく変化をしている。子どもの数が減少しているにもかかわらず、社会的に養護を必要としている子どもや子育て支援を必要としている家族は多く存在する。子どもが健やかに生まれ、成長していく環境を整えることは、社会全体として取り組むべきことがらである。本講義では、児童福祉の枠組み、歴史的展開、法制度等を概観し、児童福祉の現場での実践や現状について理解を深め、基礎的な知

識を得られるように学習を進めていく。

【授業計画】

- ①オリエンテーション（講義の進め方）
- ②児童福祉成立の歴史
- ③児童福祉の法律
- ④児童福祉の関連機関
- ⑤児童福祉施策の現状と課題
- ⑥保育サービス
- ⑦健全育成
- ⑧母子保健
- ⑨社会的養護
- ⑩非行・情緒に問題を抱える子ども
- ⑪ひとり親家庭
- ⑫里親制度
- ⑬児童福祉従事者と児童福祉の実践
- ⑭児童福祉活動の実際
- ⑮児童文化財

授業は講義中心である。視聴覚教材等を用いての学び、課題に取り組む機会がある。

【成績評価方法】

期末試験（90％）リアクションペーパー（10％）

【教科書】

特になし（プリント等資料を配布する）

【参考書】

講義の中で参考書を紹介する。

【準備】

子どもに関する問題に興味を持ち、情報収集しておく。

【その他】

遅刻、欠席、早退をしないこと。

私語、携帯電話等の使用厳禁とす。

臨床保育学A

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）

庄司 順一

【講義題目】

臨床保育学の基礎

【授業の到達目標及びテーマ】

乳幼児の生活、発達、行動（「障害のある子どもを含む」）を理解し、臨床的な問題の背景について基本的理解を深める。

【講義概要】

臨床保育学は、乳幼児保育・幼児教育の実践にかかわる広い領域を含む。その内容は、大別すると、（1）保育実践にかかわる基本的課題、（2）多様な保育実践の理解、（3）保育実践で出会う臨床的諸問題、および（4）臨床的諸問題への対応、となろう。

より具体的には、

- （1）保育実践にかかわる基本的課題としては、子どもの生活環境、行動と発達、乳幼児の心の理解、および保育者としての「自分」の理解などがあげられる。
- （2）多様な保育実践の理解としては、乳児保育、障害児保育、延長保育に加えて、いわゆる家庭的保育、病児保育、小児病棟での保育や、施設での養育（乳児院、児童養護施設など）などが含まれる。

本講では、これらの課題、問題を論じることをとおして、「乳幼児」「乳幼児の保育・教育」「相談の基本」について理解を深めたい。これらの目的を達成するために、諸資料の検討やVTRの視聴を行い、小グループでのディスカッションも行う。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、臨床保育学とは

第2回 相談の基本

第3回 子ども虐待の理解と対応（1）子ども虐待の定義と種類、子どもに及ぼす影響、実態

第4回 子ども虐待の理解と対応（2）虐待の発生要因、保育所・幼稚園における対応

第5回 生活の理解（1）施設での生活

第6回 アタッチメント

第7回 生活の理解（2）少子化

第8回 子育て支援（1）保育所での子育て支援

第9回 子育て支援（2）ファミリーサポート、家庭的保育

第10回 発達の理解（1）新生児の行動

第11回 発達の理解（2）妊産婦の心理

第12回 発達の理解（3）低出生体重児と障害

第13回 カウンセリングの基本と事例研究のすすめ方

第14回 まとめ

第15回 試験

【成績評価方法】

授業中に実施する小レポート（20％）と期末の試験（80％）による。

【教科書】

教科書は使用しない。

【参考書】

庄司順一「改訂新版子ども虐待の理解と対応」フレーベル館

庄司順一「保育の周辺」明石書店

石原栄子・庄司順一・田川悦子・横井茂夫「乳児保育（第10版）」南山堂

【その他】

本講義は臨床保育学Bとあわせて受講するのが望ましい。

臨床保育学B

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）

庄司 順一

【講義題目】

臨床的問題の理解

【授業の到達目標及びテーマ】

乳幼児の行動（「障害のある子どもを含む」）を理解し、保育であう臨床的な問題とその対応について基本的理解を深める。

【講義概要】

保育実践で出会う臨床的諸問題としては、子どもの心理的・発達の問題（摂食、排泄、睡眠の問題など）や、発達障害をもつ子ども、ハイリスク児といわれる子ども、行動上の問題を持つ子ども、被虐待体験をもつ子どもの保育とともに、子どもの事故と安全教育などがあげられる。

また、臨床的諸問題への対応としては、相談の基本としてのカウンセリングの理論と実際の理解を中心に、子育て支援、家庭との連携、保健・福祉諸機関との連携などが含まれる。

本講では、これらの課題、問題を論じることをとおして、「乳幼児」「乳幼児の保育・教育」「相談の基本」について理解を深めたい。これらの目的を達成するために、諸資料の検討やVTRの視聴を行い、小グループでのディスカッションも行う。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 行動の理解（1）子どもの睡眠と臨床

第3回 行動の理解（2）摂食（摂食行動の発達）

第4回 行動の理解（3）排泄（排泄行動の臨床）

第5回 行動の理解（4）排泄行動の発達と臨床

第6回 行動の理解（5）子どもの気質

第7回 乳幼児の事故（1）子どもの事故の特徴

第8回 乳幼児の事故（2）事故の予防

第9回 情緒行動上の問題をもつ子どもの理解と対応の基本

第10回 障害をもつ子どもの理解（1）障害の種類、障害をもつ子どもの発達

第11回 障害をもつ子どもの理解（2）障害をもつ子どもの保育

第12回 関連領域（1）保健

第13回 関連領域（2）福祉

第14回 まとめ

第15回 試験

【成績評価方法】

授業中に実施する小レポート（20％）と期末の試験（80％）による。

【教科書】

教科書は使用しない。

【参考書】

庄司順一「保育の周辺」明石書店

石原栄子・庄司順一・田川悦子・横井茂夫「乳児保育（第10版）」南山堂

【その他】

本講義は、臨床保育学Aとあわせて受講するのが望ましい。

保育方法研究A

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）

高嶋 景子

【講義題目】

「一人ひとりの子どもの主体的な育ちを支える保育の方法を探る」

【授業の到達目標及びテーマ】

一人ひとりの子どもたちの主体的な育ちを支え促していく「保育の方法」について検討していくために、現在の幼稚園教育要領で保育の基本とされている「環境を通しての保育」の在り方について学び、その背後にある理念やそれが生まれてきた歴史的背景について理解する。また、その上で、子どもたちの「遊び」の持つ意味を、そこから生まれる「学び」を通して総合的に捉え、子ども達の育ちに必要経験と、それを支える保育の在り方について自分なりに考え、探っていくための糸口を得ることを目標とする。

【講義概要】

現在の幼稚園や保育園で行われている様々な「保育の方法」を取り上げ、それらの背後にある保育観や子ども観を探ると同時に、その歴史的変遷について学ぶ。また、現在の幼稚園教育要領において保育の基本とされている「環境を通しての保育」とそこで中心となる「遊び」の意味について理解し、一人ひとりの子どもの主体的な育ちに繋がるような経験を構成する保育の在り方について検討する。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：保育の方法と子ども観・発達観① 多様な保育方法とその背景にある子ども観・発達観を探る
- 第3回：保育の方法と子ども観・発達観② 子ども観・発達観の歴史的変遷および幼稚園教育要領における子ども観・発達観
- 第4回：保育における子ども理解① 「子ども理解」から始まる保育
- 第5回：保育における子ども理解② 子どもの行為の「意味」を探る保育者のまなざし
- 第6回：保育における子ども理解③ 一人ひとりの子どもの「育ち」の多様性に応じる保育
- 第7回：環境を通しての保育① 保育における「環境」とは
- 第8回：環境を通しての保育② 子ども達の主体的な活動を生み出す保育環境
- 第9回：環境を通しての保育③ 多様な経験の広がりを保障する環境の構成
- 第10回：「遊び」のなかの援助① 子どもの発達における「遊び」の意義
- 第11回：「遊び」のなかの援助② 「遊び」の中から生まれる「総合的な学び」とは
- 第12回：「遊び」のなかの援助③ 「遊び」を援助する保育者の役割
- 第13回：子どもに即した保育の創造① 子どもとともに創造する保育～保育のデザインを支える「記録」と「計画」～
- 第14回：子どもに即した保育の創造② 地域や保護者との繋がりのなかで広がる保育の展開
- 第15回：まとめ

【成績評価方法】

- ・学期末には各回の講義内容を踏まえたレポートを課す。
- ・上記のレポートの他、授業への出席状況や授業態度、および提出物等を考慮し総合的に評価する。

【教科書】

授業時に資料を配布する。

【参考書】

『幼稚園教育要領』

その他については授業内で適宜紹介する。

保育方法研究B

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）
宇田川 久美子

【授業の到達目標及びテーマ】

子どもの発達を支える保育方法について理解し、そこで重要な役割を果たす保育者の役割や資質を把握する。その上で、保育実践の方法について一人ひとりの子どもの発達に即して配慮していくことのできる保育者の専門性を身につける。

【講義概要】

保育者の役割や資質から子どもの発達を支える保育方法について検討する。あわせて、幼児の主体的な生活を援助する保育方法、幼児にふさわしい教材とその提供方法について考え、ディスカッションや発表を行う。

【授業計画】

- 第1回：保育方法と保育者の専門性①子どもの抱く世界をとらえる
- 第2回：保育方法と保育者の専門性②子どもの存在と保育者の対応の基本
- 第3回：保育方法と保育者の専門性③子どもから見た保育者の存在
- 第4回：保育方法と保育者の専門性④子どもと共に見る
- 第5回：保育方法と保育者の専門性⑤子どもの生きる世界を共に生きる
- 第6回：保育方法と保育者の専門性⑥共に生きる世界の広がり子どもの育ち
- 第7回：保育方法と保育者の専門性⑦子どもの育ちを支える保育者の役割
- 第8回：子どもの充実した幼稚園生活の構成①子どもの主体的な生活と保育の形態
- 第9回：子どもの充実した幼稚園生活の構成②環境の構成と保育の展開
- 第10回：子どもの充実した幼稚園生活の構成③共同生活者としての保育者
- 第11回：子どもの充実した幼稚園生活の構成④一人ひとりが生き生きする保育
- 第12回：子どもの発達に即した教材①保育と絵本・紙芝居・素話
- 第13回：子どもの発達に即した教材②保育と歌・手遊び
- 第14回：子どもの発達に即した教材③保育と素材
- 第15回：まとめ

【成績評価方法】

筆記試験（持ち込み不可）、提出物、出席状況、及び、授業態度により評価

【教科書】

授業時に資料を配布する

【参考書】

授業内で適宜紹介する

学校教育学総論

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）
樋田 大二郎

【講義題目】

学校教育学の基礎

【授業の到達目標及びテーマ】

学校教育学を理解し、学校教育が子どもの成長と社会の期待の両者にたくみにこたえている様子と意義を理解する。
この授業は、「入門」でも「初級」でもない。到達目標は学校教育学研究の基礎的事項の完全な理解と基礎的分析スキルの完全な取得である

【講義概要】

「社会化」の理論を中心に、人々の社会適応の様子と学校の果たす枠割りを検討する。学校教育学の基礎的な知識を紹介する。

日本の学校は活性化を促すために、やみくもに競争原理の導入、自己責任原理の押しつけがなされている。そこでは、目標が数値化され、何のための学力か、何のための競争かの論議はもはや棚上げされてしまっている。見える学力、見える結果のみが追い求められていると言って過言でない。

この授業では、学校という存在をもう一度考え直したい。学校という存在の社会にとっての意味、子どもにとっての意味の再検討を行う。

なお、近年の教育改革は、「なんでもあり」に近い状態になっているが、受講者は普段から教育の動向に目を配っておくことが求められる。そして、教育問題の問いかけに対して自分の答えを述べられるように準備しておくことが求められる。

【授業計画】

1. 導入：学校の機能と課題
2. 経済ナショナリズムの終焉と学校の役割
3. 確かな学力の図式と背景
4. 教育の課題（1）競争原理の導入
5. 学校教育と自尊感情の不平等
6. 学校の社会的条件
7. 社会化理論（1）価値、規範、行動様式
8. 社会化理論（2）役割、感情と思考の様式
9. 顕在的社会化と潜在的社会化
10. 教育の課題（2）数値目標と教育の数値化
11. 教育の課題（3）私的利益と公共性の喪失
12. 社会化、配分と学校教育
13. 社会化のまとめ
14. 近代科学と非人間化
15. 授業のまとめ：学校で教育を行う意義

【成績評価方法】

定期試験と授業中の小テスト・小レポートを実施します。

定期試験（約6割）、小テスト・小レポート（約2割）、出席・その他（約2割）

【教科書】

特に使用しない。授業では毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業中に配布するプリントで紹介する。

初等教育原理A

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）

堀 健志

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ「近代公教育の役割とは」

教職には独自の職業意識や資質が求められる。そこで、この授業では、卒業後の進路として小学校の教員を目指している学生を対象として、受講生が、教職を担うに足る職業意識や資質を高めることができるよう、近代公教育の理念および役割についての理解を深めることを到達目標とする。

【講義概要】

近代公教育の理念や役割についての理解を深めるために、近代学校教育の歴史を学ぶ。さらに、日本の学校教育制度の特徴を、「教育機会の均等」という観点から把握した上で、教師の基本的な役割を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 教育とは何か（授業の目的・内容についての説明）
- 第2回 近代学校制度の成立（1）市民革命と近代教育思想
- 第3回 近代学校制度の成立（2）近代国家形成と国民統合
- 第4回 近代学校制度の拡大（1）経済発展と教育
- 第5回 近代学校制度の拡大（2）階級間葛藤と教育
- 第6回 日本の学校教育制度（1）学歴社会の展開と競争の教育
- 第7回 日本の学校教育制度（2）教育機会の均等と社会階層
- 第8回 日本の学校教育制度（3）教育機会の均等とジェンダー
- 第9回 日本の学校教育制度（4）教育機会の均等とエスニシティ
- 第10回 日本の学校教育制度（5）教育機会の均等と地域格差
- 第11回 教育内容とカリキュラム 学校で何を教え、学ぶべきか
- 第12回 学習指導 授業づくりと学級づくり
- 第13回 生徒指導 管理主義の克服と生徒理解
- 第14回 専門職としての教師／教職の専門性
- 第15回 試験

【成績評価方法】

学期末試験ないしレポートの点数で評価するが、出席、授業中の発言、課題提出を加点要素として考慮する。

【教科書】

必要な参考文献は、授業中に紹介する。

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ「学校教育の現代的課題」

卒業後の進路として小学校の教員を目指している学生を対象とする。初等教育原理Aをふまえて、受講生が、教職を担うに足る職業意識や資質をさらに高めることができるよう、学校教育を担う専門職である教師の役割、教師にできること・できないことについての理解を深めることを到達目標とする。

【講義概要】

いじめや学力低下など、現代社会における教育問題を手がかりとしながら、教師の役割や教師にできること・できないことを学ぶ。これをとおして、地域や家庭との連携の可能性、教育改革の可能性を探る。

【授業計画】

第1回 現代社会のなかの学校教育(授業の目的・内容についての説明)

第2回 教師の役割の変遷

第3回 教育問題の変容

第4回 逸脱行動の歴史的变化

第5回 いじめ

第6回 キレル子ども

第7回 性行動の低年齢化

第8回 青少年犯罪の凶悪化・低年齢化

第9回 学力低下問題

第10回 家庭の教育力

第11回 進路形成の変化とキャリア教育

第12回 社会教育・生涯教育の可能性

第13回 教育改革と教職の可能性

第14回 教師にできること・できないこと

第15回 試験

【成績評価方法】

学期末試験ないしレポートの点数で評価するが、出席、授業中の発言、課題提出を加点要素として考慮する。

【教科書】

必要な参考文献は、授業中に紹介する。

教職論

【講義題目】

実践的教師論

【授業の到達目標及びテーマ】

－教師には八つの顔がある－

・教師として必要な専門性並びに児童、生徒の側に立つ豊かな人間性等の資質と能力の必要性を理解することができる。

・児童、生徒、保護者等の様々な要望や期待並びに、学校教育の今日的な課題に柔軟に対応するための方策について理解することができる。

【講義概要】

学級崩壊(正しくは、経営困難な学級)になる学級とならない学級、その違いはどこにあるのでしょうか

このように近年特に問題とされているさまざまな教育事象に大きな影を落としているのが教師だと言われています。

現場で体験した多くの具体的な事例を、対子ども、保護者、教職員、PTA、地域、教育委員会、社会、そして、自分に向ける八つの顔として教師の姿を浮き彫りにし、学校の中だけでなく家庭や地域との連携が強く求められている中で教師に問われている指導力とは何かをさまざまな角度から考えると共に、教師としての資質向上の有り方、さらに、その奥にある教師としての人間性についても考え、自らの教職への意欲、適性等を熟考してもらいたいと思っています。

担任としての教師は、こどもと保護者だけでなく、校務と関わり、地域と関わり、行政とも関わり、社会とも関わっています。ここでは教師の姿を多面的にとらえ、「教師とは何か」を追求する実践的な教師論を展開する授業にしたいと思っています。

【授業計画】

1 オリエンテーション 《グレートジャーニーの話》

2 なぜ、今「生きる力」か 《教職の意義》

3 「楽しい学校」とは 《学校の役割》

4 今の子と育てたい子 《望ましい児童像》

5 「学び」のある学校の教師として 《教師の役割》

6 教師は八つの顔をもつ 《向き合うのは誰》

7 子どもに向ける顔 《授業を磨くには》

8 子どもに向ける顔 《子どもの心と体は》

9 保護者に向ける顔 《非行化促進の方法とは》

10 教職員に向ける顔 《校務と、そして、人間関係は》

11 関係機関に向ける顔 《連携のキーワードは》

12 同上

13 社会に向ける顔 《教員と法、「服務」って何》

14 同上

15 自分に向ける顔 《子どもと関わる教師として》

- ・レポート提出について

【成績評価方法】

- ・成績評価の中心は、レポートです。
- ・出席は毎時間きちんととり、評価に加味します。
(教育実習、介護体験、就職活動、部活動等は考慮)
- ・全授業回数の2/3以上出席してください。

【教科書】

蔵元幸二・半田博編著
『21世紀の教職－生きる力を育む－』 つなん出版

【参考書】

蔵元幸二著
『ムーのえりまき』－教育エッセイ集－ EXP

【その他】

- ・授業中の私語は禁止です
- ・「楽しい授業」をこころがけます
- ・最終的な進路選択、特に、教員採用試験についてはできるだけ力になります

教職論

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）
早坂 五郎

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ 信頼関係をもとに学習効果を上げていく指導法のあり方
指導の手だてを具体的に研鑽し、児童生徒及び保護者とのコミュニケーションの方法を身につける。
次代を担う人材の育成に関わる情熱と創意を、実践的な場面を想定して演習する。
新学習指導要領を解説し、教育課程を追及することと情報を共有していくことの重要性について学ぶ。

【講義概要】

豊かな人間性の育成と知育徳育体育の教育目標の具現の方策を探ること

【授業計画】

- 第1回 教科書の紹介と講義の概要
演習を伴う授業 単位修得までの日程
グループ活動 自己紹介
- 第2回 表現力の育成
コミュニケーションの手だて 学校教育目標
詩の朗読「年めぐり」 阪田寛夫作
- 第3回 想像力の育成
提出（1）「教育課題」
詩の朗読「レモン」はたちよしこ作
- 第4回 学習指導要領の解説
食育の重要性 外国語活動
- 第5回 教育課題の発表1（演習）
- 第6回 教育課題の発表2（演習）
- 第7回 カウンセリングマインド 危機対応
教育相談 生徒指導 部活指導
- 第8回 体罰厳禁 人権教育の推進
グループ活動「キャリア教育」と話し合い
- 第9回 ストーリーテリング
- 第10回 ワークシート作成、教育法規
- 第11回 思考力の育成 全国学力テスト 国際学生学力プログラム
提出（2）ワークシート
- 第12回 教育基本法 情報活動能力
指導案と話し合い
- 第13回 教員の組織 教員の勤務
教員の権利 教職をめざして
- 第14回 レポート「指導案」 学務グループへ表紙をつけて提出
- 第15回 レポート「講義で学んだこと」 同上

【成績評価方法】

出席 13回 各5点 欠席は3回まで。欠席が4回で「不可」。
：部活・体験・参観は引率等教師の認定書が必要 提出があれば出席扱い
：病欠は医師の証明による
：受講態度がよくない場合、反社会的な言動の場合は、注意をし、
改まらないときには単位の修得はできない

演習 10点
提出（1）（2） 各5点
指導案 10点
「講義で学んだこと」 5点

計100点

【教科書】

早坂五郎編著 すぐ使える音声言語指導のアイデア 東洋館出版社
早坂五郎編著 すぐ使える小作文指導のアイデア 東洋館出版社

【参考書】

日本教育会季刊誌 「日本教育」
 学習指導要領
 文部科学省作成諸資料
 教育関連法規
 全国連合小学校長会 「月刊誌」
 全国連合中学校長会 「月刊誌」

教育方法論

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）
 樋田 大二郎

【講義題目】

ホリスティックな教育－知識と感情と身体との融合

【授業の到達目標及びテーマ】

教育方法の基礎を理解し、各教科の教育方法の授業の理解の基礎を構築する。

【講義概要】

子どもは自発的で肯定的である。それなのになぜ日々の生活や学校生活を経験することで受動的で否定的になってしまうことがあるのだろうか。この授業では、教育方法の理論、教授技法の実際を学び、さらに、今日の意欲的な取り組みを知り、自分はどうしたいかを考え、子どもたちが自発的かつ肯定的に学習に取り組み人生を切り拓いていくことを援助する方法を学ぶ。また、教育方法や授業技法の背景にある社会的要請、児童・生徒の成長と学習をどのようにとらえるか、教育方法の基底となる教師と児童・生徒の関係とはどのようなものなのか等を情報機器の活用も含めて臨床的および理論的に学習する。

【授業計画】

1. 授業紹介と授業のコミュニティ作り
2. 教育の目的と子ども観（教育目的と教育方法）
3. 身体、感情と気づき
4. 生きる力と総合学習（自分探し、共感、癒し）
5. 学習過程の構造1（自発性と有意味性）
6. 学習過程の構造2（教授過程の構造）
7. 教育方法・技術の歴史（感覚主義）
8. 教育方法・技術の歴史（経験主義と系統主義）
9. コンピュータ教育1 思考の道具として利用する授業
10. コンピュータ教育2 コンピュータの問題と課題
11. 身体、感情と知識（体験型学習・参加型学習）
12. ホリスティック教育
13. ホリスティック教育と評価方法
14. ホリスティック教育と動機付け
15. 授業のまとめ

【成績評価方法】

試験（1回：70%）、小テスト・小レポート（30%）

【教科書】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

授業時に配布するプリントで紹介する。

教育課程論

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）
 桜井 恵子

【授業の到達目標及びテーマ】

日本の教育課程の変遷を学ぶことによって、今日の教育課程のあり方、将来の教育課程のめざすべき方向についての示唆を得ることを目標とする。また、教育課程とカリキュラムの違いを学び、教師主体によるカリキュラム編成の意義を確認し、教育課程とカリキュラムとのよりよい関係を学ぶことを目的とする。

【講義概要】

戦前から現在に至る日本の教育課程の変遷を学び、今日の将来のわが国の教育課程のあり方について検討する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（講義の目的、内容、進め方の紹介）
- 第2回 教育課程に関する諸概念を学ぶーカリキュラム、教育内容との違いー
- 第3回 戦前日本の教育課程 その1 明治・大正編
- 第4回 戦前日本の教育課程 その2 大正新教育編
- 第5回 戦前日本の教育課程 その3 昭和戦前期編
- 第6回 戦後日本の教育課程 その1 戦後新教育編（戦後～1950年代）
- 第7回 戦後日本の教育課程 その2 1960～70年代
- 第8回 戦後日本の教育課程 その3 1980～90年代
- 第9回 現在の日本の教育課程 2000年以降
- 第10回 教育課程と学力問題
- 第11回 教育課程編成の基準と方法、主体としての教師

第12回 教育課程とその評価

第13回 教育課程をめぐる最新の動向 その1

第14回 教育課程をめぐる最新の動向 その2

第15回 テスト

【成績評価方法】

平常点50% (出席、授業態度、課題提出等)、学期末試験50%。

【教科書】

文部科学省『学習指導要領』他、講義に関する資料を毎回配布する。

【参考書】

授業中、適宜紹介する。

【準備】

授業中、適宜指示する。

算数概説A

学期(前期)履修年次(1~4)単位(2)

正田 良

【授業の到達目標及びテーマ】

算数の教材の背景・発展について大学生を対象とした授業によって理解する。

【講義概要】

小学校教諭としての教科に関する科目である。小学校の算数は教えやすいという人がいる。公式を覚えさせて計算練習をさせておけばいい。このような論拠の延長には「教科のための科目としてはちょっと上級のものをかじっておけばいいだろう。それよりもちょっと上級の数学は中学・高校で学んできたはずである。なのに大学生にもなってそのような科目を学ぶ必要があるのだろうか。」という疑問があるだろう。

『教育の過程』(岩波)で、Brunerは「どの年齢のだれに対しても、どんなものでもそのままのなんらかの形で教えることが可能である」と述べている。つまり6歳の子どもにでも数学者が行う数学とある意味では同じ活動ができると言うのである。学校で学ぶものが本物であってほしいという願いであり、算数・数学が次に学ぶものの準備でしかないという意見へのアンチテーゼである。

算数によくみられる題材を用いて数学的な営みとは何かを、数学的活動を通じて眺めたい。

【授業計画】

第1回 ○○の形は××だ。

第2回 四角形の分類

第3回 マジックミラー

第4回 ポアンソの図形

第5回 敷石探検隊

第6回 パノラマ

第7回 30℃のお湯

第8回 量の数学化

第9回 単位命名縁起

第10回 十進位どり記数法

第11回 電卓を使った活動

第12回 カードゲーム

第13回 トランプゲーム

第14回 タコの掛け算七七

第15回 教育評価をめぐる

【成績評価方法】

作品課題(下記の(2)参照)、並びに、授業中に指示する小課題を根拠とする「平常点」とを1:1の重みで総合する。作品は第11回目までに授業中に担当者へ「ポートフォリオ」として整備して提出のこと。ポートフォリオの用紙は第5回目までに配布するので、ないときには電子メールなどで問い合わせること。

【教科書】

(1) 正田 良 『算数と数学のあいだに』三恵社(2006年再訂版)

(2) 正田 良(編著)『算数・数学ってこわくない』成文堂(作品課題の説明として利用する)

【参考書】

(1) <http://kks-el01.sakura.ne.jp/ar09/bucho/x7net/> を私に関するさまざまな情報へのポータルサイトとしています。授業計画に対応するプリントの電子ファイルをダウンロードなどを、一部可能にしています。また、適宜参考資料など紹介します。

(2) 電子メール(宛先:rio@kokushikan.ac.jp)による質問を歓迎します。

【準備】

前の時間を休んだ人やわかりにくいところがあった人は配布する講義記録プリント「ぶーめらん」や上記のサイトを参考に補うようにすること。

「成績評価方法」の小課題は時として、次回に出すように指示することがあるので、忘れないように。

【その他】

1. 1回目から実質的内容に入る。

2. 休んだ回は、上記のサイトの「TASKでの授業」をみて、必ずテキスト(1)の対応部分を自分で補い、補った報告を上記小課題に代えて提出のこと。理由が明示されていれば若干遅れてもよい。授業では効率よく学ぶことができるが、自分で補うためにはそれ以上の学習時間を要すると覚悟すること。

【授業の到達目標及びテーマ】

「テストに出るから」以外の数学を学ぶ理由や著者からのメッセージを、あなた自身の言葉で子どもに語るか。

【講義概要】

小学校教諭としての教科に関する科目である。小学校の算数は教えやすいという人がいる。公式を覚えさせて計算練習をさせておけばいい。このような論拠の延長には「教科のための科目としてはちょっと上級のものをかじっておけばいいだろう。それよりもちょっと上級の数学は中学・高校で学んできたはずである。なのに大学生にもなってそのような科目を学ぶ必要があるのだろうか。」という疑問があるだろう。

『教育の過程』（岩波）で、Brunerは「どの年齢のだれに対しても、どんなものでもそのままのなんらかの形で教えることが可能である」と述べている。つまり6歳の子どもにでも数学者が行う数学とある意味では同じ活動ができると言うのである。学校で学ぶものが本物であってほしいという願いであり、算数・数学が次に学ぶものの準備でしかないという意見へのアンチテーゼである。

中学以降の教材や実際に小学校で使われている教科書を軸として数学の題材を眺めたい。

【授業計画】

- 第1回 基本統計量
- 第2回 多次元評価
- 第3回 電卓による数値計算
- 第4回 Powers of Ten
- 第5回 電子温度計の数理
- 第6回 金管楽器の数理
- 第7回 数表を必要とした調律
- 第8回 数表と変化率
- 第9回 教科書の著者の意図を読む（1）たすのかなひくのかな
- 第10回 教科書の著者の意図を読む（2）いくつあるのかな
- 第11回 教科書の著者の意図を読む（3）割合と比
- 第12回 受講者の作品についての講評（1）特に低学年での教材について
- 第13回 受講者の作品についての講評（2）特に中学年での教材について
- 第14回 受講者の作品についての講評（3）特に高学年での教材について
- 第15回 古代から現代までの数学

【成績評価方法】

作品課題（下記の（2）参照）、並びに、授業中に指示する小課題を根拠とする「平常点」とを1：1の重みで総合する。作品は第11回目までに授業中に担当者へ「ポートフォリオ」として整備して提出のこと。ポートフォリオの用紙は第5回目までに配布するので、ないときには電子メールなどで問い合わせること。

【教科書】

- （1）正田 良 『算数と数学のあいだに』三恵社（2006年再訂版）
- （2）正田 良（編著）『算数・数学ってこわくない』成文堂（作品課題の説明として利用する）

【参考書】

（1）<http://kks-el01.sakura.ne.jp/ar09/bucho/x7net/> を私に関するさまざまな情報へのポータルサイトとしています。授業計画に対応するプリントの電子ファイルをダウンロードなどを、一部可能にしています。また、適宜参考資料など紹介します。

（2）電子メール（宛先：rio@kokushikan.ac.jp）による質問を歓迎します。

【準備】

前の時間を休んだ人やわかりにくいところがあった人は配布する講義記録プリント「ぶーめらん」や上記のサイトを参考に補うようにすること。

「成績評価方法」の小課題は時として、次回に出すように指示することがあるので、忘れないように。

【その他】

1. 前・後期とも1回目から実質の内容に入る。
2. 休んだ回は、上記のサイトの「TASKでの授業」をみて、必ずテキスト（1）の対応部分を自分で補い、補った報告を上記小課題に代えて提出のこと。理由が明示されていれば若干遅れてもよい。授業では効率よく学ぶことができるが、自分で補うためにはそれ以上の学習時間を要すると覚悟すること。

理科概説A

【講義題目】

理科教育はなぜ必要か？

【授業の到達目標及びテーマ】

理科教育の必要性を十分理解し、どのような力を身につけなければいけないかを認識する。様々な観点で学び、将来の教育活動の基礎をつくる。

【講義概要】

科学の正しい発展がなければ人類の未来はない。その科学を支えるのが理科教育である。理科教育の充実、我が国のみならず世界の発展に必要不可欠である。その理科教育を担う小学校は子どもたちの成長の出発点である。小学校における理科教育の充実が我が国の将来に大きな影響を与えるはずである。教科書を生かしながら教材の本質を理解できるように丁寧に講義をすすめたい。“理科は楽しい”と実感できるようにしてほしい。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（アンケート調査）
- 第2回：アンケート調査の分析とこれからの心構え。この分析ではできるだけ学生諸君の生の声を反映させ、互いの状況を把握し、これから学ぶ意力を高めたい。
- 第3回：理科教育の必要性を考える。生活科との接続をスムーズに行い、理科の世界へ導く術を身に着ける。小学3年生から始まる理科教育をどうスタートするか、様々な角度から検討する。
- 第4回：学習指導要領を使い「理科の目標」を理解する。その中で理科の必要性をさらに深く認識する。欧米の理科教育も参考にしながら我が国のあり方を考察する。
- 第5回：教科書を使い、学習内容を検討する。その際、各学年ごとではなく、全学年を俯瞰して把握するようにしたい。まず、生物分野の植物に焦点をあて学ぶ。特に、実験・観察について詳細に検討する。
- 第6回：教科書を使い、生物分野の動物に焦点をあて学ぶ。次に、生物分野について「確認テスト」（市販の問題集を参考に作成したもの）を行う。テスト終了後、すぐに自己採点し、自分の現状を把握する。
- 第7回：教科書を使い、化学分野について学ぶ。高校までの学習で物質に関するものが少ないと思われるので、日常生活で使うものを中心に物質について学ぶ。小学校の教科書で取上げられている物質の種類は多くはないが、できるだけ幅広く扱いたい。
- 第8回：教科書の化学分野の中で、実験・観察に重点を置き学ぶ。次に、化学分野について「確認テスト」を行う。テスト終了後、すぐに自己採点し、自分の現状を把握する。
- 第9回：生物にとって重要な「水」をテーマに関連事項を学ぶ。水が水に浮くのは何故か、など身の周りの不思議を追求し、理科の面白さを感じてほしい。この中で環境問題も意識して行きたい。
- 第10回：教科指導では優れた教材の使用が大変重要である。教材研究のあり方を学び、よりよい教育実践をして行くために努力していく必要がある。
- 第11回：教科書の物理分野について学ぶ。「重さとは何か」「磁石のはたらき」「電流と磁気作用」などを学ぶ。高校で物理を未履修の学生が多いであろう。苦手意識を克服しこの分野の面白さを掴んでほしい。
- 第12回：教科書の物理分野の中で、実験・観察に重点を置き学ぶ。実験の工夫により子どもの興味・関心を高め、理科の面白さを実感させたい。次に、物理分野について「確認テスト」を行う。テスト終了後、すぐ自己採点し、自分の現状を把握する。
- 第13回：教科書の地学分野を学ぶ。太陽と月、星空、天気と台風、地層と岩石など身近な内容である。子どもたちの体験を生かし学ばせたい。さらに、実験・観察を検討する。
- 第14回：地学分野について「確認テスト」を行う。テスト終了後、すぐ自己採点し、自分の現状を把握する。次に、「学習指導案」の書き方を学ぶ。具体的なものはレポートで提出を求める。
- 第15回：環境問題とエネルギー問題を扱い、人類の重要な課題として認識する。学校教育の中でどう扱うべきか検討する。

【成績評価方法】

1. 定期考査の代わりに課題を与え、大学指定の期間内にレポートを提出する。
2. 適宜、課題を出し、レポートの提出を求める。
3. 模擬授業を行う。ただし、受講者の人数により行えない場合がある。
4. 出席点

【教科書】

特には指定しない。毎回、資料を配布し活用する。

理科概説B

学期（後期）履修年次（1～4）単位（2）
堀 芙三夫

【講義題目】

理科教育はなぜ必要か？

【授業の到達目標及びテーマ】

理科教育の必要性を十分理解し、どのような力を身につけなければいけないかを認識する。様々な観点で学び、将来の教育活動の基礎をつくる。

【講義概要】

科学の正しい発展がなければ人類の未来はない。その科学を支えるのが理科教育である。理科教育の充実、我が国のみならず世界の発展に必要な不可欠である。その理科教育を担う小学校は子どもたちの成長の出発点である。小学校における理科教育の充実は我が国の将来に大きな影響を与えるはずである。教科書を生かしながら教材の本質を理解できるように丁寧に講義をすすめたい。理科概説Aをさらに発展させ、“理科の面白さ”を感じられるように深めて行く。中学校及び高校レベルの内容も適宜取り入れ土台をしっかりとしたものにする。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（アンケート調査）
理科概説Aの学習を振り返って、反省すべき点を自覚し、この理科概説Bではどう向かうべきか決意を新たにしたい。
- 第2回：アンケート調査の分析とこれからの心構え。この分析ではできるだけ学生諸君の生の声を反映させ、互いの状況を把握する。理科概説Aで身に付いたものは何か、まだ不十分と感じるものは何か、これらを自覚しこの講義に臨んでほしい。
- 第3回：理科教育の必要性を改めて考える。小学校の教師として全教科を教えなければならないが、その中で理科という科目にどう立ち向かうか、自覚はできているか、自問自答しよう。
小学校理科の全体を俯瞰する。理科概説Aで学べなかった項目も把握し、全体の流れをつかまえる。
- 第4回：「若者の理科離れ」が叫ばれて久しい。では、小学校の実態はどうだろうか。様々な資料を使いながら現状を把握し、理科教育はどうあるべきか、考える。「科学する心」育てるにはどうしたらよieldろうか。「理科好き」の子どもをそだてるにはどうしたらよieldろうか。理科教育の目的を意識しながら討議する。皆さんの活発な意見を期待する。
- 第5回：「楽しい理科」の授業作りを考える。その1つとして「ものづくり」を取上げる。教科書で扱われている工作類を検

討する。

- 第6回：「楽しい理科」の授業をめざして、教材に注目する。子どもの興味・関心を高める教材は、どのようなものか、教科書で扱われている教材を分析し、検討する。
この際、優れた教材とはどういうものか、をしっかりと考えたい。
- 第7回：理科教育において科学史的扱いが重要になる項目がいろいろある。科学史に焦点を当て、小学校で役立ちそうな内容を検討する。理科を教える教師として科学史の把握は眼に見えない“大きな力”になる。
- 第8回：いまや地球環境問題は人類の最大の課題である。理科概説Aでも扱った「環境問題」をより深く、かつ幅広く検討する。学校においては「環境教育」としてどのように取り組むか、実践例を参考に学ぶ。環境問題の理解には物質の理解が不可欠である。この点にも注目して検討する。
- 第9回：中学校レベルで扱われるエネルギー問題を考える。エネルギーとは何か、エネルギーの変換などを検討する。小学校で扱う項目でこのエネルギー問題と関連付けられる項目を検討し、理解を深める。
- 第10回：石油はまもなくなくなる。エネルギー問題は人類にとって最大の問題である。エネルギーとは何かを考え、この問題にどう関わるか、小学生として何ができるか、いろいろ検討する。省エネルギーとはどういうことか、家庭でできることを考え、エネルギー問題を考えていく。各省庁の取り組みなども提示し考える。
- 第11回：理科教育において実験・観察は非常に重要な役割を担う。実験・観察を行う際、事故を防止し、安全を確保することが最も大切である。教科書に記載されている実験・観察は、必ず教師自身が行う必要がある。その経験を通して安全な方法を会得しなければならない。野外学習も同様である。
- 第12回：理科概説Aで扱った学習指導案についてさらに深く検討する。教科書の内容をいくつか提示するので、具体的に学習指導案を作成してもらう。可能な限り模擬授業を行うが、それができない場合は、「その授業のはじめの部分」の検討を行い、学生の考え方を出示してもらう。
- 第13回：ある教育雑誌に、「理科好きな子」はこうして育つ”の特集が出ていた。この中で提案されている授業を取上げ、検討し、何が優れているのか、を考える。
- 第14回：前回に続き、特集記事を取上げ、検討する。
- 第15回：ある教育雑誌に「授業プラン」が出ていた。このプランについて検討し、今後の教育活動にどう生かすか、考える。自分の教育レベルを高めるには先輩教師の実践例から多くのことを学び、日々の授業に生かしていかなければならない。実践して失敗（は本来ない！）を通じて成長できる。

【成績評価方法】

1. 定期考査の代わりに課題を与え、大学指定の期間内にレポートを提出する。
2. 適宜、課題を出し、レポートの提出を求める。
3. 模擬授業を行う。ただし、受講者の人数により行えない場合がある。
4. 出席点

【教科書】

特に指定しない。毎回資料を配布し活用する。

体育概説（理論）

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）
河本 洋子

【講義題目】

運動文化と体育

【授業の到達目標及びテーマ】

幅広い視野から体育のあり方を考え、各自の教育観、授業観、体育観を形成する。

【講義概要】

小学校体育においては、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していく基礎を培う視点が重視され、各種の運動に親しみ、運動が好きになることが意図されている。

この講義では、幅広い視野から体育のあり方を考え合っていくので、各自の問題として問い直してほしい。視聴覚教材も活用しながら、次のような内容を、考える素材として提供する予定である。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：子どもの生活・遊びの変化と体力低下
- 第3回：乳幼児の発達の特性と運動・遊び
- 第4回：低学年の発達の特性と体育
- 第5回：中学年の発達の特性と体育
- 第6回：高学年の発達の特性と体育
- 第7回：小学校学習指導要領（体育）の変遷
- 第8回：新学習指導要領（体育）の内容
- 第9回：体育の学習指導の具体例
- 第10回：運動文化の教材化
- 第11回：体操の教材的価値
- 第12回：スポーツの教育的意義
- 第13回：身体表現の教育的意味
- 第14回：教育観・授業観の違いと体育
- 第15回：まとめ

【成績評価方法】

授業への取り組み（リアクションペーパーほか）50%、レポート（期末）50%。

【教科書】

特定せず、適宜資料を配布する。

【参考書】

中森孜郎、教育としての体育、大修館書店

【その他】

基本的には講義だが、短時間でできる身体活動を取り入れるので、動ける服装、運動できる靴で参加のこと。
(ex. わらべうたあそび、長縄跳び、しっぽとり鬼などの実体験)

音楽概説 (理論)

学期 (前期) 履修年次 (1~4) 単位 (2)
吉仲 淳

【講義題目】

表現のための理論と実習

【授業の到達目標及びテーマ】

演奏表現のための基礎知識の習得および幼稚園、小学校教員養成に必要とされる指導のための音楽技術の獲得

【講義概要】

人間の動作、あるいは生きるということには、音との関係を無視することはできません。みんな音を出しているのです。人間だけではありません。生物やその環境を構成する自然物、そして人工的なものであっても、その操作により機能や性格を発見できるものすべてにおいて音とかがわっているのでしょうか。

音が、何かを表現するための一つの手立てとするならば、そこには意味が存在します。小さな子どもたちは、音を擬音語 (オノマトペ) に置き換えて語ります。

音は、発信するものの性格や機能、職種までも表現しているかのようであり、受信するものにとって、概念を与えたり、ルールを提供するべく働きかけてくるかのようです。このような視覚的に存在感のない音のキャッチボールを通して両者のあいだに何かしらの感覚が残ります。それがおそらく、音 (音楽) 表現の意味を識るということなのでしょう。本授業では、音楽やその根底に潜む表現の意味を識る手立てのひとつとして理論の在り方を考え、音楽という広いフィールド実践において、必要となる基礎知識を深めることとします。特に、作曲や即興演奏という創造的な空間を体験する中で、実践的な基礎知識の獲得を目指し、身体表現などを用いたリトミックソルフェージュを導入することにより、聴覚だけでなく、視覚や触覚などの他の感覚を通して理解を深めます。それにより、音楽そのものを自分自身のものとして受け入れ、把握するための独自の方法や、音 (音楽) を発信し、自己を表現するための演奏上のルール構築など、新しい自分だけの音 (音楽) との付き合い方…音楽理論のリコンストラクションを目標とします。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション	音楽理論とは 記号化する意義
第2回：音程 2度	
第3回：2度音程と音階 その1	長音階 歴史から見る変化
第4回：2度音程と音階 その2	3種類の短音階とその特徴
第5回：音程 3度	
第6回：3度音程と和音 その1	三和音の構造
第7回：3度音程と和音 その2	コードネーム：メジャーコード マイナーコード
第8回：3度音程と和音 その3	テンションコード ほか
第9回：和音から見る完全系の音程	
第10回：音程の転回と和音の転回形	指定ベース ほか
第11回：拍 その表記など	拍子 リズム
第12回：音符以外の表記	繰り返し記号 発想標語 その他
第13回：試験	

【成績評価方法】

コメントや提出物、小テスト及び定期試験 (授業時間内) による評価。出席は基本として全出席を原則とする。

【教科書】

石桁真礼生、末吉保雄他『楽典 理論と実習』音楽之友社

【準備】

音楽ノート (五線紙)

音楽概説 (器楽A)

学期 (前期・後期) 履修年次 (2~4) 単位 (2)
吉仲 淳・清川 美也子・村山 祐季子

【講義題目】

ピアノを用いた音楽の基礎知識と表現方法

【授業の到達目標及びテーマ】

器楽を通して幼稚園、小学校教員養成に必要とされる基礎知識および技術の習得

【講義概要】

音 (音楽) を媒介として、子どもたちとの知的活動を共有したり、お互いの表現をぶつけあうような創造的な場を展開するために器楽 (ピアノ) は、なくてはならないツールです。その役割は大変重要なものであり、創造的空間を構成し具体化するために、たとえば視覚的情報と聴覚的情報の授受、それらを包括した身体感覚的情報の共有というものがあります。

音楽は本来、耳 (聴覚) で聴くものであるにもかかわらず、楽譜というステージにおいては、目 (視覚) に訴えかけます。その目で見た楽譜のイメージを今度は聴覚に訴えかけるわけですが、その橋渡しになるべく、再生 (譜読み) するという作業

があり、それを器楽というものに役割を担ってもらわなければならない。

再生するという現実の段階から、創造し表現するという芸術的な段階へと移行するなかで、音楽は自分自身の内部に取り込まれ、そこには物理的な視覚は存在しません。しかし、音は見えるかのようで、存在感すら感じられるようです。おそらく、それは聴覚を刺激するための視覚や、その他の感覚を用いてイメージが確立された証しなのでしょう。実際、譜面台にある、すでに暗譜された楽譜というものは、その段階においては、ただメンタルサポートのためにあるようなもので、視覚的段階をすでに超越しているのでしょう。

もうひとつは、言語化し難い身体感覚的な情報の共有です。これは客観的に捉えることの難しい感性（芸術的主観）の共有であり、目で見えない音を媒介にしてそれぞれの主観をぶつけ合ういわば創造表現のトポスです。

そのような科学性と芸術性の狭間で、日常と非日常の世界の往復を、このレッスンを通して体験してみてください。

【授業計画】

基本的に、一人約15分程度の個別レッスンの形式を取り、ピアノ演奏技術を高め、音楽の理解を深めることを目標とします。教材としては、様々なピアノ教本を使用しますが、小学校および幼稚園などにおいて、用いるであろう歌唱教材の伴奏法や指導法・弾きうたいについても学習します。

【成績評価方法】

レッスンの出席、与えられた課題に対する練習努力、そして、グルーブレッスンでのプレゼンテーションや、発表会、年度末のレポートなどについての前向きな取組みを評価します。

【教科書】

練習曲などの楽譜は、初回のレッスン（オリエンテーション）で担当者と相談してください。

【その他】

受講希望者は、必ず音楽学習経験についてのアンケートを期限までに提出すること。未提出の場合、受講不可とします。

初等国語概説

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）
野口 芳宣

【講義題目】

国語教育の基礎・国語の成り立ちを理解しよう

【授業の到達目標及びテーマ】

国語科教育は、言語の教育の立場を明確にもっていなければならない。そこで、その基礎であり内容でもある、言語の役割、言語の多様な働きについて概観する。国語科教育は、単に国語科教科書の内容を伝達するものではなく、先人の大きな学問的文化的所産を背景に21世紀の日本の基礎づくりに寄与する誇りある仕事であるとの理解と認識を深める。

【講義概要】

初等国語概説では、小学生の言語能力の発達に中心を置き、国語（日本語）の発音・発声、文字、表記、語彙、文及び文章の構成等について、主に国語学・日本語教育研究の成果に学び、国語科学習指導にどう反映させるかを考察する。言語の獲得、言語能力の発達という立場から、脳研究・認知心理学的側面等からのアプローチも試みたい。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	初等国語概説と小学校学習指導要領・国語
第2回	発音・発声	入門期の国語・発音と発声・五十音・音読・リズム
第3回	文字と表記	平仮名・片仮名・漢字・送り片仮・ローマ字／書写
第4回	認識と言語	思考と言語・自問自答・揺れている日本語
第5回	語句の意味と語彙	意味・語句・語彙・和語と漢語・外来語・辞書
第6回	文と文章	文・文章の構成
第7回	音声言語	言語の教育としての聞くことと話すこと・敬語
第8回	文字言語	言語の教育としての文学的文章の教材 1
第9回	文字言語	言語の教育としての文学的文章の教材 2（古文・漢文）
第10回	文字言語	言語の教育としての説明的文章の教材 1
第11回	文字言語	言語の教育としての説明的文章の教材 2
第12回	文字言語	言語の教育としての書くことの教材
第13回	脳研究と言語能力	言語脳の発達・脳の障害と言語
第14回	評価（定期試験・小論文）	

【成績評価方法】

毎時間の学習状況（ミニレポート・発言内容や講義に触発された国語に対する関心・意欲についてのミニレポート）20%
定期試験・小論文50% 夏季レポート30%

【教科書】

毎時配布の資料 小学校学習指導要領解説・国語編 同総則編
小学校国語及び書写の教科書

【参考書】

国語教育指導用語辞典 第四版（教育出版） 国立国語研究所の出版物
国語に関する世論調査（文化庁） 他、必要に応じて適宜情報提供する。

図画工作概説（美術）

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）
横山 徹

【授業の到達目標及びテーマ】

本講では図画工作科における表現や鑑賞について、感性を働かせながら創造的な造形活動の基礎を身につけ、つくり出すことによる喜びと達成感を味わう。

【講義概要】

小学校における図画工作科の意義や理解を深め、感性や創造力を引き出す方法として、実技体験を通してながら学修指導要領に示された造形遊びを中心に美術教育のあり方を考察する。

【授業計画】

1. オリエンテーション 美術の教育なのか美術を通しての教育なのか（美術教育の意義と目的）
2. 学習指導要領における造形遊びの位置付け（子ども絵画の鑑賞を含む）大型パネルの制作
3. 造形遊びの意義（絵や立体で表すことの違い）
4. 大型パネルを使った造形遊びの展開（グループ制作「大きな樹」の制作）
5. 大型パネルを使った造形遊びの展開（グループ制作、ローラー遊びや型押し遊び）
6. 大型パネルを使った造形遊びの展開（グループ制作、新聞や各種素材を使ったコラージュ）
7. 造形遊びからの展開（紐、布を使った野外における表現活動、身体表現を含む）
8. グループ別発表会、相互鑑賞
9. 版画について（版種と表現）
10. 1版多色刷り版画の制作（彫刻刀と安全な使用について）
11. 1版多色刷り版画の制作（木版表現の可能性）
12. 1版多色刷り版画の制作（色彩と表現）
13. 1版多色刷り版画の制作（刷り1）
14. 1版多色刷り版画の制作（刷り2）
15. 作品の鑑賞、相互検討、まとめ

【成績評価方法】

学習への参加、意欲・態度20%、課題作品40%、レポート40%

【教科書】

『美術教育の基礎知識』建帛社 監修 宮脇 理

【参考書】

学習指導要領「図画工作編」

【その他】

実技を行なうため一クラス40名の人数制限を行なう。

図画工作概説（造形）

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）
横山 徹

【授業の到達目標及びテーマ】

つくることの喜びや素材のよさを感じるとともに道具の安全な使用方法を学びながら、鑑賞方法や図画工作における評価についてもその基本を身につけるものとする。

【講義概要】

小学校における図画工作科の意義や理解を深め、感性や創造力を引き出す方法として、ここでは木や粘土などの実材による立体造形表現を中心に行う。プリミティブな素材の持つ良さを創造活動に活かし、五感を使う体験を通して美的感性を養うことを目的とする。発想や構想能力を重視し、表現の技能を身につけるとともに、道具や機材の取り扱い方や、安全な使用方法などを学ぶものとする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
美術の教育なのか美術を通しての教育なのか（美術教育の歴史と美術教育の意義）
2. 主に木材などを使用した造形活動 1（想像から創造へ）
3. 自然の素材を使った表現活動 1（材料についての基礎知識や）
4. 自然の素材を使った表現活動 2（道具と使用方法、安全な取り扱い）
5. 自然の素材を使った表現活動 3（作りたいものを作る、学習指導要領との関連）
6. 自然の素材を使った表現活動 4（造形表現について、造形遊びとの関連）
7. 自然の素材を使った表現活動 5（他の材料とのコラボレーション）
8. 自然の素材を使った表現活動 6（鑑賞及び評価について）
9. 粘土を使った表現 焼き物の制作 1（焼き物についての基礎知識）
10. 粘土を使った表現 焼き物の制作 2（成形技法の研究）
11. 粘土を使った表現 焼き物の制作 3（手づくね技法による成形）
12. 粘土を使った表現 焼き物の制作 4（施釉、及び加飾）
13. 粘土を使った表現 焼き物の制作 5（焼成技法の研究）
14. 粘土を使った表現 焼き物の制作 6（作品発表、相互鑑賞）
15. まとめ（これからの美術教育のあり方）、試験

【成績評価方法】

平常点20%、課題作品50%、図画工作ノート及びレポート30%

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書】

学習指導要領 図画工作編 『美術教育の基礎知識』建帛社 監修 宮脇 理

【その他】

実技を行なうため一クラス40名の人数制限を行なう。

【講義題目】

国語教育の基礎・国語の成り立ちを理解しよう

【授業の到達目標及びテーマ】

国語科教育は、言語の教育の立場を明確にもっていなければならない。そこで、その基礎であり内容でもある、他の言語と比べた国語の特質や言語の多様な働きについて概観する。国語科教育は、単に国語科教科書の内容を伝達するものではなく、先人の大きな学問的文化的所産を背景に21世紀の日本の基礎づくりに寄与する誇りある仕事であるとの理解と認識を深める。

【講義概要】

中等国語概説では、中・高等・中等教育学校の言語の指導に中心を置き、国語（日本語）の音声、文字、語彙、単語、文及び文章の構成、言葉遣い等について、主に国語学・日本語教育研究の成果に学び、国語科学習指導にどう反映させるかを考察する。

【授業計画】

- | | | |
|------|--------------|----------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション | 中等国語概説と中・高等学校学習指導要領・国語 |
| 第2回 | 音声 | 五十音・音読・リズム |
| 第3回 | 文字と表記 | 漢字・送り片仮／書写 |
| 第4回 | 言葉遣い | 古語・現代語・敬語、揺れている日本語 |
| 第5回 | 語句と語彙 | 意味、語句、語彙、和語・漢語・外来語、語感 |
| 第6回 | 単語・文と文章 | 文・文章の構成 |
| 第7回 | 音声言語 | 聞くことと話すこと・発表・討論 |
| 第8回 | 文字言語 | 言語の教育としての文学的文章の教材 1 |
| 第9回 | 文字言語 | 言語の教育としての文学的文章の教材 2（古文・漢文） |
| 第10回 | 文字言語 | 言語の教育としての説明的文章の教材 1 |
| 第11回 | 文字言語 | 言語の教育としての説明的文章の教材 2 |
| 第12回 | 文字言語 | 言語の教育としての書くことの教材・表現の技法 |
| 第13回 | 国語教育展望 | 今日の国語教育をめぐる諸問題 |
| 第14回 | 評価（定期試験・小論文） | |

【成績評価方法】

毎時間の学習状況（ミニレポート・発言内容や講義に触発された国語に対する関心・意欲についてのミニレポート）20%
定期試験・小論文50% 夏季レポート30%

【教科書】

毎時配布の資料 中・高等学校学習指導要領解説・国語編 同総則編
中・高等学校国語の教科書

【参考書】

国語教育指導用語辞典第四版（教育出版） 国立国語研究所の出版物
国語に関する世論調査（文化庁） 他、必要に応じて適宜情報提供する。

国文学

【講義題目】

文学で日本を考える

【授業の到達目標及びテーマ】

日本の近現代文学の代表的作家の作品に触れながら、文学表現と同時代文化の関係についての知見を深めるとともに、文学的想像力の可能性について理解を深め、また「日本」とは何か、について文学的想像力の力を見定める。また、それを土台として文学表現の世界の魅力を児童、生徒に伝えることのできる言語運用、および理解能力を獲得する事を目標とする。

【講義概要】

明治期から現代までの日本の短編小説、詩を味読するなかから、文学表現の持つ力について考える。そしてその力がそれぞれの時代や状況といかに切り結ぶなかから生まれたかについて学生と共に考えてゆく。

【授業計画】

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | 文学とは何か？ 文学の言葉とは何か？ を考える |
| 第2回 | 近代文学の世界を探る（1）世界文学と近代 |
| 第3回 | 近代文学の世界を探る（2）日本の近代文学～古典との関係～ |
| 第4回 | 森鷗外「普請中」を読む |
| 第5回 | 森鷗外「普請中」とその時代 |
| 第6回 | 国木田独歩「武蔵野」を読む |
| 第7回 | 国木田独歩と初期自然主義文学 |
| 第8回 | 自然とは何か～「風景」の発見をめぐる～ |
| 第9回 | 太宰治「十二月八日」を読む～戦争の時代～ |
| 第10回 | 太宰治「十二月八日」～女語りと戦争～ |
| 第11回 | 太宰と坂口安吾～「墮落論」とその時代～ |
| 第12回 | 中島敦「マリヤン」を読む |
| 第13回 | 牛島春子「祝といふ男」を読む |
| 第14回 | 植民地時代の文学と様々な芸術表現 |
| 第15回 | 金鍾漢の詩を読む～朝鮮・韓国の詩と日本語～ |
| 第16回 | 野坂昭如「火垂るの墓」を読む |

- 第17回 「火垂るの墓」と銃後の世界
- 第18回 小島信夫「アメリカンスクール」とその背景
- 第19回 ≪戦後文学≫とは何か？
- 第20回 目取真俊「水滴」を読む
- 第21回 沖縄と戦後文学を考える～「日本」の記憶～
- 第22回 鳩沢佐美夫「証しの空文」～マイノリティへの視線～
- 第23回 アイヌ文学と日本語～パチェラー八重子、遠星北斗ほか
- 第24回 リービ英雄「仲間」をよむ
- 第25回 リービ英雄とその時代背景
- 第26回 日本語で書くということ～カズオ・イシグロを視界に据え
- 第27回 伊藤比呂美の詩を読む～「われわれ」という言説をめぐって
- 第28回 現代の女性詩人の詩を読む～白石かずこから小池昌代まで～
- 第29回 現代の女性作家～川上未映子の小説とエッセイと詩～
- 第30回 まとめ

【成績評価方法】

前期後期に各一回の期末レポート提出を求める。また授業内で、前期2回、後期2回のミニ・レポート提出を求める。期末のレポート（前後期各一回）（50%）、平常点（50%）から総合的に判断して評価する。平常点は出席回数とミニ・レポートによって評価する。なお、出席が全授業の2/3に満たない場合、評価は「不可」とする。

【教科書】

『文学で考える＜日本＞とは何か』（双文社出版、1980円）

その他、講義内容に関連する作品のコピーや「年表」、資料などを適宜配付する。

【参考書】

平川祐弘『和魂洋才の系譜』（河出書房新社）

柄谷行人『日本近代文学の起源』（講談社）その他、授業内で紹介する。

I N D E X

科目五十音索引

【ア行】

応用演習 I
応用演習 I
応用演習 I
応用演習 I
応用演習 I
応用演習 II
音楽概説 (器楽A)

音楽概説 (理論)

【カ行】

学校教育学総論
学校経営と学校図書館
家庭教育A
家庭教育B
基礎演習
基礎演習
基礎演習
基礎演習
基礎演習
キャリア教育A
教育学概説
教育学概説
教育学研究法

教育課程論
教育思想概説
教育社会学総論
教育情報学総論
教育心理学概説
教育心理学概説
教育制度概説
教育方法論
教職総合演習
教職総合演習
教職総合演習
教職総合演習
教職論
教職論
高等教育論A
国文学

【サ行】

算数概説A
算数概説B
児童福祉論
社会福祉概説
宗教教育学

小林 紀子……53
小森 茂……53
鈴木 宏昭……54
早坂 方志……54
藤田 幹夫……55
大森 秀子……55
小田 光宏……56
小林 紀子……56
小森 茂……57
酒井 豊……58
鈴木 宏昭……58
早坂 方志……59
藤田 幹夫……61
古荘 純一……59
柳田 雅明……60
吉仲 淳
清川 美也子
村山 祐季子……91
吉仲 淳……91

樋田 大二郎……82
小田 光宏……75
北本 正章……67
北本 正章……67
今井 重孝……47
河本 洋子……47
北本 正章……48
佐々木 竜太……49
古荘 純一……48
小川 誠子……66
藤田 幹夫……43
柳田 雅明……43
樋田 大二郎
酒井 豊……46
桜井 恵子……86
大森 秀子……46
今井 重孝……64
阿部 慶賀……73
庄司 順一……44
早坂 方志……44
鈴木 眞理……45
樋田 大二郎……86
岡田 純一……52
蔵元 幸二……49
長嶋 清……50
野口 芳宣……51
蔵元 幸二……84
早坂 五郎……85
小島 佐恵子……73
小関 和弘……94

正田 良……87
正田 良……88
澁谷 陽子……79
宮本 和武……68
大森 秀子……63

生涯学習概論 I
生涯学習概論 II
障害児・者の施設実習
障害児・者の心理 I
生涯発達心理学 I
生涯発達心理学 II
情報メディア論A
初等教育原理A
初等教育原理B
初等国語概説
図画工作概説 (造形)
図画工作概説 (美術)

【タ行】

体育概説 (理論)
中等国語概説
図書館システムサービス論
図書館情報学概説
図書館情報文化論

【ナ行】

日本教育史 I
日本教育史 II
人間形成学総論
認知科学概説

【ハ行】

比較発達社会学
保育方法研究A
保育方法研究B

【マ行】

メディア・コミュニケーション総論

【ヤ行】

幼児教育原理A
幼児教育原理B

【ラ行】

理科概説A
理科概説B
臨床教育学総論
臨床心理学概説 I
臨床心理学概説 II
臨床保育学A
臨床保育学B

柳田 雅明……71
柳田 雅明……72
丸山 千秋……71
早坂 方志……70
高橋 千香子……65
高橋 千香子……65
三浦 太郎……78
堀 健志……83
堀 健志……84
野口 芳宣……92
横山 徹……93
横山 徹……92

河本 洋子……90
野口 芳宣……94
小田 光宏……77
小田 光宏……76
三浦 太郎……77

酒井 豊……62
酒井 豊……62
酒井 豊……61
鈴木 宏昭……75

今井 重孝……64
高嶋 景子……81
宇田川 久美子……82

山下 清美……74

小林 紀子……78
小林 紀子……79

堀 美三夫……88
堀 美三夫……89
庄司 順一……68
丸山 千秋……69
丸山 千秋……70
庄司 順一……80
庄司 順一……81

心理学科

学科科目

教育人間科学部心理学科 学科科目担当者一覧および講義内容目次

区分	学科科目の名称	単位数	担当者	学期	履修年次	キャンパス	頁	
I 群	心理学基礎演習 I	2	山根 律子	前期	1	相模原	103	
	〃	2	坂上 裕子	前期	1	相模原	103	
	〃	2	檀淵 めぐみ	前期	1	相模原	104	
	心理学基礎演習 II	2	薬師神 玲子	後期	1	相模原	104	
	〃	2	塚原 拓馬	後期	1	相模原	105	
	〃	2	和嶋 雄一郎	後期	1	相模原	105	
	心理学概論	4	松田 英子	通年	1	相模原	106	
	基礎心理学	2	入不二 基義・ 遠藤 健治・ 小俣 和義・ 北村 文昭・ 坂上 裕子・ 繁樹 江里・ 平山 栄治・ 丸山 千秋・ 薬師神 玲子・ 山根 律子	後期	2	相模原	106	
	心理統計学基礎	4	遠藤 健治	通年	2	相模原	107	
	心理統計学基礎	4	和嶋 雄一郎	通年	2	相模原	108	
	心理学実験	4	遠藤 健治・ 織田 弥生	通年	2	相模原	108	
	心理学実験プログラミング	2	薬師神 玲子	前期	2	相模原	109	
	心理統計実習	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	哲学的認識論	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	心の哲学	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	心理学史	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
心理学研究法	2	2011年度開講	半期	3	青山			
II 群	学習心理学	4	2011年度開講	通年	(1・2)・3・4	青山		
	教育心理学	4	高木 友子	通年	1・2	相模原		109
	発達心理学	4	中 一郎	通年	1・2	相模原		110
	生涯発達心理学 I	2	坂上 裕子	前期	2	相模原		111
	生涯発達心理学 II	2	坂上 裕子	後期	2	相模原		112
	生涯発達論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	知覚心理学	2	薬師神 玲子	前期	2	相模原		112
	認知科学概論	2	鈴木 宏昭	前期	2	相模原		113
	認知心理学	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	音楽心理学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	感情心理学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	神経心理学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	人格心理学	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	犯罪心理学	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
社会心理学	4	2011年度開講	通年	3・4	青山			

II 群	社会心理学 I	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	社会心理学 II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	産業心理学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	広告心理学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	ノンバーバル・コミュニケーション I	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	ノンバーバル・コミュニケーション II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	応用社会心理学特講 I	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	応用社会心理学特講 II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	応用社会心理学特講 III	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	応用社会心理学特講 IV	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	応用社会心理学特講 V	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	応用社会心理学特講 VI	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	心理学特講 A	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
心理学特講 B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山			
III 群	学校心理学	2	2011年度開講	半期	(1・2)・3・4	青山		
	臨床心理学	4	丸山 千秋	通年	2	相模原		113
	臨床心理学 I	2	2011年度開講	半期	(2)・3・4	青山		
	臨床心理学 II	2	2011年度開講	半期	(2)・3・4	青山		
	臨床保育学	4	庄司 順一	通年	2	相模原		114
	障害児・者の心理 I	2	早坂 方志	前期	2	相模原		115
	心理療法 I	2	2010年度休講	半期	2	相模原		
	臨床心理学特講	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	精神分析学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	精神医学	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	心理療法 II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	音楽療法	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	相談心理学	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	家族心理学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	健康心理学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	コミュニティ心理学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	障害児・者の心理 II	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	障害児・者の教育	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	障害児・者の福祉	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	障害児・者の医学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
臨床心理実務倫理論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山			
IV 群	障害児・者の施設実習	2	丸山 千秋	不定	2	相模原	116	
	心理面接法	4	2011年度開講	通年	3・4	青山		
	医療心理実地演習事前指導	1	2011年度開講	不定集中 (半期)	3	青山		
	心理検査演習 A	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	心理検査演習 B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		
	心理検査演習 C	2	2011年度開講	半期	3・4	青山		

IV 群	心理検査演習 D	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	心理療法実習	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	応用行動分析	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	音楽療法演習	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	医療心理実地演習	4	2012年度開講	通年	4	青山
V 群	身体医学	2	2012年度開講	夏休集中 (隔年開講)	3・4	青山
	心身医学	2	2011年度開講	夏休集中 (隔年開講)	3・4	青山
	薬理学	2	2011年度開講	夏休集中	3・4	青山
	脳生理学	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	精神衛生	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	母子保健	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	成人・高齢者保健	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	精神保健福祉	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	保健・医療・福祉・制度論	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	社会保障制度と関連法規	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
VI 群	心理学演習 I A	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	心理学演習 I B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	心理学演習 II A	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	心理学演習 II B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	心理学演習 III A	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	心理学演習 III B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	心理学演習 IV A	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	心理学演習 IV B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	哲学文献講読演習	4	2011年度開講	通年	3・4	青山
	心理学原書講読 A	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
	心理学原書講読 B	2	2011年度開講	半期	3・4	青山
VII 群	卒業研究 I	4	2011年度開講	通年	3	青山
	卒業研究 II	6	2012年度開講	通年	4	青山

【その他】

- ・グループで作業を行うことが多いため、欠席や遅刻をする場合には事前連絡を入れること。
- ・受講者の理解度や習熟度に応じて、授業計画に多少の変更を加えることがある。

心理学基礎演習Ⅰ

学期（前期）履修年次（1～4）単位（2）
檀淵 めぐみ

【授業の到達目標及びテーマ】

心理学とはどのような学問であるかを理解し、現代心理学の各分野における基礎知識を身につける。プレゼンテーション力の向上をはかる。

【講義概要】

心理学のテキストを用いて、発表授業の形式で、基礎的な知識や研究方法を学習する。心理学全般についての知識を深めるとともにプレゼンテーションの技術を学ぶ。授業中に簡単な実験やテストを行うことがある。

【授業計画】

- 第1回 授業の進め方などのオリエンテーション、発表担当項目の決定、参考書の紹介
- 第2回 学生のプレゼンテーションと全員によるディスカッション
- 第3回 学生のプレゼンテーションと全員によるディスカッション
- 第4回 学生のプレゼンテーションと全員によるディスカッション
- 第5回 学生のプレゼンテーションと全員によるディスカッション
- 第6回 学生のプレゼンテーションと全員によるディスカッション
- 第7回 学生のプレゼンテーションと全員によるディスカッション
- 第8回 学生のプレゼンテーションと全員によるディスカッション
- 第9回 学生のプレゼンテーションと全員によるディスカッション
- 第10回 学生のプレゼンテーションと全員によるディスカッション
- 第11回 学生のプレゼンテーションと全員によるディスカッション
- 第12回 学生のプレゼンテーションと全員によるディスカッション
- 第13回 学生のプレゼンテーションと全員によるディスカッション
- 第14回 学生のプレゼンテーションと全員によるディスカッション
- 第15回 学生のプレゼンテーションと全員によるディスカッション

【成績評価方法】

出席状況、担当項目についての発表、レジュメ、全体を通してのディスカッションへの参加などをもとに総合的に評価する。
なお、出席は全授業回数の3分の2以上が必要である。

【教科書】

重野純編：『キーワードコレクション心理学』新曜社

【参考書】

授業中に随時紹介する。

【その他】

第1回目の授業時に教科書を必ずもってくること。

心理学基礎演習Ⅱ

学期（後期）履修年次（1～4）単位（2）
薬師神 玲子

【講義題目】

心理学データ解析入門

【授業の到達目標及びテーマ】

コンピュータを利用したデータ解析の基礎を習得する。

【講義概要】

心理学の研究では、データの統計処理や実験などでコンピュータを多用する。この授業では、コンピュータを使ったデータ解析、統計の入門的実習と、情報検索方法の学習を中心に、2年次以降の学習を円滑に進めるための準備を行う。コンピュータ、数式にアレルギーのある人は、この授業が終わるまでに、アレルギーを克服して欲しい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データの整理方法1：集計表の作成
- 第3回 データの整理方法2：グラフの作成
- 第4回 データの読み取り1：分布の性質を見る
- 第5回 データの読みとり2：分布の比較をする
- 第6回 データの読みとり3：変数間の関係を見る
- 第7回 大きなデータの集計
- 第8回 グループ演習1
- 第9回 文献情報検索の基本
- 第10回 報告書作成の基本
- 第11回 プレゼンテーションの基本
- 第12回 グループ演習2
- 第13回 グループ・プレゼンテーション
- 第14回 最終課題プレゼンテーション1
- 第15回 最終課題プレゼンテーション2

【成績評価方法】

出席および平常点（50％）と、授業期間中に課す課題（レポート2本+プレゼンテーション）の成績（50％）をもとに評価を行う。

【教科書】

テキストは特に指定しない。各授業開始時にプリントを配布する。

【参考書】

参考文献は、初回に提示する。

【その他】

質問は、基本的に、授業中に設ける作業時間中に受け付ける。

心理学基礎演習Ⅱ

学期（後期）履修年次（1～4）単位（2）

塚原 拓馬

【授業の到達目標及びテーマ】

心理学論文作成のための必要最低限のスキルの獲得と、現代の社会人を目指すに当たり必要なIT知識とスキルの習得を目標とする。

（Microsoft Office Specialistにおける基礎レベルのWord、Excel、Powerpointに対応できるスキルを基準とする）

【講義概要】

昨今の社会では、ITから離れて生活することはできない。学業上や日常的にはもとより、殆どの社会的業種においてもPCのスキルは必要な条件となっている。このような時代のニーズに応えるためには、必要最低限のPCマナーや使用スキルを卒業までに習得しておく必要がある。

そこで、本講座では、心理学を学ぶに当たり必要なデータ整理法、論文作成法を習得することをに加え、一般社会において求められているスキルとしての最低限のPC使用スキルを習得することを目的とする。さらに、メールやネットなどからの情報に惑わされようとするために、PCを通じた適切な情報収集法、取捨選択と有意味な解釈の必要性について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、PCの使用上のマナー（メールの出し方や情報守秘、知的財産権など）
- 第2回 ネット（インターネットの活用、メールのマナー）
- 第3回 文書作成1（Wordの使用法）
- 第4回 文書作成2（Wordの使用法）
- 第5回 データの整理方法1（Excelの使用法）
- 第6回 データの整理方法2（Excelの使用法）
- 第7回 WordとExcelを用いた文書作成法
- 第8回 プレゼンテーション作成法1（Power Pointの使用法）
- 第9回 プレゼンテーション作成法2（Power Pointの使用法）
- 第10回 プレゼンテーション1
- 第11回 プレゼンテーション2
- 第12回 プレゼンテーション3
- 第13回 心理学論文作成におけるPC活用法など

【成績評価方法】

出席点（60％）とレポート・プレゼンテーション（40％）を総合評価する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

初回に指示する。

【その他】

心理学の卒業論文作成の為だけでなく、一般社会における最低限の社会的スキルを身に付けましょう。

心理学基礎演習Ⅱ

学期（後期）履修年次（1～4）単位（2）

和嶋 雄一郎

【授業の到達目標及びテーマ】

研究を行っていく上で必要とされるコンピュータスキルを学習する

【講義概要】

心理学の学習や研究を進めていく上で、データの処理や論文作成、プレゼンテーションなど、コンピュータの利用が不可欠である。

本演習では、コンピュータを使ったデータ解析、統計の入門的実習と、情報検索方法の学習を中心に、今後の学習や研究活動を円滑に進めていくためのコンピュータスキルを学習していく。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Word・Excelの練習
- 第3回 データの読みとり1：Excelで表を作る
- 第4回 データの読みとり2：Excelでグラフを作る
- 第5回 データの読みとり3：Excelでデータを集計する
- 第6回 データの読みとり4：演習
- 第7回 報告書の作成1：WordにExcelで作成した図表を取り込む
- 第8回 報告書の作成2：WordにExcel以外の図や写真を取り込む

- 第9回 インターネットを使った文献・情報検索
- 第10回 わかりやすいプレゼンをするには：PowerPointでプレゼン用スライドを作成する
- 第11回 PowerPoint演習1
- 第12回 PowerPoint演習2
- 第13回 最終課題プレゼンテーション1
- 第14回 最終課題プレゼンテーション2

【成績評価方法】

課題、レポート、出席を総合して評価する

【教科書】

なし

【参考書】

演習の進行に合わせて、演習中に提示する

【その他】

毎演習ごとに資料を配布するので、きちんと出席するようにしてほしい

心理学概論

学期（通年）履修年次（1～4）単位（4）

松田 英子

【講義題目】

心理学概論 -心はどこまでわかったか？

【授業の到達目標及びテーマ】

心理学発展の歴史から現代心理学の発展領域までその概要を1年間学習することがこの授業の目的です。1年間の学習の後、心理学という学問の全体像をつかむこと、自分の関心のある専門分野を見つけることが、この授業の到達目標になります。

【講義概要】

ドイツの心理学者エビングハウスが「心理学の過去は長い、歴史は短い」と述べるように、古来より人の心についての関心は高かったが、心理学の対象となる人間の「心」をどう確かめるかという方法論の問題があったため、現代心理学は誕生から約120～30年の比較的新しい学問である。心理学のルーツは哲学にあるが、実際に大学で教育・研究されている内容は、実証科学の領域が多い。心を研究、測定する方法はどこまで進んだのか、現在どんな心理学の応用分野があり、どの程度社会的要請があるのかについて、心理学の歴史とその展開について紹介していきたい。

【授業計画】

前期

第1回：イントロダクション、第2回：心理学史1（心理学の歴史と現状）、第3回：心理学史2（心理学の研究手法）、第4回：心理学史3（心理学の発展領域と応用分野）、第5回：脳と行動、第6回：情動と動機づけ、第7回：学習、第8回：感覚・知覚、第9回：認知、第10回：記憶、第11回：心理アセスメント、第12回：パーソナリティの形成、第13回：知能、第14回：パーソナリティ障害、第15回：前期試験

後期

第16回：前期試験の解説と総括、第17回：健康とパーソナリティ、第18回：対人関係の心理学、第19回：群集心理、第20回：対人認知、第21回：生涯発達、第22回 乳幼児期・児童期の心理、第23回：思春期・青年期の心理、第24回：成人期・老年期の心理、第25回：正常と異常、第26回：精神疾患の理解と心理診断、第27回：精神科医療と心理療法、第28回：カウンセリング、第29回：ストレスと適応、第30回：後期試験

【成績評価方法】

1. 定期試験（2回、約95%：前期試験と後期試験の合計点）と、2. 出席（年に数回小レポート、約5%）の 総合評価。

【教科書】

松田英子（2003）図解・心理学が見る見るわかる サンマーク出版

【参考書】

長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦（2000）はじめて出会う心理学 有斐閣アルマ

佐藤達哉編著（2005）心理学史の新しいかたち 誠心書房

その他、毎回の講義でレジュメを配付します。随時ビデオ学習を取り入れます。

【その他】

できるだけわかりやすく心理学の各分野を少しつご紹介します。自分の関心領域（専門分野）を見つけられるように、楽しみながら授業を受講してください。

基礎心理学

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）

遠藤 健治

【講義題目】

心理学研究入門

【授業の到達目標及びテーマ】

各専任教員の専門領域ならびにその分野におけるトピックスなどを知ることにより、心理学研究の広がり興味深さを体得することを目的とする。また、3年次以降に行う「卒業研究Ⅰ、Ⅱ」のテーマ、および指導教員を選考するための情報提供の場としても位置づけられる。

【講義概要】

担当教員：入不二 基義・遠藤 健治・小俣 和義・北村 文昭・坂上 裕子・繁樹 江里・平山 栄治・丸山 千秋・山根 律子・薬師神 玲子

心理学を専攻する学生を主な対象者として、心理学の各専門領域での最近の研究動向、話題の研究例、あるいは教員自身の研究テーマについて、心理学科10名の教員が順に1～3回ずつオムニバス形式で講義を行う。

【授業計画】

- オリエンテーション
- 入不二基義／哲学的着想について (I)
- 遠藤健治／対人魅力に関する理論の紹介, 他 3 回
- 小俣和義／心理臨床における実践研究の方法
- 北村文昭／コミュニケーションと実践
- 坂上裕子／乳幼児の発達の研究方法－豊かなデータを収集するために－
- 繁樹江里／対人コミュニケーション研究
- 平山栄治／個人心理療法
- 丸山千秋／動作の研究と臨床
- 山根律子／発達障害と臨床
- 薬師神玲子／視知覚の数理モデル

試験

紹介するテーマは、変更する可能性もある。
 ゲストスピーカーをお招きして、臨床実践等に関する講義を行うことも予定している。
 (授業のスケジュールは、最初の授業の際に発表する)

【成績評価方法】

- 1) 出席 (欠席の回数に応じて、期末テスト点を減点する)
- 2) 期末テスト (試験期間中に実施 100%)

【参考書】

- 入不二 入不二著『足の裏に影はあるか? ないか? 哲学随想』(朝日出版社)
- 遠藤 遠藤著『心理学名画座』(近代文芸社)
- 小俣 津川・遠藤著『臨床心理学研究実践マニュアル』(金剛出版)
- 北村 (授業中に紹介する)
- 坂上 (なし)
- 繁樹 (授業中に紹介する)
- 平山 平山著『「生死の身代わり空想」とそこからの離脱』(『心理臨床学研究』第14巻第4号、日本心理臨床学会、1997年)
- 平山著『ロジャーズの意義と「3つの幻滅体験」の検討』(『ロジャーズ再考: カウンセリングの原点を探る』培風館)
- 平山著『心理療法の学派とアイデンティティ』(『ロジャーズ学派の現在』(至文堂))
- 丸山 藤岡孝志編著『アクティブに生きる－自己活動の心理学－』(ソフィア)
- 成瀬悟策編著『臨床動作法の理論と治療』(至文堂)
- 薬師神 ゲシャイダー著『心理物理学－方法・理論・応用 (上・下)』(北大路書房)
- 山根 杉山登志郎著『発達障害の子どもたち』(講談社現代新書)
- 山下成司著『発達障害 境界に立つ若者たち』(平凡社新書)

心理統計学基礎

学期 (通年) 履修年次 (2～4) 単位 (4)
 遠藤 健治

【講義題目】

心理測定データ処理の基礎

【授業の到達目標及びテーマ】

3、4年生配置の「卒業研究Ⅰ、Ⅱ」では、必ずデータをとって適正なデータ処理を施した上で論文を作成しますので、2年生でデータ処理の基礎を学び、自分でデータ処理ができるようになることをめざします。

【講義概要】

心理学実験や教育評価、社会調査などから得られた数値データを処理するための統計的手法について講義・実習します。パーソナルコンピュータ上で動く表計算ソフト (Microsoft Excel) を用いて、受講者全員が実際に数値処理をしながら授業を進めます。授業では毎時間、対人関係等に関する例題をとりあげ、どのような問題意識のもとに、どのようにデータを取り、集計し、結論づけるのか、そのプロセスを順に見ていく中で、少しずつ心理統計の手法や用語を紹介します。

【授業計画】

- 1 授業の目的、数値化の意義、研究と統計処理
 - 2 統計処理の基本的手順、帰無仮説
 - 3～4 距離データの記述と検定 代表値・散布度
 - 5～8 距離データの記述と検定 t検定、ランダムマイゼーション検定
 - 9～14 距離データの記述と検定 分散分析
 - 15 距離データの記述と検定 多重比較
 - 16 分類データの記述と検定 代表値・散布度
 - 17～21 分類データの記述と検定 χ^2 検定、マクネマー検定、Q検定、二項検定
 - 22～26 相関関係の検討 積率相関係数、順位相関係数、一致係数、点相関係数、定性相関係数、点双列相関係数
 - 27～29 順序データの記述と検定 代表値・散布度、メディアン検定、ラン検定、クルスカル・ワリス検定、サイン検定、フリードマン検定
 - 30 尺度構成 (データ変換)
- 受講生の理解度によって進度が変わることがあります。

【成績評価方法】

後期末に1回試験を行います。試験はコンピュータールームで行い、持ち込みはすべて許可します。実験・調査を行って得られたデータを示しますので、それを集計し、グラフ化に表し、所見を述べ、統計的検討を行い、結論を述べて下さい。また、毎回授業の最後にショートレポートを書いて、共有フォルダに投稿する機会を設けます。その他に、年4～6回課題を出します。後者2つは、提出状況に応じて、試験得点に加算します。

【教科書】

遠藤健治 2002 例題からわかる心理統計学 培風館
遠藤健治 2007 Excelによるデータ処理入門 北樹出版

【参考書】

推薦図書

森敏昭・吉田寿夫 1990 『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』 北大路書房

心理学で用いる基礎的な統計手法があらかた網羅され、とりわけ分散分析の解説が充実している。大学院に進んでも使える教科書である。

高橋寛 1977 『統計のみ・か・た』 三省堂

高校生向けに数学を易しく、興味深く解説しようというシリーズの中の1冊。心理学の事例はいっさい出てこないが、統計とは何なのかを平易に説いているので大学生（特に文学部学生）が読んで良いと思われる。統計の最大の難関は「帰無仮説」という概念であるが、これもわかりやすく説明されている。ただし、入門書であるので、分散分析などは触れられていない。

遠藤健治 2002 『SPSSにおける分散分析の手順』改訂版 北樹出版

分散分析を、汎用統計パッケージSPSSで処理する際の手順を詳細に、心理学の具体的な研究例を交えて解説している。

【その他】

実習用データはExcelファイルとして配布しますので、授業中のノートテイキングは、各自そのファイル上に書き込む形で進行します。キーボード入力に慣れておいてください。

パソコンルームは大教室になりますので、教室の前の方に着席してください。

心理統計学基礎

学期（通年）履修年次（2～4）単位（4）

和嶋 雄一郎

【授業の到達目標及びテーマ】

心理学実験等で得られたデータを統計的に処理する方法を学ぶ

【講義概要】

心理学実験や教育評価、社会調査などから得られた数値データを処理するための統計的手法について講義・実習する。

心理学実験などを行う場合、どのような問題意識のもとに、どのようにデータをとり、集計し、結論づけるのか、といったことを理解するために、受講者が実際に表計算ソフト（Microsoft Excel）を使用し数値データを処理しながら学習を進めていく。

【授業計画】

- 1 授業の目的、数値化の意義、研究と統計処理
- 2 統計処理の基本的手順、帰無仮説
- 3～5 距離データの記述と検定 代表値・散布度、t検定、ランダムイゼーション検定
- 6～11 距離データの記述と検定 分散分析、下位検定
- 12～13 相関関係の検討 積率相関係数
- 14～15 相関関係の検討 順位相関係数、一致係数、点相関係数、定性相関係数、点双列相関係数
- 16～22 分類データの記述と検定 代表値・散布度、 χ^2 検定
- 23 分類データの記述と検定 マクネマー検定、Q検定、二項検定
- 24～27 順序データの記述と検定 代表値・散布度、メディアン検定、ラン検定
クルスカール・ワリス検定、サイン検定、フリードマン検定
- 28 尺度構成（データ変換）

【成績評価方法】

出席、レポート、学期末試験を総合して評価する

【教科書】

遠藤健治 2002『例題からわかる心理統計学』 培風館

遠藤健治 2007『Excelによるデータ処理入門－集計から編集、要約、グラフ化、検定まで－』 北樹出版

心理学実験

学期（通年）履修年次（2～4）単位（4）

遠藤 健治・織田 弥生

【講義題目】

心理学実験の基礎

【授業の到達目標及びテーマ】

3年次以降になると、自分で実験や調査、検査、観察等の手法を用いてデータを取り、研究論文を作成することが求められます。この授業では、その基礎となる知識や技法、態度を身につけることを目的とします。

【講義概要】

この授業では、毎時間、実験・観察・調査・検査等の方法により、人間の行動や内的状態（感覚知覚反応や生理的反応、知能、性格、社会的態度等）を測定し、得られた結果（データ）からどのように結論を導き出すのか、そのプロセスを学習します。そしてそれをいかにして論文の形にまとめるのかを学び、その実験種目の「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」をレポートにまとめて《毎週》提出します。

年間を通じて小グループ（16名程度）～中グループ（70名程度）に分かれて実験実習を行います。全体を3つのセッションに分け、第1セッションでは、感覚・知覚や記憶・動作学習に関する実験を取り上げます。また、生理的反応を測定する実験も組み入れています。第2セッションでは、印象やイメージを測定するための方法の学習、生理的反応の測定、行動指標の測定などを主に扱います。第3セッションでは、性格検査や知能検査の実習を行い、その成り立ちや意義、実施上の問題点などを学習します。

【授業計画】

第1回目 オリエンテーション

第2～11回目 第1セッション（長さの錯視、同心円錯視、仮現運動、暗記学習、視野の逆転、GSRの測定、鏡映描写、蝕二点関）

第12～21回目 第2セッション（立体視、SD法、一対比較法、迷路学習、ストレスの測定、心肺機能の測定、視線の測定、パーソナルスペース）

第22～30回目 第3セッション（YG性格検査、MPI、STAI、知能検査、CAS、認知機能検査）

※実験種目、実施日程は変更することもあります。

【成績評価方法】

毎週出席し、実験に参加し、レポートを提出することが必須条件です。欠席数、レポート未提出数がそれぞれ8回を超えると、単位認定の対象から外れます。レポートは1本10点満点で採点し、学期末に、その合計点を提出すべきレポート数で除した値を求め、それを10倍したものが個人成績となります。その他に年間5回以上、3・4年生や大学院生の研究協力者となることも求められます。

【教科書】

毎週、プリント資料を配付します。

心理学実験プログラミング

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）

薬師神 玲子

【講義題目】

Visual Basicによる心理学実験プログラミング

【授業の到達目標及びテーマ】

心理学実験をコンピューター上で行うのに必要なプログラミング技術の基礎を身につける。

【講義概要】

コンピューターは、今や心理学実験の最も重要なツールの一つである。この授業では、コンピューターを用いて心理学実験を行うのに必要なプログラミング技術の習得を目指す。使用する言語はMicrosoft社のVisual Basicで、授業は実習を中心に進める。

【授業計画】

第1回 Visual Basicの起動

第2回 Visual Basicの基本操作法

第3回 Visual Basicの基本文法1：変数、TextBox

第4回 Visual Basicの基本文法2：条件分岐IF文、乱数

第5回 Visual Basicの基本文法3：くり返しFor文

第6回 グラフィックス入門

第7回 グローバル変数・ユーザー定義プロシージャ

第8回 配列変数

第9回 ランダム順序アルゴリズム

第10回 キー押し反応と正誤判定

第11回 VBによる時間制御

第12回 実験プログラム1：再認記憶実験

第13回 実験プログラム2：場所の記憶実験

第14回 実験プログラム3：ストループ現象

第15回 定期試験

【成績評価方法】

宿題の提出（50%）と、定期試験の成績（50%）をもとに成績評価を行う。

【教科書】

教科書は使用しません。担当教員が作成したプリントを使用する。

【参考書】

参考文献は、初回に提示する。

【その他】

質問は、基本的に、授業中に設ける作業時間中に受け付ける。

教育心理学

学期（通年）履修年次（1～4）単位（4）

高木 友子

【授業の到達目標及びテーマ】

科学的検証の態度、手法などを学び、研究とはいかなるものかを考え、教育心理学、発達心理学を中心に心理学的知見を獲得する。

【講義概要】

主に乳児から児童期まで発達や教育に関する心理学的理論を学びます。

【授業計画】

1 ガイダンス

2 赤ちゃんは他の動物とどこが違うのか

3 二足歩行の贈り物

4 赤ちゃんには何が見えているのか

5 赤ちゃんは何を聴いているのか

6 なぜ虐待は増え続けるのか

- 7 虐待はどうして発生するのか
- 8 虐待を受けると子どもはどんなダメージを受けるのか
- 9 子どもの発達に必要な栄養素
- 10 子どもは変わる・大人も変わる—人間発達の可塑性—
- 11 赤ちゃんはどうやってコミュニケーションしているのか
- 12 お母さんがそばにいれば安心か
- 13 親子の絆は母子によって違うのか
- 14 愛着関係はその後の子どもの発達に影響するか
- 15 親子の絆は文化によって異なるのか
- 16 赤ちゃんはどのように世界を認識しているのか
- 17 赤ちゃんは何を覚えているのか
- 18 ことばの発達を支えるもの
- 19 どのようにしてシンボルが使えるようになるか
- 20 指差しはどのように発達するか
- 21 ことばの意味の広がりや狭まり
- 22 ことばはどのように発達するか
- 23 ことばはうまれつき備わっているか
- 24 子どもはことばの意味をどうやって知るか
- 25 ことばとはどのような働きをするのか
- 26 ことばと認識の関係はどのようなものか
- 27 心の中のことばはどのように育つか
- 28 ことばによる行動のコントロール
- 29 何がエピソード記憶の発達を支えるのか
- 30 試験

【成績評価方法】

主に学年末の試験もしくはレポートにより評価します。受講態度や、課題提出の状態を加点・減点の要素として考慮することもあります。

【教科書】

内田伸子（編）（2007）「よくわかる乳幼児心理学」ミネルヴァ書房

【参考書】

授業時に参考文献など紹介する予定です。

発達心理学

学期（通年）履修年次（1～4）単位（4）
中 一郎

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ＝発達の視点から人間を理解する

人間を理解するための有力な理論・方法はあるが、これらは絶対的なものではありません。また、状況や場面によって使われる理論・方法は異なってきます。この授業では、発達という視点から人間を理解していきますが、単なる知識の暗記ではなく、学んだ知識をいかに発展させ、応用していくかを学生と教師が一緒になって考えていきます。多様な角度から人間の発達を理解することの重要性を認識することがこの授業の到達目標です。

【講義概要】

発達は一般に「受胎から死に至るまでの個体の心身の形態や機能の成長・変化の過程」と定義され、これに伴う行動の進化・体制化の様相、変化を規定する機制や条件などを解明し、発達法則の樹立を目指す心理学の一分野が発達心理学です。

発達心理学が他の分野の心理学と異なるのは年齢（世代などの時間軸、場合によっては文化差を含む）という概念を軸に人間を理解しようとする点です。3歳の幼児、20歳の青年、75歳の老人を同時に眼にした時、これら三者には様々な違いがあることは容易に指摘できます。しかし、その違いがどのようなメカニズムで生じるのかを説明することはなかなか難しいことです。

この授業では①発達のコースの記述、②発達のメカニズムの解明を中心に学んでいきます。先行研究や理論などを勉強していきますが、ただ単に知識を丸暗記するのではなく、一度自分の頭で内容を吟味し、疑問があったら追究してみるという学習態度を養って欲しいと思います。また、一つの知識を発展させ他の知識と統合していく応用力を身につけて欲しいと思います。そのために授業ではみなさんの考えを披露してもらいます。同じ事を学んでもその受け止め方、展開の仕方は各人各様です。他の受講生の意見を聞く事により自分の意見や考えがはっきりしてきます。

【授業計画】

全員参加の形で授業を進めていきます。教員と受講生との相互交流を通してそれぞれのテーマを考えていきます。授業の中身は大体以下の通りですが、必ずしもこの計画通りに進まないこともあります。

（前期）

- 第1回 : オリエンテーション
- 第2回 : 心理学における人間理解の方法
その①
- 第3回 : その②
- 第4回 : 発達とは何か その①
- 第5回 : その②
- 第6回 : 発達の区分
- 第7回 : 発達を規定する要因
- 第8回 : 胎児、新生児の姿の理解
- 第9回 : 出生時の問題
- 第10回 : 発達の諸側面

- ①身体の発達
- 第11回 : ②心と体の関係
- 第12回 : ③知覚の発達
- 第13回 : ④感情の発達
- 第14回 : ⑤感情と認知
- 第15回 : 事例研究
(後期)
- 第1回 : 夏期レポート課題の発表
- 第2回 : 発達の諸側面
 - ⑥知能の発達—1
- 第3回 : ⑦知能の発達—2
- 第4回 : ⑧認知の発達
- 第5回 : ⑨親子関係の発達
- 第6回 : ⑩対人関係の発達
- 第7回 : ⑪動機づけの発達—1
- 第8回 : ⑫動機づけの発達—2
- 第9回 : ⑬人格の発達—1
- 第10回 : ⑭人格の発達—2
- 第11回 : ⑮発達の障害—1
- 第12回 : ⑯発達の障害—2
- 第13回 : 時代の流れと発達
- 第14回 : 高齢社会へ向けて
- 第15回 : まとめ

【成績評価方法】

- ① 毎授業の後のコメント・感想(小レポート) 15%
- ② 前後期のレポート課題 60%
- ③ 授業への参加態度(発言回数など) 10%
- ④ 出席率15%

以上4つの内容を基準に総合的に評価します。

ただし、欠席回数が授業日数の3分の1を超えた場合、上記の基準に関係なく不合格といたします。

【教科書】

授業時にテキストを指示します。

【参考書】

必要に応じ紹介します。

生涯発達心理学 I

学期(前期)履修年次(2~4)単位(2)

坂上 裕子

【授業の到達目標及びテーマ】

生涯にわたる人の発達過程を、座学のみでなく、自身の体験を振り返ることを通して学び、人が「発達」とはどのようなことであるのか、ということについての理解を深める。

【講義概要】

私たちは生物の一種である「ヒト」として生を営んでおり、私たちの発達は、遺伝子に書き込まれた情報にしたがって展開していく。一方で、私たちは生まれた時から、社会や文化の中で他者と密なコミュニケーションを重ね、自己が育つ文化に特有の物の感じ方や考え方を身につけながら、「人」として発達していく。本講義では、このような遺伝と環境の複雑な相互作用の結果展開していく人間の発達について学び、考える。生涯発達心理学 I では、主に胎生期から幼児期までの発達について、生涯発達心理学 II では、主に児童期から老年期までの発達について扱う予定である。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「発達」とは何か -生涯発達心理学の観点から-
- 第3回 「ヒト」の発達の普遍性と特殊性
- 第4回 発達における遺伝と環境
- 第5回 発達段階と発達課題
- 第6回 赤ちゃんのもつ不思議な能力
- 第7回 言葉の生まれる道筋
- 第8回 親子の絆づくり
- 第9回 様々な親子関係
- 第10回 子どもの自分作り①関わりの中での自己の育ち
- 第11回 子どもの自分作り②複雑な感情の発達
- 第12回 仲間の中で育つ①自分を出すこと、抑えること
- 第13回 仲間の中で育つ②「心」に関する理解の育ち
- 第14回 発達の様々な個性：発達の躓きを支援する
- 第15回 前期のまとめ

【成績評価方法】

講義への出席状況、授業中に実施する課題ならびに講義に対する感想シートの提出状況と内容、期末の試験を以て総合的に評価する。

【教科書】

特に使用しない。

【参考書】

随時指示する。

【その他】

・この講義では、毎回、課題を行ったり講義への感想シートを提出してもらったりする。講義中に視聴した映像教材をもとに、自らの考えを述べてもらう課題が多いため、遅刻や欠席が多い者は単位取得が困難であるものと心得てもらいたい。

生涯発達心理学Ⅱ

学期（後期）履修年次（2～4）単位（2）
坂上 裕子

【授業の到達目標及びテーマ】

生涯にわたる人の発達過程を、座学のみでなく、自身の体験を振り返ることを通して学び、人が「発達」とはどのようなことであるのか、ということについて、理解を深める。

【講義概要】

私たちは生物の一種である「ヒト」として生を営んでおり、私たちの発達には、遺伝子に書き込まれた情報にしたがって展開していく。一方で、私たちは生まれた時から、社会や文化の中で他者と密なコミュニケーションを重ね、自己が育つ文化に特有の物の感じ方や考え方を身につけながら、「人」として発達していく。本講義では、このような遺伝と環境の複雑な相互作用の結果展開していく人間の発達について学び、考える。生涯発達心理学Ⅰでは、主に胎生期から幼児期までの発達について、生涯発達心理学Ⅱでは、主に児童期から老年期までの発達について扱う予定である。

【授業計画】

- 第1回 考える力の育ち：知能の発達
- 第2回 自己理解と他者理解の深まり①
- 第3回 自己理解と他者理解の深まり②
- 第4回 アイデンティティの確立に向けて
- 第5回 「大人」になるってどういうこと？①
- 第6回 「大人」になるってどういうこと？②
- 第7回 文化の中で生きる
- 第8回 現代における男性のライフコース
- 第9回 現代における助成のライフコース
- 第10回 親になることと親としての育ち
- 第11回 中年期の心の揺れ
- 第12回 老いを生きる
- 第13回 人生の最期を迎える
- 第14回 改めて、「生涯発達」とは
- 第15回 後期のまとめ

【成績評価方法】

講義への出席状況、授業中に実施する課題ならびに講義に対する感想シートの提出状況と内容、期末の試験を以て総合的に評価する。

【教科書】

特に使用しない。

【参考書】

随時指示する。

【その他】

・この講義では、毎回、課題を行ったり講義への感想シートを提出してもらったりする。講義中に視聴した映像教材をもとに、自らの考えを述べてもらう課題が多いため、遅刻や欠席が多い者は単位取得が困難であるものと心得てもらいたい。

知覚心理学

学期（前期）履修年次（2～4）単位（2）
薬師神 玲子

【授業の到達目標及びテーマ】

視聴覚を中心に、人間の感覚・知覚の働きについて、主として心理学および神経科学的研究によって現在までに得られている知見を概観する。また、感覚・知覚を研究する様々な研究手法について学ぶ。これを通して、人間の知覚世界とは何か、外界と知覚、心の関係について、各自が理解を深め、考察することを目標とする。

【講義概要】

私たち人間は、自らを取り巻く外界に働きかけながら生きている。ところが、私たちが一般に外界だと思っている世界、つまり、私たちが「見」たり「聞い」たりしている世界は、実は外界そのものではなく、目や耳、鼻や口などにある感覚器官からの情報に基づいて形成された知覚世界、言ってみれば、人間の神経系の働きによって作り出された心の世界である。この講義では、心の入口ともいえる感覚・知覚の働きについて、特に視聴覚を中心に概説する。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 神経系の基本的構造と働き
- 第3回 視覚の基礎
- 第4回 空間の知覚
- 第5回 物体の知覚
- 第6回 色の知覚

- 第7回 運動の知覚
- 第8回 注意と情景の知覚
- 第9回 聴覚の基礎
- 第10回 環境音の知覚
- 第11回 音楽と言語の知覚
- 第12回 触覚の基礎
- 第13回 嗅覚の基礎
- 第14回 味覚の基礎
- 第15回 定期試験

【成績評価方法】

出席 (30%) および期末テストの成績 (70%) で成績評価を行う。

【教科書】

石口彰 「キーワード心理学 1 視覚」 新曜社 2006年

【参考書】

重野純 「キーワード心理学 2 聴覚」 新曜社 2006年

ブルーム 「新・脳の探検 上」 講談社ブルーバックス 2004年

他 各回で提示する。

認知科学概論

学期 (前期) 履修年次 (2~4) 単位 (2)

鈴木 宏昭

【授業の到達目標及びテーマ】

人間の知覚、記憶、思考が、生成的な性質を持つこと、また多様な資源を利用する過程であることを理解する。

【講義概要】

認知科学は知性の性質を研究する学際的な研究分野である。本講義では、まず認知科学の古典的モデルである情報処理モデルについての解説を行う。その後、知覚や記憶を取り上げ、認識が生じるメカニズムについて検討を行う。次に問題解決や推論を取り上げ、その性質について実験データを用いながら検討する。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. 認知科学のフレームワーク 1 : 表象と計算
3. 認知科学のフレームワーク 2 : 認知の資源
4. 認知科学のフレームワーク 3 : 認知科学における科学性
5. 記憶の情報処理 : チャンキング
6. 記憶の情報処理 : 特異な記憶
7. 記憶の情報処理 : 記憶内のネットワーク
8. 表象の生成性 1 : 変化盲
9. 表象の生成性 2 : 目撃者証言
10. 思考の冗長性 1 : 思考の基本フレームワーク
11. 思考の冗長性 2 : 思考のバイアス、メディアリテラシー
12. 思考の冗長性 3 : 文脈依存性
13. 認知の開放性 1 : 外的資源の利用
14. 認知の開放性 2 : インタフェースの現状
15. 認知の開放性 3 : 課題分割とインタフェース

【成績評価方法】

人数に応じて変更する可能性があるが、小テスト、出席を兼ねた心理実験参加、期末試験に基づいて行う。

【参考書】

鈴木宏昭 (編) 「知性の創発と起源」 (オーム社)

稲垣佳世子・鈴木宏昭・大浦容子 「新訂認知過程研究」 (放送大学)

臨床心理学

学期 (通年) 履修年次 (2~4) 単位 (4)

丸山 千秋

【講義題目】

心の不適応と、それへの対応

【授業の到達目標及びテーマ】

心の不適応への対応について、理論的なことを学んだうえで、実際にどのような対応が行われるのかを理解する。

【講義概要】

心に問題を抱える人たちに対して、臨床心理学が、これまでどのような役割を担ってきたのかを概説する。

具体的には、その歴史、さまざまな立場の理論、心理査定、心理療法などについて述べるつもりである。また、実際の臨床に関する話題や、現代の心の問題に関するビデオも、折に触れて観てもらおうつもりである。

【授業計画】

- 1 授業のガイダンス、臨床心理学とは
- 2~3 前提となる知識の復習
- 4~7 臨床心理学の理論
- 8~10 心理査定 1~3
- 11~14 心理面接 1~4

15	試験		
16	後期授業のガイダンス		
17	ライフサイクルと心の問題	1	胎児、乳児期
18～20	ライフサイクルと心の問題	2～4	発達障害
21～23	ライフサイクルと心の問題	5～7	幼児期
24～25	ライフサイクルと心の問題	8～9	児童期
26～28	ライフサイクルと心の問題	10～12	青年期
29	ライフサイクルと心の問題	13	成人期、老年期
30	試験		

【成績評価方法】

各期末に、論述式の試験を行う。各回の試験は100点満点で、6割以上の得点を取った者を合格とする。各期に数回、出席をとる。試験での点数が6割に満たない者に対してのみ、1回5点の出席点を与える。その場合、試験の得点と出席点の合計が6割に達すれば、合格とする。

【教科書】

下山晴彦編著 2009 「よくわかる臨床心理学」(改訂新版) ミネルヴァ書房

【参考書】

下山晴彦編著 2000 「臨床心理学研究の技法」 福村出版

その他、参考書は、授業の時に、その都度紹介する。

【その他】

授業は、教員と受講者として作り上げていくものである。授業中の私語や飲食、および、教室を勝手に出たり入ったりする行為は厳禁であり、また、特別な事情がない限り、教室では帽子を脱いでもらう。

これらのことが守れない場合には、学生証を持って前に出て来てもらうことがある。

臨床保育学

学期(通年)履修年次(2～4)単位(4)
庄司 順一

【授業の到達目標及びテーマ】

乳幼児の生活、発達、行動(「障害のある子どもを含む」)を理解し、臨床的な問題とその対応について基本的理解を深める。

前期は、臨床保育学の基礎を内容とする。後期は、臨床的問題の理解を内容とする。

【講義概要】

臨床保育学は、乳幼児保育・幼児教育の実践にかかわる広い領域を含む。その内容は、大別すると、(1)保育実践にかかわる基本的課題、(2)多様な保育実践の理解、(3)保育実践で出会う臨床的諸問題、および(4)臨床的諸問題への対応、となる。

より具体的には、

- (1) 保育実践にかかわる基本的課題としては、子どもの生活環境、行動と発達、乳幼児の心の理解、および保育者としての「自分」の理解などがあげられる。
- (2) 多様な保育実践の理解としては、乳児保育、障害児保育、延長保育に加えて、いわゆる家庭的保育、病児保育、小児病棟での保育や、施設での養育(乳児院、児童養護施設など)などが含まれる。
- (3) 保育実践で出会う臨床的諸問題としては、子どもの心理的・発達の問題(摂食、排泄、睡眠の問題など)や、発達障害をもつ子ども、ハイリスク児といわれる子ども、行動上の問題を持つ子ども、被虐待体験をもつ子どもの保育とともに、子どもの事故と安全教育などがあげられる。
- (4) 臨床的諸問題への対応としては、相談の基本としてのカウンセリング、プレイセラピーの理論と実際の理解を中心に、子育て支援、家庭との連携、保健・福祉諸機関との連携などが含まれる。

本講では、これらの課題、問題を論じることをとおして、「乳幼児」「乳幼児の保育・教育」「相談の基本」について理解を深めたい。これらの目的を達成するために、諸資料の検討やVTRの視聴を行い、小グループでのディスカッションも行う。

【授業計画】

(前期)

第1回 オリエンテーション、臨床保育学とは

第2回 相談の基本

第3回 子ども虐待の理解と対応(1) 子ども虐待の定義と種類、子どもに及ぼす影響、実態

第4回 子ども虐待の理解と対応(2) 虐待の発生要因、保育所・幼稚園における対応

第5回 生活の理解(1) 施設での生活

第6回 アタッチメント

第7回 生活の理解(2) 少子化

第8回 子育て支援(1) 保育所での子育て支援

第9回 子育て支援(2) ファミリーサポート、家庭的保育

第10回 発達の理解(1) 新生児の行動

第11回 発達の理解(2) 妊産婦の心理

第12回 発達の理解(3) 低出生体重児と障害

第13回 カウンセリングの基本と事例研究のすすめ方

第14回 前期のまとめ

第15回 試験

(後期)

第1回 オリエンテーション

第2回 行動の理解(1) 子どもの睡眠と臨床

第3回 行動の理解(2) 摂食(摂食行動の発達)

第4回 行動の理解(3) 摂食(摂食行動の臨床)

- 第5回 行動の理解 (4) 排泄行動の発達と臨床
- 第6回 行動の理解 (5) 子どもの気質
- 第7回 乳幼児の事故 (1) 子どもの事故の特徴
- 第8回 乳幼児の事故 (2) 事故の予防
- 第9回 情緒行動上の問題をもつ子どもの理解と対応の基本
- 第10回 障害をもつ子どもの理解 (1) 障害の種類、障害をもつ子どもの発達
- 第11回 障害をもつ子どもの理解 (2) 障害をもつ子どもの保育
- 第12回 関連領域 (1) 保健
- 第13回 関連領域 (2) 福祉
- 第14回 後期のまとめ
- 第15回 試験

【成績評価方法】

授業中に実施する小レポート (20%) および前期末および後期末の試験 (80%) による。

【教科書】

教科書は使用しない。

【参考書】

庄司順一「改訂新版子ども虐待の理解と対応」フレーベル館
 石原栄子・庄司順一・田川悦子・横井茂夫「乳児保育 (第10版)」南山堂
 庄司順一「保育の周辺」明石書店

障害児・者の心理 I

学期 (前期) 履修年次 (2~4) 単位 (2)

早坂 方志

【講義題目】

障害児・者の理解と援助

【授業の到達目標及びテーマ】

障害児・者の理解と援助について、障害による相違ならびに障害児・者を取りまく今日的な状況を理解する。

【講義概要】

授業では、障害児・者の理解と援助について視聴覚教材や文献資料を基に論じ、障害児・者を取りまく今日的な内外の社会状況についても取り上げます。

講義を聴くという授業形態ではありません。受講者は、毎回の授業で資料として配付された事例や手記等について、自らの考えをまとめて発表し討議することが求められます。障害児・者一人ひとりの状況をどのように理解するか、ならびに理解しながらどう援助するかについて、受講者が自ら考えることが必要となります。

【授業計画】

1. オリエンテーション (授業概要、受講者の学習等)、「障害」の疑似体験
2. 「障害」概念
3. 「障害者」
4. 知的障害①
5. 知的障害②
6. 知的障害③
7. 肢体不自由①
8. 肢体不自由②
9. 肢体不自由③
10. 視覚障害①
11. 視覚障害②
12. 障害のある子供の養育
13. 特別支援教育
14. 発達障害
15. 定期試験

【成績評価方法】

授業での課題への取り組みと期末のレポート (50パーセント) ならびに、定期試験 (50パーセント) の合計により評価します。

【教科書】

『特別支援教育概説』 (学芸図書)

【参考書】

『発達障害白書2010』 (日本文化科学社)

【その他】

受講しようとする場合は、以下の要件について必ず確認してから履修登録すること。履修登録をした者は、これらの点を了承しているものとみなし、これらの点を満たせない時は、学期途中であってもそれ以降の受講を認めないことがあります。

- ・初回の授業に必ず出席し、授業計画、受講の仕方、成績評価について理解すること。
- ・欠席しないこと。
- ・遅刻しないこと。
- ・授業中の課題に必ず取り組むこと。
- ・私語、睡眠、携帯電話でのメール送受信など、授業と無関係のことをしないこと。

【講義題目】

障害児・者とともに生きる

【授業の到達目標及びテーマ】

障害児・者が自分を受け容れてくれるようになること、そのためには、自分も変わらなければならない。また、実習機関の職員の仕事の概略が理解できること。

【講義概要】

この科目は、実際に現場で教員や指導員、その他の職員から指導を受けながら、障害児・者と自分がどう関わっていいのかを学び、また、実習機関で行われている仕事の内容の一端を学ぶためのものである。諸資格（教職の「介護等体験」等）とは何ら関係がない。

この実習に参加できるのは、心理学科、教育学科の学生のうち、前年度中に予備登録を済ませ、レポートを数回提出して合格した者のみである。また、これまでに、障害児・者関係のいずれかの講義を受講した、もしくは、前期中に受講できる者が望ましい。

実習は、毎週決められた曜日に1年間通う形式と、9泊10日もしくは10泊11日の宿泊で集中して実習を行う形式の2つから各自選択する。実習先は必ずしも希望通りにはならないことがある。実習説明会において、実習機関の詳細について説明し、実習先の希望をとる。

【授業計画】

実習説明会を行う。相模原キャンパスは、3月31日（水）午後3時00分からF201教室、青山キャンパスは、4月3日（土）午後7時00分に、1120教室に集合すること。この日に欠席した者は、実習に参加することはできない。

実習期間および対象とする障害

- ①学校法人愛育学園「愛育養護学校」（港区南麻布）、
4月下旬から来年3月下旬まで毎週1度の通い、自閉症の児童
- ②社会福祉法人「光道園」（福井県鯖江市）、
夏休み中の9泊10日、視覚障害および視覚障害との重複障害の成人
- ③社会福祉法人樺の木福祉会「山の子学園共同村」（長野県小県郡）、
夏休み中の9泊10日、知的障害の成人
- ④社会福祉法人「野菊寮」（静岡県御殿場市）、
青山祭期間をはさんだ9泊10日もしくは10泊11日、知的障害その他の成人

【成績評価方法】

実習機関からの評価と、実習記録による。

【教科書】

指定しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【その他】

実習にかかる諸費用（実習謝金、交通費、宿泊費、食費、その他）は、自己負担とする。

常識と礼儀作法をわきまえ、コミュニケーション能力に優れ、心身ともに健康に自信のある者に限る。

I N D E X

科目五十音索引

【カ行】	
基礎心理学	遠藤 健治…… 106
教育心理学	高木 友子…… 109
【サ行】	
障害児・者の施設実習	丸山 千秋…… 116
障害児・者の心理 I	早坂 方志…… 115
生涯発達心理学 I	坂上 裕子…… 111
生涯発達心理学 II	坂上 裕子…… 112
心理学概論	松田 英子…… 106
心理学基礎演習 I	榎淵 めぐみ… 104
心理学基礎演習 I	坂上 裕子…… 103
心理学基礎演習 I	山根 律子…… 103
心理学基礎演習 II	塚原 拓馬…… 105
心理学基礎演習 II	薬師神 玲子… 104
心理学基礎演習 II	和嶋 雄一郎… 105
心理学実験	遠藤 健治
	織田 弥生…… 108
心理学実験プログラミング	薬師神 玲子… 109
心理統計学基礎	遠藤 健治…… 107
心理統計学基礎	和嶋 雄一郎… 108
【タ行】	
知覚心理学	薬師神 玲子… 112
【ナ行】	
認知科学概論	鈴木 宏昭…… 113
【ハ行】	
発達心理学	中 一郎…… 110
【ラ行】	
臨床心理学	丸山 千秋…… 113
臨床保育学	庄司 順一…… 114

学務担当窓口について

キャンパス	学務担当窓口	事務取扱時間	
相模原キャンパス	学務グループ (B棟1階 スチューデントセンター)	(月～金) 9:00～11:30 12:30～15:05 16:05～17:00	(土) 9:00～11:30
		(月～金) 9:00～15:00 16:00～20:00	(土) 9:00～11:30 14:00～20:00
		(月・水・木) 9:00～11:30 12:30～16:00 (火・金) 9:00～11:30 12:30～16:00 17:00～20:00	(土) 9:00～11:30
青山キャンパス	学務部 教職課程課 (8号館1階)	(月・水・木) 9:00～11:30 12:30～16:00 (火・金) 9:00～11:30 12:30～16:00 17:00～20:00	(土) 9:00～11:30

*長期休業など、授業期間以外の事務取り扱いについては「学生ポータル」で伝達いたします。

窓口で取り扱う業務：

- 履修・成績に関すること
- 授業に関すること
- 休学・退学などの学籍に関する願出
- 教職課程(教員免許状)および各種資格(司書教諭・司書・学芸員・社会教育主事)取得に関すること
- 証明書の交付

種類	取扱窓口	手数料(1通につき)
在学証明書	証明書自動発行機 注1) 所属キャンパスの学務担当窓口	和文 200円 英文 400円
成績証明書		
卒業見込証明書		
本学が定めた様式以外の証明書 注2)	所属キャンパスの学務担当窓口	
学力に関する証明書	青山キャンパス教職課程課 相模原キャンパス教職課程担当窓口	和文 400円
免許状取得見込証明書		和文 200円
各種資格取得見込証明書		
健康診断証明書	証明書自動発行機 注1) 英文・指定用紙は保健管理センター	和文 200円 英文 400円

注1) 在学生の証明書発行は、原則として自動発行機をお使いください。

注2) 即日発行できない証明書があるので事前に取扱窓口で確認してください。

*電話など、窓口以外での受付には原則として応じません。

*提出物は期限を厳守してください。締切後の取り扱いは一切行いません。

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
青山学院スクール・モットー

学生番号

氏名